

松本市文化財調査報告 No.47

松本市赤木山遺跡群 II

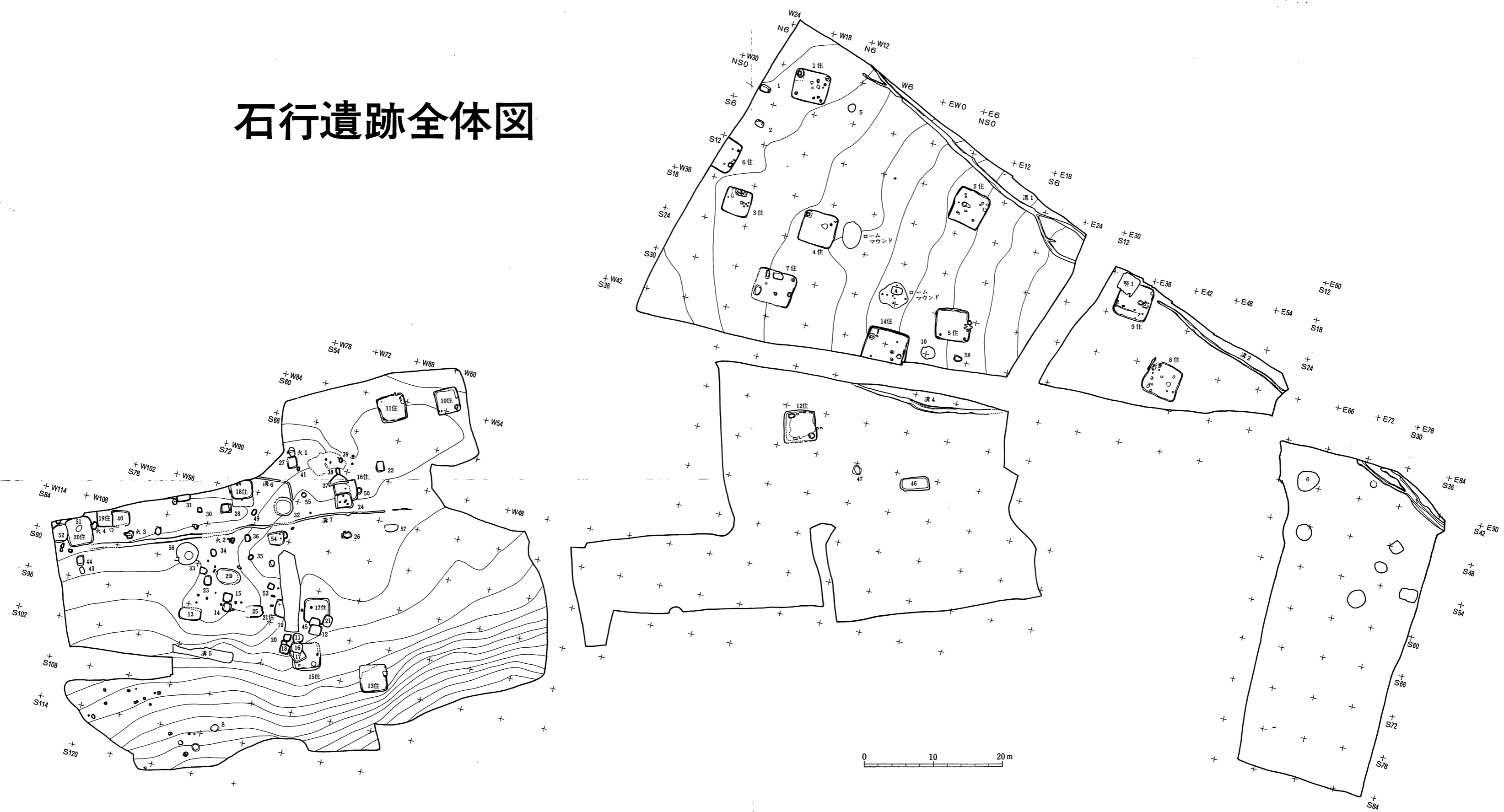
——緊急発掘調査報告書——



1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

石行遺跡全体図



松本市赤木山遺跡群Ⅱ

——緊急発掘調査報告書——

1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

序

この遺跡は昭和55年度に着工しました、県営ほ場整備事業小赤地区にあり、当初から埋蔵文化財の存在が確認され、その規模においても松本平で最大級の遺跡であります。今回畑地の区画整理工事の着手にあたり、県・市教育委員会の担当者と事前に調査方法等について綿密な検討をいただき、発掘調査による記録保存の方針を決定しました。

調査の実施は、松本市教育委員会で全面的に受託していただくことになりました。その結果縄文晩期の土器、石器をはじめ古墳時代の土師器、平安時代の土師器等貴重な土器、石器類が出土しました。なお古墳時代前期の集落址は、松本平でもめずらしく歴史を知るうえで貴重な資料となることと思います。

この調査が計画どおり完了できましたことは、県・市教育委員会の適切な御指導とお忙しい中、調査団として発掘調査にあられた皆様の御尽力のたまものと感謝しております。

なお遺跡発掘にあたり、5月より12月までの長期に亘り支障なく調査が行なわれましたことは寿土地改良区の役員、地元関係者のご協力とご理解によるものであり心から感謝の意を表します。

昭和62年3月

松本地方事務所長 佐藤善處

序

寿地区の南端に位置する赤木山には、赤木山遺跡群と総称される十数箇所の遺跡があり、先土器時代から近代にわたる各種の遺物を出土するところとして関心を集めておりました。ところが、昭和55年から進められている県営ほ場整備事業がこの遺跡群の周辺にも及んだため、松本市教育委員会では長野県中信土地改良事務所の依頼を受けて、昭和57年度から埋蔵文化財の発掘調査を行ってきました。今回の調査はその4年目にあたり、2遺跡を対象とした規模の大きいものとなりました。

発掘調査は市教委職員を中心に地元考古学研究者の先生方等で組織した調査団により、5月21日から12月6日というこれまでにない長期間にわたって実施され、多大な成果をおさめて無事終了いたしました。調査内容は本文で詳述してあるとおりでありますが、縄文時代の土器棄て場や、古墳時代から平安時代以降にわたる住居址、墓址などと、それらに伴う土器、石器が多数発見され、この地が古くから人々の生活の根拠地となっていたことが証明されました。特に、石行遺跡から出土した縄文時代晩期の土器、石器は、きわめて多量多種で、松本平の縄文時代から弥生時代への変化をさぐる上で今後大いに注目されるものと思われます。

今回の発掘は、記録保存とよばれ、開発のために遺跡を破壊するがその前に記録をとっておくという性格のもので、本書を残して遺跡は消え去る運命にあります。せめて、本書に記された調査結果が十分に活用され、郷土や先祖の歴史を探る一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、この調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました寿史談会、寿土地改良区、炎天の下、発掘に従事された地元の皆様に心からなる謝意を表して序といたします。

昭和62年3月

松本市教育委員会教育長 中島俊彦

例 言

- 1、本書は昭和60年5月21日から12月6日にわたって実施された、松本市大字寿に所在する赤木山遺跡群の内、石行遺跡、原度前遺跡の緊急発掘調査報告書である。ただし原度前遺跡は遺構・遺物の発見がなかったため、本文中で特に断りのない場合は石行遺跡の記述となっている。
- 2、本調査は県営は場整備事業に伴う事前の緊急発掘調査であり、長野県中信土地改良事務所より委託をうけ、松本市教育委員会が調査を行なったものである。
- 3、本書の構成については、各遺構の説明は挿図と表により行い、それらでは表現できない事項に限り、挿図の下段に項目別に要約して記す形をとった。また遺物についても表などで説明した他は本文で触れなかったものがある。
- 4、出土遺物は極力、図化提示に努めたが、数量が多く、一部を一覧表に譲ったものがある。
- 5、周辺遺跡の説明は、『赤木山遺跡群Ⅰ』と同様なので省略した。
- 6、提示した各遺構断面図の標高は調査地に任意に設定したBMIとの差で示した。尚、BMIの標高は海拔675.219mである。
- 7、調査の委託契約書、作業日誌等や事業の経緯を示す事務的な記録は、調査結果の提示を重視したため文章として掲載できなかったが、出土遺物および図類と共に松本市教育委員会が保管している。
- 8、本書の執筆・一覧表等作成の分担は次の通りである。

太田守夫	I	関沢 聡	II-2-2-(2)・(3)・(4)
神澤昌二郎	II-4-2-(4)		II-3-2-(2)
竹原 学	II-2-2-(1)、III-1		II-4-2-(2)・(3)
宇賀神誠司	II-3-2-(1)、III-3	松本建速	II-2-2-(3)

上記以外については 直井雅尚

9、調査体制

調査団長：中島俊彦 調査担当者：神澤昌二郎

調査員：太田守夫 西沢寿晃 石上周蔵 田中正治郎

協力者：青木雅志 赤羽包子 阿久澤昌子 浅田勝夫 飯田竜一 五十嵐周子 石合英子 乾靖子 岩脇豊美 内山尚哉 江浪暢宏 大石英 大出六郎 大谷成嘉 岡野路子 奥河健一 小口妙子 開島八重子 上條茂一 倉科由加理 小祝仁司 小島健一 小林敬一 小林敏男 小林美弥子 小松史子 近藤晴一 齊藤明也 酒井保久 佐々木謙司 佐藤文雄 島田恵美 白川皓資 住田祐子 瀬川長広 曾和希代子 竹内靖長 竹原学 滝沢智恵子 高橋裕保 土橋久子 土屋君子 鶴川登 徳永文和 戸塚亮 友田哲弘 内藤貴久 中垣内薫 中島新嗣 中島督朗 中野明子 中野芳治 野々山敏雄 原田啓二 藤田英博 古屋人兄 細口喜則 堀内いくみ 牧陽一 松本建速 丸山愛徳 丸山更志 丸山友子 丸山誠 丸山正喜 三沢元太郎 宮坂てるみ 宮澤富美恵 向山かほる 村山正人 森光 諸星博之 山田真也 山本淳子 山本直樹 横山倍七 横山保子 吉岡文 直井スガ子

目 次

I 遺跡付近の自然環境	4
II 調査	
1 調査の概要	9
2 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	11
(1) 土壌	12
(2) ロームマウンド	13
(3) ピット群	14
(4) 焼土面	14
(5) 土器集中区	15
2. 遺物	
(1) 土器	16
(2) 土製品	66
(3) 石器	78
(4) 石製品	133
3 古墳時代の遺構と遺物	
1. 遺構	135
(1) 竪穴住居址	136
(2) 土壌	145
2. 遺物	
(1) 土器	146
(2) その他	153
4 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物	
1. 遺構	163
(1) 竪穴住居址	164
(2) 土壌	173
(3) 火葬墓・墓址	180
2. 遺物	
(1) 土器	181
(2) 金属製品	185
(3) 石製品	188
(4) 銭貨	190
III 調査のまとめ	
1 縄文時代の土器について	194
2 古墳時代の遺構について	206
3 古墳時代前期の土器について	207
IV 結語	212

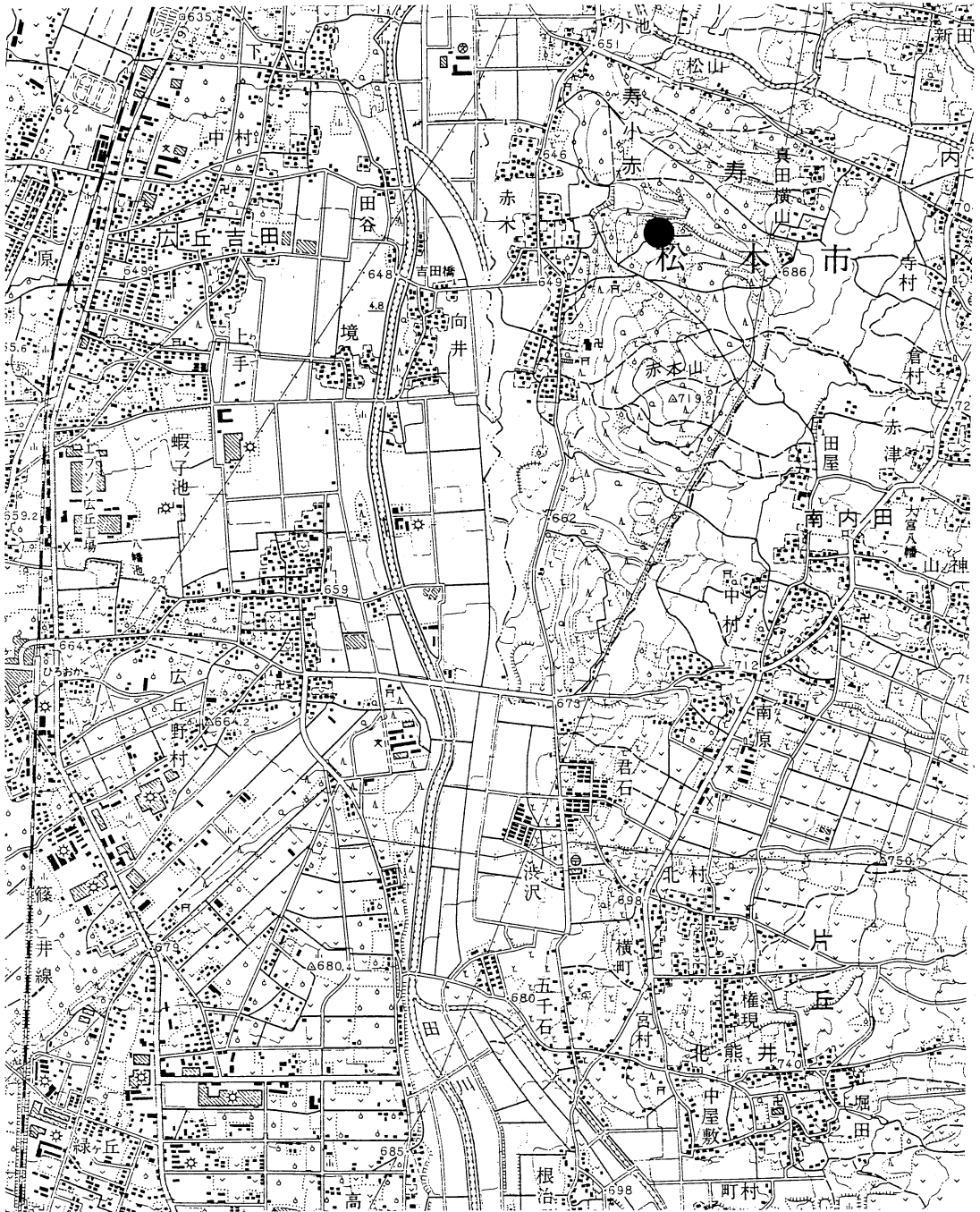
付 図 石行遺跡全体図

挿 図 目 次

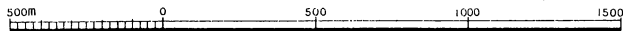
第1図	遺跡の位置	3	第92図	第9号住居址	143
第2図	土層断面図	6	第93図	第14号住居址	144
第3図	周辺地形と調査範囲	8	第94図	古墳時代の土壇	145
第4図	グリット設定及び遺構配置模式図	10	第95図	古墳時代土器 (1)	154
第5図	縄文時代の遺構分布	11	}	}	}
第6図	縄文時代の土壇	12	第103図	古墳時代土器 (9)	162
第7図	ロームマウンド	13	第104図	平安時代及びそれ以降の遺構分布	163
第8図	ピット群	14	第105図	第5号住居址	164
第9図	焼土面	14	第106図	第10号住居址	165
第10図	土器集中区分布及び層位模式図	15	第107図	第11号住居址	166
第11図	晚期土器分類模式図	25	第108図	第12号住居址	167
第12図	第1類土器口径分布	26	第109図	第13号住居址	168
第13図	第1類土器整形方向	26	第110図	第15号住居址	169
第14図	第1類土器底部の整形	26	第111図	第16・17号住居址	170
第15図	縄文晚期土器組成表	27	第112図	第18・19号住居址	171
第16図	縄文時代土器 (1)	33	第113図	第20・21号住居址	172
}	}	}	第114図	平安時代以降の土壇 (1)	174
第48図	縄文時代土器 (33)	65	}	}	}
第49図	土製品 (1)	70	第119図	平安時代以降の土壇 (6)	179
}	}	}	第120図	火葬墓、近世墓の分布	180
第56図	土製品 (8)	77	第121図	平安時代土器 (1)	182
第57図	石器 (1)	107	}	}	}
}	}	}	第123図	平安時代土器 (3)	184
第82図	石器 (26)	132	第124図	鉄器 (1)	186
第83図	石製品	134	第125図	鉄器 (2)	187
第84図	古墳時代の遺構分布	135	第126図	砥石	189
第85図	第1号住居址	136	第127図	古銭 (1)	192
第86図	第2号住居址	137	第128図	古銭 (2)	193
第87図	第3号住居址	138	第129図	針塚遺跡出土土器 (1)	197
第88図	第4号住居址	139	}	}	}
第89図	第6号住居址	140	第137図	針塚遺跡出土土器 (9)	205
第90図	第7号住居址	141	第138図	古墳時代の住居址一覧	206
第91図	第8号住居址	142			

表 目 次

表1	晚期土器観察表	28	表7	土壇一覧表	173
表2	土製品一覧表	68	表8	平安時代土器一覧表	181
表3	石器一覧表	87	表9	金属製品一覧表	185
表4	石製品一覧表	133	表10	砥石一覧表	188
表5	古墳時代土器一覧表	146	表11	銭一覧表	190
表6	礫石錘一覧表	153			



1 : 25,000



第1図 遺跡の位置

I 遺跡付近の自然環境

1. 位置

石行遺跡は赤木山丘陵の中央やや北寄りの西斜面(標高675~680m)に位置している。赤木山丘陵を切る三つの河流(南洞・中洞・北洞川)と顕著な空谷及び塩沢川・小場沢川によって分けられた六つの小地形の南から四番目の小地形上にある。遺跡の北は北洞川によって切られ、南側は空谷に臨んでいる。ただこの空谷は上流への浸食が少ないため、丘陵の東側では赤木山山頂(標高719m)を含む小地形と連なっている。したがって一見同じ平坦面上の起伏と感ずる。

2. 周辺の地形

赤木山の地形と地質については、すでに松本市文化財調査報告No23、27、30、34等で述べてきたので、ここでは省略し、石行遺跡と関連をもつ周辺の事項だけ報告する。石行遺跡のある地形面は、赤木山丘陵形成の最終段階における地形である。前に述べたように、この丘陵は六つの小地形に分けられ、その最頂面は赤木山山頂を含む面(700~719m)を除き、いずれも690mである。また最高所を連ねた線はほぼ一直線で、丘陵全体の東側に片寄っている。それだけ西斜面は長く、東斜面は短い。その比は南部・中部ではほぼ2:1、北部で3:1である。ここで注目されることは、前述の河流や空谷の谷頭(浸食の先端)が大体この線に並んでいることである。現在河流の谷頭は丘陵の東麓線に近ずいているが、かつてはずっと西にあり、そこまで小流が曲流していた。すなわち現在の空谷の谷頭がこれを示していると考えられる。

また各小地形の最頂面には厚いローム層(波田ローム)が残存し、空谷の様子と合せる、浸食堆積を繰返した赤木山の最終地形である残丘状の地形面をうかがえる。したがって最終地形の後に働いた大きな地形形成は、西側からの現河流にみられる新しい浸食と、東側に発達した湿地性の堆積(特に横山付近に発達)である(赤木山の丘陵形成に働いた構造運動は省略)。最終地形の平坦面の起伏を地質的にみると、深さ2~3mまでの地層の状態は共通している。またこの状態は東の南内田や北熊井の県道沿い(標高710~750m)の地形の起伏とも共通している。すなわち前に述べたローム層の地域の外に、二次堆積のローム質土壌や石英閃緑岩の角礫~亜角礫を多く含むローム質土壌からなっている。ただこれらの土壌は、その当時の堆積環境により堆積の状態を幾分異にしている。

3. 石行遺跡の地形と地質

石行遺跡はこのような起伏面上にあり1・2区はその高所に、4・5区は低所(浅い谷)にのっている。この地形も形成後における土層の風化・土砂の移動により次第に状態を変えている。特に

4・5区の低所（浅い谷）は、土砂の移動により形成当初の凹地形を埋積してきている姿がわかる。高所は平坦面と緩い斜面からなり、果樹（リンゴ）や野菜の耕地に利用され、土砂の移動の供給地である。低所は極めて浅い谷で、左右からの土砂の供給により埋積され、やはり果樹や野菜の耕地となっている。谷は走向N-65°-E、南西へ傾斜20°、谷幅およそ30m、谷底までの深さ4区~50cm、5区東半~1m、5区西半~1.5mほどの凹地形である。凹地形の原形は地形面形成時のものと考えられるが、その後の土砂の移動により第2図(A)のような埋積が行なわれたものであろう。その土砂の移動の仕方は、左右の高所から低所の中心線へ向けて運ばれたものである。さらに中心線にそい下方に運ばれたものが、末端の5区に堆積されたものであることが観察される。

第2図は、高所と低所の一般的土層を示したものである。明らかに低所には付加された土層~黒色土層が存在する。今その堆積の順序をみると下部より黄土色土層（二次ローム・含角礫）、その上に黒色土層（層の下部に角礫多数）、褐色土層~黄褐色土層（層の下部に砂・細礫層）、表土となっている。

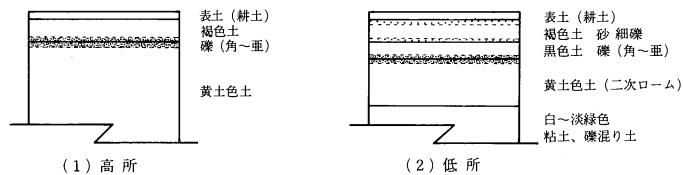
次に堆積の状況を土層ごとみていくことにする（第2図B）

褐色土層：褐色土層は部分的に赤褐色土や黄褐色土がある。表土に続く土層で、黄土色土層の風化あるいは移動したのと考えられる。黄褐色土、褐色土、黒色土、黄土色土を風乾したり、沈澱法によって粒子や色の状態をみると、すべて同じであり、最終的の沈澱物質（土）の色は共通して黄土色である。これによって色は異にしているが、黄土色土を起源とする土と考えられる。谷の中央や末端では砂質になっている。

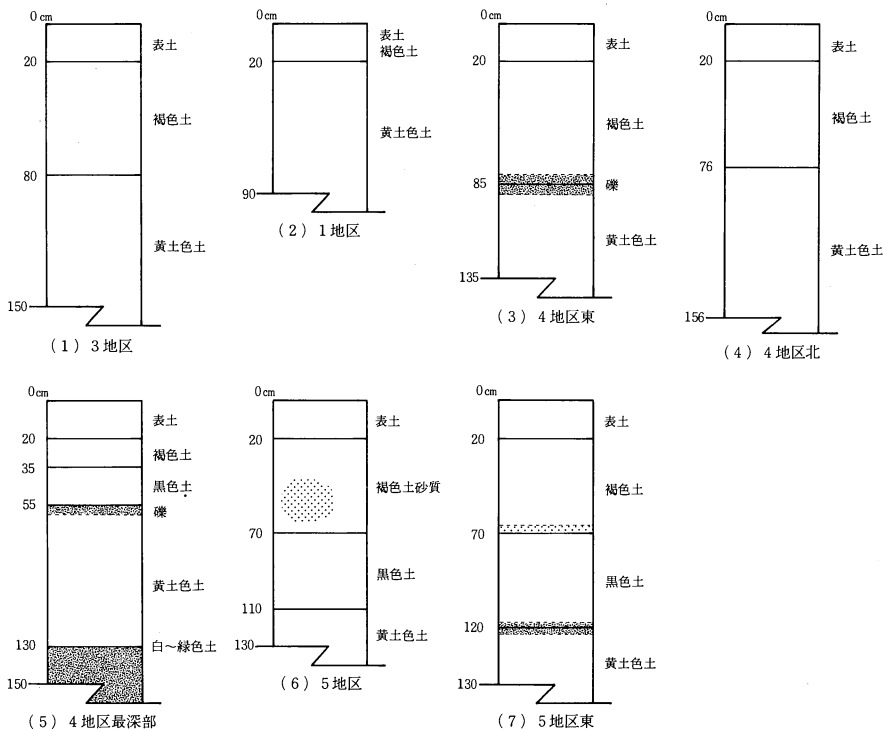
砂層：砂層（砂・細礫）の存在は谷の堆積の特徴であって、上部~表土と褐色土層の間と、下部~褐色土層と黒色土層の間の二層がみられる。この土砂の移動の原因は、風と匍行による外、降雨の影響が大きいと考えられる。地表面に降った雨は斜面に雨裂、雨溝を生じ、土層中の砂質分、細礫を洗い出し、次第に低所へ低所へ運んだことが観察される。したがって谷の下方へ行くほど雨溝の幅が広くなり、砂の堆積が厚くなっている。上層も谷の上方より砂質分が多い。5区西半の雨溝は幅3m、厚さ5~10cmわん状の堆積を示し、細砂、微砂からなり、石英閃緑岩の細礫や径3cmほどの小礫を含んでいる。堆積が乱堆積やラミナ状を示すところから、何回かの雨による流れによったのと考えられる。

黒色土層：黒色土層は前述のように斜面では薄かったり、あるいは欠いている。谷の中心線に近くなるほど厚くなり、4区では60~70cm、5区東半50cm、5区西半60cmとなっている。特に谷下方に当る5区では黒色土層の範囲も広く厚い。

黄土色土層：黄土色土層は遺跡の基底となる層である。ローム質土壌を主とした土層であるが、砂質で礫の多い部分と少ない部分さらにほとんどない部分からなる。高所では褐色土層に覆われ、低所では褐色土・砂層・黒色土・礫の堆積の下層となって存在している。二次的なロームと考えられるが、一部に風成ロームの存在があるかもしれない。



A 一般的土層の概念図



B 各地区の土層断面

第2図 土層断面図

土層中の礫：以上の土層に含まれた礫は、角礫が主で細礫に亜角礫がみられる。礫の種類は石英閃緑岩が多数で、ひん岩・緑色火山岩のホルンフェルス・礫岩、砂岩のホルンフェルスなど、いずれも鉢伏山地起源のものである。礫径は65×30cmの石英閃緑岩、30×50cmの礫岩が大きなもので15×7cmぐらいが多数である。礫岩は石英閃緑岩について多く、特に大礫が遺跡に多い。石英閃緑岩は風化して、土層中に粗砂となっているものもある。これらの礫は黄土色土層の上部、黒色土層下部に多数みられ(黒色土層を欠くところでは褐色土層下部に)、黄土色土層と黒色土層とに不整合的關係を思わせる。礫の堆積がどのような働きでなされたかは、あまりはっきりしない。ただ北部の空谷や白神場等でみられる、二次ロームの上部礫混りローム質土壌、あるいは二次ロームを挟ん

だ礫混りローム質土壌からみて、赤木山の起伏の原地形をつくった風成ローム層、二次ローム（黄土色土層）の堆積を削はくした流れ、雨堀、雨溝状の働きによる礫の移動とも考えられる。その後黄土色土層の風化、表層土の移動、続いて黒色土層の生成の順を経て、さらに表層土の移動（褐色土）が行われたものと考えられる。この時黒色土層は褐色土に埋積され、雨溝と考えた下部の砂層もこの間の生成とみられる。

最下層と透水層：黄土色土層の下部は4区東で一個所しか得られなかったが、表土から約130cmの底部に白～淡緑色、礫混り（石英閃緑岩・緑色火山岩）、粘性土の土層を発見した。上記のものとは異なる、水分をもつ礫混り土層であった。このタイプの土層（地層）の発達しているのは、横山集落の東側と南側（北洞川の谷の東口）である。垂角礫とローム質土の混合土が粘土化し、白色～褐色（一部に淡緑色）、明らかに湿地性を示す土層である。南洞川などの壁面の地層でもみられたタイプであって、赤木山丘陵の透水層に当たっているように思われる。石行遺跡では湧水は現在発見されていない。土地の人は湧水はなかったが、降雨の場合4・5区が湿地になることはあったという。

ただ遺跡の南に当り、遺跡の谷（N-65°-E）が交わる、赤木山山頂の北、山頂付近より西へ下る深い空谷（N-70°-W・N-40°-W）には流水の跡がある。現在N-40°-Wの空谷の下流には小流がある。この空谷の入口にある社祠の裏には現在湧水があり、さらに約5～10m上のリンゴ園の草むら中に、湧水性と思われる湿地が存在する。この湧水は標高670mで遺跡の4・5区と標高が同じである。一方湿地は標高およそ680mで、遺跡の4区東部と標高が同じである。遺跡と湧水・湿地との距離はいずれも60～70mに過ぎない。現在湧水・湿地付近とも地層の露頭がないため、確かなことは言えないが、前記の不透水層が存在していると考えられる

4. 遺跡と地形

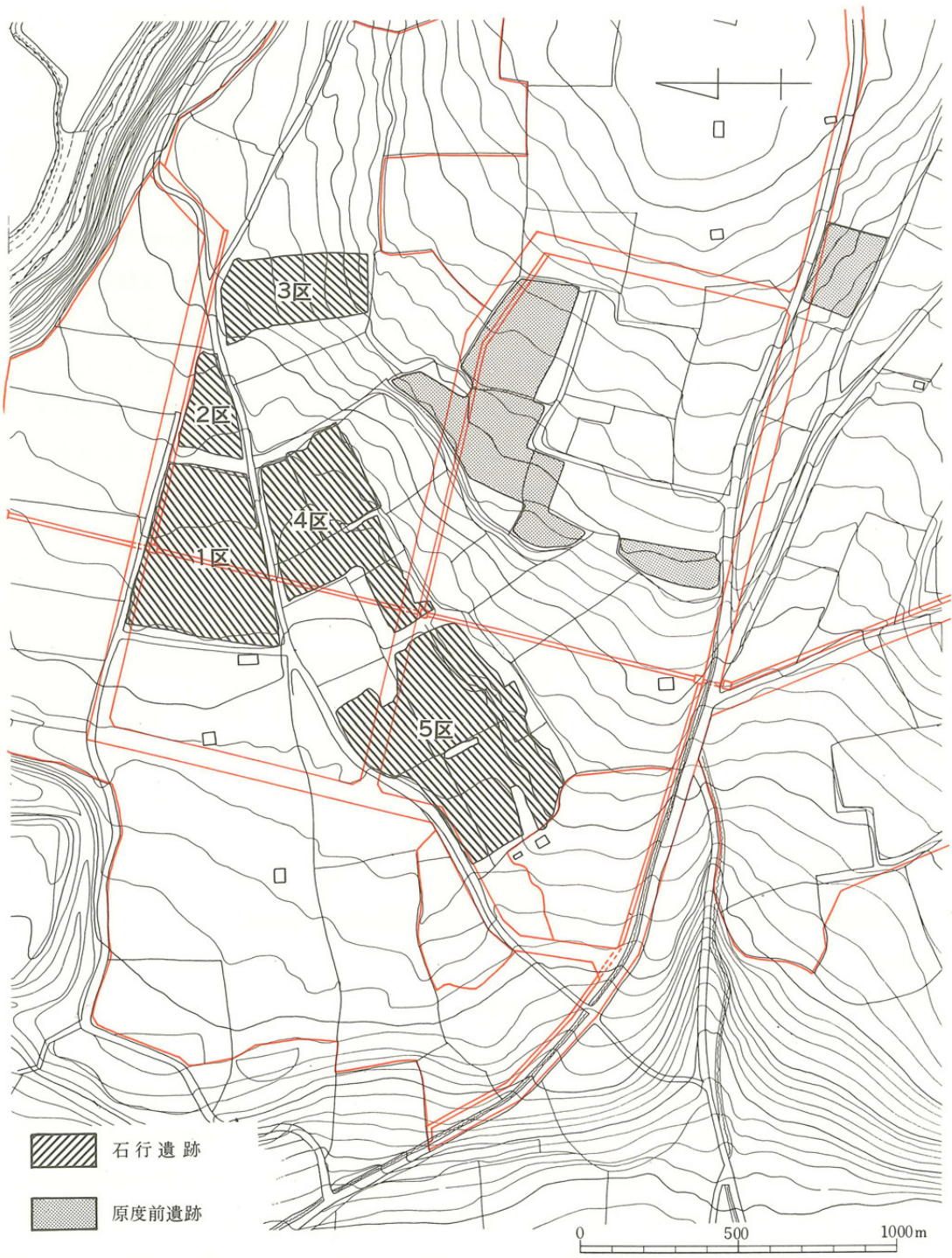
次に遺構の時期と遺構の地形面の土層との関係をみると次のようである。

縄文時代—3区 褐色土層・黄土色土層

古墳時代—1・2区 薄い褐色土層・黄土色土層

平安時代—4・5区 褐色土層・黒色土層・黄土色土層、砂層、礫

これを地形面の起伏からみると縄文・古墳時代の遺構は起伏の高所に、平安時代の遺構は低所（谷）にあることになる。一方縄文・古墳時代の遺構は褐色土層、黄土色土層に、平安時代の遺構は黒色土層に切りこんでいる。中世の遺構は黒色土層上に留まっているという。この状況から考えられることは、大まかにみて黒色土層は、縄文時代以降古墳時代頃までに形成され、平安時代にはすでに安定していたことになる。したがって縄文時代や古墳時代には南の谷にある湧水や流水の水を利用するほか、この谷の水も利用した可能性もあり、黒色土層の生成もこのあたりにあるかもしれない。黒色土層はその後褐色土により埋没土となったことになる。



第3図 周辺地形と調査範囲

Ⅱ 調 査

1 調査の概要

調査地は松本市大字寿小赤2270番地の一帯に位置し、調査前の地目は畑地と果樹園であった。地形的にはこの周辺は先述の様に浅谷状の部分と小高い丘陵が連なっており、石行遺跡はこの浅谷状部分を中心に、また原度前遺跡はその南方の高地を対象として調査を実施した(第3図)。面積は石行遺跡8000m²、原度前遺跡3000m²である。

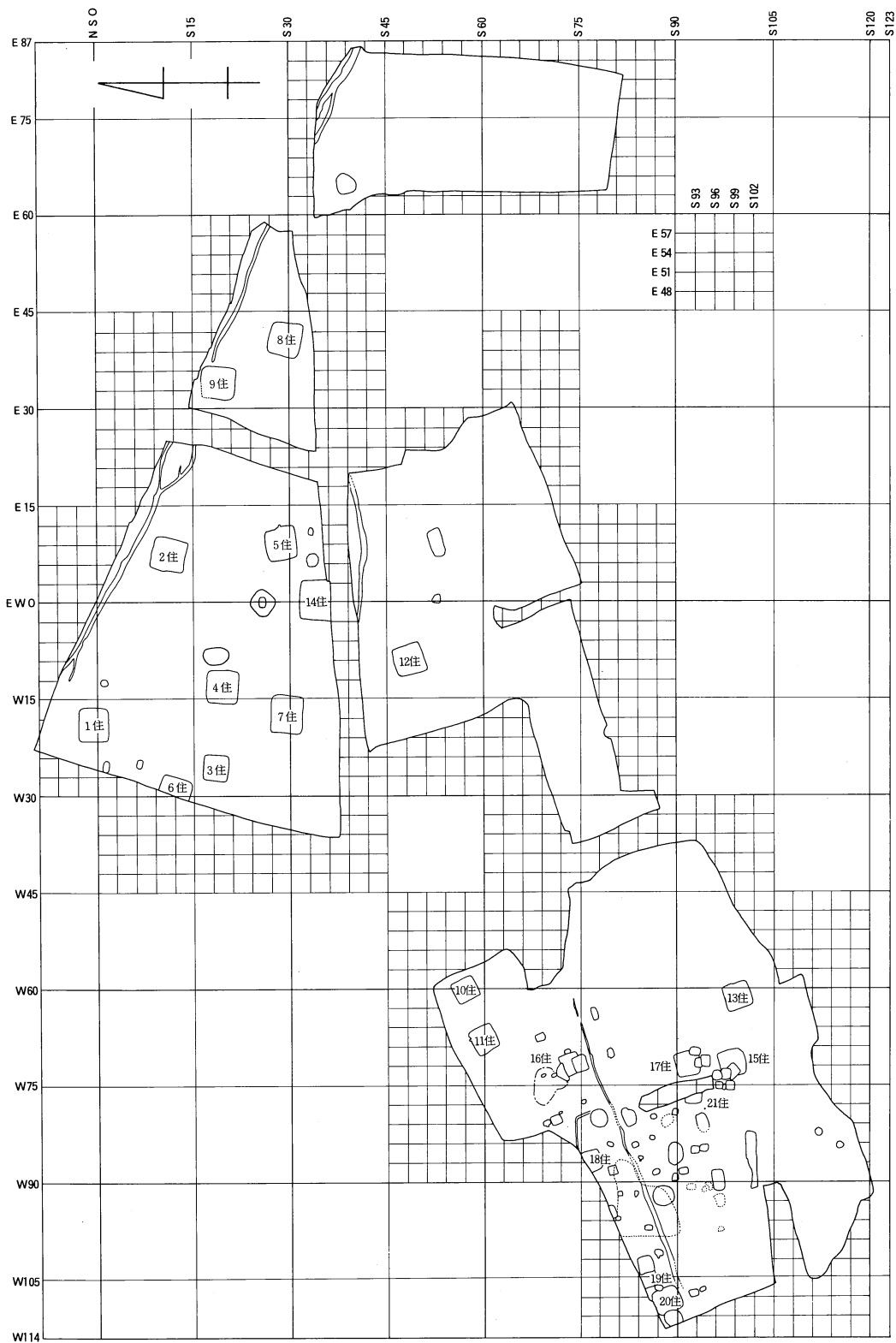
石行遺跡の調査は重機による表土剥ぎの後、人力により遺構の検出を行ない、確認できた遺構から順次掘り下げを進めた。

ただ4・5区については、浅谷状地形の底部にあたるため、表土下に厚い黒色土が形成されており、しかも、この層中に平安時代以降の遺構が掘り込まれていた。このため測量用の3×3mのグリッドを用いて、遺構の有無を確認しながら人力で慎重に掘り下げた。調査中の労力の大半はこの作業に費やされた。測量は1区北端に設けた基準点から3m間隔のラインを南北と東西に順次振り出して調査地全体をおおった3m方眼により簡易な遣り方測量を行った。

原度前遺跡の調査は、遺構検出の結果、遺構の存在が認められなかったため、今回の調査地は遺跡の範囲から若干はずれるものと判断しその段階で打ち切った。本文において特に断りのない場合はすべて石行遺跡での成果を指している。

石行遺跡における調査成果の概要は次の通りである。発見された遺構は、縄文時代のものでは土壇5基、ロームマウンド2基、ピット群1ヶ所、焼土面1ヶ所、晩期土器集中区7ヶ所、古墳時代のものでは堅穴住居址9軒、土壇4、平安時代およびそれ以降のものでは堅穴住居址12軒、土壇46基、火葬墓4基、墓址17基である。この他層位的にみて溝7本も平安時代以降のものであろう。

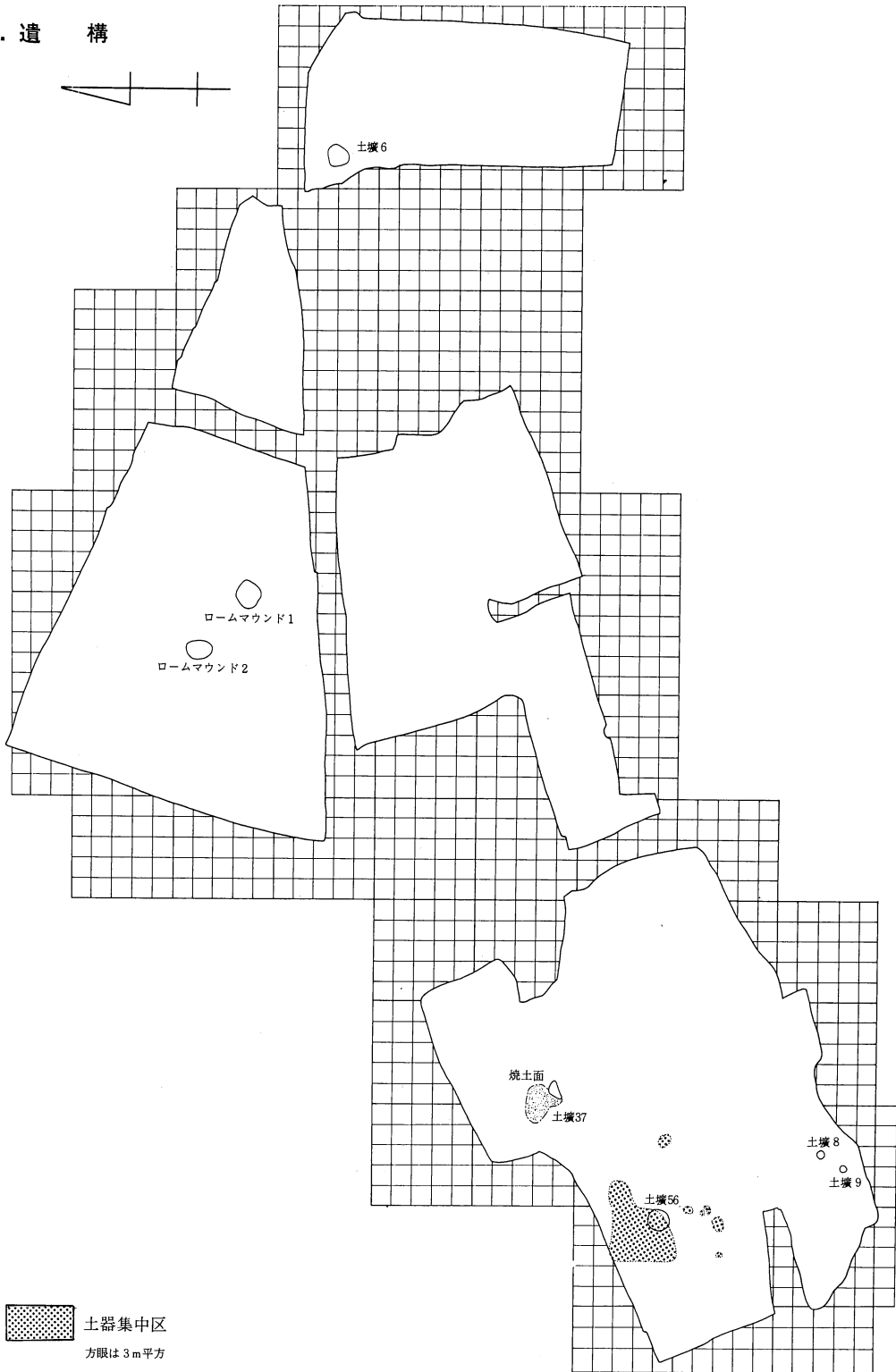
これらの遺構に伴い、あるいは検出面、遺物包含層から出土した遺物は、多量の縄文晩期土器・石器・土製品・石製品・古墳時代土器・平安時代土器・鉄器・および銭貨である。以上のうちで特に注目すべきは第1に、縄文時代晩期の土器が大量に廃棄されていた土器集中区の発見があげられる。土器は晩期末葉のもので、整理用コンテナ100箱に及ぶその膨大な量は該期土器の多様性をあますところなく示していた。またこれらの土器に混じって、石鏃250本、打製石斧500本余が出土したのも驚異である。次に注目すべきものとしては古墳時代の堅穴住居址とそこから出土した土器があげられる。これらは古墳時代前期のもので、今まで松本平においてこの時期の資料がとりわけ僅少だったため、今回の発見は当地方における古墳時代前期の遺構や遺物の様相を探るのに格好の材料を提供したといえよう。



第4図 石行遺跡グリッド設定及び遺構配置模式図

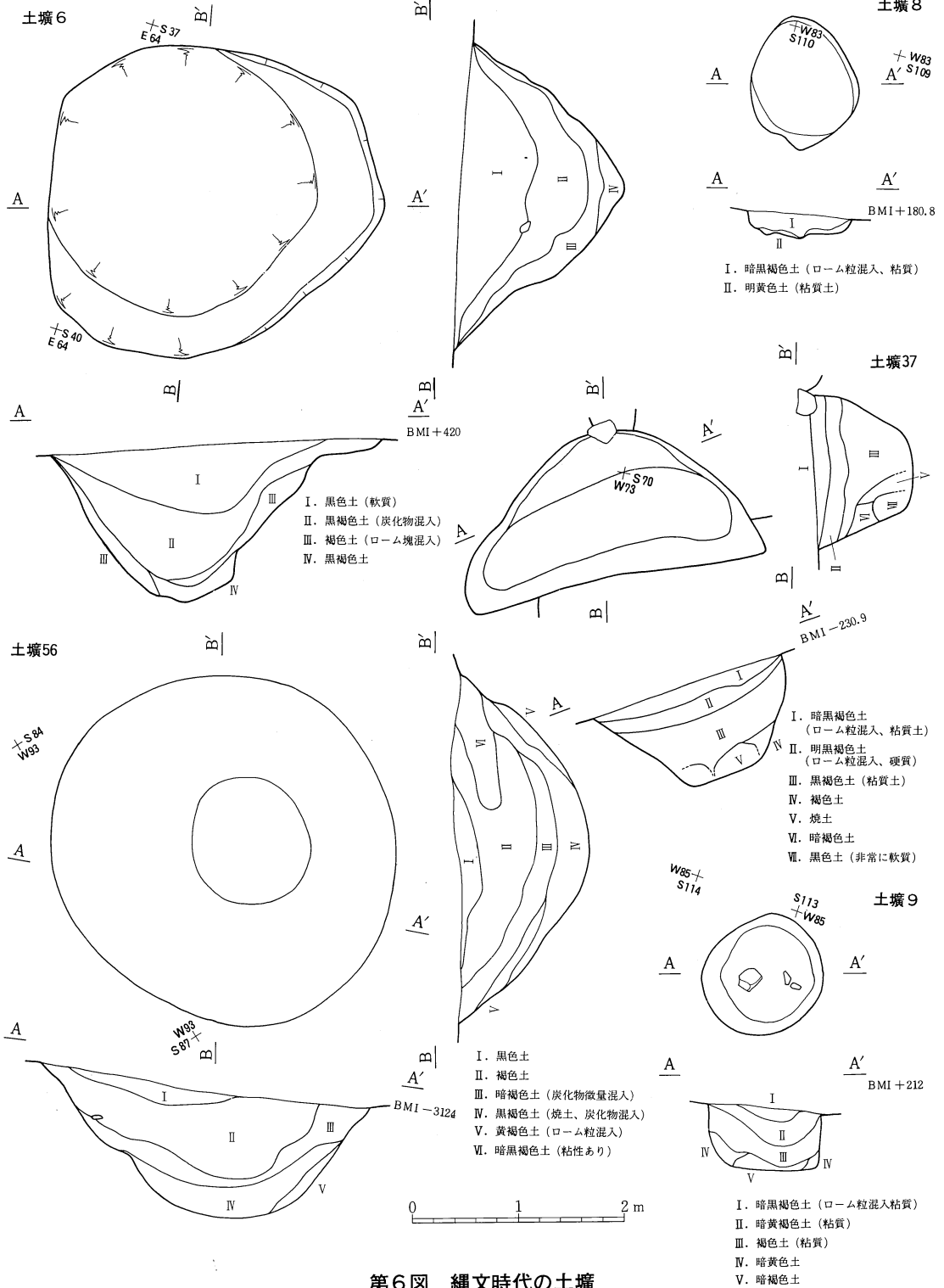
2 縄文時代の遺構と遺物

1. 遺 構



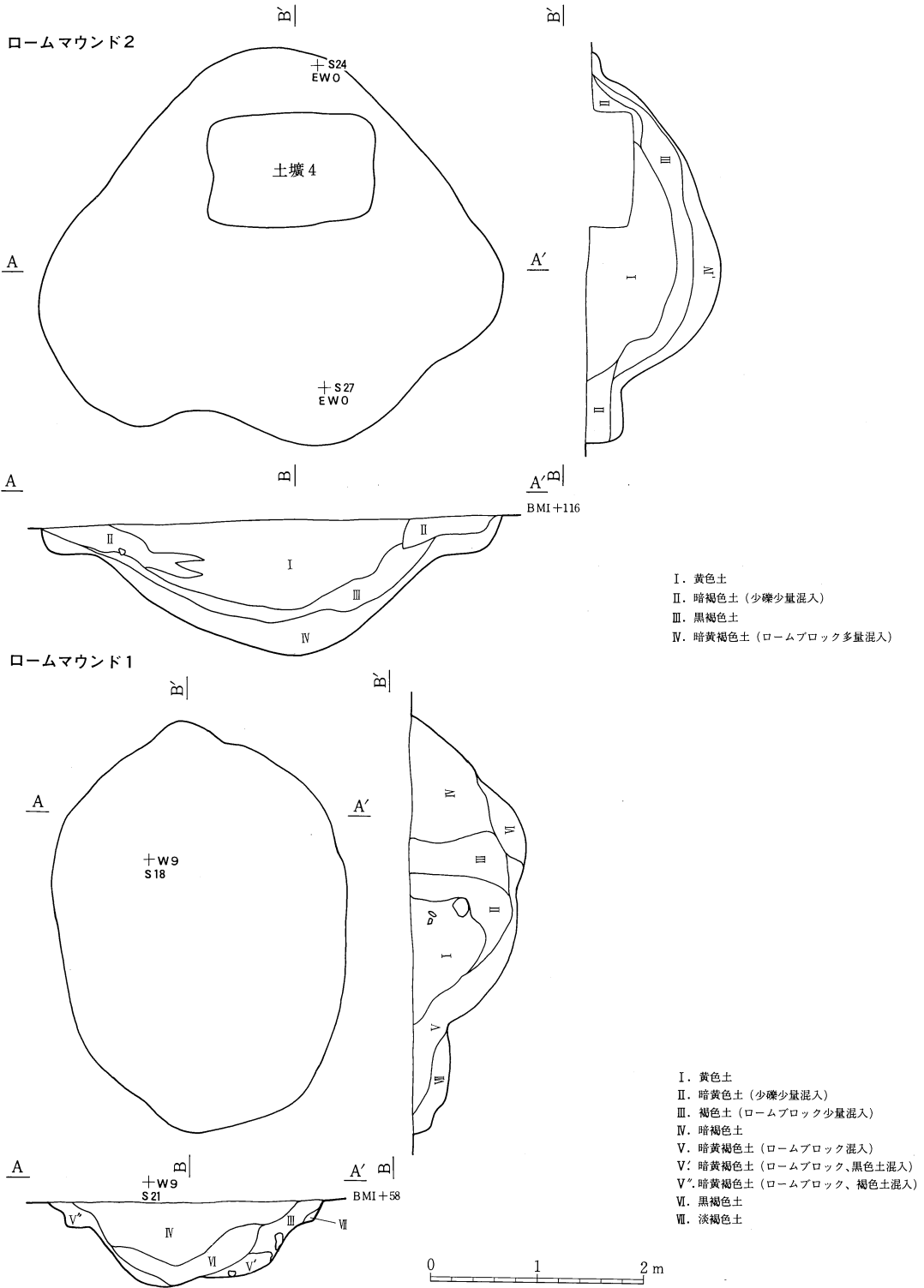
第5図 縄文時代の遺構分布

(1) 土 壙 (表7:P173参照)



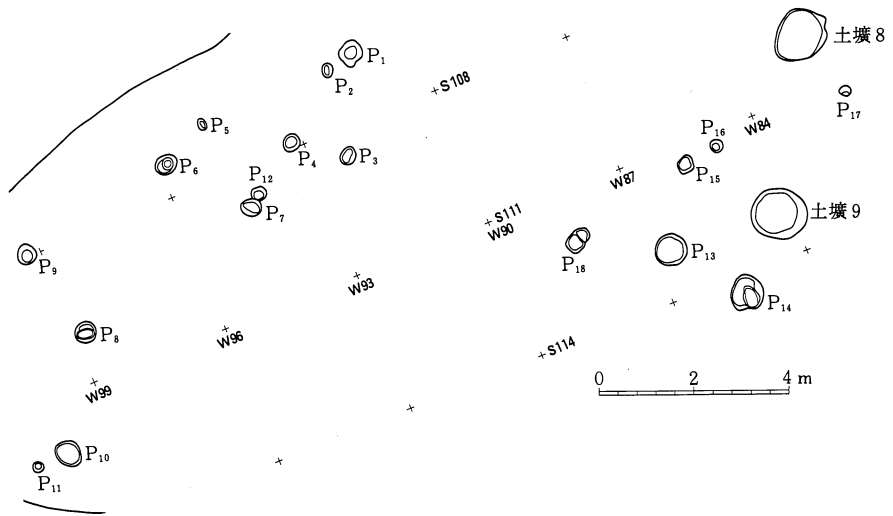
第6図 縄文時代の土壙

(2) ロームマウンド



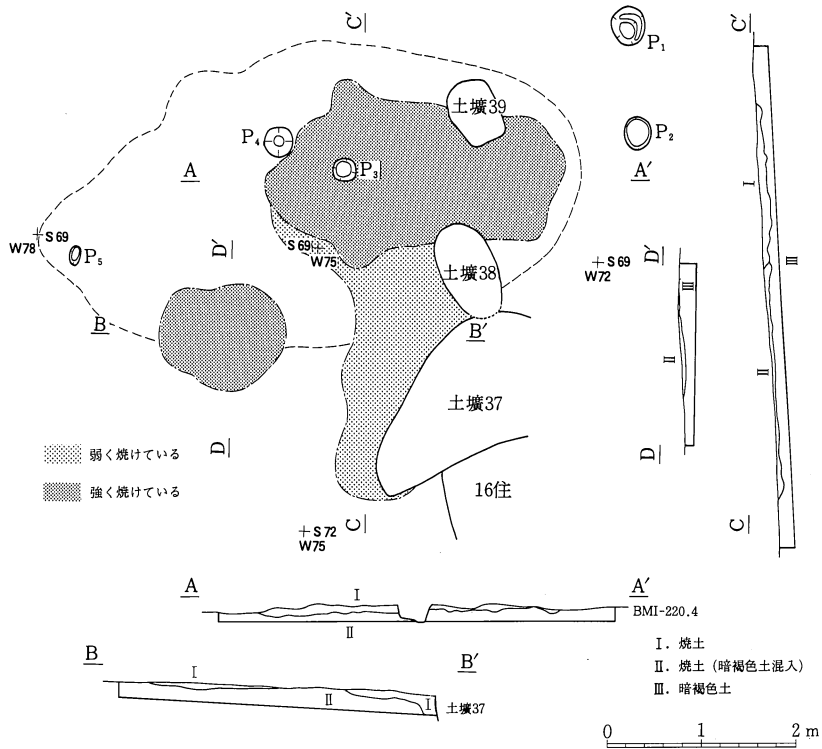
第7図 ロームマウンド

(3) ピット群



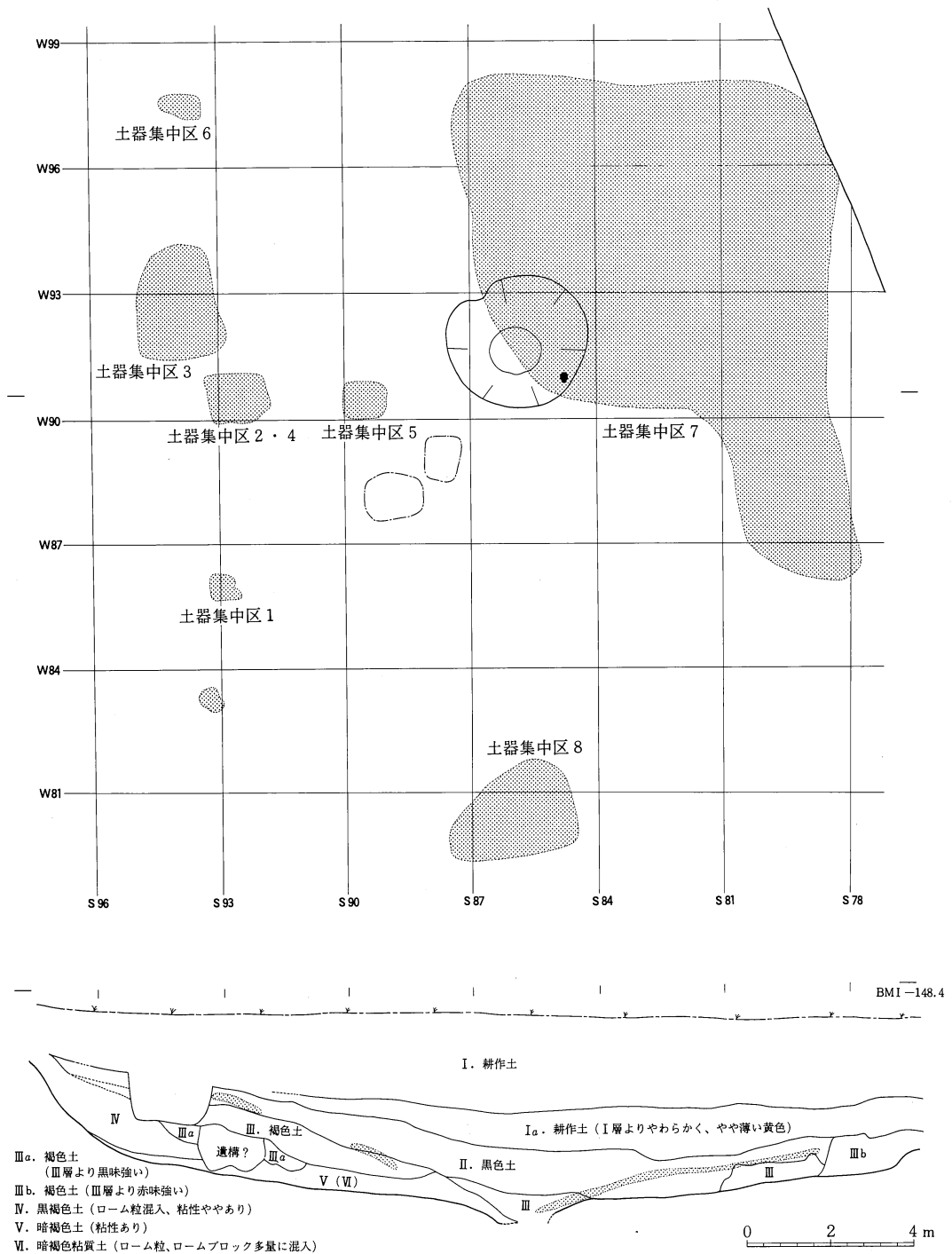
第8図 ピット群

(4) 焼土面



第9図 焼土面

(5) 土器集中区



第10図 土器集中区分布及び層位模式図

2. 遺物

(1) 土器

今回出土の縄文土器はおよそコンテナ100箱近くあり、その殆どが晩期末葉である。短期間の整理ではその全てを扱う事は不可能で、実際に整理出来たのは土壙・焼土面等の遺構と、土器集中区下面出土の土器のみ1000点あまりである。

①縄文時代晩期土器

ここでは基本的な分類・観察点を記し、詳細は分類観察表に譲る。尚分類に当たっては御社宮司遺跡・梨久保遺跡等を参考とした⁽¹⁾。

i) 第1類土器

本類は浮線網状文を指標とする土器群で、晩期土器の9割以上を占める。

器種 浅鉢・甕・深鉢・壺・舟形土器・耳付筒形土器・注口土器⁽²⁾がある。(第11図) 甕・深鉢は本類の主体であり、舟形土器・耳付筒形土器・注口土器はごく僅かで、特殊な器種といえる。

類型 各器種は文様帯の有り方に共通性があり、同じ基準で類型が設定できる。(A～D)しかし器種によっては固有の類型も存在する。

浅鉢 A～Dがある。Aは浮線網状文等の文様帯を有する。Bは隆線帯・沈線帯を有するもので、B1陽刻による隆線帯・B2陰刻による沈線帯(彫刻的)・B3非彫刻的な沈線帯に細分できる。Cは無文のものを一括する。Dは非彫刻的な沈線により文様帯をおくもので、1点のみ見られた。

A～Dには口外帯を有するものと有さないものがあり、前者をA～D、後者をA'～D'とする。

甕 浅鉢と同様にA～Cの類型があるが、Dは見られない。口外帯をもつものをA～C、ないものをA'～C'とする。

深鉢 甕と同様、A～C・A'～C'が存在する。

壺 A～Eがある。A～Cは他器種と同様である。Eは無文の壺のうち、口縁端部を外方に屈曲させるか、突帯を付加するもので、大型品が多い。突帯は1条の場合と2条の場合があり、それぞれE1、E2とする。壺Dは僅かに存在する。

その他 舟形土器・耳付筒形土器はいずれも無文で、上記の分類には当てはまらない。注口土器は体部不明である。

浅鉢・甕・深鉢・壺については口縁部の有り方にいくつかの形があり、a～fで表示する。いずれも口外帯をもたないものである。(第11図) aは単純な口縁で、貼付をするものも含む。bは端部上方にのびる突起をもつもの。cは端面或いは端部側面に圧痕を連続させるものである。圧痕はなんらかの工具を使ったものが多い⁽³⁾。dは端部を外側に肥厚させ、玉縁状にするもの、eは口縁を外側に折り返して肥厚させるものである。d・eは深鉢にのみ認められる技法である。

口外帯の有無については、第11図に示した特徴を備えるものを有とした。口端側面を肥厚させる

か口端面を外側に向け、面取りをするものである。いずれも刻目や貼付を施すが、沈線と組合せるものも多く存在する。

器形 各器種ともいくつかの器形を含んでいるが、器形の把握できるものが少なく、口頸部の形態により区分せざるを得なかった。(第11図)

浅鉢 1～6の器形がある。1は浅く皿状に開くもの。2は外傾する口縁部を有し、3は口縁部が直立するか、内傾している。4は口縁部が外傾するか直立し、肩が張る。5は強く外反する口縁部に、肩の張る体部が取り付く。口縁部内面には弱い稜が走る。6は平面形が楕円形を呈するものである。

甕 肩が段をなして張り、上下で整形を変えるものを一括する。口頸部破片の中には深鉢と区別できないものもあり、多少の誤差を含む。

1は口頸部が外傾又は外反し、口径が体部径を上回るもの。体部には張りをもつものと、肩部以下直線的に収束するもの等がある。2は口頸部が直立又は内傾して立ち上り、体部径が口径と等しいか上回るもの。3は口縁部が直線的に外傾して開き、肩は張らずゆるく開き、体部中央かやや上方で最大径となるもの。全体に細長い器形となる。

深鉢 肩が張らないものを一括する。1口縁部が外傾又は外反するもの。2直立する口縁部をもつもの。3やや内湾する口縁部を有する。4は口縁部が強く外反し、頸部でくびれるものとする。1・2が主体で、3・4は少ない。

壺 1～4があるが、体部は不明である。1は甕を細身にした形態で、肩に段をもつ。2は肩の張る体部から屈曲して口頸が取り付くもので、2 a 口頸が外傾・外反するもの。2 b 直立するもの。2 c 内傾する口頸をもつものに細分される。底部は口径に比してかなり小さく、体部上位に最大径をとる。3は短く直立又はくびれる口縁部に外開する体部が取りつく、無頸壺形。4は体部よりくびれながらカーブを描いて収束し、外反して開く口縁部をのせるものである。

舟形土器 小破片が出土したのみだが、類例に従えば⁽⁴⁾カヌー形をしたプローションをとる。

耳付筒形土器 ゆるく外傾して開く円筒状の体部を呈する小形品である。口縁及び体部下位に縦方向に穿孔を施した耳が取り付く。

注口土器 形態不明である。注口は斜めに取り付くようである。

口径 実測資料のうち、浅鉢・甕・深鉢・壺について口径の分布をグラフ化した。(第12図) 容量は未計測のため、御社宮司遺跡報告と対比して見てゆく。

浅鉢 10～40cm に分布する。15～20cm が主体で、30cm 以上は少ない。小形10～20cm・中形20～30cm・大形30cm 以上とすると、小形1～2ℓ・中形2～5ℓ・大形は5ℓ以上と推察される。

甕 15～25cm を小形・25～30cm を中形・35～45cm を大形・50cm 以上を特大とする。小形は2～10ℓ・中形は10～30ℓ・大形30ℓ以上と推定され、超大形は不明だが50ℓ以上はあろう⁽⁵⁾。

深鉢 15～20cm を中心に5～50cm に分布する。甕と同じく小形・中形・大形に分ける。容量は

甕と同じか、やや下回ると思われる。

壺 3～45cm に分布する。10cm 未満のものを小形とするが、3～5 cm のものはミニチュアかもしれない。10～20cm のものは一般的で、中形とする。25cm を超える大形のものは、壺Eに限られる。

口縁部・底部の形態と手法 口縁部の形態は、浅鉢・甕・深鉢とも御社宮司遺跡でみられた各形態が存在する。浅鉢はa 1がA・Cに多く、a 2はCに見られる。bはA～Cの器形5に固有の形態であり、dは浅鉢Aに1点認められたのみである。

甕・深鉢もa 1～eまでみられる。このうちb 1は口外帯を有するものに固有である。

底部の形態は詳細に観察をしていないが、浅鉢にはa 1～a 3が認められる。浅鉢A・C 5にはa 3が多いようである。甕・深鉢はa・bが多い。壺は底部不明のものが多く、甕と同様の形態（とりわけb）のものと、小形品に限って丸底や浅鉢のa 2が認められる。

整形の技法 各器種とも、基本的にケズリ・ナデ・ミガキ・細密条痕により整形を行っている。

浅鉢 内外面ともに横方向のケズリを行い、後にミガキを加える。ミガキは横方向又はラセン状に施す。浅鉢Aには徹底して行われるが、Cにはミガキ不十分でケズリ痕を残すものも多い。底部はケズリにより造りだし、さらにミガキをかけている。

甕 外面の整形は基本的に、①ケズリ②ナデ・細密条痕等③ミガキ・ナデ・底部及び底部付近のケズリの順に行う。

ケズリは大部分の個体に認められ、その方向には規則性がある。体部下位は縦位(下→上)、中央では斜位(右下→左上)、体部上位・口頸部は横位(右→左)に行う。

ナデの方向は縦位から斜位が多く、ケズリの方向とほぼ一致させる。

細密条痕は肩部以下に行われ、その方向には規則性がある。(後述)また、器体を数段に分割して整形するのを常とする。原体ははっきり捉えられるものは少ないが、幅5～25mm(10～15mmが主体)、1 cm 当たりの条数は3～4本を中心として1.8～8本までみられる。中には条間隔がばらつくものや、明瞭な条を示さず、土師器の板ナデに似たものもある。(11, 147等)逆に櫛歯状に条を深く刻むものも認められる。(深鉢C'cに顕著)

細密条痕の他に、棒或いはヘラ状の工具により施す、「整わない条痕」も少数存在し、(81, 153, 293)又櫛状具によると思われるものも見られた。(35, 151等)この他少数だが縄文や撚糸文を細密条痕の代わりに施すものも見られる。

ミガキは仕上げの整形として行われる。比較的多くの個体に見られるが、精粗に差がある。一般に口頸部では丁寧で、下半部では雑になる。細密条痕やナデとともに、その方向には規則性がある。

底部付近は最後にケズリを行い、形を整えている。

内面の整形も外面と同様、①ケズリ②ナデ・ミガキの順に行われるが、外面より徹底されず雑なものが多い。ケズリやナデは体部では斜位(右下→左上)、口頸部では横方向(右→左)に施す。

深鉢 基本的には甕の肩部以下の整形と同じである。細密条痕は甕と比べ、条間の大きなものが多い。仕上げのミガキを外面に施すものは、小形のものを除き少ない。

壺 全体像の把握が困難なため不明な点が多い。どの器形においても、口頸部は基本的に①横方向のケズリ②横方向のナデ・ミガキを行う。ミガキ・ナデは甕・深鉢より丁寧である。体部の整形も甕・深鉢同様細密条痕を施すものや、ナデ・ミガキを加えるものが多い。(小形品)

その他の器種 舟形土器はケズリ・ナデにより整形する。耳付筒形土器は雑なナデで仕上げる。注口土器は体部は不明で、注口部はミガキ・細密条痕を用いる。

甕・深鉢の整形方向には規則性があることを述べた。御社宮司遺跡では3類型が示されているが、本遺跡ではそのうちA型とB型が認められた。集計結果を第13図に示す。数量的な問題は厳密には問えないが、おおむね傾向は把握できよう。

整形の方向A型(縦位→斜位→横位)には細密条痕を施すものよりも、ナデ・ミガキで仕上げるものの方が多く、逆にB型(縦位)には細密条痕を施すものが多い。これは甕・深鉢とも同じ傾向にある。全体的にはA型・B型ともほぼ同数存在する。御社宮司遺跡でもこの傾向は同じである。

壺の整形方向については不明なものが多いが、ケズリ・ナデ・ミガキともに縦位に加えるものが多いようである。しかし例外的に、底部からラセン状に施すものもあり、(247)第3類土器と関連するかもしれない。

ここで底部の整形について再度触れておく。甕・深鉢・壺の底面には網代・木葉等の圧痕を残すものが多く見られ、また圧痕をケズリ・ナデ・ミガキで消すものも多数ある。第14図に全底部の観察結果を示した。数量を見ると、圧痕の有無にかかわらず、最終的にナデ・ミガキを加えるものが過半数を占める。基本的には体部の整形と同じく、ケズリの後ナデ・ミガキを行うものと言えよう。圧痕は網代が大半であり、その編み方は多様である。今回は詳細に観察できなかった。

施文技法(第11図) 類型Aは器面を陽刻し表出させる「細隆線」⁽⁶⁾により網状文を描く。技法的には工具による彫刻の後、彫刻面やその周囲にミガキを加えることにより細い隆線を造り出す。本遺跡出土例では彫刻面のミガキが徹底されないためか、細隆線の上端面は幅広である。また彫刻面のミガキが省かれる例もある。(36)類型B1・B2も基本的には同様の手法により施文される⁽⁷⁾。B1の場合は、隆線帯両側の器面も削り取り浮き出させるが、B2では省略される。またB2は沈線幅(B1でいう隆線の間隔に相当)が大きく、浅い。沈線内はナデを行い、陰刻の痕跡を消している。沈線間にはミガキを施すものも多く、沈線内両側縁にも及んでいる。B2はB1の省略形と言えそうで、本遺跡では顕著に見られる。B3はへら状の工具による沈線帯で、一般的に幅が狭く深い。沈線内はミガキ・ナデを施すことはなく、沈線間も未処理のものが多いいわゆる「幅狭沈線」⁽⁸⁾か、それに近似するものと考えられる。

文様モチーフ 浅鉢 浅鉢Aの浮線文は、量の少なさに加え、小片のためモチーフの不明なものが多い。判明するものを御社宮司報告に従い分類した結果、網状文Aのモチーフb～dが確認できた。

モチーフ b では b 1・b 4 又はその変形、モチーフ c は c 1・c 2、そしてモチーフ d では区画線を有する d 1・d 2 がある。量的に比較できないが、モチーフ d が多いようだ。

浅鉢 D は 1 点しかなく、モチーフの具体像はつかめない。浮線文のモチーフとは異なるようだ。

甕・深鉢 A は 2 点あり、網状文 A のモチーフ a に近似した構図をとるものが見られる。(348) 73 は肩部に隆線帯をおくもので、隆線間を連繫している。同様の手法は B 1 にもみられ、刻目をいれたこぶ状の貼付をする。

甕体部の文様は分類に当たって考慮しなかったが、いわゆる雷文を施文するものがある。工具は幅の狭い板状のもの・櫛状具・ヘラ状具があり、施文法も直線をジグザグに繋ぐものと、S 字状に蛇行させるものがある。その他、壺 D と関連するが、ヘラ状の工具による細い沈線を集合させ、三角形の構図を連ねたり雷文を描くものが少量ある。

壺 浮線文はモチーフ b 7 が 1 点ある。B 1・2 の文様は甕と変わらないが、口頸部全体に多条の沈線帯をおくものが少数見られる。D は頸部～肩部に文様帯をもち、三角形の構図を描く。

その他 特殊な文様として刺突による施文がある。刺突文は土偶に多く見られる施文法であるが、稀に土器にも使用されるようだ。基本的には刺突を一定の幅に集合させた帯を用い、絵画様の構図を描く。全体像の把握できるものはない。甕・深鉢もしくは壺に認められる⁽⁹⁾。

本類の土器には少数ながら、赤色塗彩するものが認められる。特に浅鉢の内面に多いが、甕や壺にも見られる塗料の材質については不明であるが、全て焼成後に塗っている。

その他、浅鉢・壺・甕・深鉢には穿孔が認められる。浅鉢・壺の場合は口縁下であり、焼成前に刺突穿孔しているものが多い⁽¹⁰⁾。当初から意図された穿孔といえる。甕・深鉢は口縁部付近のものに加え、体部に穿孔するものも認められる。多くは焼成前乾燥段階に回転穿孔しており、孔より 1～2 cm のところに破断面が縦方向に走る。200 は破断面に沿い、口縁下 3.3cm・11.4cm に 2 孔を外側より穿つ。口縁寄りのものは焼成後回転穿孔を行い、他方は焼成前乾燥段階に回転穿孔をする。さらに特記すべきこととして、焼成前に破断面とその内外側縁に粘土を塗っている。特に内面側には、指で塗付けミガキを加えた痕跡が生々しく残る。おそらく土器整形後の乾燥段階に口縁部に亀裂が入り、粘土を塗って接合、下方の孔を穿って補修孔とした。さらに焼成後にもう 1 孔設けたものと推察される。縄文時代の各期を通して見られる穿孔、いわゆる補修孔の意味を示す稀有な例と言えよう⁽¹¹⁾。

ii) 第 2 類土器

体部に沈線による大柄の渦文を数段に配し、無頸壺形を呈する類を一括する。

器種 無頸あるいは短頸の壺形のみ認められる⁽¹²⁾。

類型 分類は第 1 類浅鉢に準ずる。文様帯を有する A のみ認められ、口外帯と同様、口端部に三角形の貼付文を有するものを A、ないものを A' とした。

器形 器形の判明する個体は少ないが、口縁部の形態により、1 口縁部が内傾する無頸壺形、2 口

縁部が短くくびれて直立する短頸壺形に分けられそうだ。体部は両者とも肩が丸く張り、径の小さな底部が取り付く。(第11図)

口端部は1・2とも、端面を水平に広く造り出し、沈線を配する。従って御社宮司報告の端部形態c1・c2とは異なる。底部はb1形が認められる。

整形技法 外面の整形は、ナデ・ハケ状工具による整形・ミガキによる。第1類に一般的なケズリは行わず、指で押さえた後ナデやハケ状工具により整える。従って器面の凹凸は完全には消されず、器厚も一定しない。ハケ状工具は条が細かく、細密条痕よりもハケ目に近い痕跡を残す。ミガキは肩部以上の文様帯に施されるが、ほとんど加えないものもある。下半部は仕上げのナデ・ミガキ等徹底されないものが多い。底部は削り取りを行い、若干上げ底にするものがある。

内面の整形も外面と同様だが、一層凹凸や輪積痕が顕著である。259は内面下半部を中心に爪形(半円形)の圧痕が多数残される。おそらく外面調整の際に当てた爪によると思われるが、或いは工具かもしれない。

整形方向のわかるものは1点のみである。(259)外面は肩部以下が縦位、口頸部は横位に加える
胎土 本類の胎土は白色の砂粒がやや目立ち、色調も灰色系統を示す、第1類とは異なる傾向を示す。整形技法・器形・施文も第1類には見られないものである。

文様 文様帯は大まかに口頸部文様帯と体部文様帯に分けられる。

口頸部文様帯には2者が認められた。類型Aは口端部外面に粘土帯を貼付し、三角形の連続文を彫刻、さらに無文帯をおいて肩部にレンズ状の付帯文をおく。A'は肩部にやはりレンズ状付帯文をおくが、口縁部外面は沈線帯を設けている。両者とも1例ずつしか確認していないが、Aはミガキが徹底され、付帯文も彫刻的であるのに対し、A'は徹底されず、沈線・付帯文とも非彫刻的かつ立体感を失っている。

体部文様帯は、各個体ともよく似た構図をとる。3～4条の沈線帯により2段前後に区画された内部には、非彫刻的な沈線による大柄の渦文・円文が配される。渦文は2単位を連結して1対とするようだ。沈線帯・渦文に囲まれた三角形の空白部は、器面を彫刻しくぼめるが、雑で徹底しない。

iii) 第3類土器

貝殻条痕及び「東海系胎土」⁽¹³⁾に表徴される土器群である。

器種 壺・甕・鉢がある。さらに細分でき、類型とした。

類型 分類は第1・2類と観点を換え、器形により類型を設定した⁽¹⁴⁾。甕A～C・壺A～C・鉢がある。さらに細分できる要素をもつが、個体数が少ないので考慮しない。(第11図)

甕 Aは直立又は外傾する口縁部を有する。Bは内湾、Cは外反する。

壺 Aは口縁部が直立するか、ゆるく外反するものを一括した。最も多く見られる類である。Bは頸部がしまり、強く外反する口縁部となるもの。Cは無頸壺で、口縁部は内側に折り返す。

鉢 1点のみで、口縁部の形態から鉢としたが、異なる可能性もある。口縁部が内湾して開く。

体部の器形は不明なものが多いが、壺の場合肩が張るものが多いようだ

胎土 いわゆる「東海系胎土」の特徴を示し、石英・長石等の粗粒を多く混入する。素地の質には軟質で脆いものと、密でしめるものがあるが厳密に区別はできない。380は明らかに第1類の胎土だが、器形・整形等は本類の特徴をもつ。

色調は明黄褐色～茶褐色を呈するものが一般的である。

整形の技法 基本的には①器体内外のナデ②外面の条痕の順に整形する。

ナデは押さえの後行われ、工具の圧痕を残すものもある。ケズリは行われず、従って器表の砂粒は沈められず、器厚も一定しない。口端部は強くナデをし、上向きの端面を造る。端面はややくぼむものもある。(甕A・B・壺A) また、端部は丸くおさめるものも存在する。(壺A・B) 内面のナデは横位ないし斜位に加える。

外面調整は、大半が貝殻による条痕を施すが、櫛状工具や半割竹管状の工具によるものや、一部又は全体をナデて仕上げるものも僅かにある。原体には条の密なもの、幅広のものがあり、甕Bに前者が多いようだ。同一原体でも引き方により条の太さが変わるようであり、壺の下半部では粗く、上半部では細目に引く。

外面整形の方向は、壺の場合下半部では左上がり斜位(ラセン状)に下→上へ施し、体部最大径以上では水平かやや左上がりに整形する。壺には口頸部だけ条痕を省くものが存在する。(65)貝殻条痕は原則として外面の整形手法であるが、少数の個体には内面にも施すものがある。(379)

底部の形態は壺・甕ともに小径でやや突出し、不安定である。底面中央部は若干くぼませる。

文様 口縁部の突帯と条痕文のパラエティーについて触れておく。

壺口縁下の突帯は殆どが1条で、いずれも端部直下に設ける。断面形は三角形を呈し、刻目を入れる。刻目にはへら状工具を縦に押し付けるもの(62・272)・条痕と同一の原体を用いるもの(260・422)・指によると思われるもの(373)があるが、中には二枚貝の背面を押し付けるものがある。(377・465・471) この種に限って口端部は丸く、突帯も低く丸い。壺Bでは突帯は下向きに付く。

2条以上の突帯を付すものは3点しか認められない。379は3条有するもので、指?による押さえを行う。164は断面形がF字状に突帯を取り付け、推定4単位耳状に大きく突出する突起を付す。

壺・甕のとりわけ上半部に、縦方向の羽状構図をもつ貝殻ないし櫛状工具による条痕や、波状文を施すものが少数ある。波状文は壺肩部に見られ、羽状条痕とともに文様帯を形成している。(467) 口縁部の形態は不明であるが、おそらく類型Cとなろう。甕Cにも羽状条痕が認められ、口縁直下より施される。波状文・羽状条痕ともに右→左に施文される。第1類胎土の380も同様である。

iv) 各類土器の組成(第15図)

各類の土器について、最も出土量の多かった土器集中区7を例にとり、土器組成の算出を行った。方法は口縁部の破片数によったが、細片が多いため誤差を含む。

結果は全体では、第2・3類は3%にも満たず、極めて少ない。第1類においては甕・深鉢が75%

を占め、壺・浅鉢は僅かである。

器種別に見ると、各類ともA（浮線文）は無に等しく、B（とりわけB1）も僅かである点が指摘できよう。主体となるC（無文）も、大半がC'で占められ、最も主体的な土器といえる。

v) 各類土器の位置づけ

第1類土器はおおむね氷I式の特徴を備えているが、浮線文が僅かで、口外帯も少ない点氷遺跡や御社宮司遺跡と異なる。逆に甕3・深鉢4のような器形や、C'c類の存在が目立つ。氷II式の特徴に似たものも（D類等）僅かだが認められる。

第2類土器は氷I式や樫王式に客体的に存在する。本遺跡出土のものは整形・施文等やや省略傾向にある。

第3類土器は大半が搬入と思われるが、地域の限定はできない。多くは樫王式の特徴を備えると思われるが、羽状条痕や波状文を施す水神平式の特徴もある。特に在地で模倣したらしいものが存在する点、注意される。

以上の点を総合すれば、本遺跡の土器群は氷I式の終末段階のものが中心で、少数次の段階のものを含むものと言えよう。条痕文系土器との並行関係もおおむね上記の通りと言える。

第1類土器は従って2時期に分離できる可能性をもつが、大半は無文の甕・深鉢であり、その作業は困難と言わざるを得ない。量的にも氷I式以後のものは少ないと思われる。

②その他の土器

i) 土壇6

縄文中期～晩期の土器が出土している。このうち図示できたものは4点である。

2・4は後期前葉の土器で、1は粗製の深鉢である。口縁端部は内側に若干折り曲げ肥厚させる。外面の整形は横位のケズリのち同方向にナデを行う。内面は横位のナデ整形である。胎土は粗く茶褐色を呈する。4は注口土器の破片で、大きく集約する体部の上端を短く折返し、外傾する面を取る。把手は1対になると思われ、板状の粘土を楕円形に貼付する。上端には渦文を施した突起を設ける。注口は把手下端より取り付くが接合部より欠損する。整形は雑なミガキを行い、胎土はやや粗い。茶褐色を呈する。

1・5は晩期後半の土器である。1は浅鉢C'aで、器形は2に属する。内外面ともケズリの後ミガキを行う。5は深鉢又は甕B2'aで、外面口縁下に2条、内面に1条の細目の沈線をおく。内外面ケズリの後横位にナデを行う。1は基本的に土器集中区のものとは変わらない。5は内面に沈線文を有する唯一のもので、氷I式前半に位置づけられよう。

ii) ロームマウンド2

晩期土器が1点ある。3は甕口縁部～肩部の大形の破片で、丸く張る肩部に短く外反する口縁部が取り付く。外面は無文で横方向にナデ仕上げする。内面はナデの後口縁下に2条の太い沈線文を引き、再び周囲をナデる。本土器の器形・施文は佐野遺跡の資料中に見られ、佐野II式に比定でき

よう⁽¹⁵⁾。

iii) 土器集中区

ここでは第1～3類土器の規格から外れたものを一括する。300は台付の皿形土器にならうか、接合部の破片である。脚部外面には三叉文モチーフの磨消縄文が施文される。縄文は無節Lの原体を横位に転がす。三叉文は全容が不明だが、陰刻された沈線により描かれる。胎土は砂粒を含むものの良好で、内外面十分なミガキがなされる。脚部内面もケズリの後ミガキを行うが、外面より雑である。佐野I式に比定される土器と思われる。

472・473は弥生時代中期前半のもので、深鉢の口縁部・体部破片である。口縁直下には櫛描の波状文・直線文が左→右に施文される。口縁端部内面には2本1対のヘラによる刻目が加えられる。

註1 本稿での分類は基本的に百瀬長秀氏の考え方を踏襲しているが、筆者の浅学無知により誤解も多々生じていると思われる。その点についてお詫びするとともに、度々御教示を頂いたことに対し、謝意を申し上げる。また、下記の方々にも有益な教示を頂いた。

石川日出志 石黒立人 泉拓良 市沢英利 大参義一 神村透 設楽博己 (五十音順 敬称略)

- 2 耳付筒形土器・注口土器はこれまで認識のされなかったものである。前者は女鳥羽川遺跡に1点あるが、注口土器については初見である。
- 3 百瀬長秀氏が文献の中で口縁部圧痕a手法としたものも多く認められる。指による押圧の可能性を指摘されているが、本遺跡出土例のには、小さく深い圧痕もあり、多くは工具を用いているようだ。
- 4 御社宮司遺跡(文献4)など。
- 5 御社宮司遺跡では超大形はみられない。本遺跡では残存の良好なものもあり、数も多い。口径計測の誤差を考慮しても、確実に存在するとしてよいだろう。
- 6 文献1
- 7 百瀬長秀氏は両者を一括して隆線としたが(文献5)、ここでは後者が多く、時期的な問題を勘案して区別した。
- 8 文献5
- 9 外面の整形ミガキ・細密条痕両者に見られる。
- 10 素地が柔らかい段階に施す。
- 11 石川日出志氏の教示によれば、新潟県村尻遺跡でも底部の亀裂に粘土を詰めるものがあるという。
- 12 形態的には無頸壺・短頸壺といえるが、器種としてよいかわからない。
- 13 文献10
- 14 文献8の分類を用いた。
- 15 文献9によった。

参考文献(本文・考察で参考としたもの)

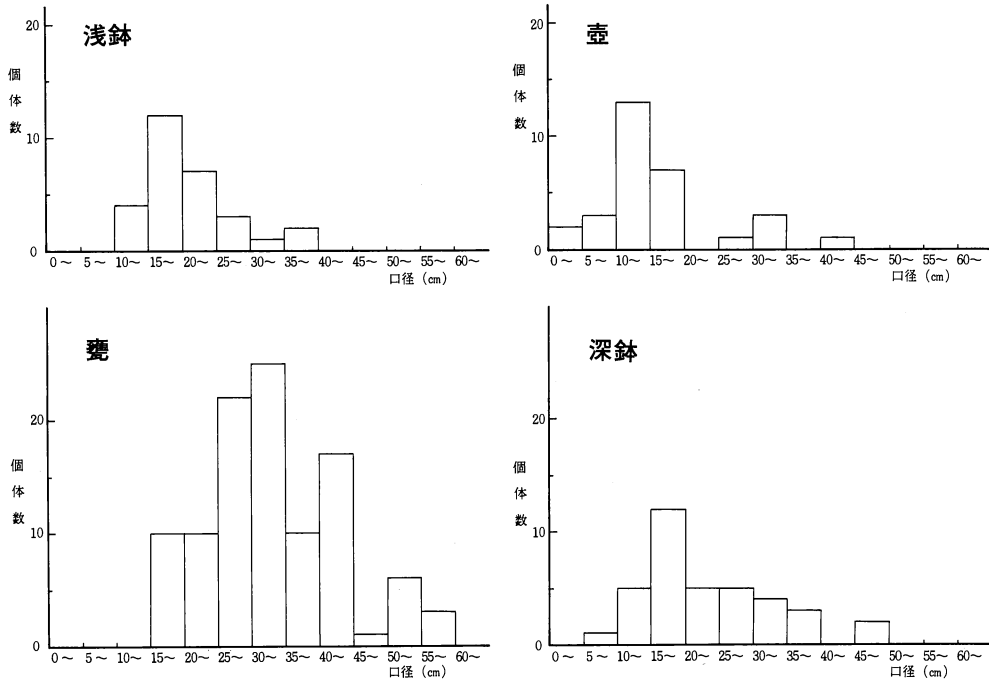
- 1 永峯光一 「水遺跡の調査とその研究」『石器時代』9 1969
- 2 設楽博己 「中部地方における弥生式土器の成立過程」『信濃』34-4 1982
- 3 石川日出志 「中部地方以西の縄文時代晩期浮線土器」『信濃』37-4 1985
- 4 百瀬長秀他 「御社宮司遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』茅野市その5 1982
- 5 百瀬長秀 「縄文時代晩期末～弥生時代中期初頭土器の分類と検討」『梨久保遺跡』1986
- 6 百瀬長秀 「浮線文系土器の変遷と分布」『歴史手帖』14-2 1986
- 7 樋口昇一他 「長野県松本市女鳥羽川遺跡緊急発掘調査報告書」1972
- 8 愛知考古学談話会 「条痕文化をめぐる諸問題 資料編1」1985
- 9 永峯光一 「佐野 長野県考古学会研究報告書3」1967
- 10 笹沢浩他 「十二の後遺跡」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 諏訪市その4』1975

第 1 類 土 器				
浅鉢	甕	深鉢	壺	舟形土器
1	1	1	1	
2	2	2	2	耳付筒形土器
3		3	3	
4	3	4	4	注口土器
5		6		

第 2 類 土 器		第 3 類 土 器		
1	2	壺	甕	鉢
		A	A	
		B	B	
		C	C	

口外帯	口外帯無	
浮線文(A)・隆線帯(B1)	沈線帯(B2)	沈線帯(B3)
 ①陰刻 ②ミガキ ナデ ミガキ	 ①陰刻 ②ナデ ③ミガキ ナデ ナデ・ミガキ ミガキ ナデ ナデ ミガキ	 ①器面調整 ②沈線施文

第11図 晚期土器分類模式図



第12図 第1類土器口径分布

整形方向	A		B	
	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等
甕	25	16	4	24
深鉢	6	7	6	12
合計	31	23	10	36
	54		46	

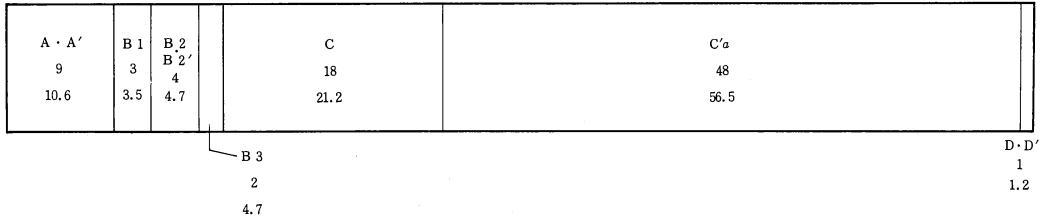
第13図 第1類土器整形方向

圧痕のまま			圧痕→ケズリ			圧痕→(ケズリ)→ナデ・ミガキ			ケズリ	(ケズリ) + ナデ・ミガキ
網代	木葉	その他	網代	木葉	その他	網代	木葉	その他		
56	25	4	5	1		35	10		33 (11.2%)	125 (42.6%)
85 (28.9%)			6 (2.0%)			45 (15.3%)				

第14図 第1類土器底部の整形

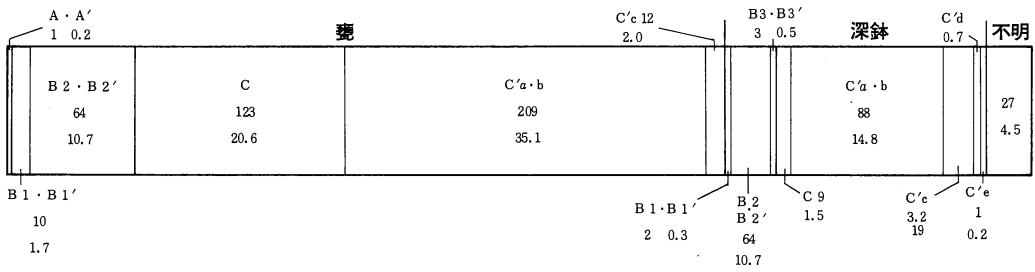
淺鉢

85



甕 · 深鉢

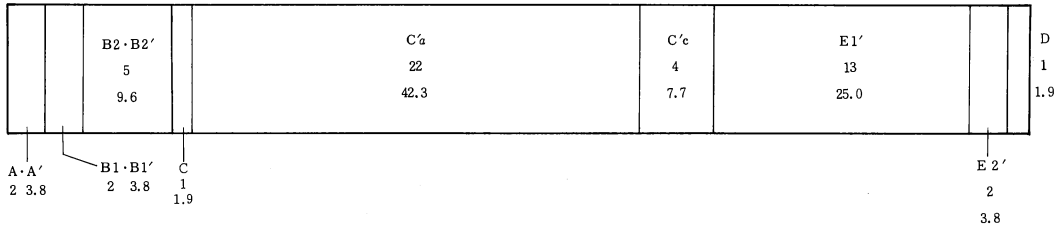
596



壺 52

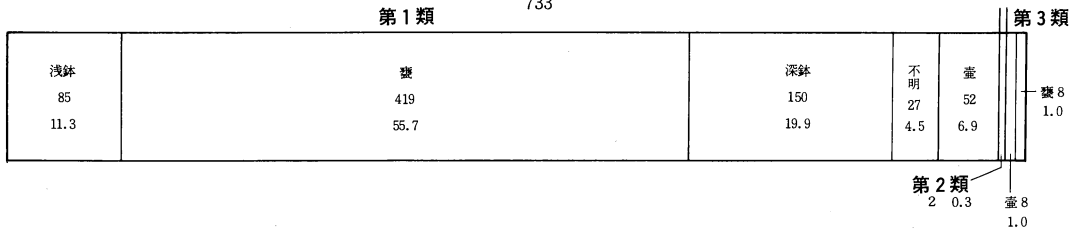
壺

52



綜合

733



第15圖 縄文晚期土器組成表

表1 晩期土器観察表

第1類土器

類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
浅鉢 A・A'	○2~5があり、4・5が主体となる。 ○2(341)・3(96・339・467)・4(40・342)・5(6・36・93・330・344)	○一般に丁寧なミガキ仕上げをする。	○細隆線による網状文を付す。 ○モチーフb(40・93・339)・C(86・344) d(6・36・68)・b又はd(303・341) (モチーフは御社宮司遺跡報告参照) ○細隆線は巾広のものが多い。36は細隆線間の彫刻面がV字状を呈し、工具痕が残る。2回に分けるか、先端V字状の工具を用いるか。(仕上のミガキは及んでいない)	○93は内面に赤色塗彩をする。	6・36 40・68 93・96 330・339 341 342~344 467
浅鉢 B1・B1' B3・B3'	○5がほとんどである。 ○2(7)・5(38・92・105・319・345)	○A・A'と同様概して丁寧なミガキを施すが、B3・B3'はやや雑である。 ○105は内外面ナデ仕上げする。	○B1は3条前後の隆線が一般的と思われる。38は2本の隆線を推定4ヶ所で結束させる。319は貼付による隆線と考えられる。 ○B2はB1同様多条のもの、420のような口縁下に太い1条の沈線を付すものがあり、後者はC類型器形5の変化かもしれない。 ○B3は3条前後の細い沈線を施文する。沈線間には粘土のみだしが残る。	○B1(318・319・345・38) B2(7・456) B3(92・105)	7・38 92・105 318・319 345・456
浅鉢 C・C'	○Cは5のみ認められる。 ○C'は3・5が主体となる。 ○1(71・98・296)・2(239・484) 3(67・94・95・103・106・282) 4(66・280)・5(72・97・99・101・102・108・110)・6(85) ○67は振幅の小さい波状口縁となる。	○Cは丁寧にミガキを加える。 ○C'は横ケズリ→横ミガキが基本だが、ミガキ不足でケズリ痕を残すものや、ナデ仕上げのものが多い。 ○器形5の底部はケズリ→ミガキにより上げ底にするものが多い。 ○器形1・2の端部は内傾する面をもつものが多い。	○Cの口外帯は刻目を付す貼付を行う。(110) ○C'は一見口縁下に幅広の沈線をおくように見えるが、器形4・5の変化と考えたい。	○282・296は赤色塗彩をする。 ○111は内底面に黒色タール状の付着物が認められる。	34・66 67・71 72・94 95 97~99 101~104 106~108 110・111 282・296
浅鉢 D'	○2のみ存在。	○内外面ナデ整形する。 ○端部は丸くおさめる。	○口縁は小突起を付す。 ○口縁に沿って2条、さらに下位に3条の浅い沈線の下端に沿い、下向きの弧線を連続させる。浮線文とはモチーフが異なる。		346
甕 A・A'	○1・2がある。 ○348は壺の可能性もある。 ○1(73)・2(348)	○口頸部は内外面入念に横ミガキを行う。	○348は頸部にモチーフAに近似する網状文を陽刻する。 ○73は頸部と肩部に文様帯をもつ。口頸部はB2'aと同じ構成をとる。肩部は隆線ないし太幅の陰刻沈線を設け、何単位か上下を連結させる。肩部以下は細密条痕を施す。整形方向はAである。	○73は口縁下に焼成前の回転穿孔を行なう。全面にススが厚く付着する。	73 348
甕 B1・B1'	○1が多い。 ○1(44・61・142・293)・2(12・75) ○142・293は肩の張りが弱い。	○口頸部外面はミガキが多い。 ○体部外面はミガキ・細密条痕のほか、ヘラ or 棒状具による整わない条痕がある。(293) ○整形方向はAが多い。	○隆線は口縁下に1条付す。 61・283は隆線部をミガキし、口端からやや下がった位置に設ける。 44・142は仕上げにナデを行い、取付位置も端部に近い。B2の沈線1条のものに近い。	○12は口外帯下に焼成前回転穿孔する。 ○142・293は外面にススが付着する。	12・44 61・142 293
甕 B2・B2'	○1・2に限られる。 2は少ない(B2に限られる) ○14・112は肩の張りが弱い。 ○11は口径に比して器高が小さい器形となろう。 ○39は深鉢の可能性もある。 ○1(11・33・39・70・74・77・78・112・116・125)・2(24・75・117)	○口頸部はナデないしミガキで仕上げる。 ○肩部以下はナデ・ミガキ仕上げが多い ○整形方向A(14・49・116・117) " B(11・70・78・112) ○117の細密条痕は右下→左上、右→左に施すようである。	○117は口外帯に沈線を引く。 ○B2'は貼付を端部にもつものも多く(a)小突起も見られる。 ○沈線は1条(11・14・119)のものは少なく、2~3条(とりわけ2条)が大多数である。117は多条の沈線を引く。沈線は細く、明瞭であるが、内部はミガキをする。 ○1条の沈線は以下の器面が剥去されずB1とは区別される。 ○11の体部には3本の沈線により、大柄の雷文が3単位施される。 ○347は端部よりやや下って沈線を施し、コブ状の貼付を行う。	○大半の土器に、ススの付着が見られる。	11・14 33・39 60・70 74・75 77・78 112・116 119・117 125・347
甕 C	○1のみ認められる。 ○肩部の張りは概して弱く、118は稜が消失、整形を変化させて口頸を区切る。 ○113は口径に比して器高が小さい。	○口頸部はナデ・ミガキにより仕上げる。 ○体部の整形はナデ・ミガキと細密条痕があり、後者が主体となる。 ○ナデ・ミガキ(9・57・109・124・129・132・139・150)・細密条痕(16・	○口外帯には4種ある。 ○口端外側を肥厚させ面取りするもの ・沈線有(114・115・120・123・127・128・131・138・267) ・沈線無(16・57・76・109・113・122・124・126・132・134・136・137・146・150)	○ほとんどの個体にススの付着が見られる。	9・16 57・76 109 113~115 118・120 122~124

類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
		76・113・114・123・126~128) ○整形方向はA・B型が見られ、後者はすべて細密条痕を施す。 ○A(9・109・114・123・124・127・128・131) B(42・76・98・134・160・185・192・199・272・341) ○細密条痕には条が不明瞭で、擦痕様になるものがある。(76)	○口端面を肥厚させ、振幅の小さい波状をなすもの(9・294) ○口端を外方に向け面をとるもの(118・130・139)		126~132 134 136~139 146・150 267・294
甕 C'a	○1が圧倒的多数を占め、2・3はわずかである。 ○2(21・25・83・155・157・267・168・176)・3(79・160・274) ○1・2には肩部の稜が消失しなかったものがある(13・144・149・152・155・176・288)。特に288は基本的に深鉢の器形と変わらず、口頸部に条痕を及ばさない点に甕の名残をとどめる。	○口頸部はナデ・ミガキを施し、前者が多い。 ○体部の整形はCと同様である。 ○ナデ・ミガキ(13・21・25・79・83・121・144・148・149・152・156~158・160・162・164~168・176・270) ○細密条痕(10・45・59・80・91・135・140・141・147・154・155・163・174・274) 棒状具?による条痕(131) ○整形方向 A(13・25・79・83・135・140・144・149・152・154・160・168・176) B(10・21・45・59・80・141・147・153・163・270・274・288)	○口端部の形態は、器形1には反外気味に丸くおさめるものが多い。2は水平かやや外傾する面をもつ。3には両者がある。 ○口外帯の退化と思われる貼付が少量認められる。貼付には圧痕を付すものが多い。(8・10・21・25・59・80・135・143・149・151・155)器形3には認められない ○10は肩部に雷文の一部と思われる沈線が施される。	○多くの個体の外面にはススの付着が見られる。 ○45は口頸部外面と内面に赤色塗彩を施す。	8・10・13 21・25 37・45 58・59 79・80 83・91 121・135 140・141 143~145 147~149 151~158 160・162 163~168 174・176 270・274 288
甕 C'b	○1が多い。C・C'aと変わらない。	○C・C'aと同様である。 ○ナデ・ミガキ(133・174・178・180) 細密条痕(177) ○整形方向はAが認められる。 ○174・178は比較的丁寧なミガキを行う。	○小突起は2者がある。 小突起に圧痕を付すもの(174・175・178) " " しないもの(133・177・180)	○他と同様、ススの付着が見られる。	133・174 175・177 178・180
甕 C'c	○1が認められる。	○口頸部は内外面ナデを行う。 181・189は体部もナデで仕上げる。	○圧痕の付く位置には2者がかる。 185は端面に行い、他は口端側面に加える。 ○圧痕はユビヤ工具を用いる。46は圧痕の中央に爪形の痕跡がある、「口縁部厚痕a手法」である。工具を用いるようだ。	○ススの付着が185・189に見られる。	46・181 185・189
深鉢 B1・B1' B3・B3'	○全器形の判明するものは少ない。1・2が認められる。 ○1(35・186・350・352・353・464) 2(183・252・355)	○口頸部はナデ・ミガキを行う。 B3にはナデのみ認められる ○体部の整形は不明である。183はケズリの後ナデを行うが、細かい条を有する原体を用いている。細密条痕とナデの中間的なあり方である。	○B1は252の1点のみで、口縁下に1条の隆線を隔刻する。隆線にはヘラ状工具による刻目が付される。 ○B2は2者がある。 口縁下に3条前後の沈線を付すもの(351・350・352) " " 1条の太く浅い沈線を付すもの(130) 前者は沈線内をミガキ、後者はナデで仕上げる。 ○B3は口縁下に4条前後、ヘラ状工具による沈線を施す。(186・355・464) 186は口端外面にコブ状に突出する貼付をする。 314は小突起を設け、端面に刻目を加える(B3'c)	○183は外面にススが付着する。	183・186 252・350 351~353 355・464
深鉢 C・C'a	○1・2のみ存在する。 ○1(19・20・29・42・52・81・90・173・179・187・275・276・450) 2(30・41・169~172・182・188・194) ○30・171・172・188は肩部にわずかな稜を有するが、甕とは区別した。	○ナデ・ミガキによるものと、細密条痕によるものに大別される。 ○ナデ・ミガキ(19・20・29・41・52・169~171・179・187・188・275) 細密条痕(30・42・81・90・173・182・194・276・356・450) ○整形の方向は、Aはナデ・ミガキ仕上にはほぼ限定される。(29・171・172・179)Bには両者がある	○Cは276の1点である。小突起、端部は面取りをし、突起上に刻目を入れる。	○ススの付着する個体が多い。	19・20 29・30 41・42 52・81 90 169~173 179・182 187・188 194・275

類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
	○276は小形で浅い鉢形を呈する。 ○296はミニチュアの土器か。	が、小形品はナデ・ミガキが多い。 (30・41・42・52・81・90・169・173・182・187・188・194・275・276・356・450) ○Bのうち42・90・182・194・356は口縁直下まで条痕が及ぶが、他は横方向にナデ消をする。			356・450
深鉢 C'c	○1・2・4があり、2が大半を占める。 ○1(198・201)・2(202・203・209・215~217)・4(35) ○263は小形品。 ○4は第3類壺Cに形態が似る。	○整形はすべて細密条痕等による。(203はナデ) ○整形方向も全てA型である。 ○条痕原体はこの類に限って粗大なものが多く、櫛状に近い痕跡を残す。 ○35は明らかに櫛状工具によると思われる	○口端部の圧痕はヘラ状の工具によると思われる工具痕を残す。307は「口縁部圧痕a手法」である。全て上向き端面に施す。	○184はススの付着が見られる。	35・198 202~203 209 215~217
深鉢 C'd	○424の1点のみ存在する。 ○形態は第3類壺A又はBに似る。(第3類にすべきか)	○内外面ナデ整形される。外面のナデは粗く、凹凸が残る。	○口端部は肥厚し、外側は玉縁状に突出する。幅広の端面を有している。		424
深鉢 C'e	○225の1点のみ存在し、器形は1に当たる。	○口縁部は折り返して肥厚させ、外面には縦位に燃糸文を付す。 ○体部は密な細密条痕を施す。整形方向はA型である。	○口端側面には圧痕を施す貼付を連続させている。 ○体部は植物茎を潰したような原体で大柄S字状の雷文を施文する。	○口縁より斜めに生じた破断面に沿い、焼成前、焼成後2つの回転穿孔を行っている。	225
壺 A・A'	○190・205・304の3点がある。 ○190・304は器形1、205は不明だが、おそらく1であろう	○190・205は口頸部ミガキを行う。 ○190の体部は縦方向の細密条痕を施す。	○205は網状文を頸部に施文する。モチーフは網状文AのB7である。 ○190・304は肩部に隆線をもち、304は隆線間に圧痕付の貼付を加える。		190 205 304
壺 B2・B2' B3・B3'	○器形は2を主体とする。 ○2(46・195・199・295・297・362)・3(197) ○2には肩部の開きの強いもの(195・199)がある。	○口頸部は、197・295は縦方向、他は横方向にミガキもしくはナデ調整を行う。 ○体部は195・199・295を除き不明である。195は横方向のミガキを肩部に行い、199は縦方向に細密条痕を施す。295は体部下半は縦方向ケズリ、上半は横方向ナデを行う。	○B2は沈線の有り方に2者がある。 46・197・295は壺B2と同様、口縁下に太幅の浅い沈線を1条引き、内部をナデる。 199・362は口頸部全域にやや細目の沈線を10本前後引くもので、半円形の断面を呈する。沈線内外はナデを行うが、粘土のはみ出しは完全には消されない。 ○B3は頸部にヘラ状工具による細い沈線を3~4条引く。297は口縁下に太幅1条の沈線を施し、内部をナデる。口縁部の沈線の技法はB2となっている。 ○口外帯は46を除きもない。(B') 197はB'aで、推定4単位貼付を行い、B'aの285・297は工具による圧痕をそれぞれ口端面、口端側面に連続させる。	○295は外面にススの付着が見られる。	46・195 197・199 295・297 362
壺 C・C'	○1・2・4・6があるが、口頸部の破片のみでは判断が難しいものが多い。大まかには下のように分類されるが、1・2については判断が微妙である。 1(43・196・268)・2(18・48・82・191・192・205・210~213・277・301)・3(17・207・298)・6(239) ○268は丸底を呈する。196は同形態の口頸部であろう。 ○205・301は球状の体部を有する小形品だが、壺の特徴を備えている。	○口頸部は193・239を除き、横位ミガキ・ナデを行う。ミガキが主体となる。193は縦方向ミガキ、239は工具によるナデを行う。 ○体部は、205・210・301が横ないし斜位ミガキ・ナデ、239・268は縦方向の細密条痕を施す。268は上半は上→下、下半は下→上に施している。	○268は肩部に突帯を付し、上部にヘラ先により刺突文を連続させる。(196も同じか?) ○口外帯(43)は小波状帯をめぐらす。 ○C'は3点ある。26・193は口端外面に粘土帯を貼付し、ヘラ又はユビによる押圧を加える。191は端面外側に、浅いユビないしヘラの押圧をする。	○48・196・205・268は口縁下に焼成前刺突穿孔を行う。 ○193・212・298には赤色塗彩が認められる。	17・18 43・48 82・191 192・196 205・207 210~213 239・277 298・301
壺 D	○369は口縁部欠損し、器形不明である。口頸部は短くぐびれ、体部はゆるく開いて張る。	○外面は丁寧な仕上げ、ナデ→施文→ミガキの順に行われる。 内面もナデ→ミガキで、頸部以上は丁寧にミガキをする。 ○他の壺類に対し薄手。	○口頸部・体部の境界にはヘラ描の横走沈線を1条付し、その上下に接して文様帯をおく。口頸部、肩部とも三角形のモチーフを先の細い工具により描く。(右→左へ) ○沈線は非彫刻的だが、いわゆる「幅狭沈線」とは異なるようだ。		369

類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
壺 E1	○2のみみられる。 ○254は肩部以上が大きく集約する。 ○255・366はE2かもしれない。 ○体部は不明だが、肩の張る長大なものとなろう。	○口頸部は内外面ナデ仕上をする。 ○肩部以上は粗大な細密条痕を縦位に行うが、密には施さない。 ○本類の土器は他と比してかなり厚い。	○端部側面の突帯には圧痕等が施される。(甕の口縁部分類と同じ) a 単純で刻目・貼付を数単位付すもの。(251・253) c 圧痕を連続させるもの(51・258) 圧痕は丸く深く、51は口縁部圧痕a手法の痕跡を残す。 ○肩部には突帯を付すものが見られる。(51・254・366)突帯上には口縁部と同手法の圧痕が施される。		51 251~253
壺 E2	○E1と同じ特徴を示す。	○E1と同じ整形手法による。	○口縁部には圧痕を施す突帯が2条付加されるが、口端側面のものは突帯を省略する場合がある。(367) ○圧痕は364・363は工具を用い、174はユビ押えかもしれない。		363 364 367
舟形 土器	○302は小片だが、御社宮司遺跡報文P92No415と同様な器形となろう。	○横位ケズリの後、軽くナデを行う。	○無文		302
耳付筒 形土器	○261・340がある。 ○340はやや外傾し、336より径の大きいものとなろう。	○ケズリ・ナデにより整形されるが、雑である。 ○把手は半円形の断面を呈し、粗くナデ仕上げする。 ○穿孔は棒状工具により、縦位に行われる。	○340は斜走する沈線(非彫刻的な沈線)が施文される。	○穿孔部の使用による磨耗等は見られない。	271 340
体部の 破片	○311・323・333・357~360・371・421・463・468・469は甕・深鉢、337・354・365・368は壺の破片と考えられる。 ○354は無頸の壺(3)となるか。 ○337・365は壺と思われるが第1~第3類に当てはまらないものかもしれない。	○421・468は雷文である。421は壺口と同手法の、細いへら幅によりジグザグに施文、468は櫛状具をS字状に引く。 ○311は熱糸文を縦位に転がす。 ○323は低く太い隆線(貼付)による曲線を体部に施し、へらによる刻目を入れる。(甕体部) ○333・357は刺突文により絵画様の構図を描く。 ○371は甕AかB1になるものか、刻目を付した隆線より彫刻的な沈線が施される。	○358・360・463は壺Dの手法により三角形の構図が描かれるが、器形は不明である。入念にミガキが行われる。359は構図が異なるが、同手法による。 ○368は369と似た器形となるものか、太く浅い沈線文が描かれる。 ○337は内面にへら描の細い沈線が描かれ、365は端部に刻目を付す。	○469は甕・深鉢の体部破片だが、部分的に赤色塗彩がなされる。	
穿孔	○414・415・418・459は甕口縁付近の穿孔。 ○417・419は甕体部である。 ○420は深鉢、416・460は浅鉢である。	○甕および416は全て焼成前に回転穿孔する。 ○460は焼成前に刺突穿孔する。			414~420 459・460
底部	○50・69・47・151・204・206・208・223・233・240は壺底部と考えられるが、あるいは小形の深鉢を含むかもしれない。 ○他は甕・深鉢と思われる。	○底面は本文で述べた各種がある。 ○大半の個体は外側面を横方向にケズリ、形を整えているが、49・86・222・229・240・241は行わず、細密条痕等が下端まで及ぶ。 ○50・69・204・206・208は浅鉢の技法により底部を作り出す。 ○体部下位の整形は、甕・深鉢の場合おおむね整形の方向A・Bの特徴を示す。	○49は雷文の一部とみられる施文をもつ。	○内面は器壁の剝落や、炭化物の付着が見られる。 ○外面は二次火熱のため変色、器面荒れをおこなっているものが多い。	
底部 の整形	○28・47・229・284・476は網代圧痕のまま未調整である。 ○475は中央部を若干ナデ消し、85はミガキ消す。	○119はケズリを行う。 ○225・263は木葉圧痕をとどめる。			28・47 85・119 225・229 263・284 475・476

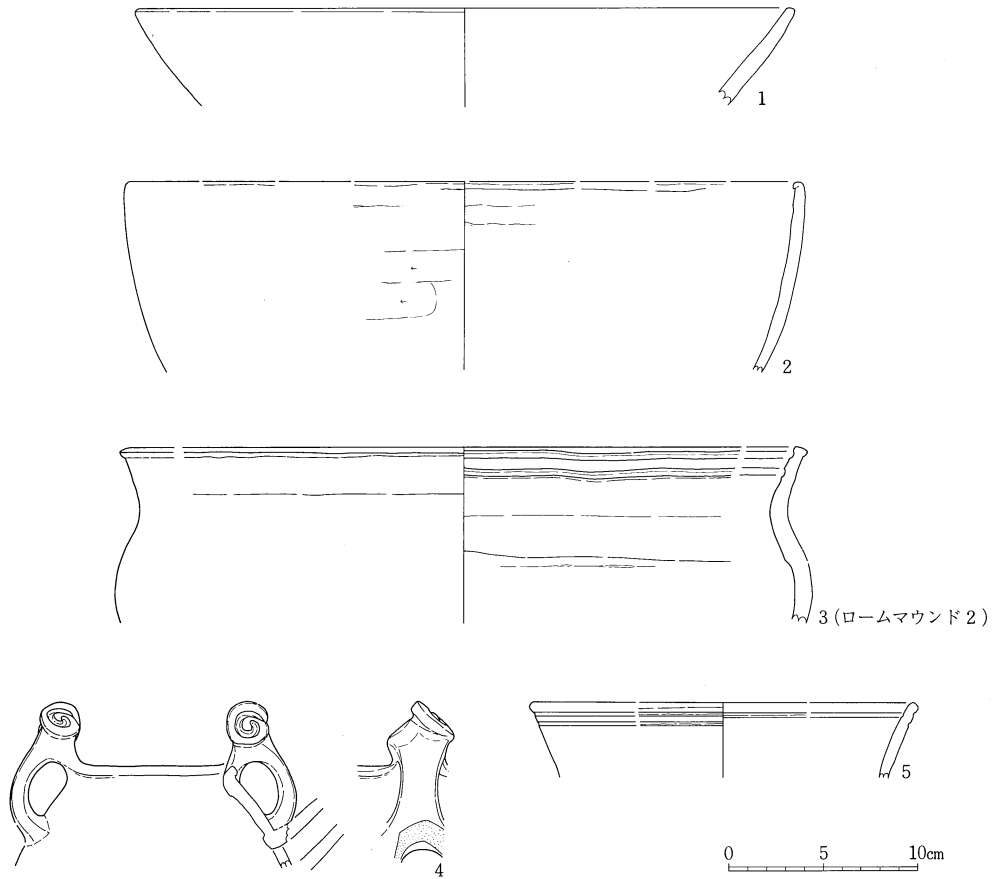
第2類土器

類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
A・A'	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2があるが、判明するものは256・259の2点のみである。 ○1・2とも端面は水平に広くとり、沈線文を1条付加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内外面ケズリは行わず、ナデで仕上げるものが多い。 ○259は内外面にハケ状の細かい条が走り、何らかの工具を用いて整形する。内面は下半部を中心に爪?の圧痕が多数残される。 ○口頸部の沈線帯・レンズ状付帯文は259はミガキがほとんどなされず、雑な仕上りをみせる。116は逆に徹底して行う。 ○概して薄手である 	<ul style="list-style-type: none"> ○口頸部 <ul style="list-style-type: none"> A(256)は口縁側面に粘土帯を貼付し、三角形を連続させるモチーフを陽刻する。 A'は非彫刻的な沈線帯(3条)をおく。 A・A'ともに、頸部は無文帯をおき、肩部にレンズ状付帯文を貼付により施す。(259) ○体部は沈線帯により体部を2段前後に区画し、内部に沈線による渦巻文を施すのを通例とする。(非彫刻的な沈線) ○305は3条の沈線を山形に連続させ、木の葉状のモチーフを描く。 		256・259 305・320 370・372 374~376 63

第3類土器

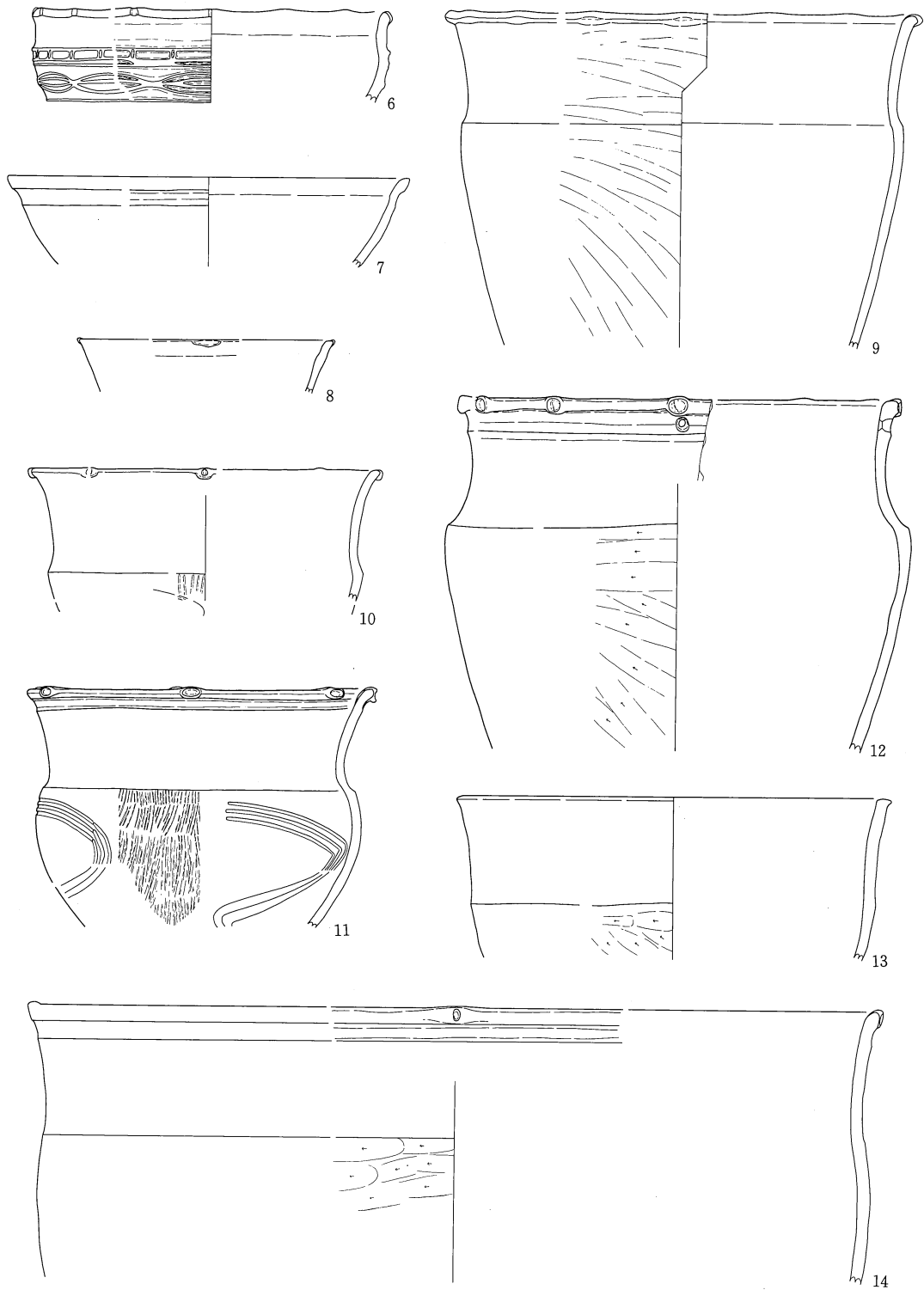
類型	器形	整形	文様	使用痕等	図
壺 A	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁はまっすぐに直立・外傾するもの(62・257・260・373・422)ゆるく外反するもの(262・377・465・470)がある。A2(378・379)は外傾する。 ○端面は面取りをするものが一般的だが、丸くおさめるものがある。(377・465・470) 	<ul style="list-style-type: none"> ○口端及び内面はヨコ方向のナデを行う。外面は突帯以下を横ないしやや左上りに右→左へ貝殻条痕を施す。 ○379は口縁内面に横位の貝殻条痕を施す。 ○378は突帯以下の整形は貝殻条痕か? 	<ul style="list-style-type: none"> ○突帯は断面三角形を呈し、ヘラ・条痕原体・ユビにより押圧をする。 ○押圧は深く、接着面近くまで行う。 ○377・465・470は断面丸く低い突帯上に二枚貝背面により圧痕を加える。 ○A2のうち378は突帯は断面F字状に高く貼付し、耳状の突起を付す。 		62・257 260・272 373 377~379 422
壺 B	<ul style="list-style-type: none"> ○やや細い頸部に強く外反して開く口縁部が取り付く。(255) ○287は本類か。 	<ul style="list-style-type: none"> ○壺Aと基本的に同じで可る。 ○端面は丸くおさめている。(255) 	<ul style="list-style-type: none"> ○突帯は、口縁の傾きが大きいと、下向きになる。圧痕は貝殻によるか。(255) ○287はA2と思われ、下方の突帯を残す。突帯は低く丸く、四角いヘラ先状の工具により圧痕を連続させる。 		255 287
壺 C	<ul style="list-style-type: none"> ○382の1点のみ存在。 ○内傾する口縁は折り返して倍近く肥厚させる。端面は外方が突出する(強く外側をつまむ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○右→左に横位貝殻条痕を付す。 ○内面は口縁肥厚部分は押えのちナデを行う。 			382
甕 A	<ul style="list-style-type: none"> ○一般的な特徴を示す。(口縁部) ○体部は不明 	<ul style="list-style-type: none"> ○横位ないしは斜位の貝殻条痕を外面に引く。(322は斜位) ○内面・端面はヨコ方向ナデを行う。 			321・322 383・451
甕 B	<ul style="list-style-type: none"> ○258の1点図示し得た。 ○一般的な特徴を備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内面・端面はナデ(横位、右→左)整形。 ○端面はやや内傾し、若干くぼませている。 ○外面は横位(右→左)に貝殻条痕を施す。 ○原体の条は細いものを使用。 		<ul style="list-style-type: none"> ○外面にはススの付着が認められる。 	258
甕 C	<ul style="list-style-type: none"> ○380・384の2点図示し得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内面はナデを行う。 ○外面は櫛状工具により右→左に羽状の条痕を施す。 ○胎土は在地(氷式)の特徴を示す(380のみ) ○384の内面はハケ状工具により整形。 		<ul style="list-style-type: none"> ○器面は強く熱を受けたためか、灰色~明褐色に変色し、やや否む。 	380
鉢	<ul style="list-style-type: none"> ○381の1点のみ確認される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○横ないしやや左上りの浅く細い条痕(貝殻)を施す。 ○内面は横位ナデ、口縁部は外方につまんでナデる。 			381
体部の破片	<ul style="list-style-type: none"> ○65・266は頸がしまり、肩が強く張る壺である。最大径は肩部(体部上位)にある。特に65の肩部は頸部より屈曲して開き、水平に近く開いた後下方に屈曲する。 ○273・283は壺下半部である。273は突出した小径不安定の底部よりふくらみをもって開く。 ○264・281は壺底部と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○65は横位(右→左)に貝殻条痕を施すが、頸部は縦方向の工具によるナデにより仕上げる。 ○266は下半部では左上りラテン状に、粗く貝殻条痕を施し、中位以上ではほぼ水平、条が細くなる。 ○273・283も266同様の整形を施す。 ○281は櫛状具による条痕かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○389は壺Cないし甕Cの体部破片で、羽状の貝殻条痕を施す(右→左) ○467は壺Cの体上部で、貝殻による波状文を2帯、右→左に施文。 ○以下は起伏の小さい羽状に貝殻条痕を施す(右→左) ○その他図示(拓影)した多くの破片は、大半が壺・甕と考えられる。ほとんどのものは整形、整形の方向等一般的な特徴を示している。 		65・264 266・273 281・283 306~309 312~317 324~329 335・336 338 384~413 423~429 453~455 457・458

土壙6・ローママウンド2



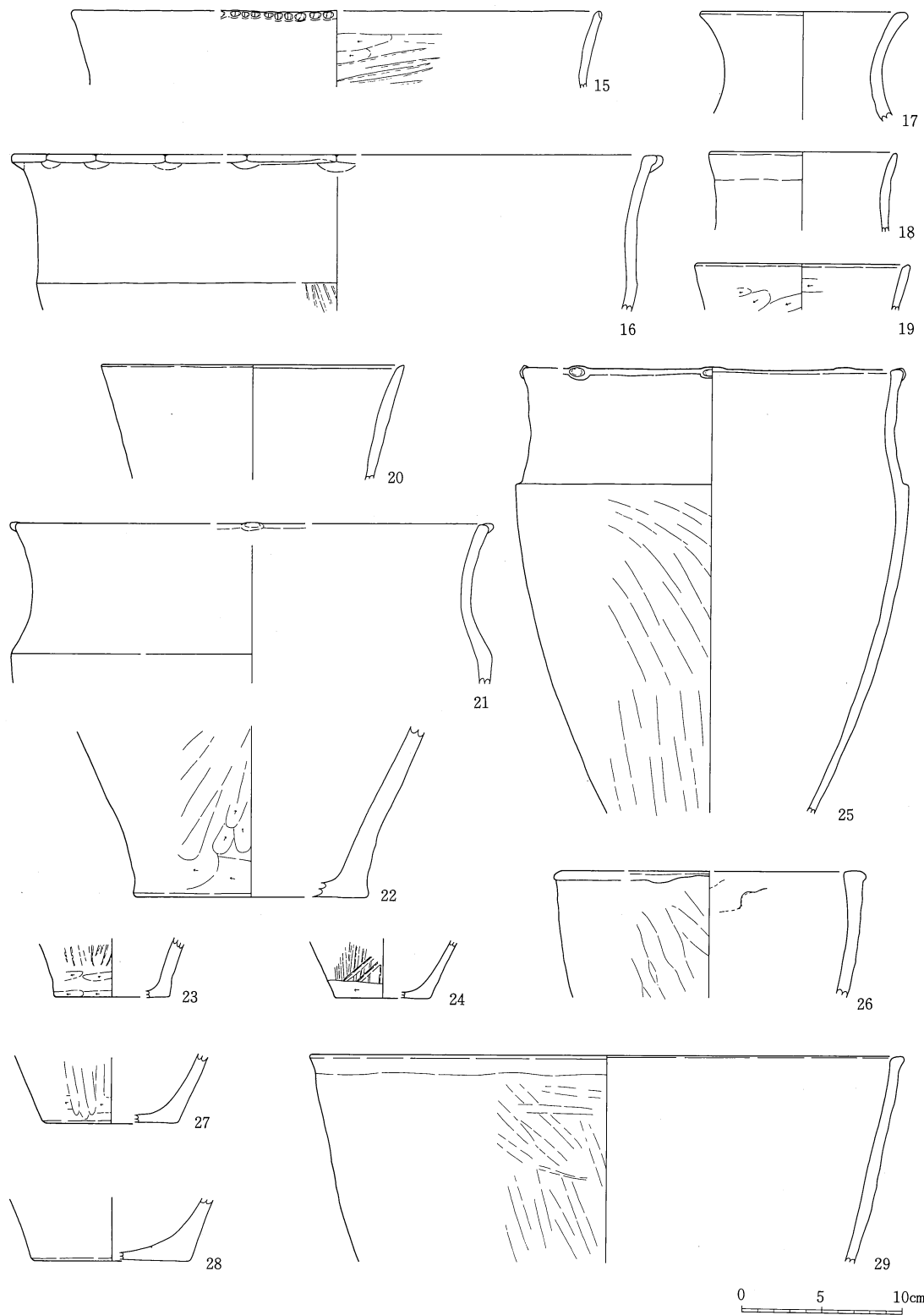
第16図 縄文時代土器 (1)

土壙37



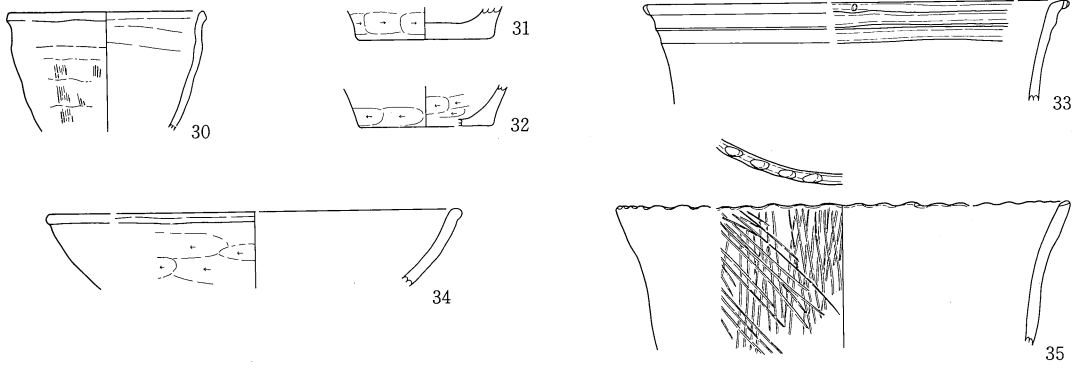
第17図 縄文時代土器(2)

0 5 10cm

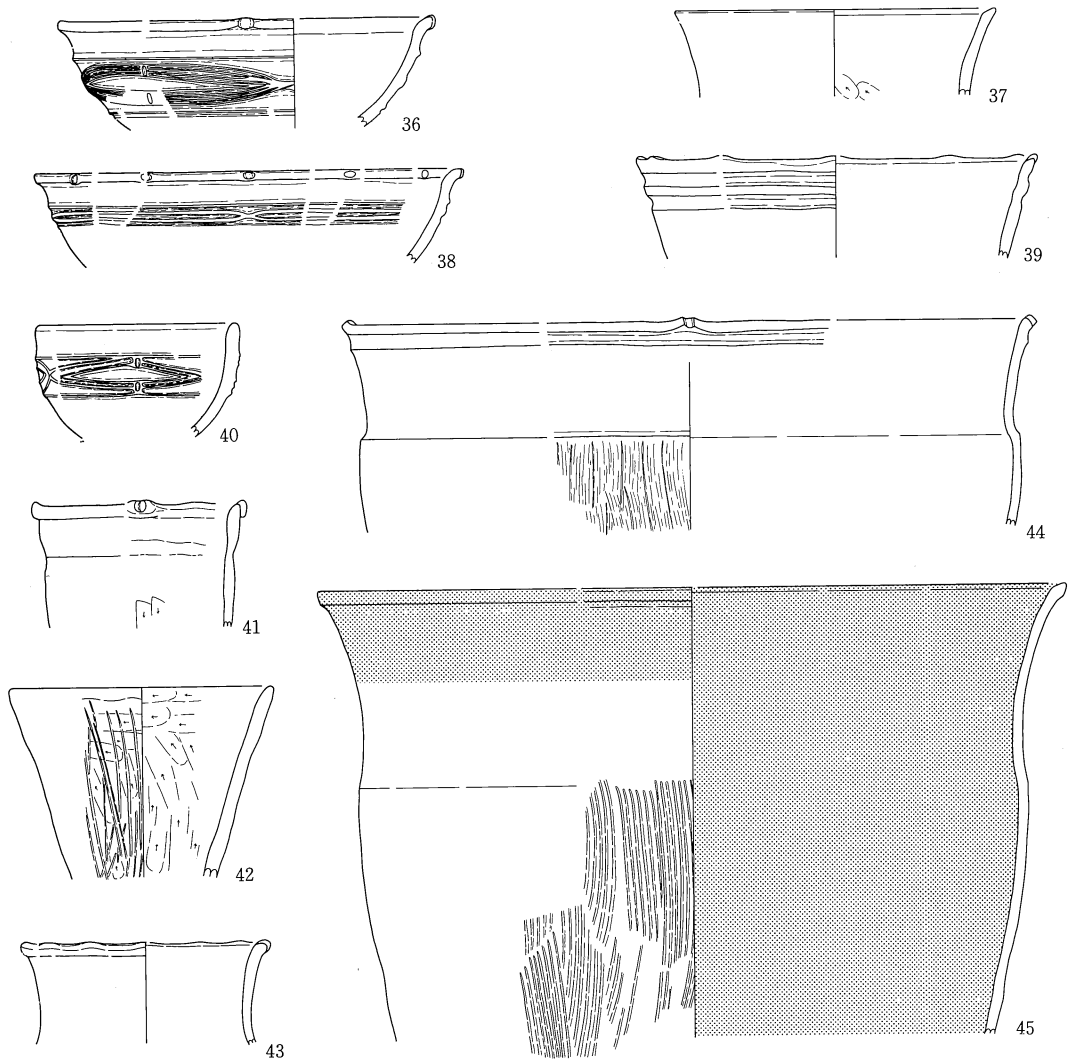


第18図 縄文時代土器(3)

土壙56

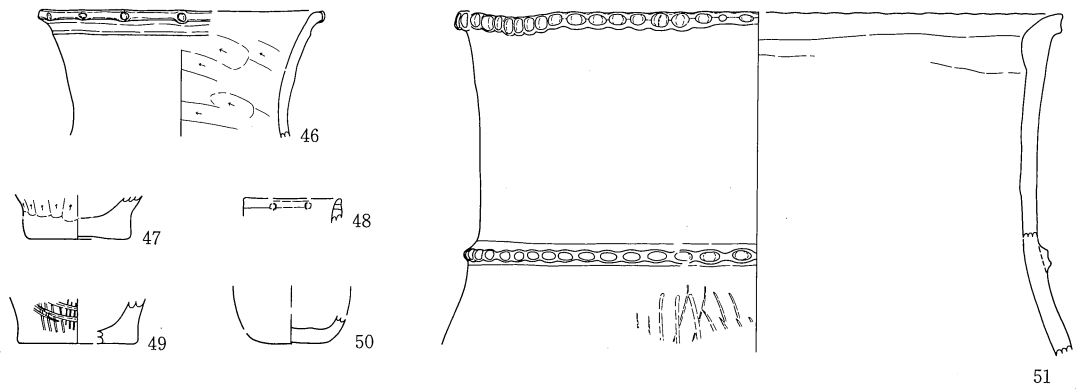


焼土面

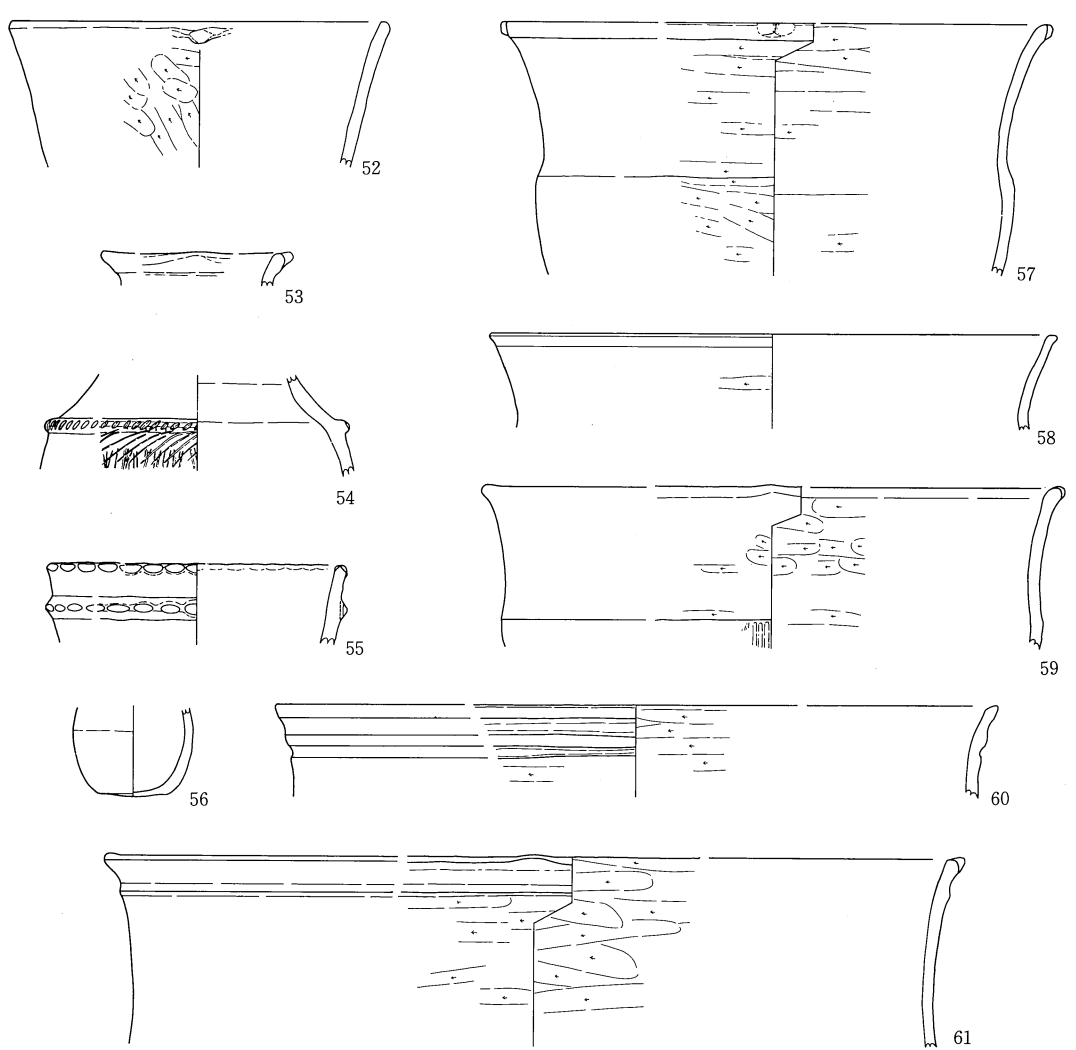


第19図 縄文時代土器(4)

0 5 10cm

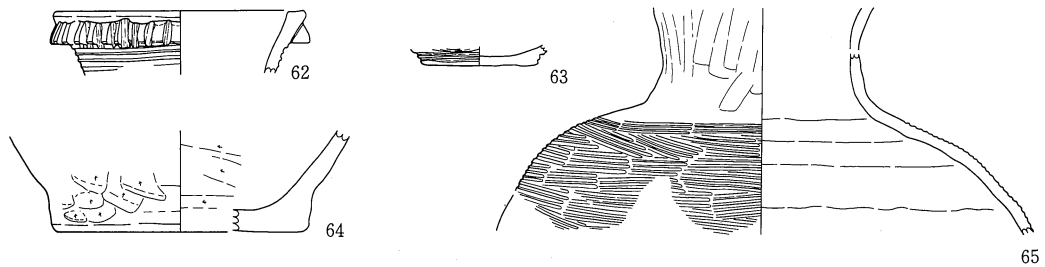


土器集中区 3

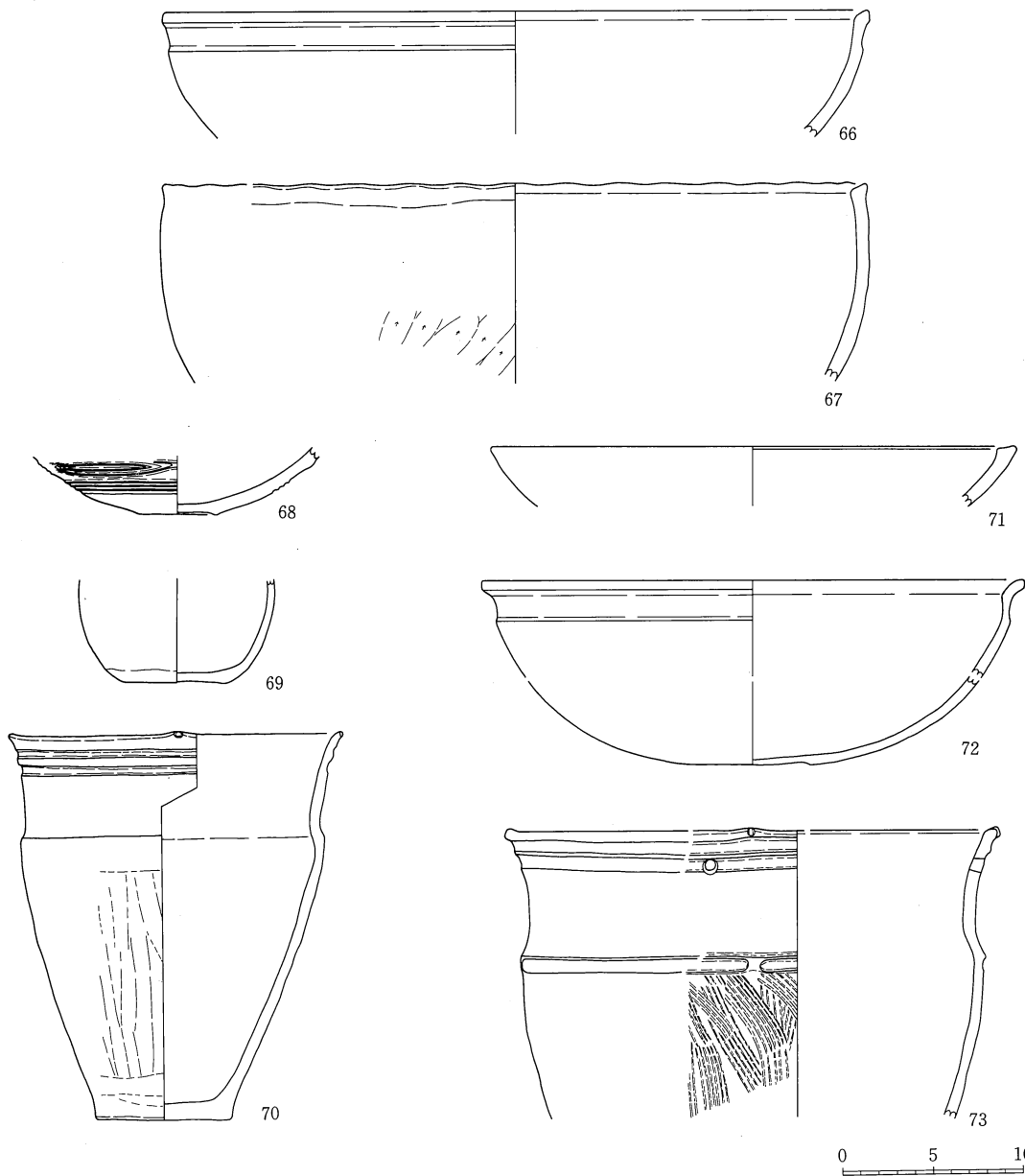


0 5 10cm

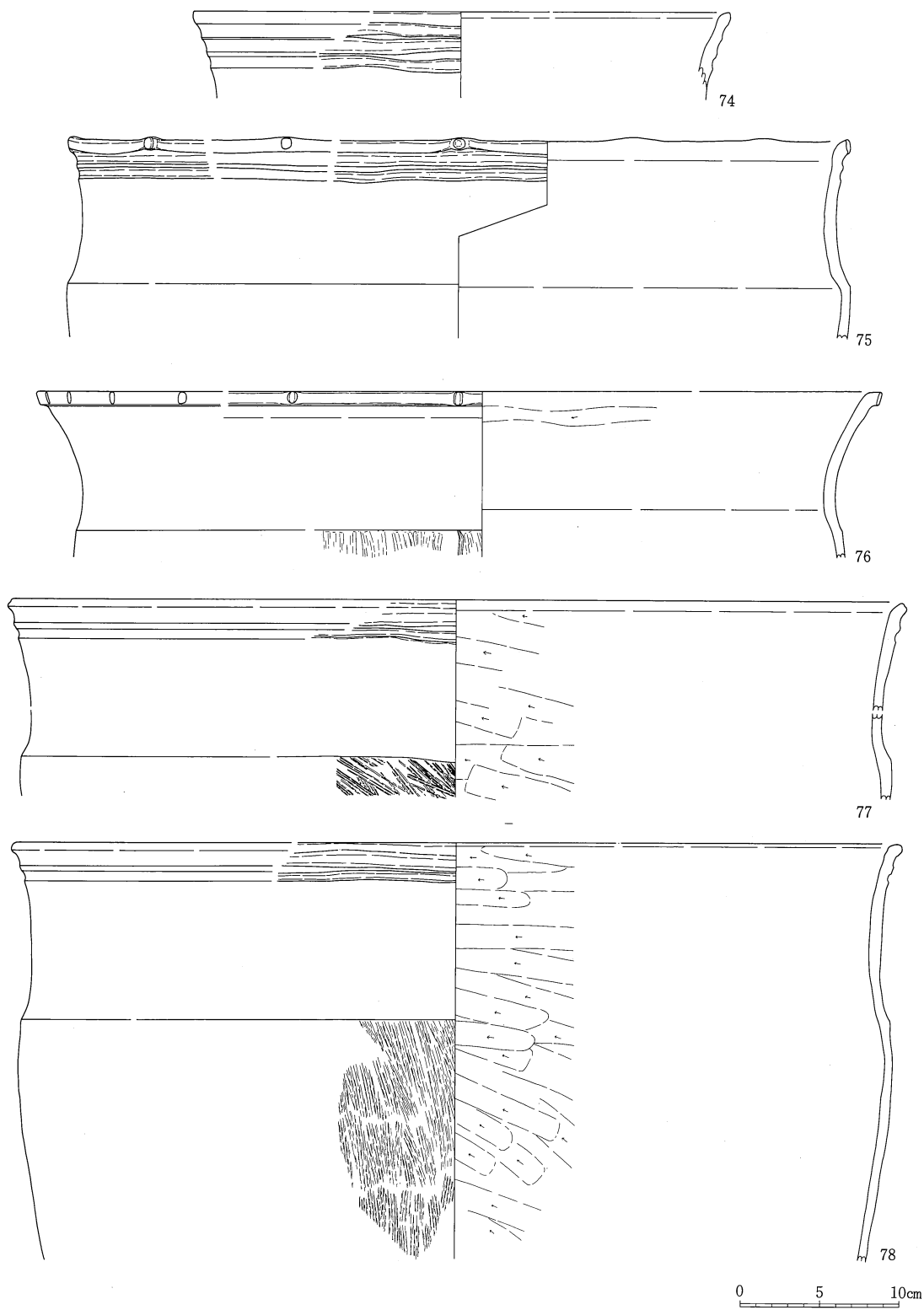
第20図 縄文時代土器(5)



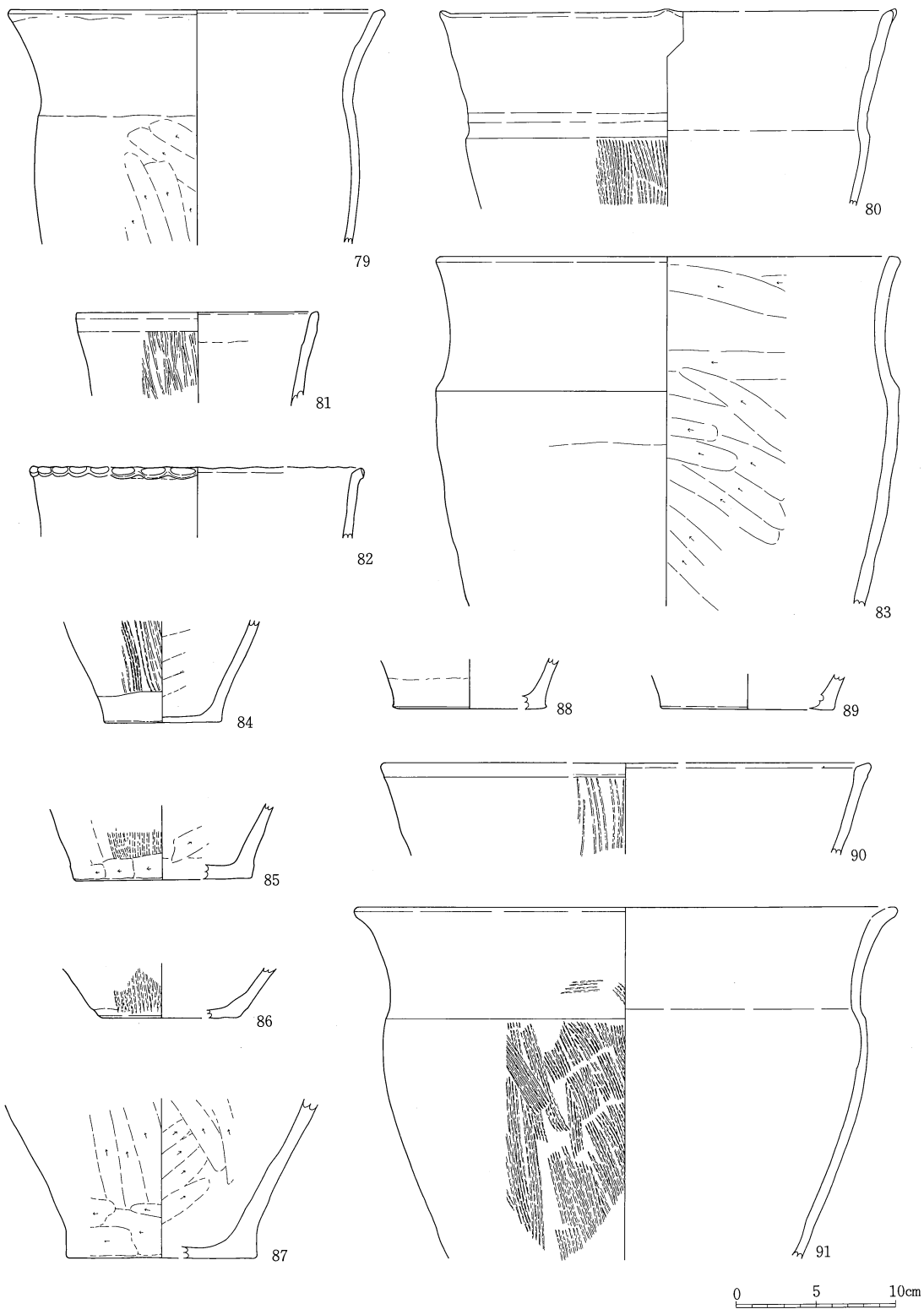
土器集中区 8



第21図 縄文時代土器(6)

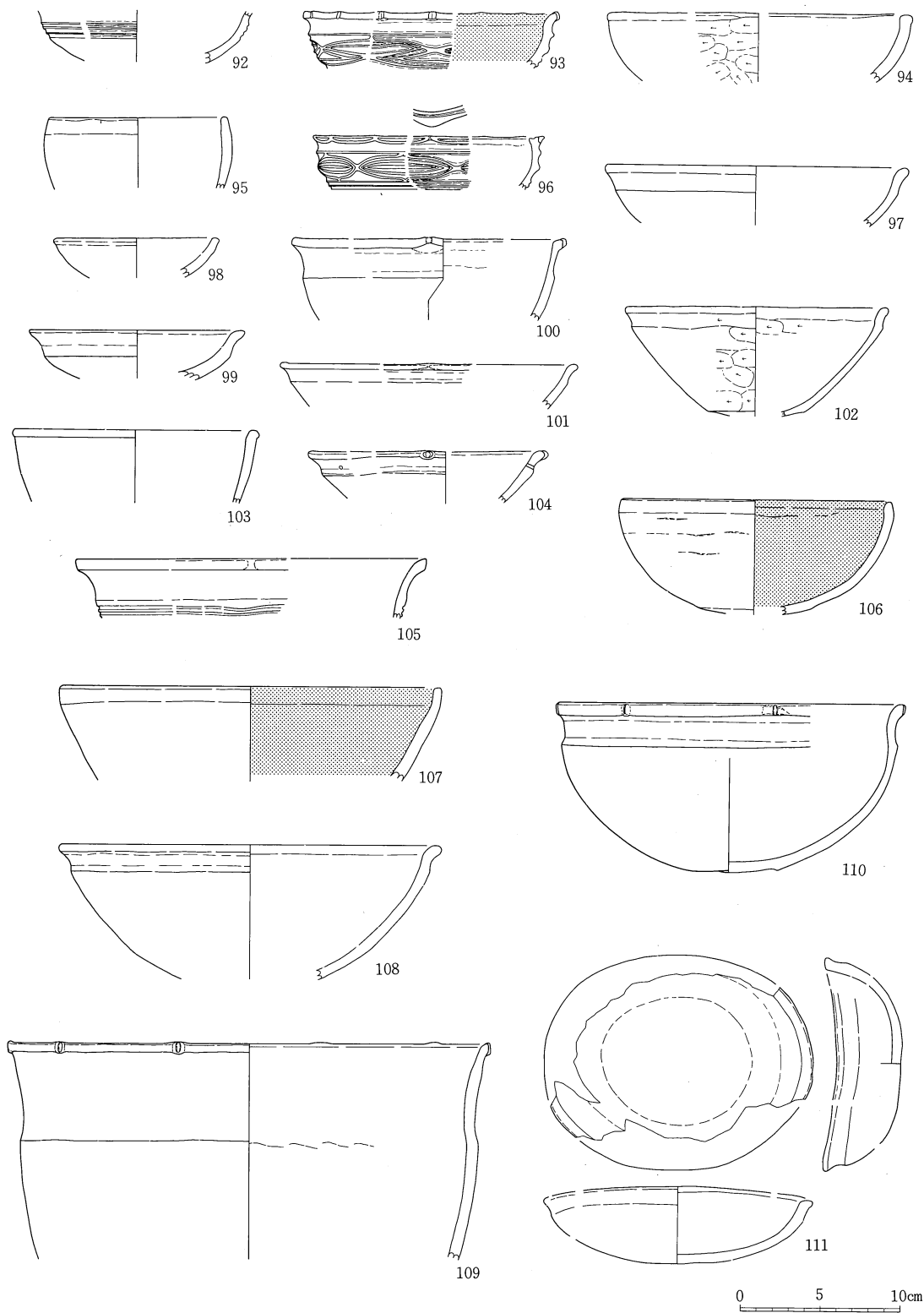


第22図 縄文時代土器(7)



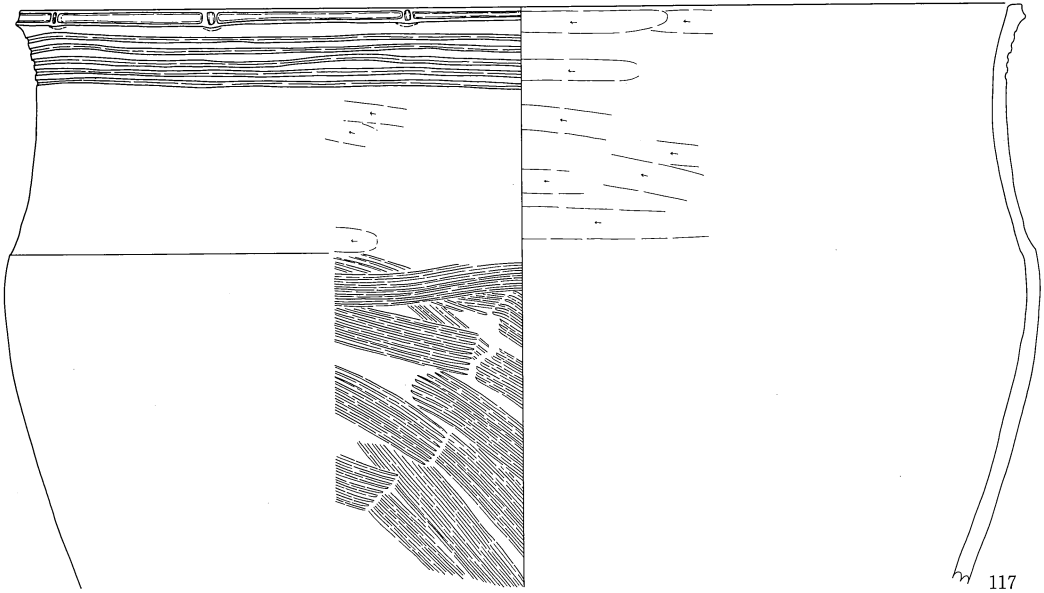
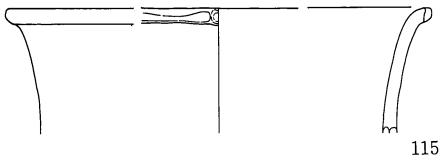
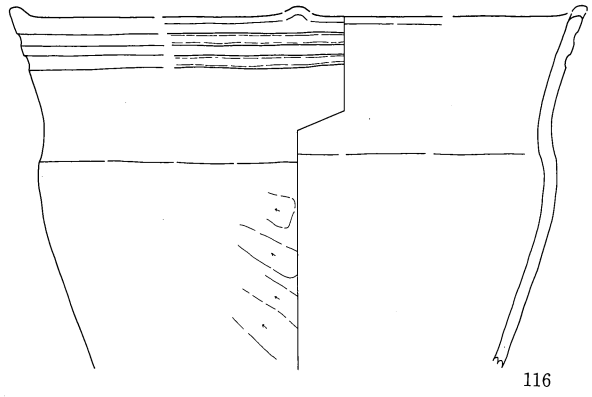
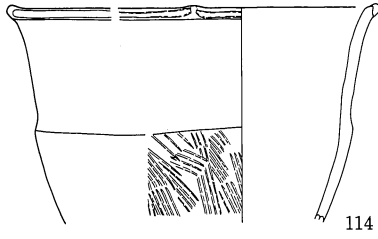
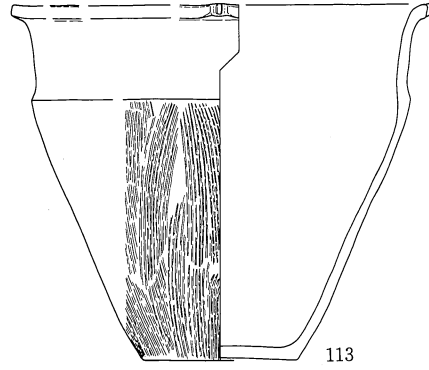
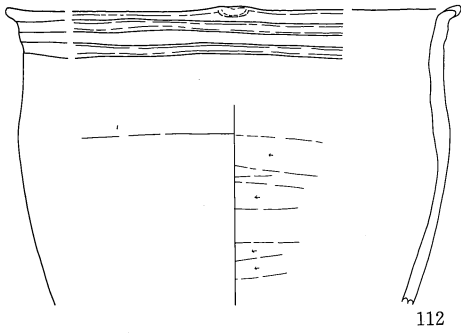
第23図 縄文時代土器(8)

土器集中区 7



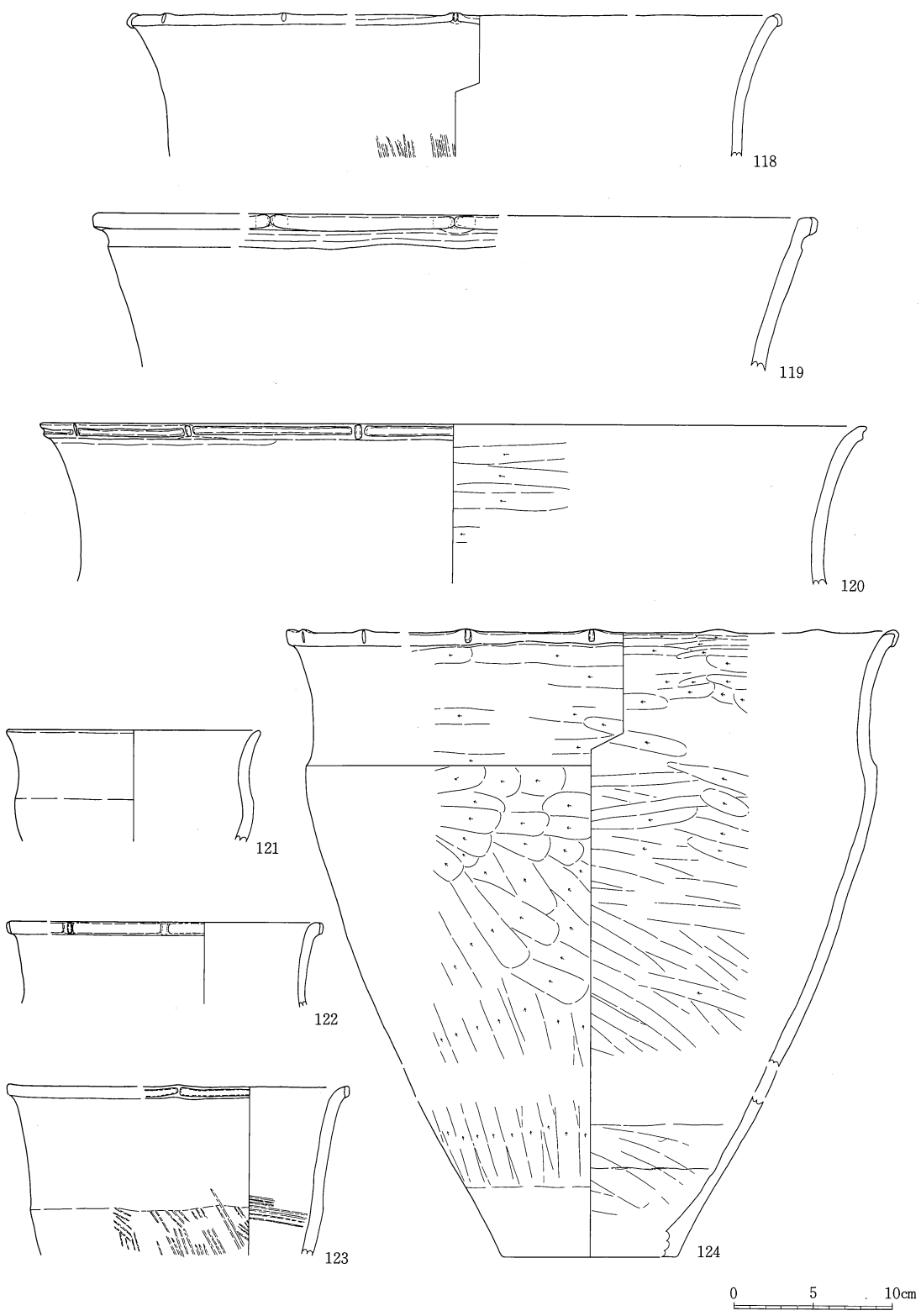
0 5 10cm

第24図 縄文時代土器(9)

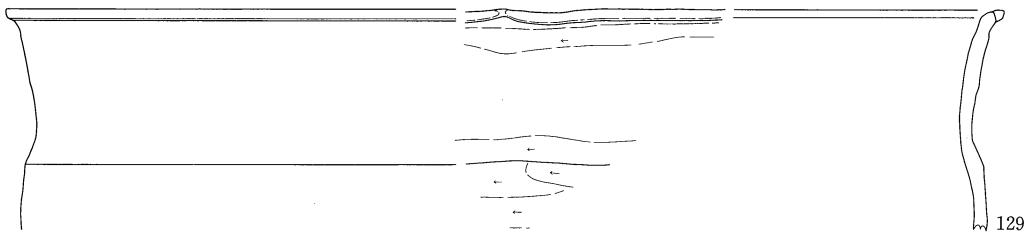
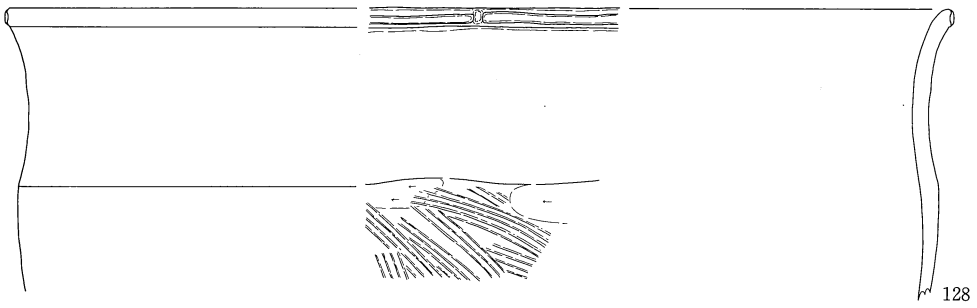
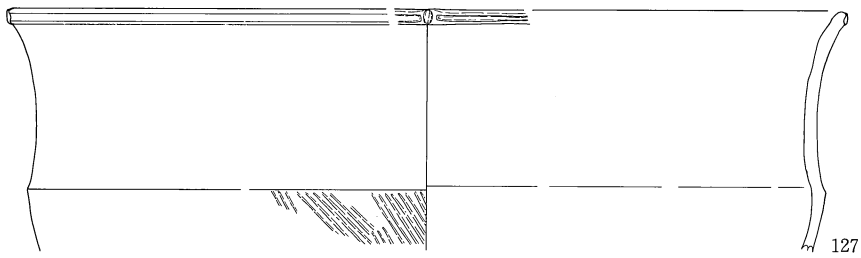
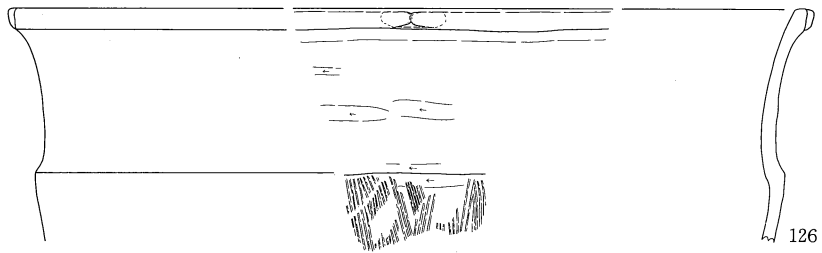
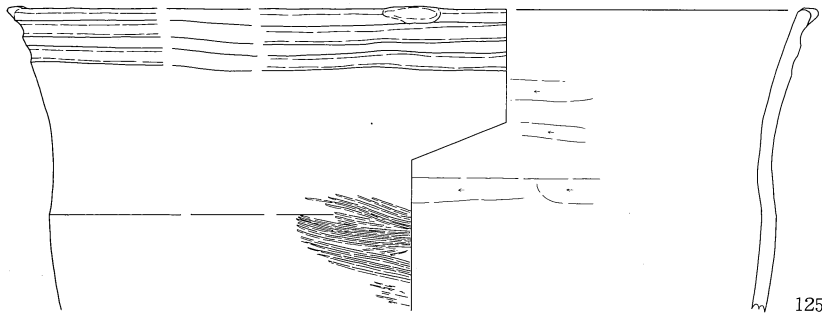


0 5 10cm

第25図 縄文時代土器(10)

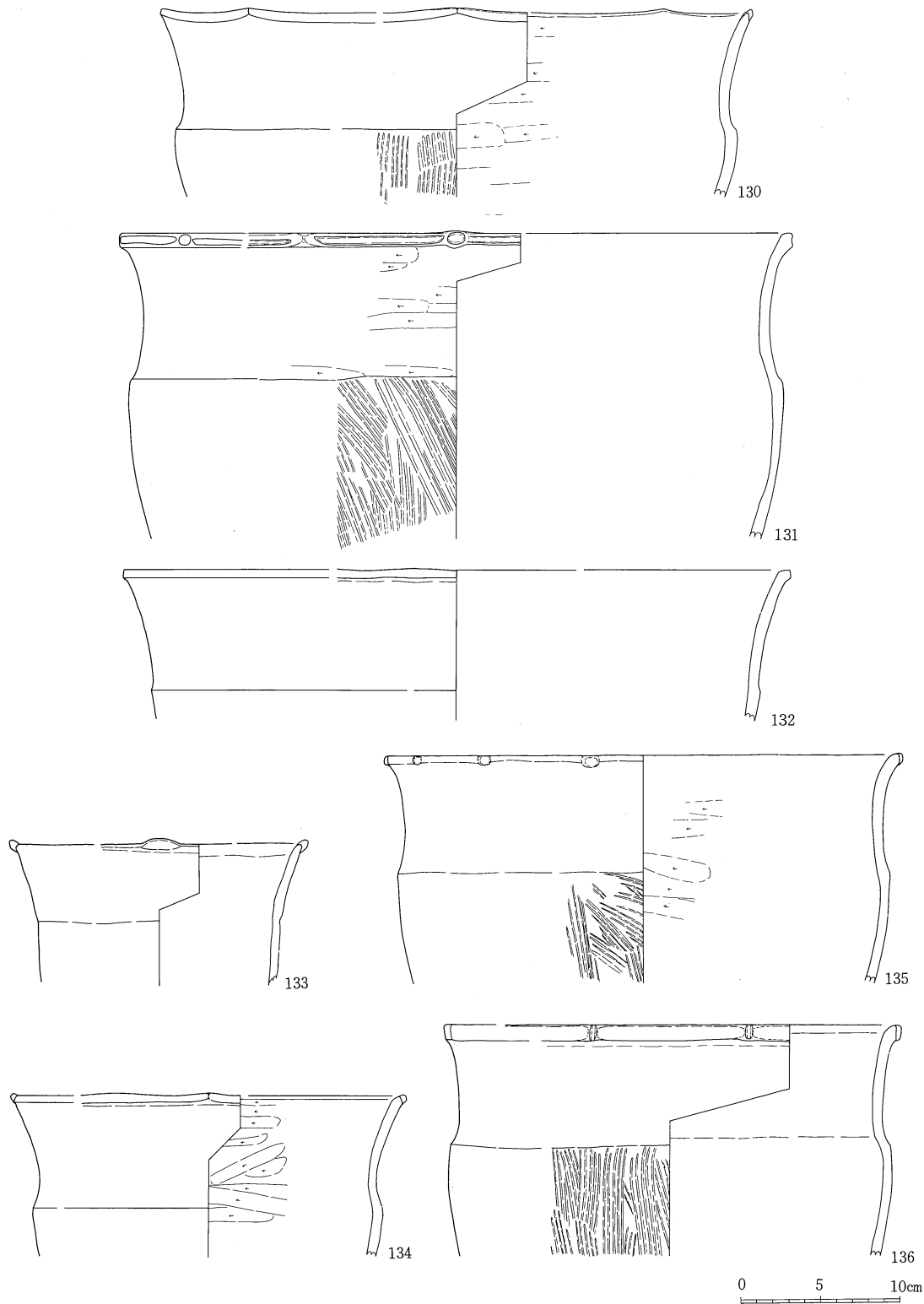


第26図 縄文時代土器(1)

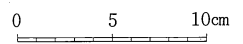
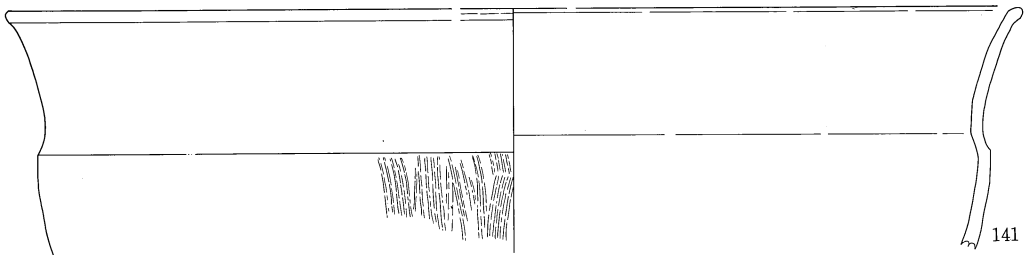
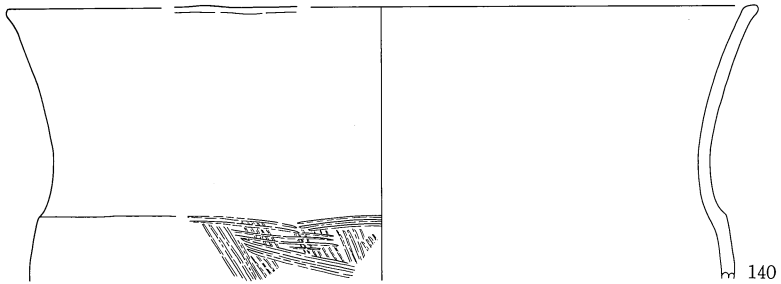
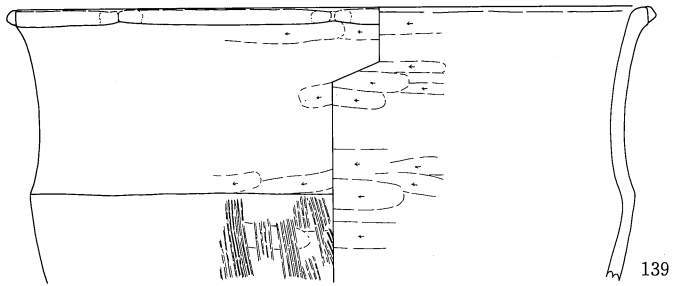
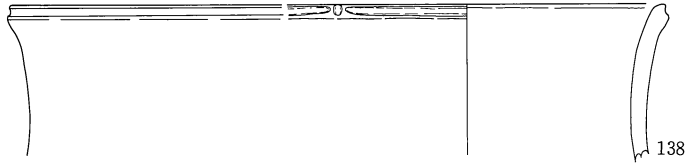
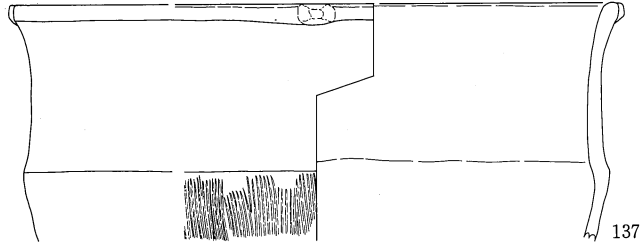


0 5 10cm

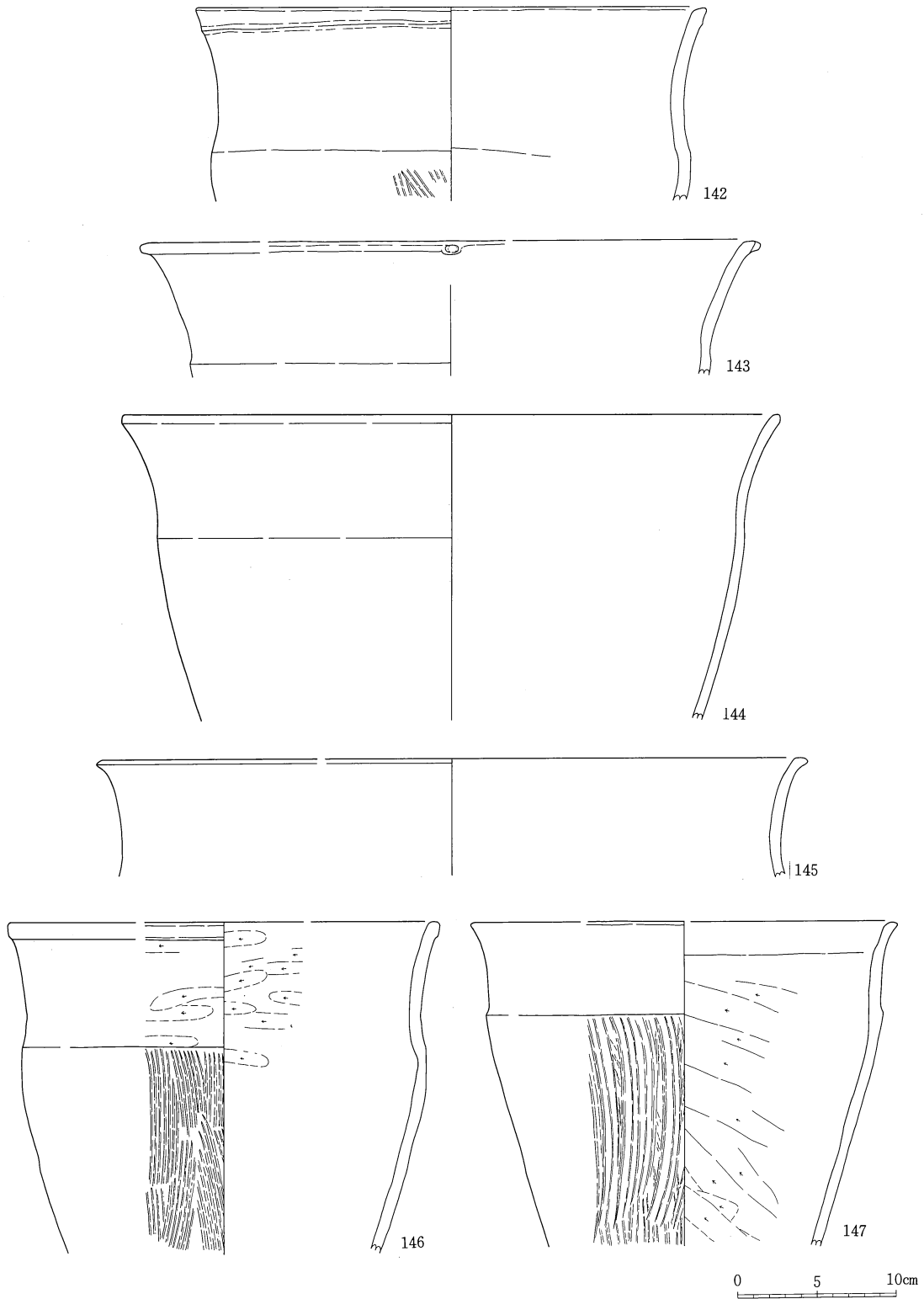
第27図 縄文時代土器(12)



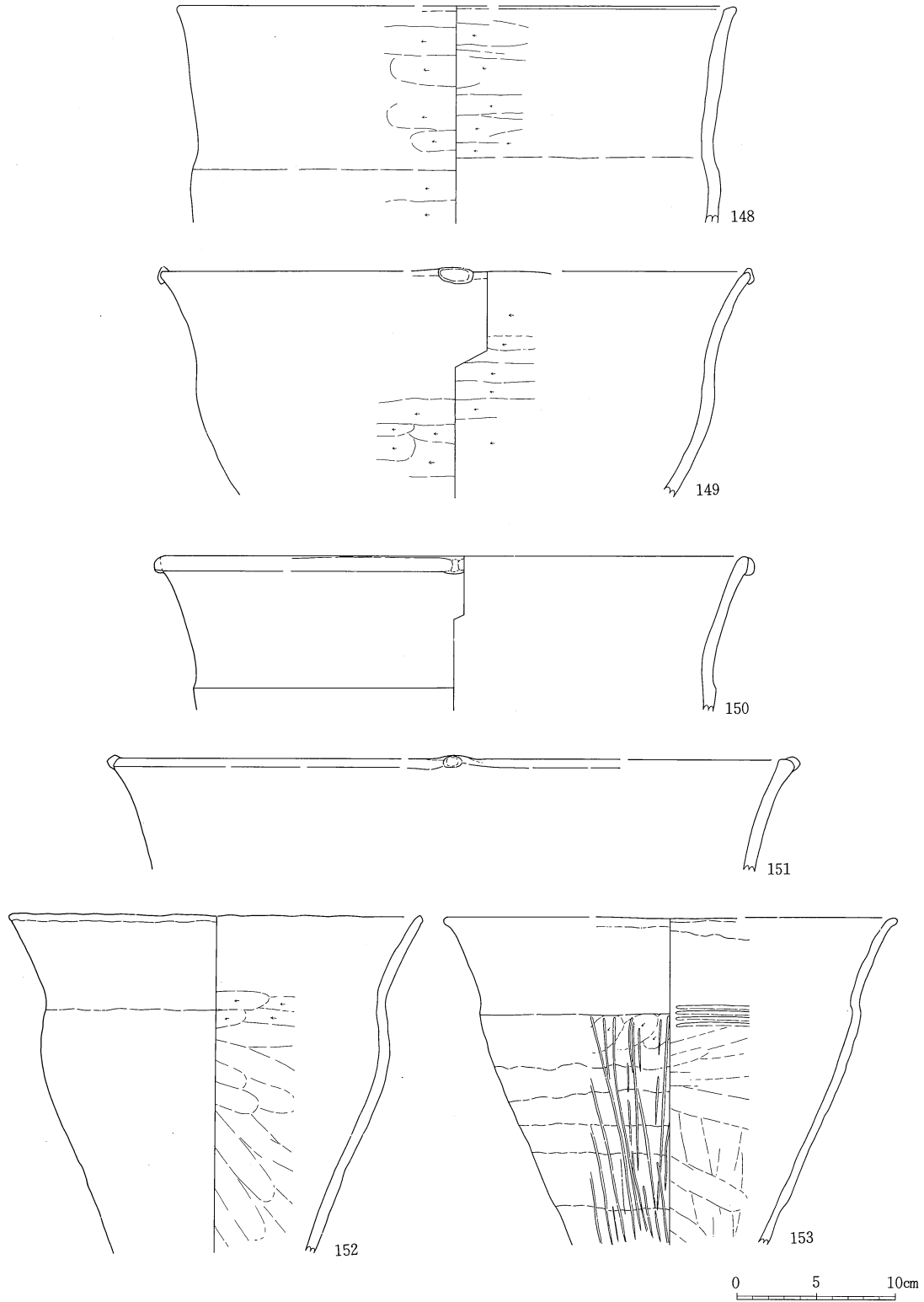
第28図 縄文時代土器(13)



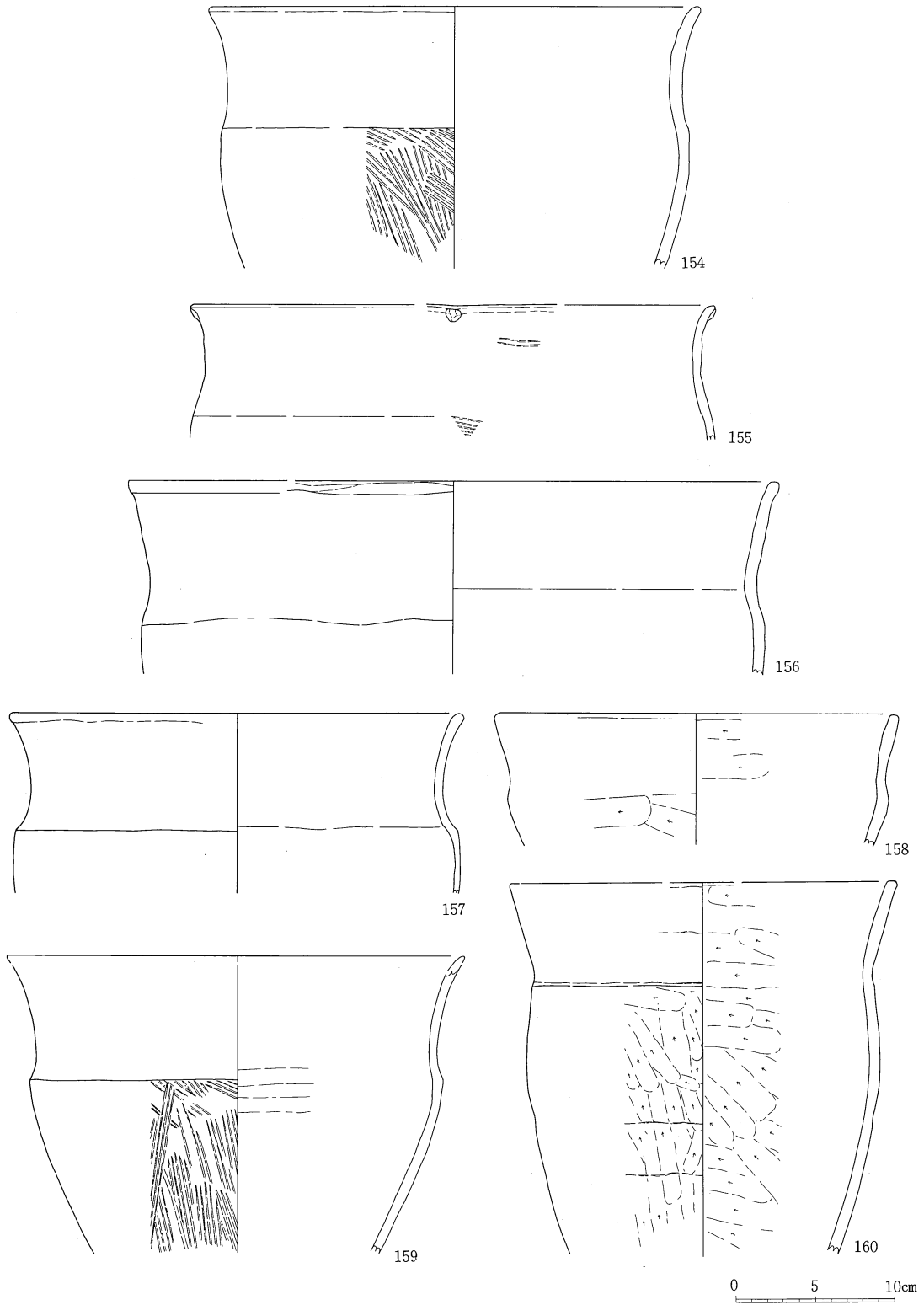
第29図 縄文時代土器(14)



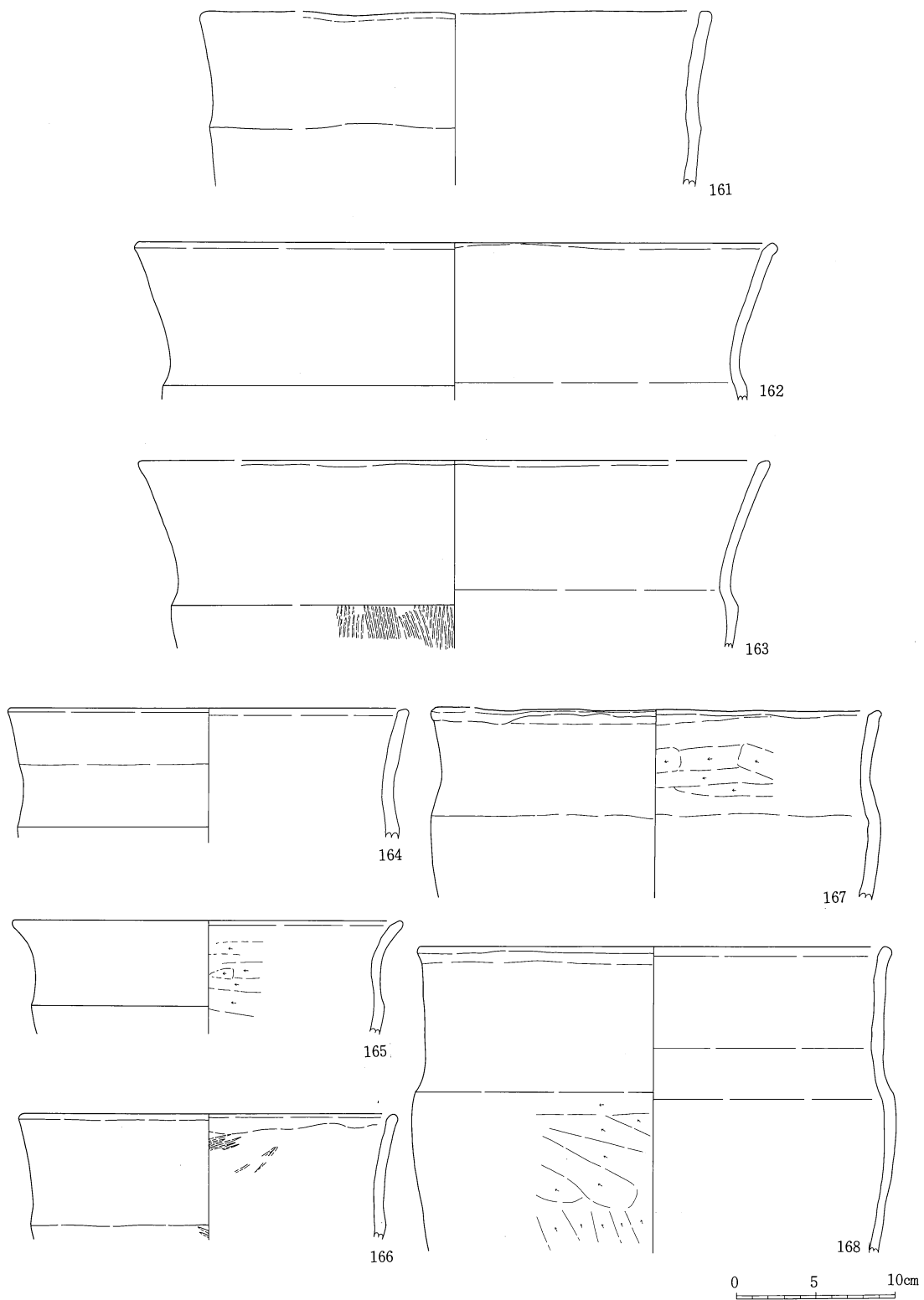
第30図 縄文時代土器(15)



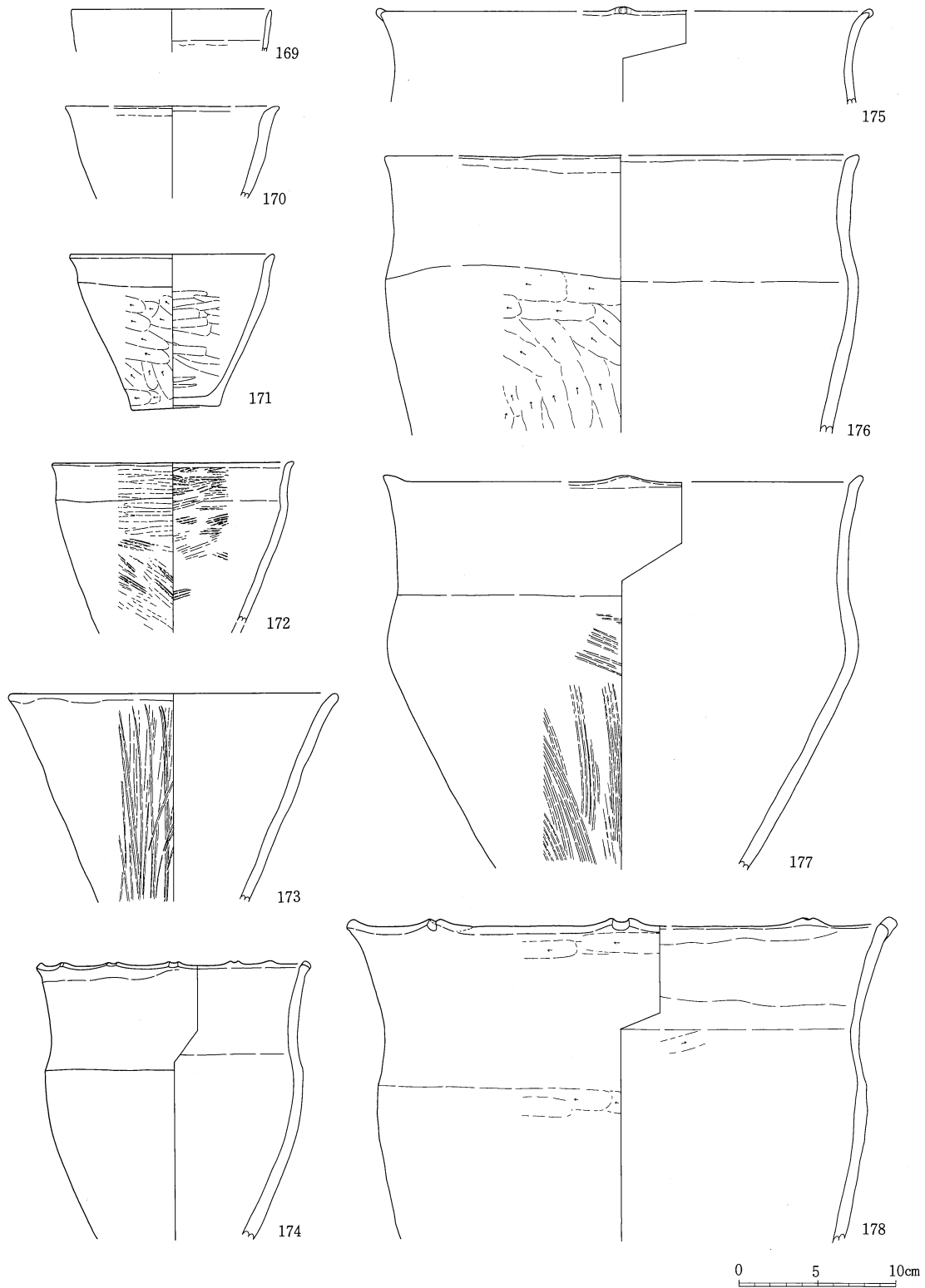
第31図 縄文時代土器(16)



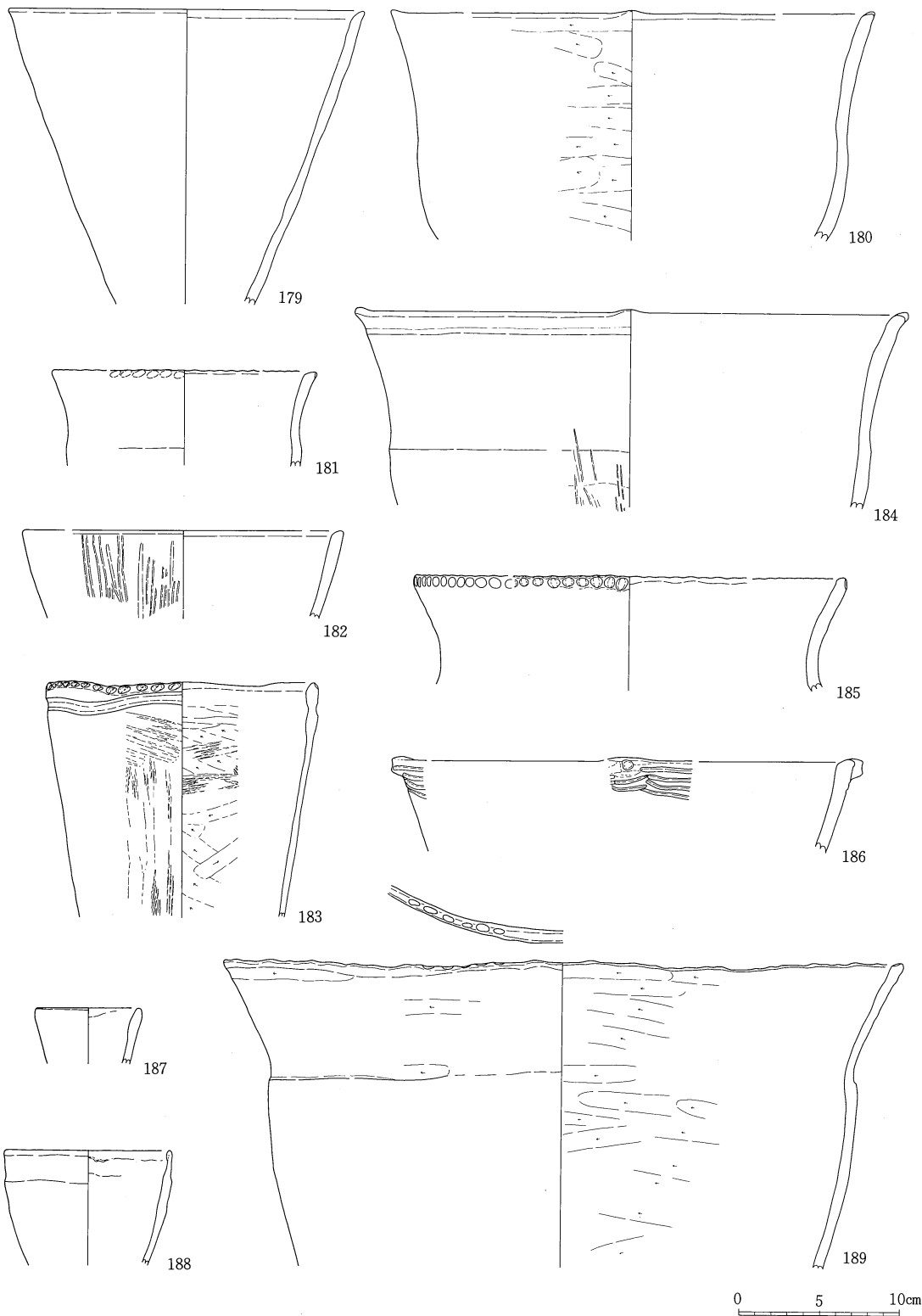
第32図 縄文時代土器(17)



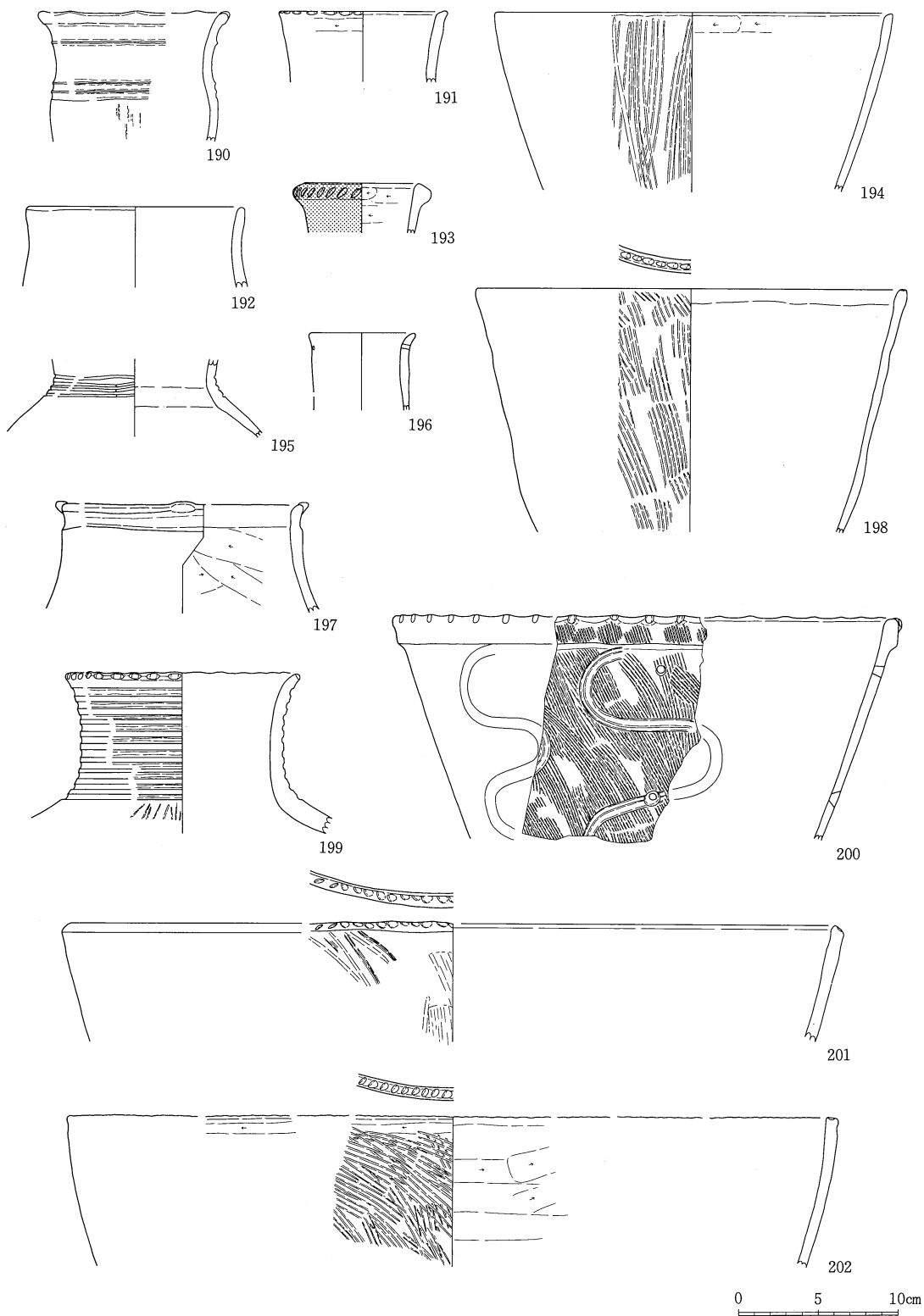
第33図 縄文時代土器(18)



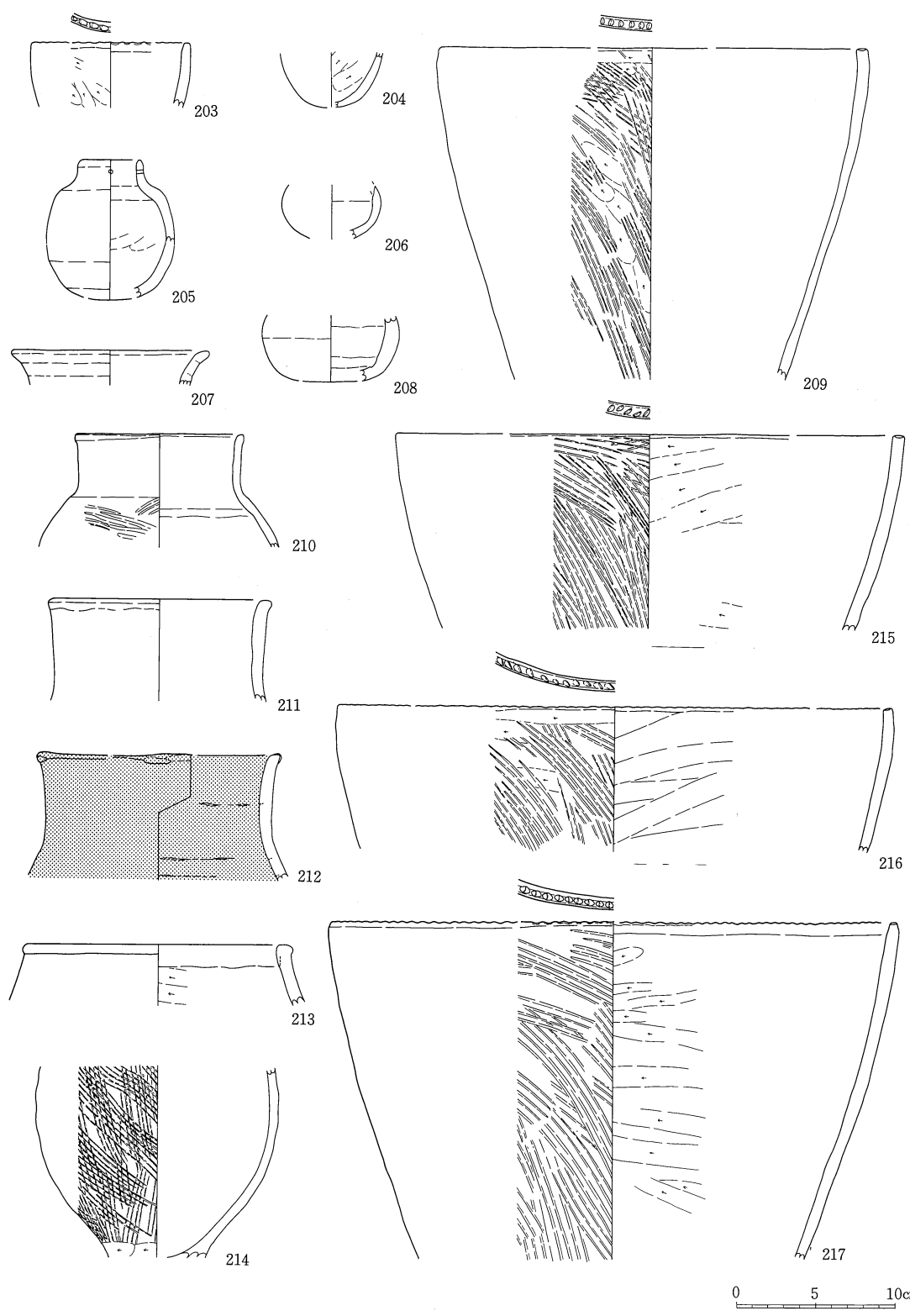
第34図 縄文時代土器(19)



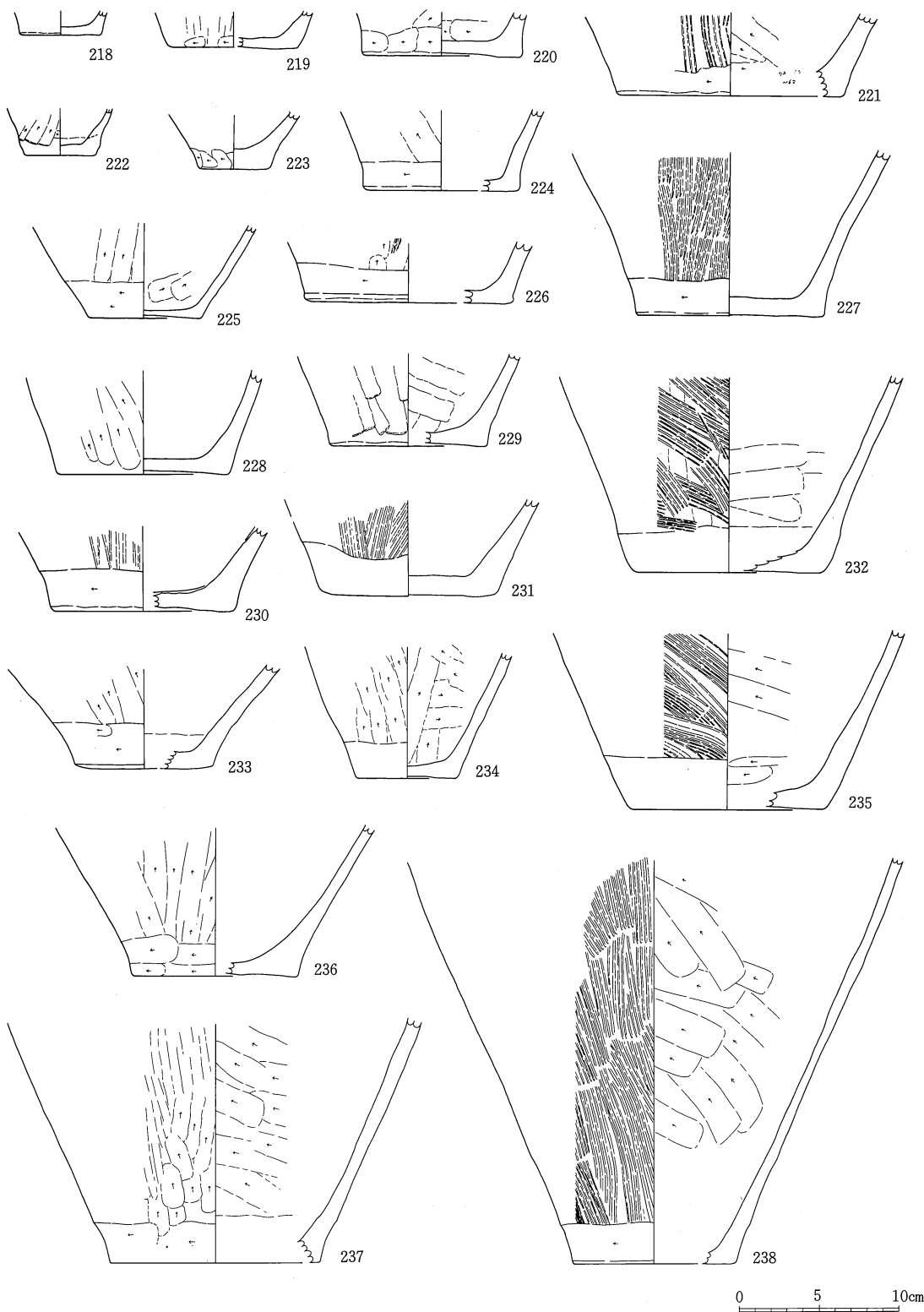
第35図 縄文時代土器(20)



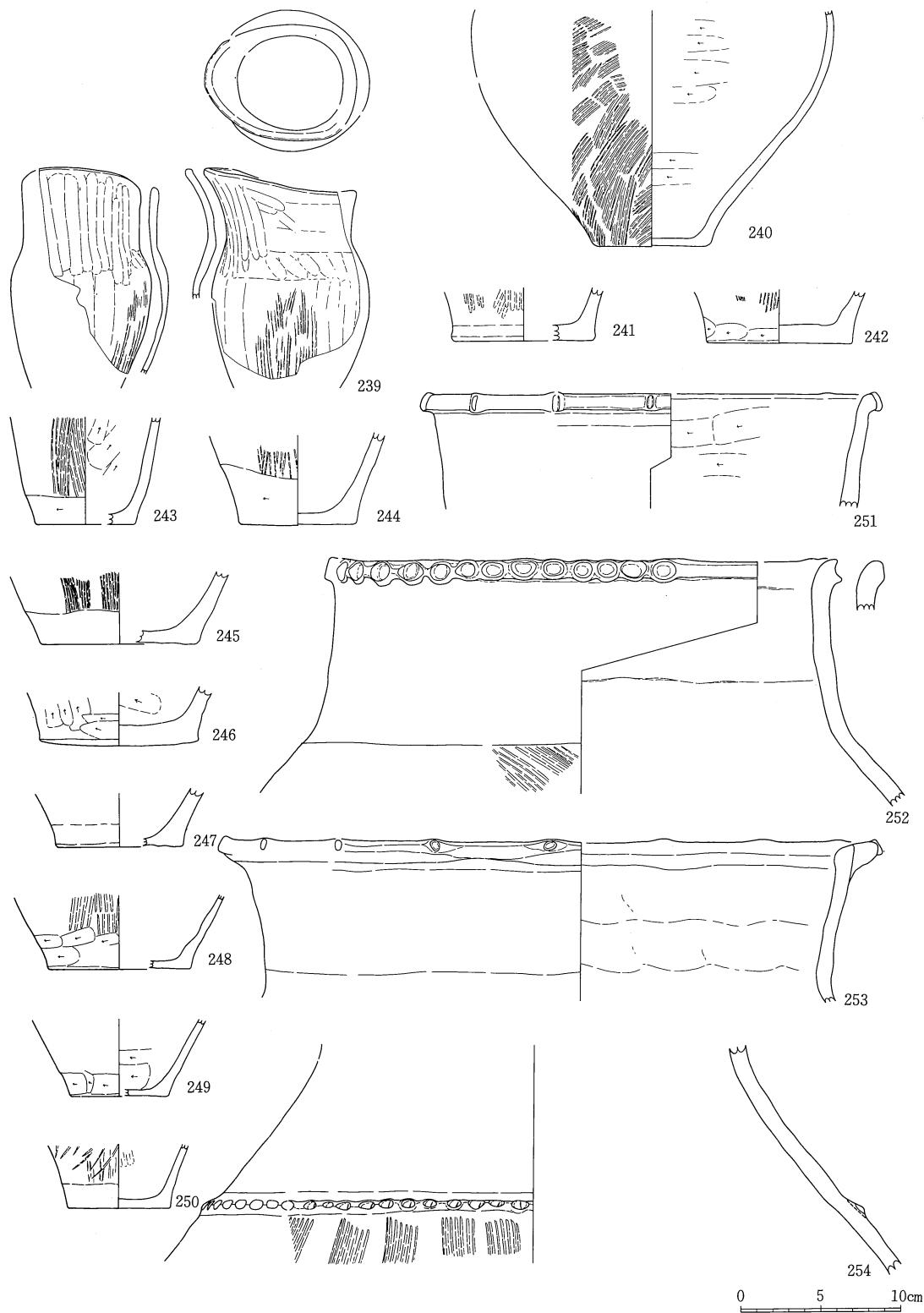
第36図 縄文時代土器(2)



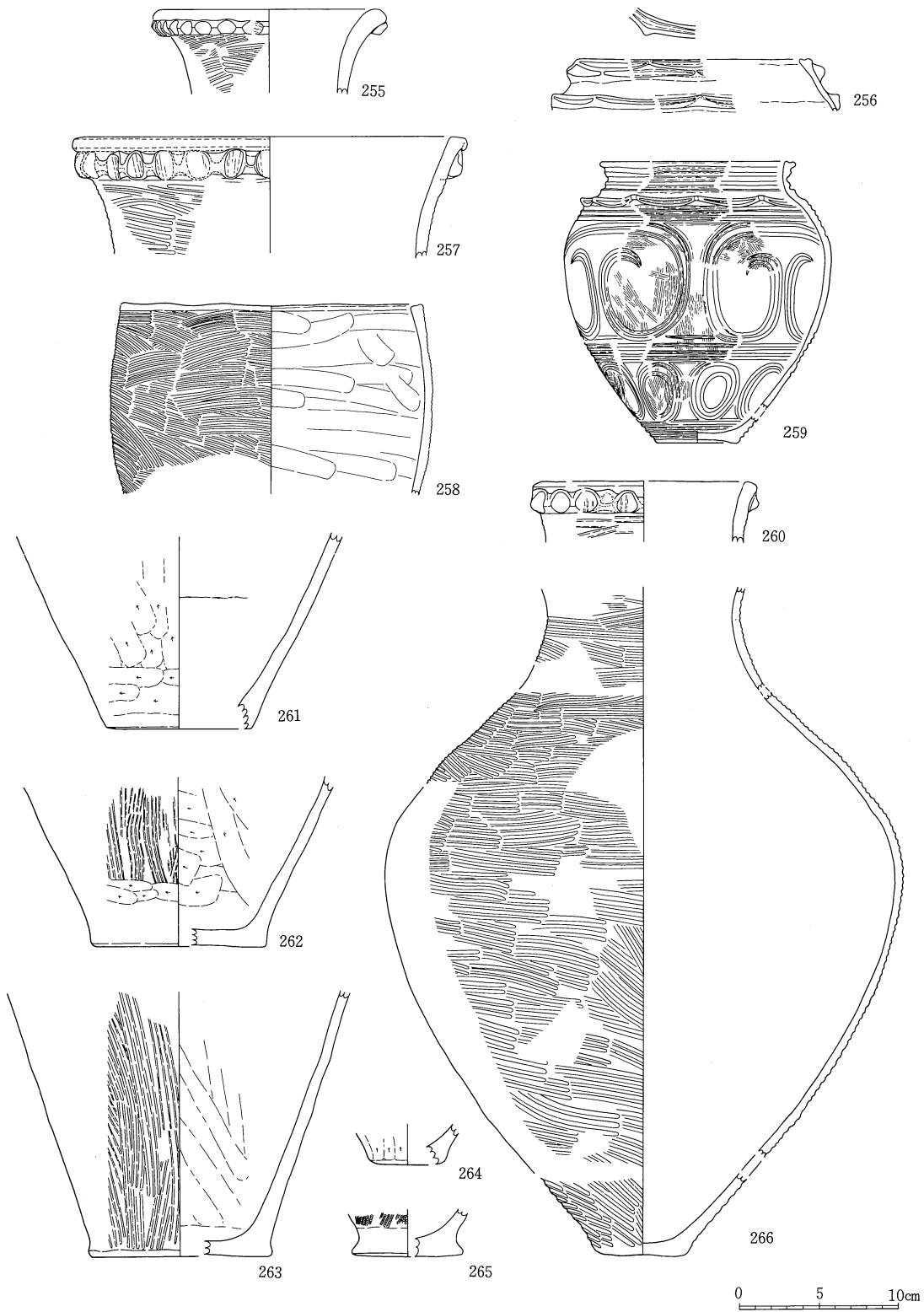
第37図 縄文時代土器(22)



第38図 縄文時代土器(23)

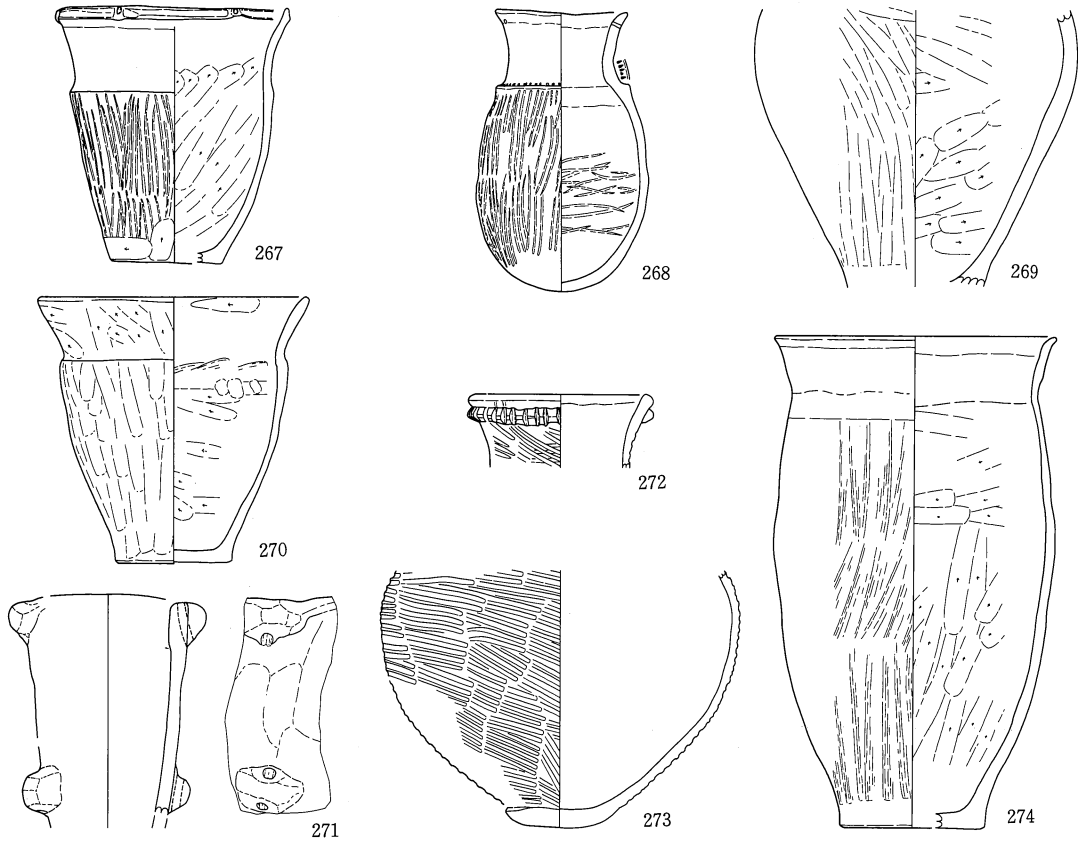


第39図 縄文時代土器(24)

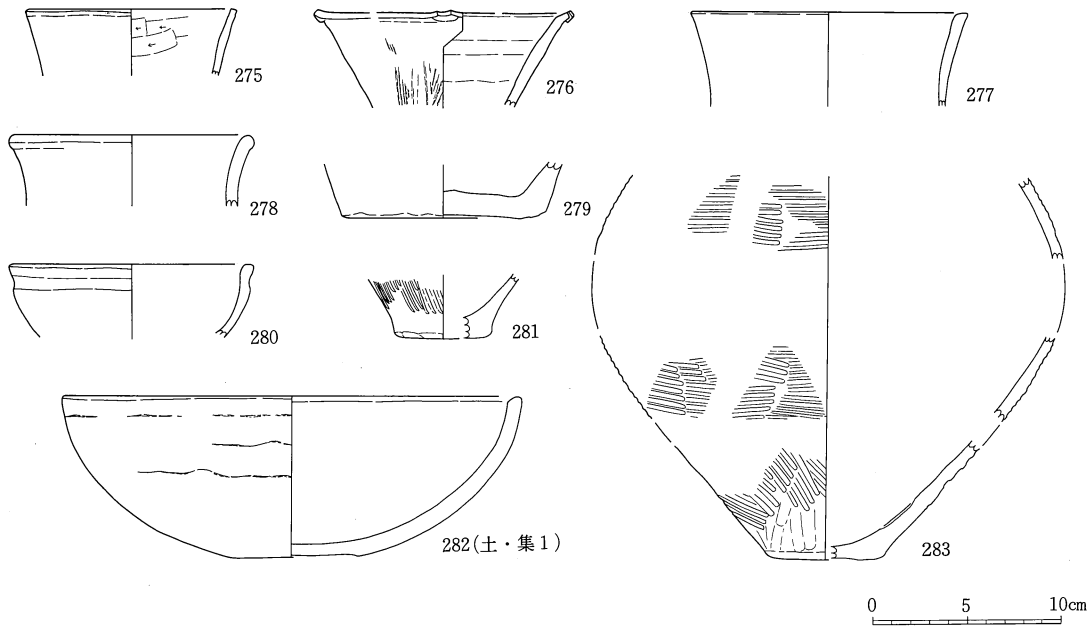


第40図 縄文時代土器(25)

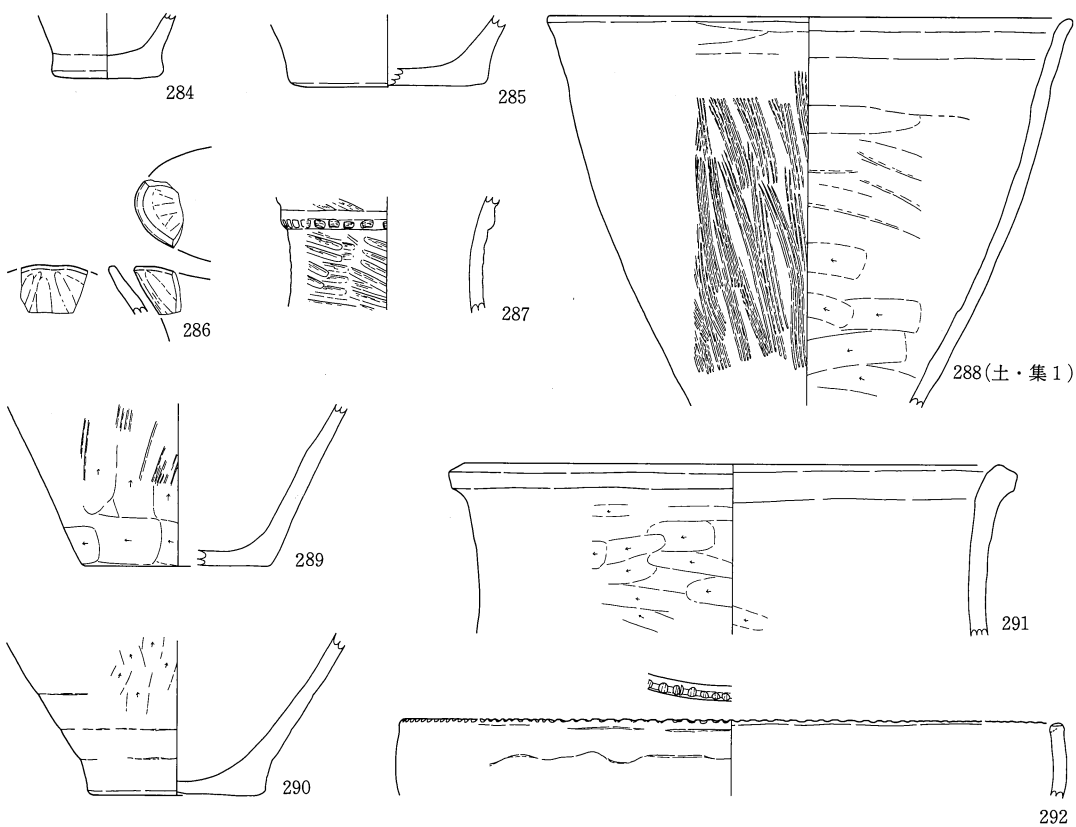
土器集中区 6



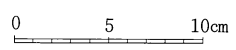
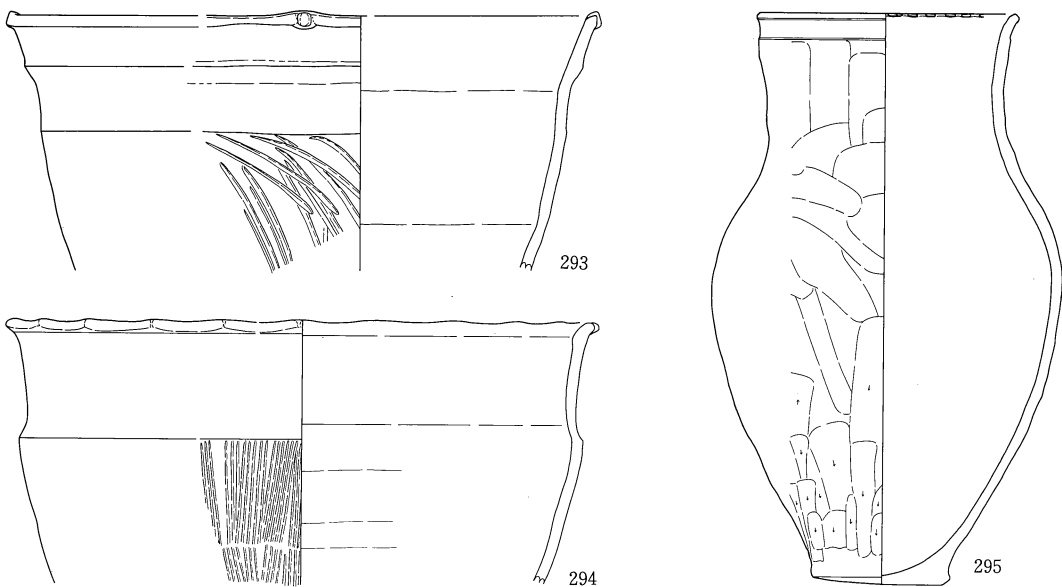
S90—W84区(土器集中区 1 含)



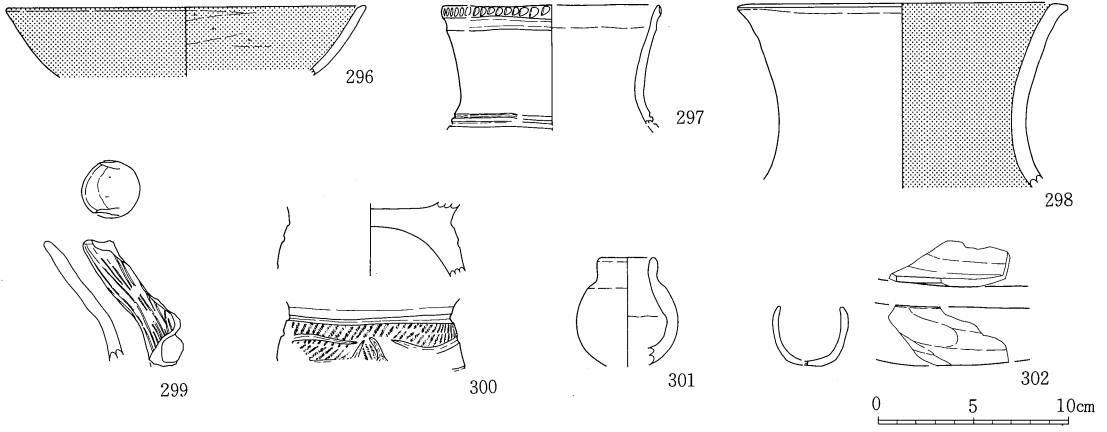
第41図 縄文時代土器(26)



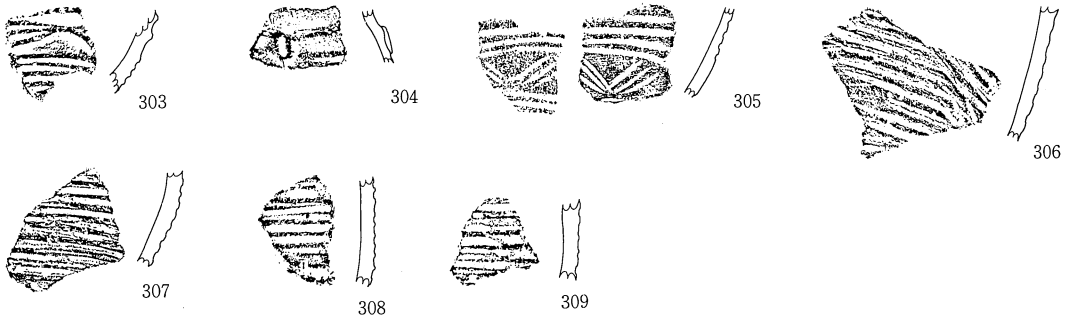
その他の遺構



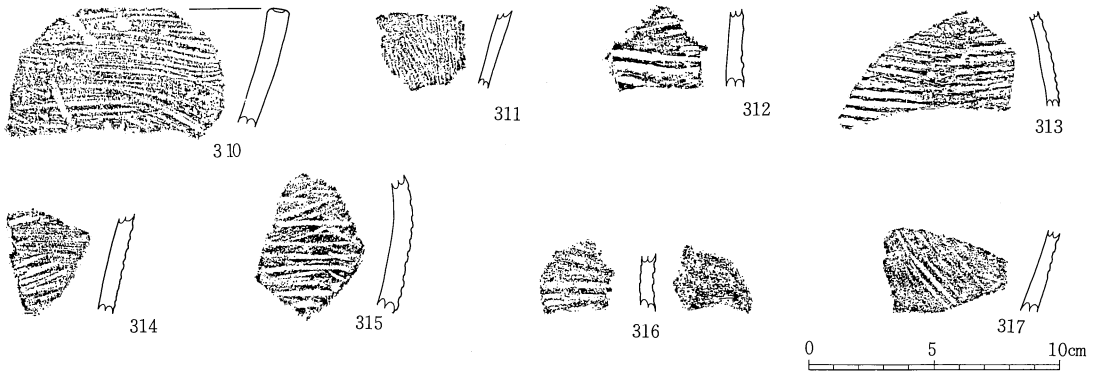
第42図 縄文時代土器(27)



土壙37

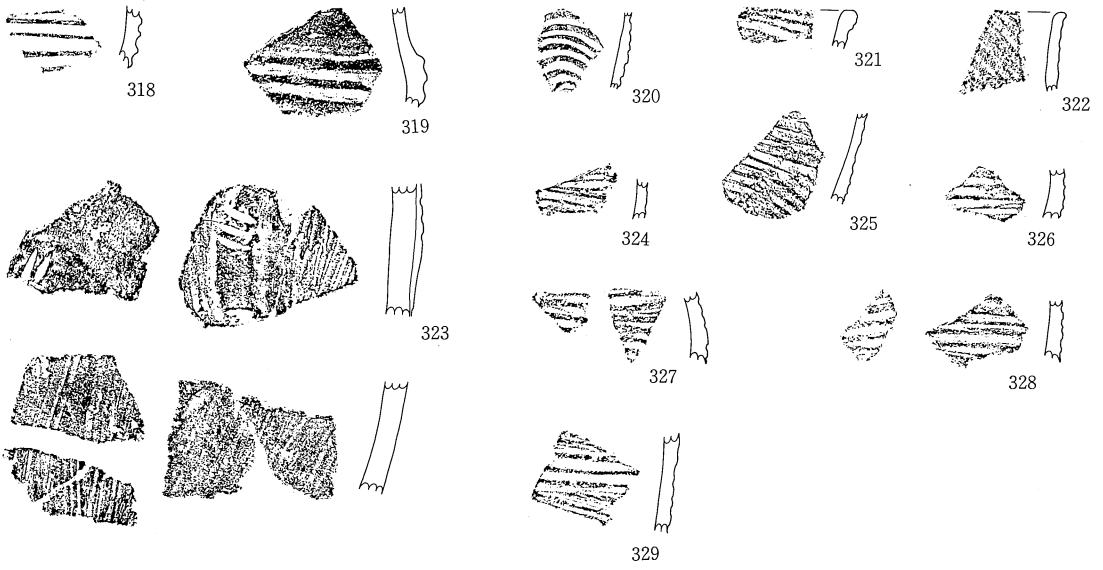


土壙56

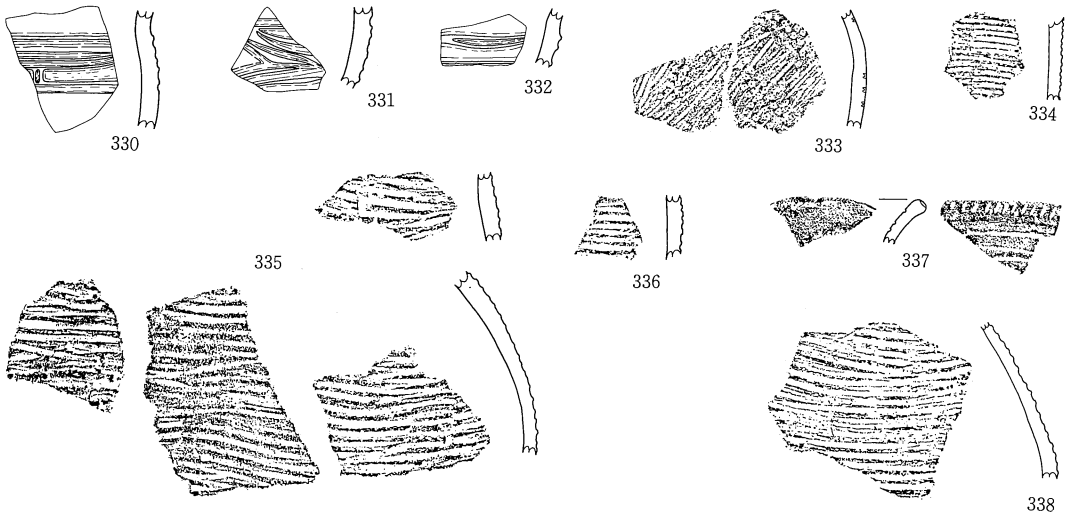


第43図 縄文時代土器(28)

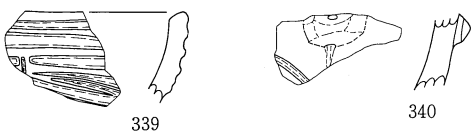
烧土面



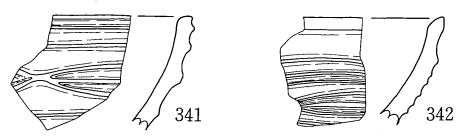
土器集中区 3



土器集中区 8

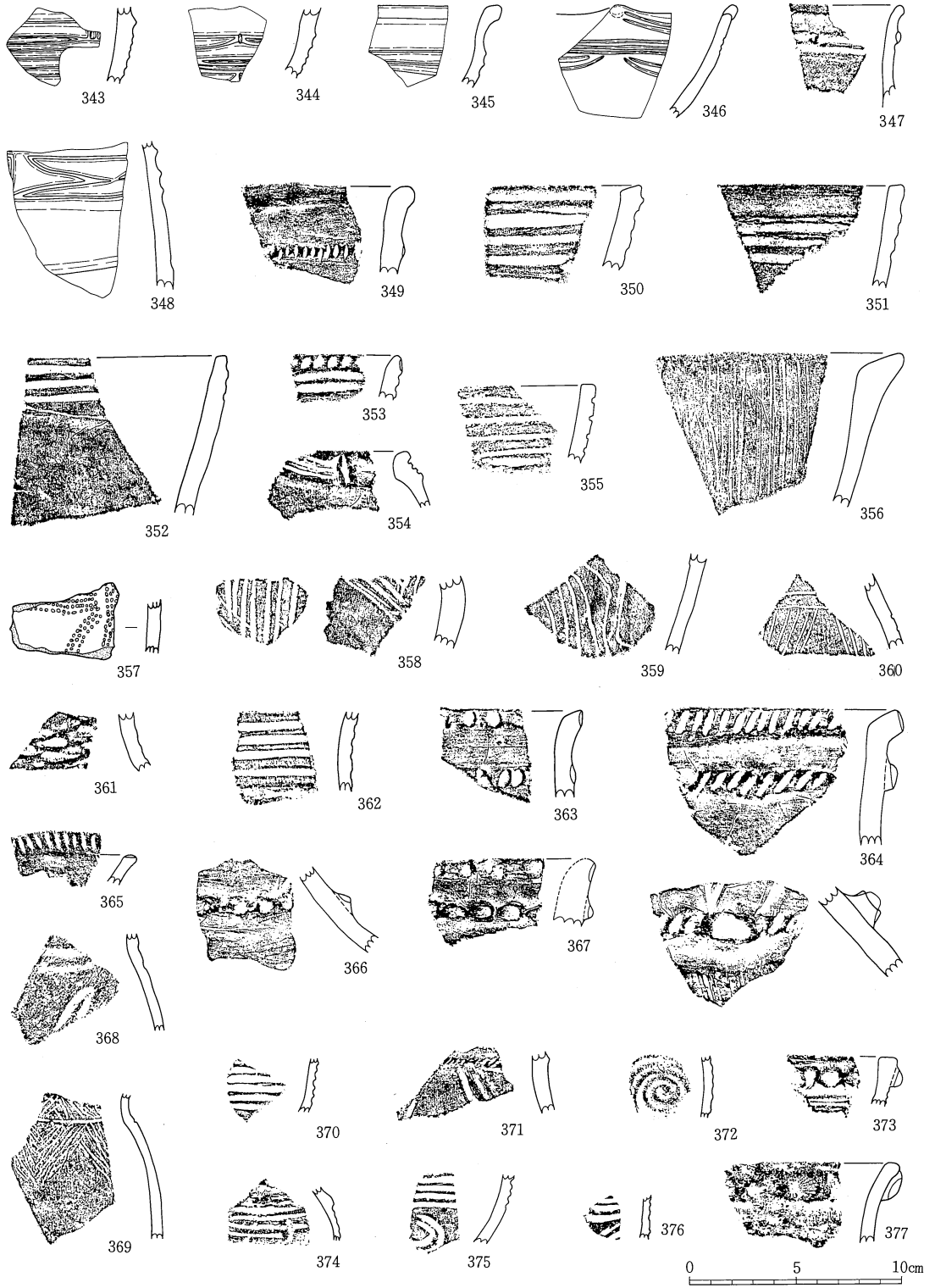


土器集中区 7

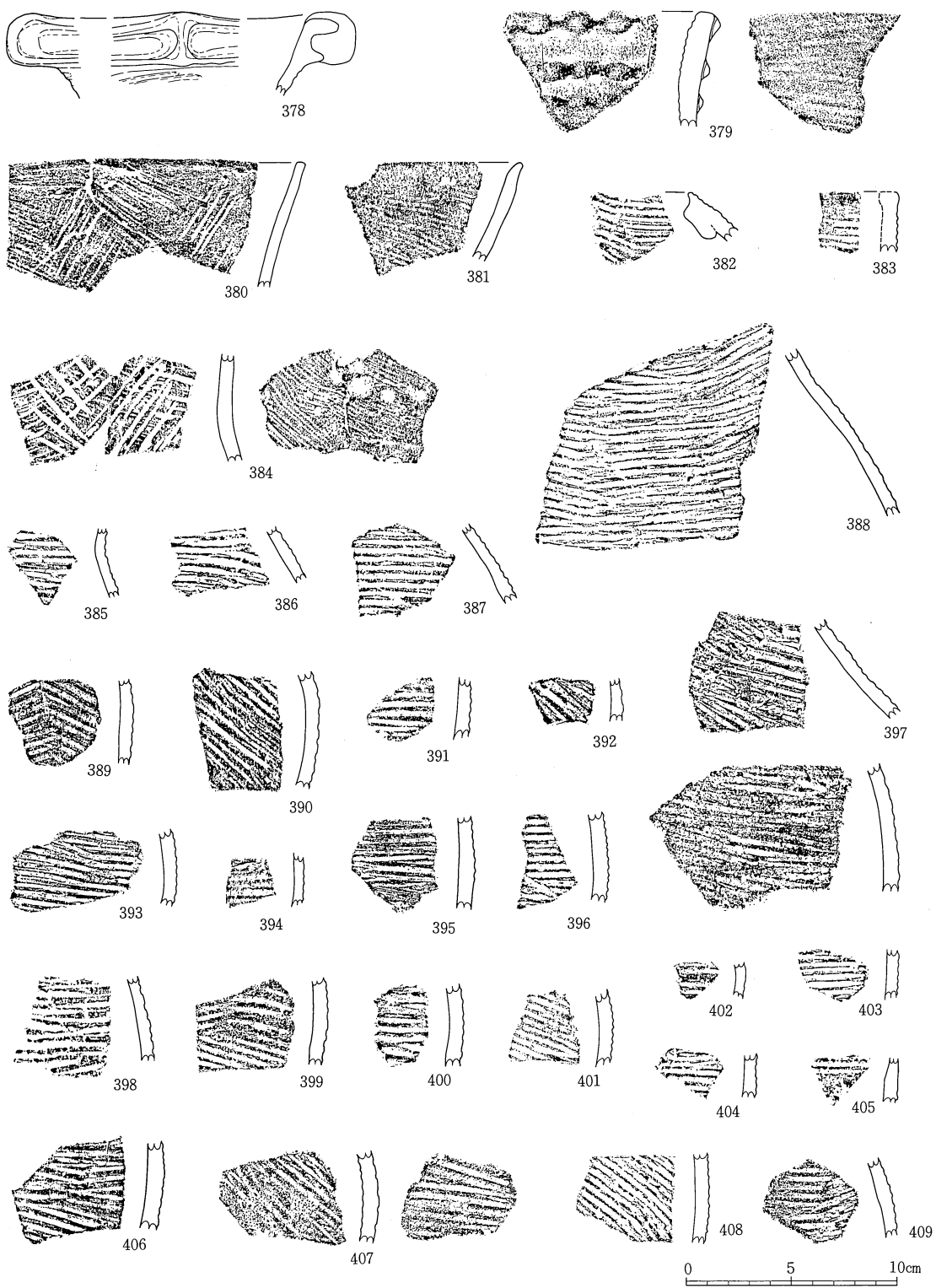


0 5 10cm

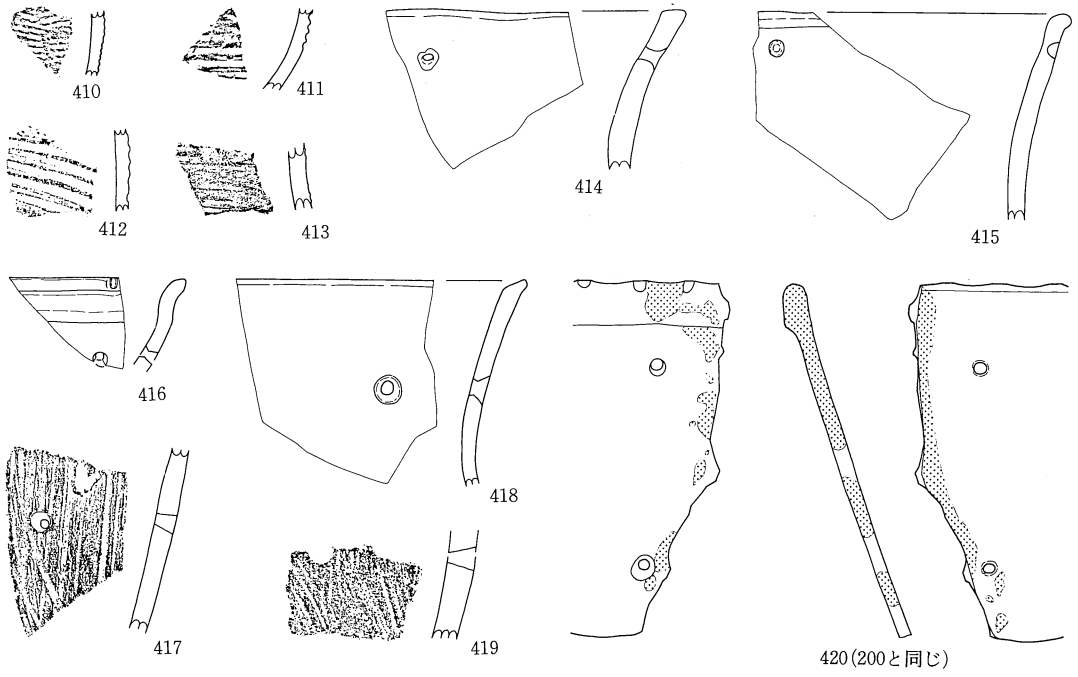
第44图 縄文時代土器(29)



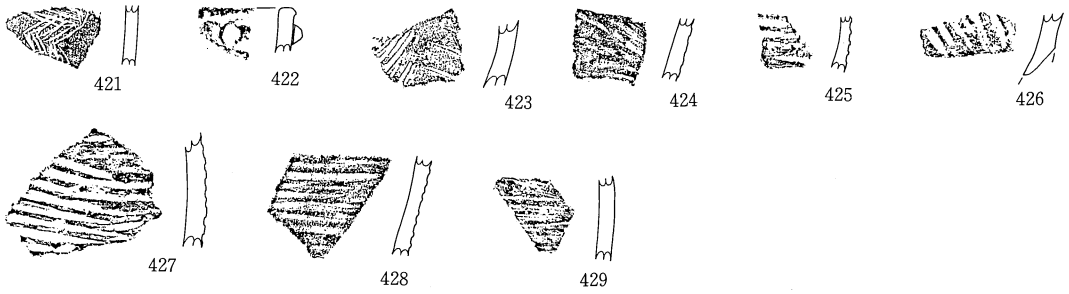
第45図 縄文時代土器(30)



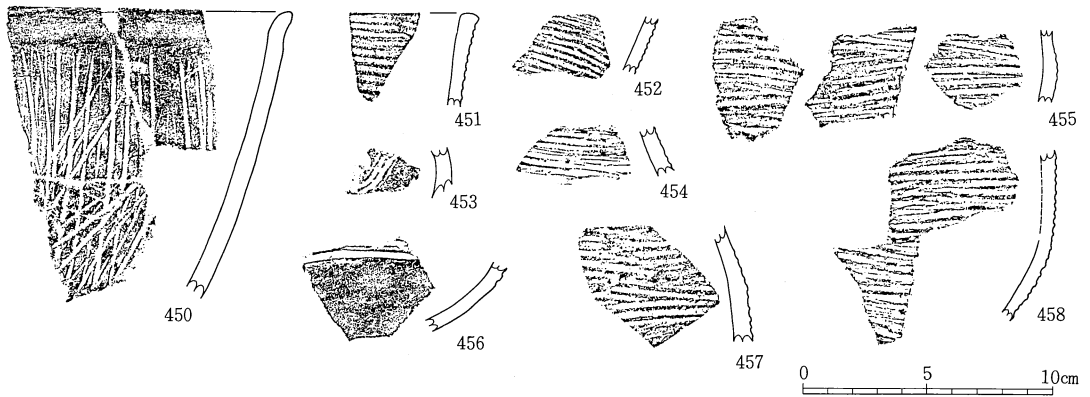
第46図 縄文時代土器(3)



土器集中区 6

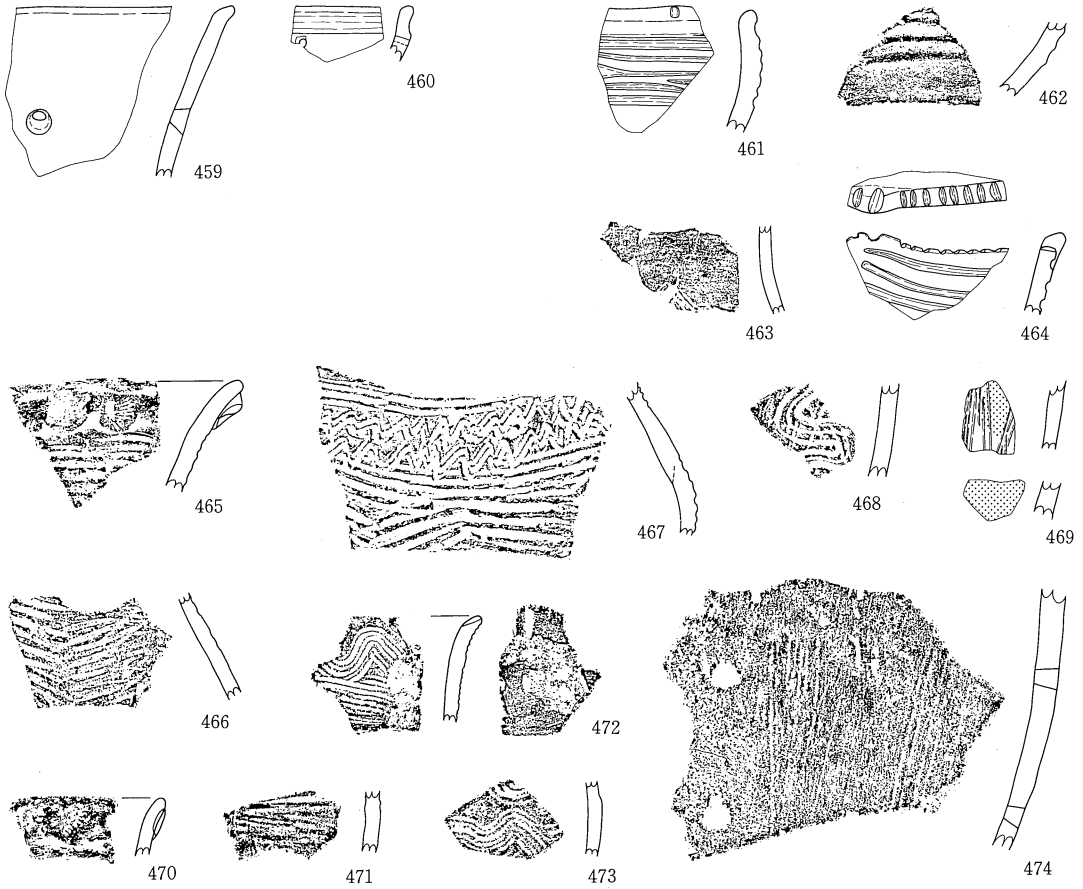


S90-W84区

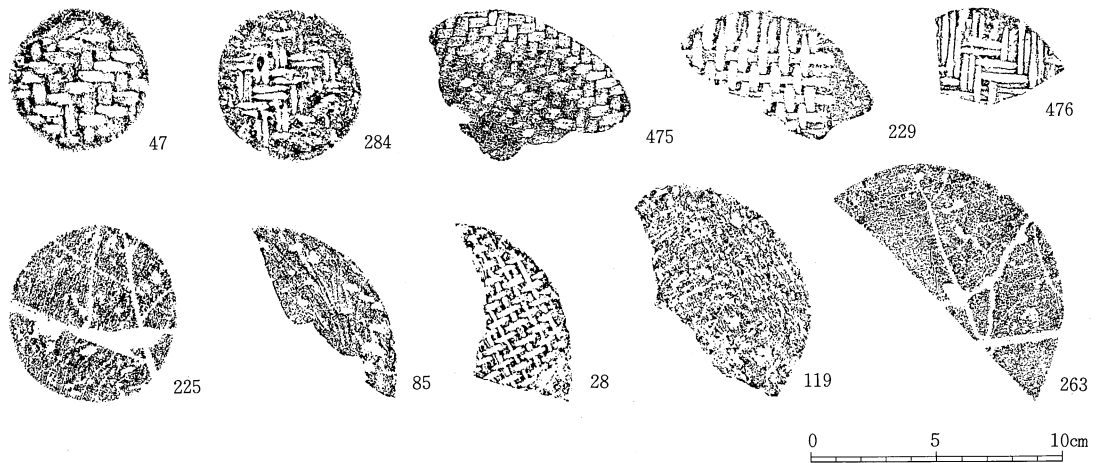


第47図 縄文時代土器(32)

その他の遺構



第1類土器底部拓影



第48図 縄文時代土器(33)

(2) 土製品 (図49～56)

石行遺跡からは、71点が出土し、実測不可能なものを除き、67点を図化した。なお、これらの中には土器と土製品の区別がつかない物を一部含んでいる。

土 偶 (1～29) 32点出土している。このうち、形態・文様の表現方法によって、頭部が2又は、3類、胸部が2類に分類できる。しかし、頭～胴部がわかる土偶は、発見されていないので、両者の関係を把むことはできなかった。

頭部1類 (1～4) は、顔面が偏紡鐘形、側頭部が三角形を呈し、刺突によって、髪を表現しているものである。後頭部の横への張り出しは、結髪の表現と考えられる。1～3は、両側(耳)、後頭部、頭頂部に貫通孔をもち、紐通しにより、吊り下げられて用いられた可能性をもつ。なお、1の後頭部のみ、茎又は細竹などの中空の施文具の刺突が施されている。頭部2類 (5～8) は、いわゆる有髻土偶で、目の下、鼻から頬にかけて3～5条の沈線を施しているものである。5・7は、顔面と頭部を別に作って貼りつけたもので、7には、赤色顔料の塗布がみられる。なお、9～11は、大きく横に張り出す耳をもつもので、耳の上下に貫通孔があるもの (9、11) である。顔面は、失なわれているが、2類の一部が該当する可能性をもっている。

胴部1類 (12～17・18) は、肩～上腕部が2段に張り出しているもので、12は、赤色塗彩され、13以下は、張り出し部に刺突が施されている。18は、足の付根の部分に、刺突が施されている。胴部2類 (19～21) は、やや幅広の胴部を持ち、片面に、1本の沈線が施されているものである。

22～27は、肩・腕・脚部の小片である。28は貼り付け痕のある顔の部分である。29も顔を表しているものだが、裏面には貼り付け痕もなく円盤状の土製品であるが、一応土偶のなかで扱った。

頭部1・2類・胴部1類は、氷遺跡⁽¹⁾のほかでも出土しており、本遺跡の時期に各地でみられるようである。なお、石行遺跡では、頭部と胴部の関係はつかめなかったが、胴部1類には、有髻土偶が伴う例があるようである⁽²⁾。こうした、土偶の違いは、目的による使い分け、使用法による違いなども考えられるが、今後の類例の増加をまちたい。

土製円盤 (30～38) 土器片の周囲を打剝して、(不整)円形に仕上げているもの。剝離の多くは、土器の内面から6～8回行われている。30～34は、剝離後に剝離面を研磨している。特に、33はよく研磨が施され、断面が台形に面取りされている。土器片は、30が口縁部で、あとは、甕又は深鉢の体部が利用されている。なお30は、網状浮線文が施され、土器の96と、38は、貝殻条痕文が施され、土器の457と同一個体である。

有孔球状土製品⁽³⁾ (39～45) 8点出土し、7点を図化した。形態で見ると、樽状 (39・42・44・45)、球状 (40・41・43) の2種がある。41～45は孔軸上で破損している。器面調整は、39に指頭圧痕が顕著にみられたほか、40・43は、ミガキ状の調整、その他は、ナデ調整が施される。なお、41の下部には、網代の圧痕が観察された。

その他の土製品 (46～47) 上記以外のものを「その他の土製品」として扱った。

46は、中空の円盤のもので、上方に孔をもち、片面には、線刻が施されている。47は、円盤に、1ヶ所孔があげられている。49～57は、棒状土製品である。50以外はすべて破損している。断面円形で、湾曲するものが多い。49・50は、貫通孔をもつもので、胎土・色調から同一個体と考えられる。53は、把手の可能性を持つものである。57は、土偶の一部の可能性をもつものである。58は、球状土製品で、外面を丁寧にナデている。59は土器の把手と考えられるもので、先端が2つに割れた施文具で3列に刺突を行っている。60は、土偶の可能性をもつもの。

61～63は、土偶・土版あるいは土器の可能性をもつもの。61・62は、1本の施文具で2例1単位の刺突を施して、文様を施しているもの。63は、刺突と沈線によって文様を構成している。64は、土版もしくは、装身具の一種と考えられるもの。表面には、刺突が施されている。裏面上端は、土器のような形状を呈しているが、下端で粘土を折り返しており土器ではない。貫通孔が2ヶ所にみられる。

65は、筒形土製品である。口縁は斜めに傾斜し、下方の口縁付近口に相対する位置に孔が空けられており、紐通しの穴と考えられる。外面は、ケズリののち口縁付近をナデている。内面はナデによる調整である。

66・67は、土版である。66は上方を失っているが人字状に浅い沈線が施されている。67は、大形の土版で、断面が上方で長方形、下方で偏楕円形を呈し、下方は、やや広がっていく。両面に沈線で施文している。1面は、蕨手文と2単位の弧線から文様を構成している。裏面は、 $\frac{1}{2}$ 近く剥落しているが、渦巻文が下方に配されている。

註(1) 永峯光一 「水遺跡の調査とその研究」 『石器時代』No. 9 1969. 6

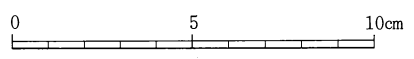
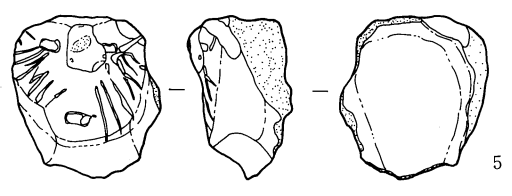
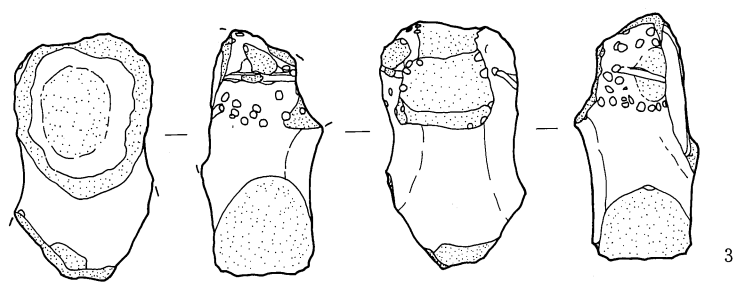
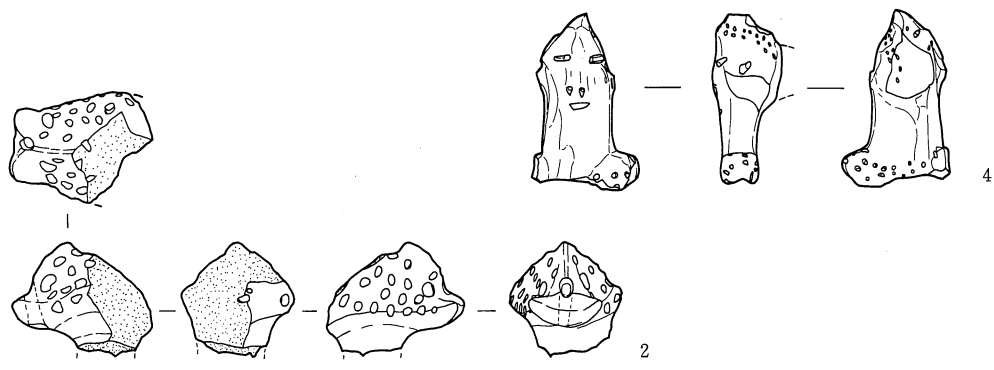
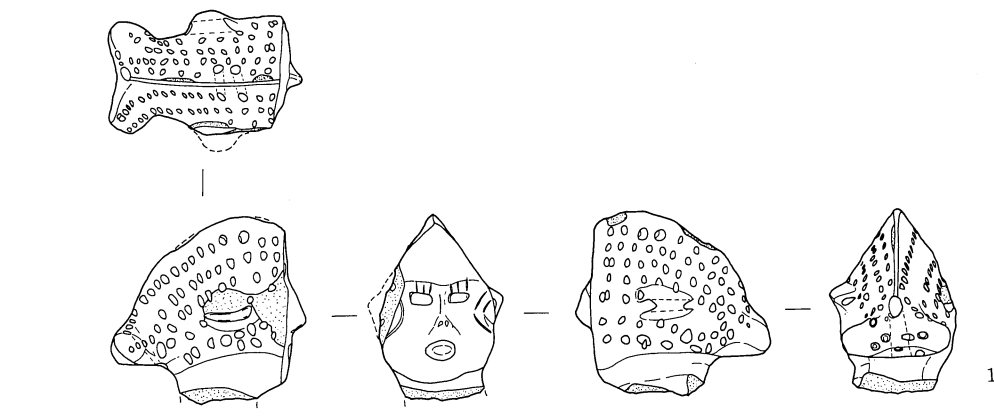
(2) 野口義隆 「土偶から埴輪へ」 P. 111 『古代史発掘』3 講談社 1981. 12

(3) 小島俊彰 「有孔球状土製品」 『縄文文化の研究』9 雄山閣 1983. 8

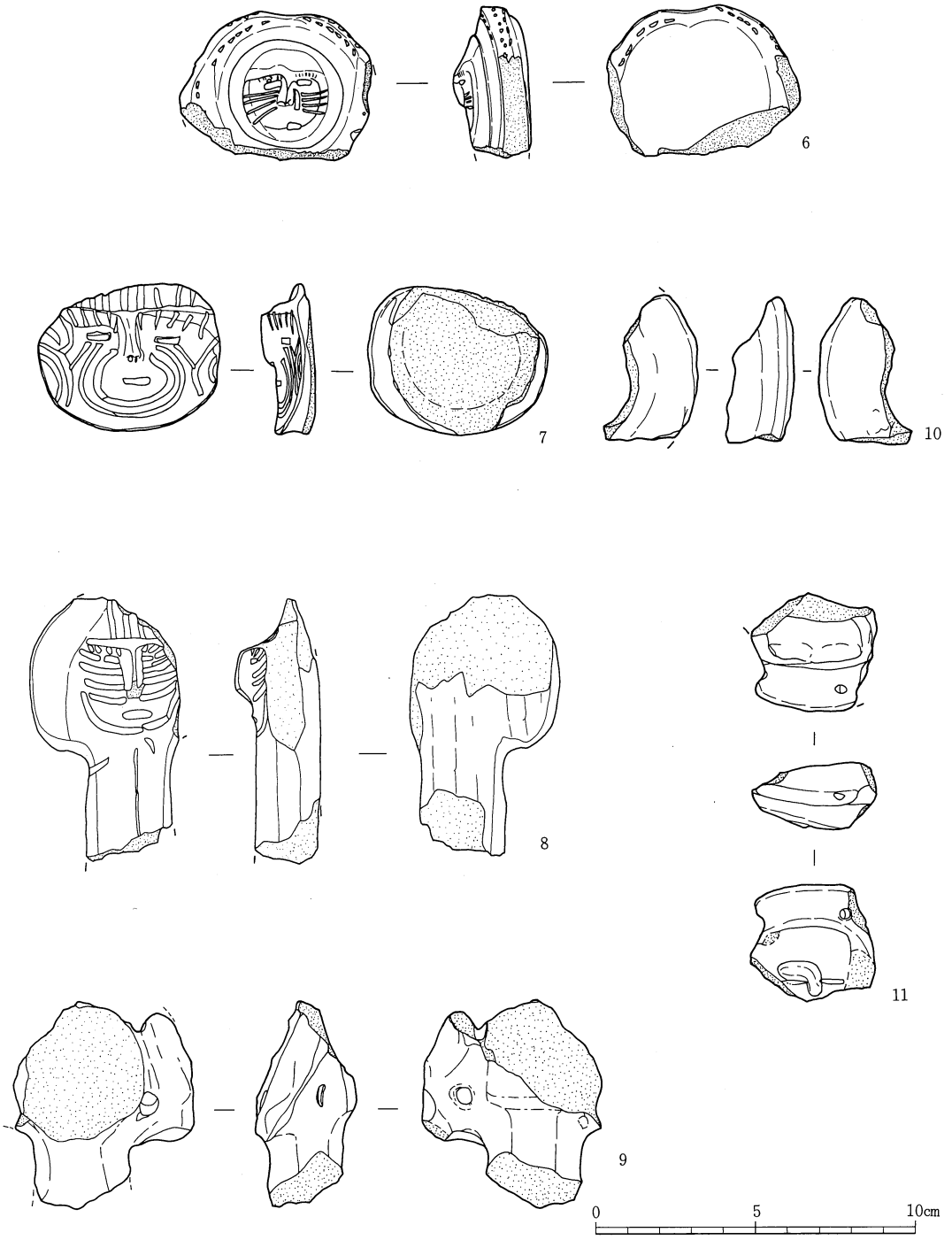
表2 土製品一覧表

No.	図 No.	器種	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1	1	土偶(頭)	S75 W81	II	(5.21)	(3.51)	5.31	(56.61)	
2	2	〃(頭)	S90 W90	I・II層上	(3.15)	(3.11)	(3.76)	(19.09)	
3	3	〃(頭)	S72 W72	I	(6.76)	(3.85)	(3.37)	(75.41)	顔面貼りつけ
4	4	〃(頭)	土壙23		(4.85)	(2.95)	(1.91)	(15.09)	
5	5	〃(頭)	S87 W81	II・SW	(4.45)	(4.08)	(2.85)	(33.63)	顔面貼りつけ、鼻部貼りつけ
6	6	〃(頭)	S54 W15		(4.68)	(5.95)	(2.38)	(51.00)	
7	7	〃(頭)	S84 W90		(4.66)	5.59	(1.73)	(25.19)	顔面貼りつけ、赤色顔料塗彩
8	8	〃(頭)	S78 W84	II	(8.18)	(4.62)	(2.68)	(57.75)	
9	9	〃(頭)	S84 W93		(6.45)	(5.60)	(3.16)	(59.33)	顔面貼りつけ
10	10	〃(耳)	S81 W93		(4.48)	(2.91)	2.09	(14.90)	
11	11	〃(頭)	S84 W90	II(最下)	(3.62)	(3.82)	(2.08)	(16.06)	
12	12	〃(胴)	溝7・N-1・東		(5.61)	(6.06)	(2.53)	(57.86)	赤色顔料塗彩
13	13	〃(胴・腕)	土器集中区3		(6.19)	6.93	2.30	(68.17)	
14	14	〃(肩・腕)	17 住	覆	(3.51)	(3.14)	(2.47)	(17.19)	
15	15	〃(肩)	20 住	覆	(2.89)	(3.01)	(2.08)	(12.61)	赤色顔料塗彩
16	16	〃(肩)	S75 W87	II 下	(3.18)	(3.43)	(2.48)	(22.48)	
17	17	〃(肩)	土器集中区5		(2.02)	(4.65)	(2.18)	(22.54)	
18	18	〃(胴)	S87 W93	II b	(7.47)	(4.13)	2.94	(73.28)	刺突文
19		〃(肩)	S87 W81	II	(2.55)	(2.66)	1.49	(7.31)	刺突文
20	19	〃(胴)	S84 W87	II 中	(3.28)	(4.15)	(1.91)	(27.74)	
21	20	〃(胴)	S81 W81	II a	(6.64)	(5.65)	(2.91)	(96.79)	
22	21	〃(腕)	S84 W90		(5.79)	(5.21)	2.80	(87.78)	
23	22	〃(腕)	S81 W93	II	(4.07)	(3.13)	1.03	(11.45)	
24	23	〃(腕)	S81 W89	II・中	(3.65)	(3.39)	(2.95)	(29.04)	
25	24	〃(足)	S84 W96		(2.49)	(2.57)	(1.30)	(7.22)	
26	25	〃(脚)	S66 W75		(5.60)	(3.75)	(2.83)	(52.35)	
27	26	〃(脚)	S87 W78	II	(3.08)	(3.02)	(2.63)	(21.13)	
28	27	〃(顔)	S78 W96	II	(2.44)	(3.41)	(2.80)	(18.99)	
29	28	〃(顔)	S84 W93		(2.11)	(1.98)	(0.76)	(2.22)	顔面貼りつけ
30	29	〃(顔)	S81 W96		(3.43)	(2.29)	(0.99)	(6.06)	
31		〃(腕)	S87 W90	II b 下	(3.41)	2.92	2.31	(5.68)	
32		〃(腕)	20 住	覆	(2.43)	2.46	2.55	(12.85)	
33	30	土製円盤	S81 W90		3.38	3.10	0.51	(5.69)	(外)浮線網状文 (内)ミガキ 土器96と同一個体
34	31	〃	S81 W93		3.77	3.83	0.70	(3.89)	(外)細密条痕 (内)ナデ
35	32	〃	S96 W105	I	2.62	2.57	0.78	(5.82)	(外)ミガキ (内)〃

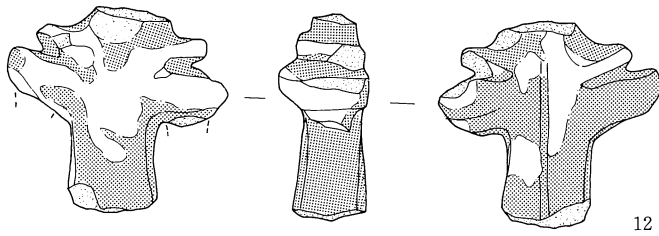
36	33	土製円盤	土 壙 37	覆・中	2.95	2.87	0.88	(7.92)	(外) ミガキ	(内) ナデ
37	34	〃	S81 W93		3.53	3.84	0.96	(12.95)	(外) 〃	(内) 〃
38	35	〃	S87 W96	II b	4.41	4.45	0.62	(16.67)	(外) 〃	(内) 〃
39	36	〃	S81 W90		4.68	4.10	0.90	(9.02)	(外) 〃	(内) 〃
40	37	〃	S84 W96		(5.09)	(5.10)	(0.94)	(29.51)	(外) 細密条痕	(内) 〃
41	38	〃	S81 W39		(5.50)	(5.49)	0.70	(23.73)	(外) 貝殻条痕 土器457と同一個体	(内) 〃
42	39	有孔球状 土製品	S90 W96	II b	5.97	6.55	8.02	(376.21)		
43	40	〃	S90 W102	II	(6.35)	7.25	5.75	(245.96)		
44	41	〃	S75 W78	II 中	(5.73)	(5.54)	4.85	(109.98)		
45	42	〃	S81 W99	II 上	7.31	6.21	2.52	(127.22)		
46	43	〃	土 壙 29		5.87	5.59	3.74	(92.28)	赤色顔料塗彩	
47	44	〃	S81 W99	II 中	4.26	4.49	3.12	(59.03)		
48	45	〃	20 住	覆	4.29	4.79	2.81	(47.41)		
49		〃	S63 W66	II	(4.89)	4.39	3.79	(50.85)		
50	46	不 明	不 明		(1.85)	(2.65)	1.39	(4.83)		
51	47	〃	S84 W93		(3.09)	(3.05)	(1.52)	(12.04)		
52	48	棒状土製品	S69 W72	I	(2.30)	(1.51)	(1.07)	(3.82)	49と同一個体	
53	49	〃	S84 W93		(4.00)	(1.44)	(1.57)	(8.52)		
54	50	〃	S90 W108	II 中	(2.97)	(0.86)	(0.79)	(1.95)		
55	51	〃	S90 W81	II	(3.44)	1.39	0.80	(4.19)		
56	52	〃	S78 W81	II 中・上	(4.65)	(1.75)	1.24	(8.37)		
57	53	〃	土 壙 38		(5.89)	1.22	1.57	(13.69)		
58	54	〃	S66 W69	I	(4.49)	(1.35)	(0.82)	(5.44)		
59	55	〃	S84 W90	II (最下)	(2.49)	(1.05)	0.89	(2.11)		
60	56	〃	S90 W78	I・II上	(1.73)	(1.24)	(0.99)	(1.88)		
61	57	土偶?	S78 W90	II 上	(2.79)	(1.30)	(2.05)	(4.44)		
62	58	球状土製品	11 住		2.01	2.17	—	(8.15)		
63	59	把手?	S84 W90		(3.57)	1.17	1.05	(7.97)		
64	60	土偶?	S84 W93		(2.80)	(3.24)	(1.54)	(5.58)		
65	61	不 明	S78 W96	II	(3.80)	(4.57)	0.97	(16.84)		
66	62	〃	S78 W90		(3.98)	(3.02)	1.21	(10.70)		
67	63	〃	土 壙 58		(2.97)	(2.99)	1.04	(6.43)		
68	64	土版?	S90 W78	I・II上	(3.83)	(2.63)	(0.78)	(8.1)		
69	65	不 明	S78 W84		(9.95)	(3.66)	(4.21)	(68.11)		
70	66	土 版	S84 W90		(6.31)	3.95	1.92	(53.97)		
71	67	〃	S84 W90		(9.97)	(5.38)	4.63	(180.90)		



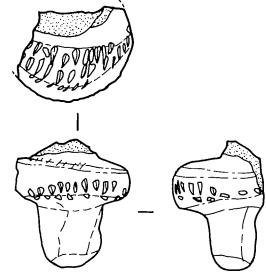
第49図 土製品 (1)



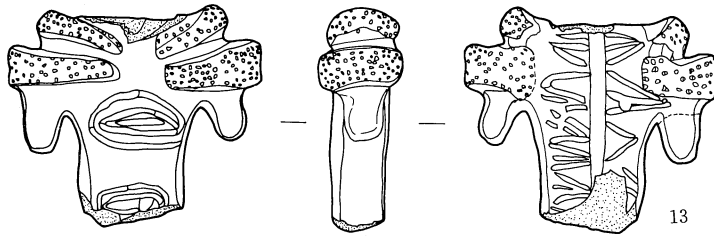
第50図 土製品 (2)



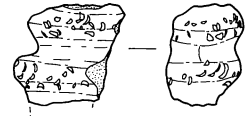
12



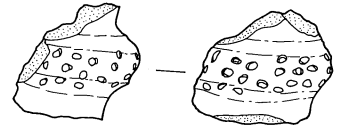
14



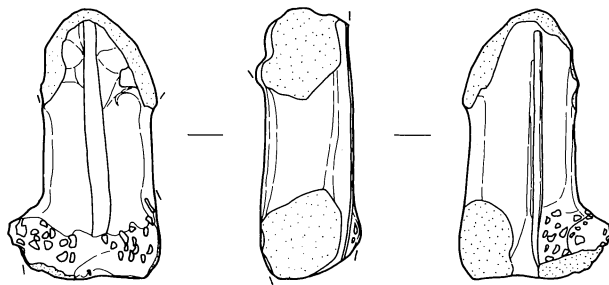
13



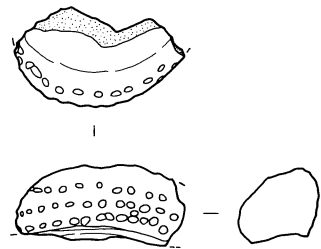
15



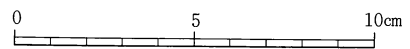
16



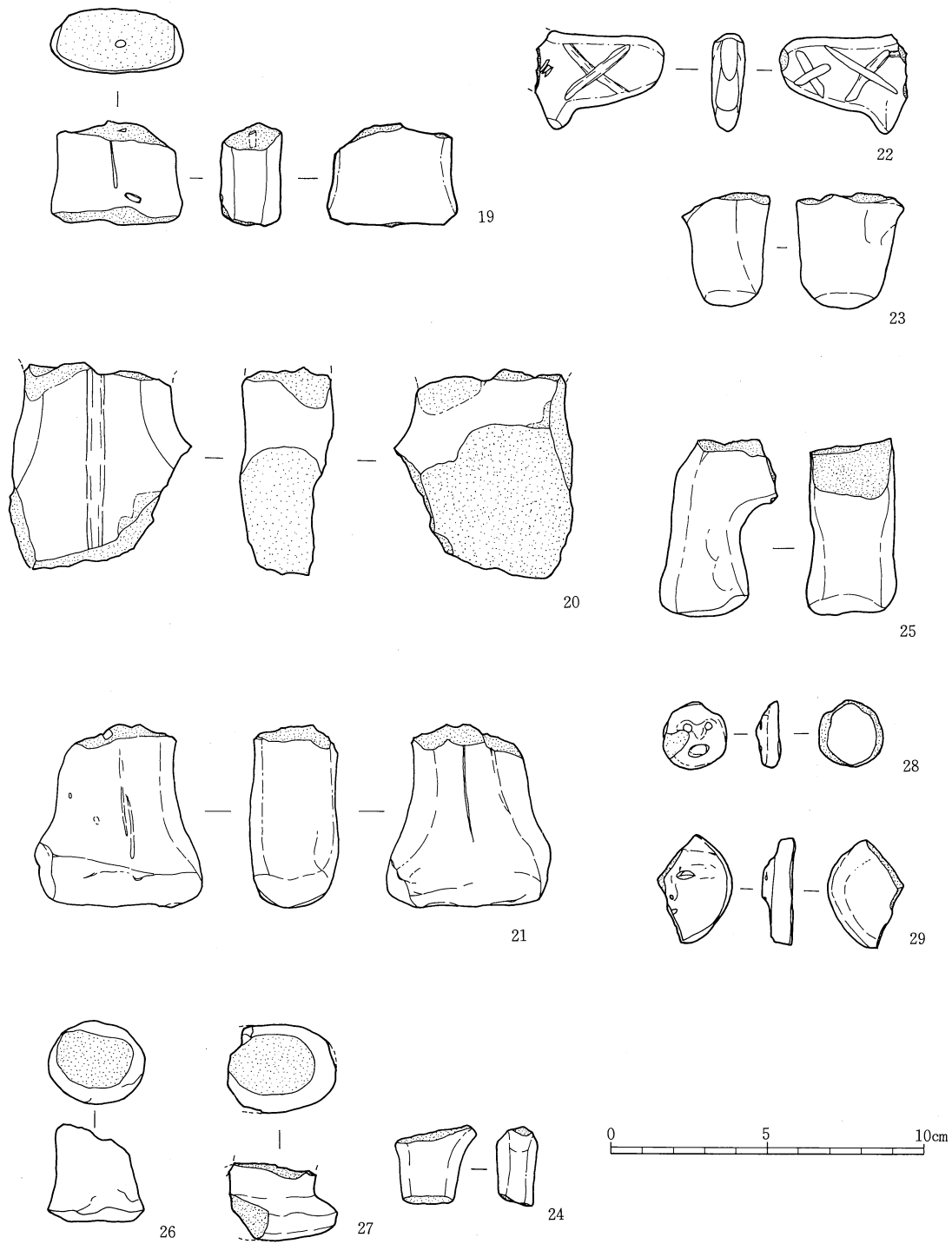
18



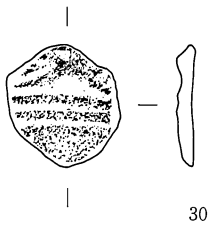
17



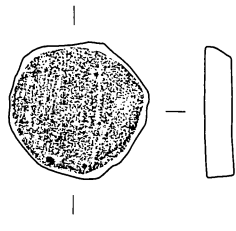
第51図 土製品 (3)



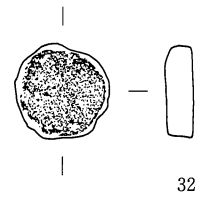
第52図 土製品 (4)



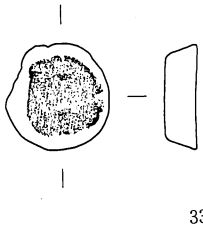
30



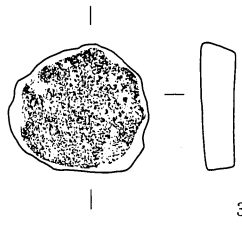
31



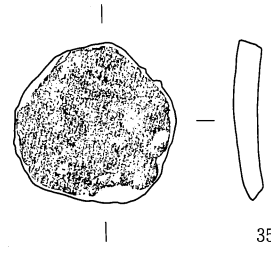
32



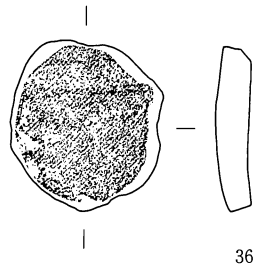
33



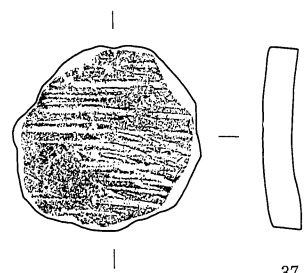
34



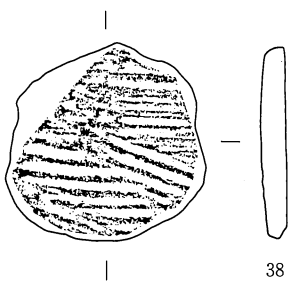
35



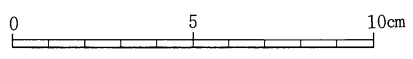
36



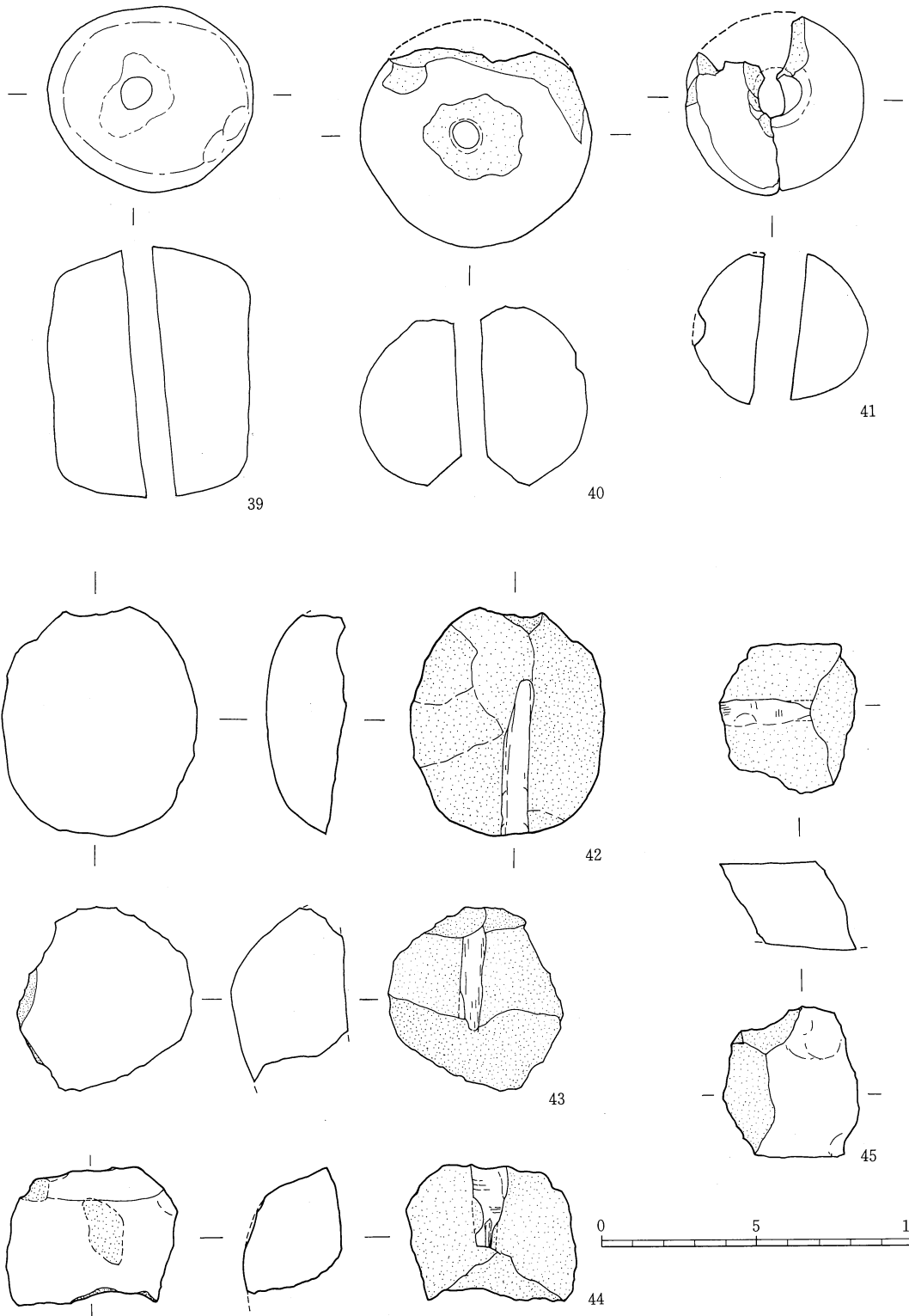
37



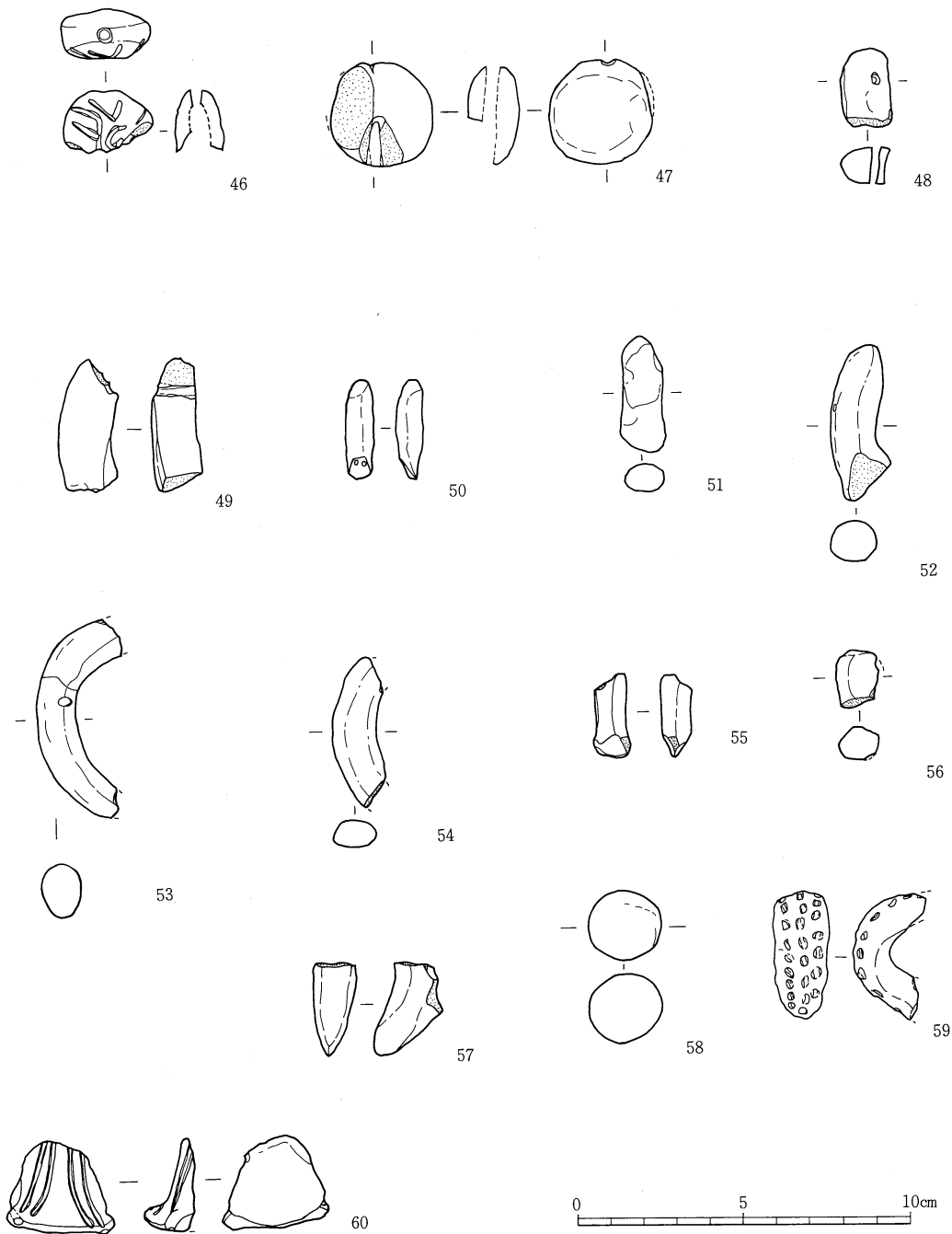
38



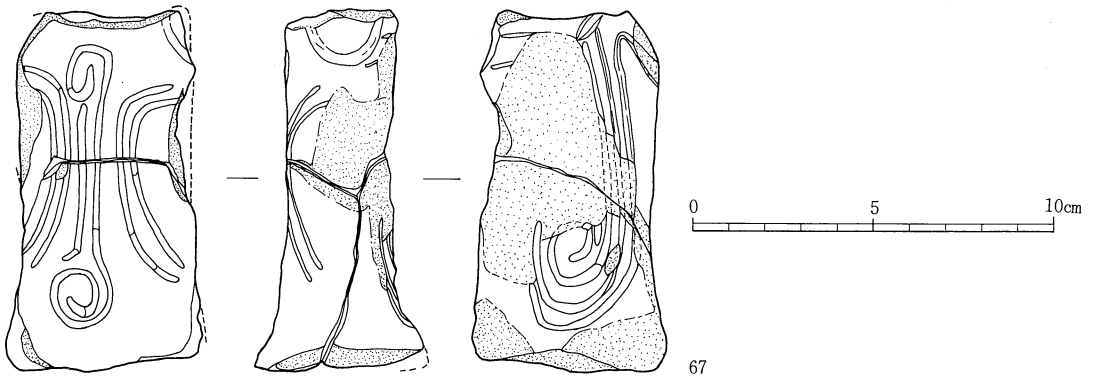
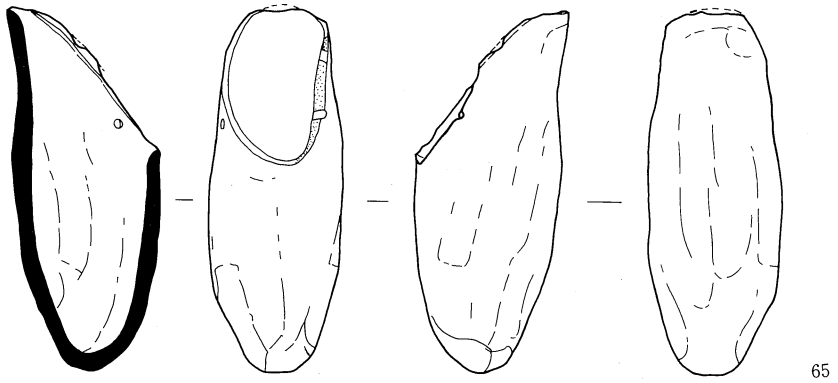
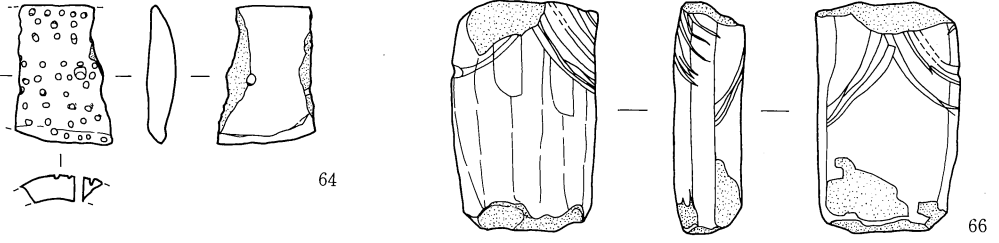
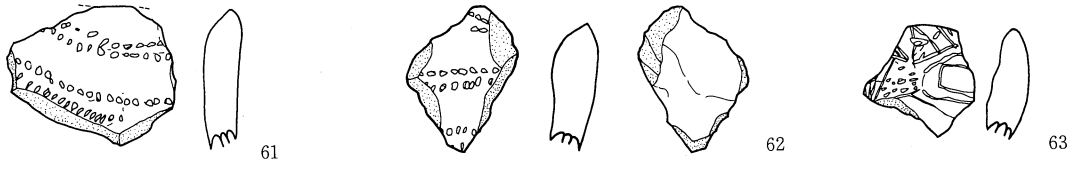
第53図 土製品 (5)



第54図 土製品 (6)



第55図 土製品 (7)



第56图 土製品 (8)

(3) 石器 (図57~82)

石行遺跡の発掘では多数の石器が出土した。しかしながら、限られた整理時間のなかで、すべての資料を分析することはできなかった。今回の報告のなかでは、1) 石器の素材としての黒曜石・チャートの剥片、2) 2次加工を有する剥片、3) 使用痕をもつ剥片、4) 定形的な石器を扱っている。なお、本遺跡では、打製石斧、敲・磨・凹石などの素材や製作・破損に伴う剥片類も多く出土していると思われる。しかし、これらについては、今回扱うことができなかった。実測図については、定形的な石器のうち完形(に近いもの)、特徴的なものを中心に図化している。また、定形的な石器については、すべて石器一覧表のなかにデーターを提示している。本文中の石器の記述には、図番号を用いずに、器種別の通し番号を用いている。なお、石質の鑑定については太田守夫氏の御教示を受けた。

1) 黒曜石・チャートの剥片

石行遺跡においては、小形の定形的な石器の素材として黒曜石とチャートが石材選択されている。本遺跡では、黒曜石の剥片・破片が5,560点、8,617.19g、チャートが128点、470.8g出土している。黒曜石は原石も数点出土しているが破片が多い。

2) 2次加工を有する剥片

黒曜石・チャートの剥片で2次加工をもつ剥片は111点、311.43g出土している。これらのなかには、定形的な石器の破損品の一部、未製品などを含んでいると思われる。

3) 使用痕をもつ剥片

黒曜石・チャートの剥片の縁辺部に連続する微細な剝離痕をもつものを「使用痕のある剥片」とし、1つの剥片にみられる使用痕の数、その形状から分類を行った(下表参照)。

1つの剥片にみられる使用痕は1ヶ所のものが約85%を占めている。

素材である剥片そのものが小さく、複数の使用に適さないためと考えられる。使用痕の形状は、1・2ヶ所の使用痕をもつ剥片は、直―内彎―外彎の順で使用され、1片に3ヶ所の使用痕をもつものは、内彎―直―外彎の順となっている。次に、使用痕の剝離痕を刃こぼれ(片面)、刃つぶれ(両面)でみると、刃こぼれのものが圧倒的に多い。これらから、使用痕をもつ剥片は、連続する小剝

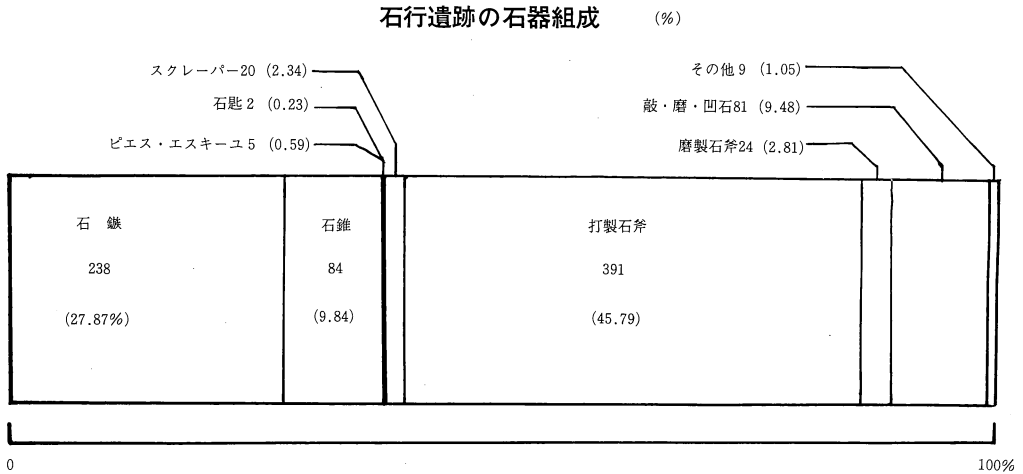
使用痕のある剥片一覧表

区分 使用痕数	内 彎		直		外 彎		剥片数	
	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ		
1	数	395	47	883	130	157	55	1667
	%	23.70	2.82	52.96	7.80	9.42	3.30	
2	数	159	30	203	54	86	18	275
	%	28.91	5.45	36.91	9.82	15.64	3.27	
3	数	12	3	10	3	11	3	14
	%	28.58	7.14	23.81	7.14	26.19	7.14	
合計	数	566	80	1096	187	254	76	1956
	%	25.06	3.54	48.52	8.28	11.24	3.36	

離痕が直線的な刃部を呈するものが典型的なものといえるだろう。

4) 定形的な石器

1) ~ 3) を除いたものを定形的な石器として扱った。石器の組成・出土点数・比率は下記のグラフの通りである。



石行遺跡では、総数854点の定形的な石器が出土している。そのうち、石鍬と打製石斧が特に多く、二者で全体の7割以上を占めている。この石器の組成のあり方は、石行遺跡とほぼ同時期にあたる御社宮司遺跡の石器組成と非常によく似ている。

以下、器種別にみていくことにする。

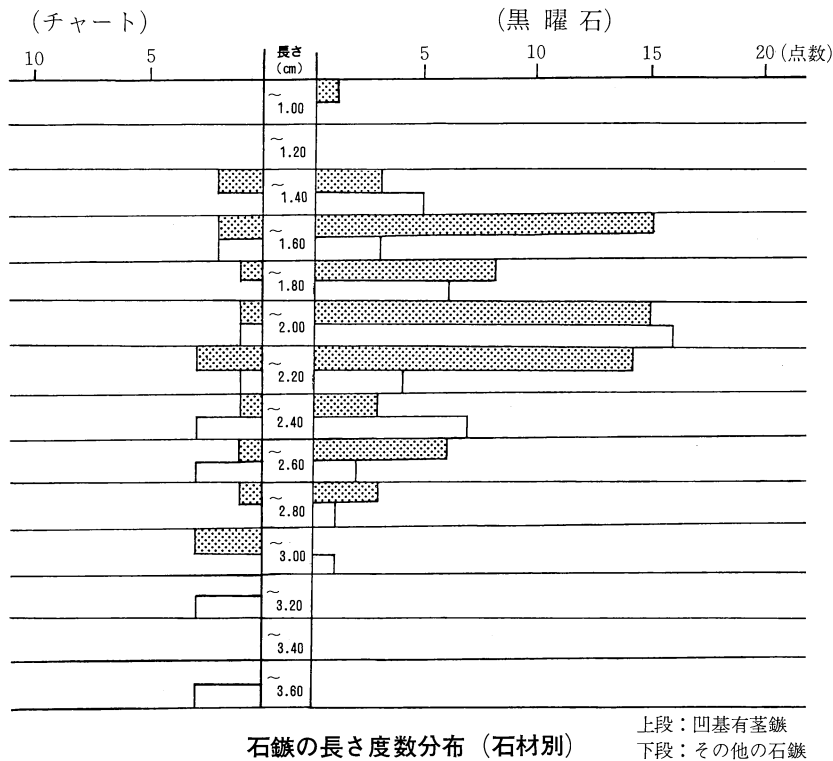
①石鍬 (図57~61)

238点出土し、107点を図化した。石鍬は基部により分類が可能である。基部が識別できる199点のうち、凹基有茎128点、同無茎25点、凸基有茎10点、同無茎3点、平基有茎9点、同無茎18点、円基8点である。凹基有茎鍬が64%を占めている。こうしたあり方は、御社宮司遺跡などと同じである。

凹基有茎鍬のなかには、一般的なもののほかに、その時期にしばしばみられる側縁に段をもつタイプや飛行機鍬と呼ばれるタイプが混在している。形態的には非常にバラエティーに富んでいる。

凹基無茎鍬は全体の12.5%を占めている。このなかには、いわゆる五角形鍬(2・31)も含まれている。残りの凸基・平基・円基はいずれも少数であるが、そのなかでも平基無茎は多い。また、平基・円基のなかには、器厚の厚い大形品がいくつかみられる。

石鍬の石材としては、黒曜石・チャート・安山岩が使用されている。安山岩製2点、チャート製37点、残りは黒曜石製である。次に、黒曜石・チャートと石鍬の基部・大きさとの関係を調べたのが、次頁のグラフである。黒曜石を素材とする石鍬では、長さ2 cm前後に集中しているが1.6 cmにも1つのピークをもつ。一方、チャート製の石鍬は、凹基有茎鍬でないもの(円基・平基など)



が多く、しかも大形品が多い。石鏃の製作にあたっては石材による規制があったことも考えられよう。なお、209は先端破損後に再調整を施しているもの。103は、先端がふたまたに分れている特殊な石鏃である。

②石錐 (図61~63)

調整剥離によって先頭部を作り出している石器のうち、石鏃を除いたものを石錐として扱った。石錐は84点出土し、52点を図化した。

石錐の石材は、黒曜石製79、チャート製3、砂岩製1、安山岩製1点である。石鏃以上に、石材選択が行われている。

石錐はつまみの有無によって大きく2種類に分けられる。つまみを有するもの(1類)は、指で保持し突き錐又は回転錐として使用したものだろうし、つまみをもたないもの(2類)については指による保持のほか、着柄による棒錐一採み錐が考えられるだろう。石行遺跡についても両者は混在する。つまみの有無が不明な13点を除くと、1類13点、2類56点である。

1類ではつまみが錐部からしだいに幅をひろげていくものが大半である(16・32・34など)。11はく字状につまみと錐部が屈曲している。錐部の調整剥離が念入りに行われているのに対して、つまみ部は素材の主要剥離面を大きく残し、調整は雑なものが多い。概して、1類の方が2類より大きい。錐部の断面は三角形・ひし形を呈するものが混在している。前者は片面加工(又は片面に調整

剝離が集中している)の石錐、後者は両面加工の石錐が多い。

2類は両面加工の棒状を呈するものが大半である。これらの中には磨耗痕を伴うものが26点ある(他に1類で錐部に磨耗痕を多すもの—70が1点出土)。磨耗痕は錐部先端と頭部の2ヶ所に集中している。その内訳は、錐部先端21点、頭部1点、2ヶ所にもつもの4点(2・3・56・83)である。錐部の磨耗痕は剝離面のなかにみられることはなく、剝離面の切り合いによって生じた稜線上にみられる。しかも、最も突出している部分に顕著に磨耗がみられる点が共通している。これらのことから、この磨耗痕は石錐を回転させて使用していること一円運動の場合は先端と突出部が加工対象と接触することになる—によって形成されたものと考えられる。頭部の磨耗痕は、頭頂部にも顕著にみられる。また、錐部のような尖頭状を呈さないもの(1・36)にもみられる。磨耗の度合は錐部のそれよりは激しくない。頭部の磨耗痕は石錐の両端を錐として使用された結果とも考えられるが、棒錐として使用するときの着柄痕の可能性を考えたい。その場合、磨耗痕が頭頂部にもみられることから、差し込み式の着柄が考えられよう。

なお、本遺跡では石鏃を除く尖頭状を呈する石器を石錐としたため、突孔具でないものも混在している可能性がある。今後の分析課題である。

③石匙(図64)

2点出土している。1はやや片側につまみがよっている、刃部が外彎する横形の石匙。風化が激しいが、横長剥片を素材にしていると考えられる。主要剝離面側は、つまみと上辺のみが剝離を加えられている。そのため、刃部の調整は背面側に集中し、片刃を呈している。硬砂岩製。

2はほぼ中央につまみを有し、刃部が内湾する横形の石匙。刃部はつまみに対してわずかな傾斜をもつ。黒曜石製。

④ピエス・エスキーユ(図64)

5点出土している。1・2・4は平面が方形、断面が紡錘形を呈するもの。1は上方からの加撃によって、上半が大きく厚さを減じている。4は、両面に90°直交する両極剝離をもつもの。腹面は4辺にわたって剝離がみられるのに対して、表面は上下方向の剝離のみである。3は截断により平面形は不明、断面は紡錘形を呈するもの。5はおそらく平面は方形を呈していたと考えられる。背面左側縁に2次加工を有している。1・3・5は截断面をもつ。すべて黒曜石製である。なお、本遺跡では石器の観察を十分に行えなかったので、2次加工・フレークのなかにピエス・エスキーユが混在していると思われ、実際の数はずっと多いと考えられる。

⑤スクレーパー(図65~66)

20点出土し、17点を図化した。石材は主に(硬)砂岩が用いられている。形態・大きさなどから2類に分類できる。

1類(1~5・8・9)は、平面が長方形を呈し、下端に直線的な刃部をもつ打製石包丁様の石器。素材は、3で縦長剥片が用いられている他は、横長剥片を使用し、剥片の末端を刃部としてい

る。2～4は自然面を残している。調整剥離は上下の側縁部に集中している。3・4の縦断面は紡錘形を呈し、上下端とも薄く仕上げている。1・2・5・8・9は、上側面の剥離は下側面の刃部調整に比べて荒く、おそらくは形を長方形に成形するための剥離であろう。また、1の上側面の剥離は弥生時代の打製石包丁の背つぶしの調整に類似している。左右側縁の調整は、剥離を1・2回施すだけである。

2類（7・11・12・14・16）はいわゆる横刃型石器と呼ばれるものである。いずれも、背面に自然面を残している。14は成形剥離が丁寧に行われ平面が3角形状に仕上げられている。刃部は階段状剥離により、厚さを減じている。16は刃部を欠いているが、14と同類のものであろう。

そのほかに、剥片の末端部を利用した刃部をもつものが数点出土している。

なお、18は上半を欠損しているが、周囲を方形に成形剥離し、側縁から幅3～5ミリを研磨しているものである。研磨は両面に施され、刃部のある下辺では稜がつくり出されている。厚さが余りないことや、他に類例をみないのでこの項で扱ったが、磨製石斧の可能性もつものである。

⑥打製石斧（図67～73）

本遺跡の定形石器中、最も多く出土した。総数は400個を超えた。完形品は98点である。以下に資料数が多いので、完形品を中心に、総括的に記述する。製作面からは、平面形、大きさ、自然面、石材について、使用面からは使用痕と破損についての若干の観察、分類を行った⁽¹⁾。個々の遺物の特徴については一覧表を参照されたい。

a 平面形

側縁形と刃縁形との組み合わせにより、以下のように分類した。側縁形、I：撥型、II：胴膨短冊型、III：平行短冊型、IV：分銅型、刃縁形、A：直刃、B：円刃、C：偏刃である⁽²⁾。

右表に全416点の平面形別個体数を示した。刃縁形では、刃縁形の明確な個体総数中、B型が167点(68%)を占める。側縁形ではI形が最も多く、IV型は非常に少ない。また、完形のみを見た場合、II、III型を短冊型として一括した場合、I型とほぼ同数となる。

b 大きさ

完形品のみでは、長さ5.5 cm～18.69 cm、幅2.83 cm～8.91 cm、厚さ0.94 cm～3.2 cm、重さ14 g～452 gの範囲におさま

る。しかし、破損品の中には、長さ20 cm以上、幅9 cm以上のももあり、大きさにより、使用目的が異っていたと考えられる。大きさの把握可能な遺物のみから、以下のように4つのグループに分けることが出来る。

1：長さ9 cm以下、幅3 cm前後以下、厚さ1 cm前後のもの

2：長さ9 cm以上12 cm未満のもの

打製石斧の平面形別個体数

	I	II	III	IV	不明	計
A	11	6	7	0	5	29
B	74	24	42	1	26	167
C	20	8	17	1	4	50
不明	44	5	13	0	103	165
計	149	43	79	2	138	411

3：長さ12 cm 以上15 cm 未満のもの

4：長さ15 cm 以上のもの

側縁形別に大きさを比較すると、長さに関しては各型ともそれほど違いはない。しかし、大型品はI型に比較的多い。III型にもN0. 10のような大型品はあるのだが、I型に比べて、III型は平均して、幅が小さい。また、最小のものもI型に属する。

またN0. 74のように、一度石斧中央付近で折れたものにわずかに調整を加え、再利用したと考えられるものもいくつかある。

c 自然面

完形品のみで自然面のあり方を観察した。少しでも自然面を残すものは全体のおよそ66%を占めている。側縁形別にまとめたものが右表であるが、自然面の有無は側縁形によってそれほど差があるものではない。自然面の残り方はN0. 61、N0. 71のように背面一面に残っているもの、N0. 16のように基端面にのみ残っているもの、側面にのみ残っているものなど、様々である。

次に、本遺跡では、反っている打製石斧はあまり無かったが、反りと自然面との関係について見てみると、N0. 80のように外湾している自然面を持つもの、N0. 90のように、内湾している自然面を持つものがある。

本遺跡の遺物を見た限りに於ては、自然面を利用する為に意図的に選び、残す場合もあるが、加工し易い石の部位を選び、加工した結果、意識するしないに関わらず自然面が残った、という場合が多いようである。また、両面に自然面を残すものもあり、一枚の平な丸石を材料に打製石斧を製作することもあったようである。

d 石材

右表は本遺跡打製石斧の原材料とした岩石の種類と、遺物製作に使用された個々の岩石種の遺物全体量に占める割合を表わしたものである。表中に示されている岩石はすべて、本遺跡付近で普通に手に入れられるものばかりである。2点蛇紋岩製のものがあるが、この石材は本遺跡近辺では産出しない。

e 使用痕

刃縁部が磨耗しているものはいくらか見られた。

また、刃部付近に線条痕を残すものもいくつかある。線条痕の方向には二種類ある。一つは刃部線と直交しているもの(N0. 29、41、46、56)他の一つは、刃縁に平行しているもの(N0. 88、230)である。前者はI、II、III型に比較的普通に見られる。後者はIV型の一つ、III型の一つ見られる。この方向に走る使用痕は、打製石斧を土掘具以外の用途に使用

打製石斧の側縁形別自然面数

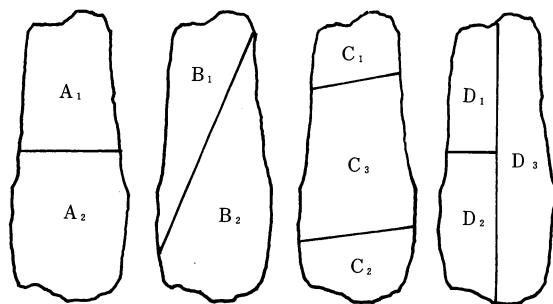
側縁形 自然面	I	II	III	IV	計
無	22	6	10	0	38
有	33	13	12	2	60
計	55	19	22	2	98

岩石名	全遺物中の割合
砂岩	31.1%
硬砂岩	28.2%
ホルンフェルス	22.6%
安山岩	3.4%
玢岩	3.4%
千枚岩	2.2%
石英閃緑岩	2.2%
その他	7.9%

した場合もあったことを示している。

f 破損

破損部位を右図のように類型化し、統計をとった。破損していないものは106点と、全体の25.8%のみである。部位別ではA₁（上半部）の破損が目立つ。またC₁C₃（基部から胴部）の破損が次に多い。基端を含む部位と刃部を含む部位の破損量を比較すると、前者が192点、後者が88点と、前者は



打製石斧の破損部位

後者のほぼ2倍の量となる。小田の述べるように⁽³⁾基端部を含む部位は、器が破損した後、その柄と共に持ち去られ、刃部のみが使用された場所に残されると考えるならば、以上に述べたことは、本遺跡の性格を考える上での一つの重要な資料となるであろう。

打製石斧破損部位別個体数

	なし	A ₁	A ₂	B ₁	B ₂	C ₁	C ₂	C ₁ C ₂	C ₁ C ₃	C ₂ C ₃	D ₁	D ₂	D ₃	D ₁ D ₂	D ₁ D ₃	D ₂ D ₃	その他	計
個体数	107	73	40	2	0	26	24	29	48	23	2	0	0	0	1	0	37	411

⑦磨製石斧（図74～76）

24点出土し、23点を図化した。その内訳は、定角式磨製石斧2点、乳棒状石斧19点、その他1点、不明2点である。定角式の割合が非常に少ないのが特徴である。なお、定角式磨製石斧は弥生時代中期前半までは残るようである。

定角式磨製石斧—1・7とも刃部のみが出土している。研磨は丁寧に施され、1は両刃で珪長岩製。7は片刃で、刃端部に使用の際に生じたと考えられる刃こぼれがみられる。閃緑岩製。

乳棒状磨製石斧—長い棒状の体部をもち、刃部が蛤刃状を呈するもの。頭部は細く、刃部に近づくと幅広になる。断面は楕円形である。刃部の形状は、幅がせまく平行する側縁をもつタイプ（11・24・17）と、幅広で側縁が平行かわずかに八字状に広がるタイプ（5・13・15・18・24）がある。特に、後者は弥生時代の太形蛤刃石斧と極似している。乳棒状磨製石斧の多くは体部にアバタ状の敲打痕を残している。石材としては閃緑岩が選択されている。なお、4は1度破損した石斧の両側に成形剥離を施し、体部に敲打を加えはじめた段階と考えられるもの。本遺跡の乳棒状石斧は頭部が細く棒状を呈する点で太形蛤刃石斧と断絶を持つが、閃緑岩系統の石材を選択する点で継がりをもっているといえよう。

20は刃部を欠いているが、反りをもつノミ状の磨製石斧。敲打痕を残しているが両面ともに刃部のある下方はよく研磨され、敲打痕のみられない平坦な面を形成している。特に、片面は幅1~1.8cmで頭部近くまで面とりされている。

3・10は磨製石斧の可能性をもつもの。3は欠損部分がいわゆる折れではなく平坦になっている。両面に研磨痕が観察されることから一応磨製石斧として取りあげた。雲母片岩製。10も研磨痕がみられる刃部片である。石墨片岩製。

⑧敲・磨・凹石・石皿（図77~81）

82点出土しており、完形・残存部分の大きいものを中心に39点を図化した。実測図では、磨面を-----（平面）、←→（断面）で、敲打痕は↔で表現している。これらの石器は凹石や一部の石皿を除いて、自然石を積極的に加工することなく、そのまま使用されることが多い。そのため、使用頻度が多ければ磨面・敲打痕（面）が形成され、石器として識別しやすいが、使用頻度の少ないものは石器と自然石の区別がむずかしい。したがって、実際の数量はもっと多いと考えられる。

敲石・磨石・凹石とされているものは、単独で敲打痕・磨面・凹部をもつものもあるが、複数の組み合わせをもつものも多い。そのため、器種として敲石・磨石・凹石と区別しないで、自然石に観察された敲打痕・磨面・凹部を一覧表で表した。

磨面は、敲打痕・凹部に比べて単独でみられることが多い。敲打痕は、単独でみられることもあるが、磨面・凹部との組み合わせでみられるものも多い。凹部は磨面・敲打痕との組み合わせでみられるのが大半である。このうち、磨面と凹部は、平坦な面にみられ、敲打痕は、礫の上下端、側縁部に観察される。これらの石器は、平面形、断面形、使用痕の組み合わせなどで分類が可能であり、今後の課題である。石材としては砂岩が大半であるが、石英閃緑岩も利用されている。7は乳棒状の磨製石斧の可能性をもつもの。15は、偏平な円礫を素材としたもので、両面中央に凹部をもち、さらに円礫の周囲から剝離を加えている。剝離面の1枚が凹部を切っている。環状石斧の未製品（の放棄されたもの）の可能性をもつものである。

石皿としては38・49が出土している。

⑨その他の石器（図82）

上記以外の定形的でない石器を一括して、「その他の石器」として扱った。9点出土している。

1は、石鏃様の尖頭部を上下にもつもの。背面は自然面を有し、主要剝離面側から調整剝離を施して尖頭状に仕上げている。砂岩製。2は、破損した磨製石斧を再加工したスクレーパー状のもの。下方には磨製石斧の刃部だった研磨痕をわずかに残している。両側を調整剝離により直線状に体部を整えている。特に、右側縁は連続する小さな剝離が施され、刃部を形成している。この剝離は上方の破損面を一部切っており破損面は磨製石斧として使用された際のものと考えられよう。玢岩製。3は浅い弧状を呈するもの。両面にわたって細かな調整剝離を施して形を整えている。特に、片面は中央に稜が作りだされ、そのため断面は下辺がややふくらむ三角形を呈している。なお、縁辺の

全体にわたってつぶれがみられる。黒曜石製。4は、2次加工を有する縦長剝片である。背面はほぼ平行する2条の稜があり石刃状を呈している。腹面は上からの加撃による1枚の主要剝離面で、さらに両側に剝離が加えられている。特に、主要剝離面の右側辺に連続する剝離が施されている。この間には、さらに小さな剝離面がみられ、刃部としての調整剝離、もしくは使用痕として考えられよう。黒曜石製。

5～9は、円又は楕円形の自然礫の両面の中央に凹みを施しているもの。5点とも凹部のところで破損している。この凹部は敲打によってつくり出され、6・8・9は敲打の際による破損と考えられる。5・7は両面の凹部が中央で貫通しており、さらに凹部の敲打痕が研磨されている。さらに、5では貫通部分が円形になるよう面取りされている。このことから、凹部の形成は環状の石器を製作する工程の一部と考えられる。なお、これらは楕円形の礫も石材選択されていること、小ぶりのものがあること、貫通孔が小さいことなどから、環状石斧とは別のものと考えられ、環状石製品などと呼ばれるものである。5が花崗閃緑石、他は砂岩製。

註(1) 本遺跡は茅野市御社宮司遺跡とほぼ同時期にあたり、打製石斧の出土量も類似する。よって遺物の観察、分類にあたり、和田(1972)を参考にした。

(2) 平面形の分類基準は、和田(1982)にはほぼ従ったが、IV分銅型について今報告では若干基準を変えた。石器長軸に対し、斜めもしくはそれに直交する形で着柄されたと考えられるほどの深いえぐりが基部中央付近にあるものを、IV型とした。

(3) 小田静夫 1976「縄文中期の打製石斧」『どるめん』10号

参考文献

永峯光一 「氷遺跡の調査とその研究」 『石器時代』第9号 1969.6

和田博秋ほか『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—茅野市その5』昭和52・53年度— 1972.2

『縄文文化の研究』7 道具と技術 雄山閣 1983.5

表3 石器一覧表

石 鏃

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
1		S90・W87	II	凹・有	(1.61)	1.57	0.34	(0.55)	黒曜石	茎部先端欠	
2	1	S87・W90	II c	凹・無	3.28	1.8	0.38	1.8	チャート	先端欠	5角形鏃
3	2	S66・W72		凹・有	1.57	1.02	0.28	0.35	黒曜石	完	鏃
4		S90・W81	II・上	凹・有	1.48	(1.15)	0.24	(0.25)	黒曜石	片脚端欠	
5	3	S63・W66		凹・有	1.06	0.89	0.18	0.1	黒曜石	完	
6	4	IV区溝No.3		平・有	2.31	1.51	0.42	1.15	黒曜石	〃	
7	5	S69・W69	II	凹・有	1.69	1.09	0.27	0.35	黒曜石	〃	
8	6	S63・W72		凹・有	2.01	1.41	0.34	0.65	黒曜石	〃	
9	7	S63・W72		凹・有	1.98	(1.3)	0.32	(0.55)	黒曜石	片脚端欠	
10	8	S87・W90	I・下(II)	凹・有	2.07	1.37	0.33	0.55	黒曜石	完	有段
11	9	S87・W90	I・下(II)	凹・有	1.93	(1.3)	0.41	(0.7)	黒曜石	片脚欠	
12	10	S63・W72		凹・有	1.77	1.19	0.27	0.55	黒曜石	先端欠	未製品
13	11	S72・W69	I	円	1.5	1.41	0.47	0.75	チャート	完	
14	12	S87・W81	II	凸・有	2.71	1.17	0.41	1.15	黒曜石	〃	石錐か?
15	13	S87・W81	II		(2.01)	1.47	0.3	(0.5)	黒曜石	茎部欠	有段
16		S87・W81	II	凹・有	(1.29)	1.05	0.32	(0.35)	チャート	先端・茎部欠	
17		S90・W84	II	不明	2.34	1.77	0.47	1.53	黒曜石	—	未製品
18		S87・W81	II	不明	(1.11)	(0.69)	0.25	(0.1)	黒曜石	下部欠	
19	14	S66・W69	I	平・無	1.59	1.03	0.3	0.35	黒曜石	完	
20	15	S87・W72	I	凸・有	1.94	1.99	0.38	0.55	チャート	〃	
21	16	V区排土		凹・有	2.13	1.17	0.28	0.35	黒曜石	〃	
22	17	S93・W72	I	凹・有	1.99	1.37	0.36	0.65	黒曜石	〃	
23	18	S87・W90	I・下(II)	不明	(1.94)	(0.95)	0.3	0.65	黒曜石	片脚～茎部欠	
24	19	V区土壌14		凹・有	2.19	1.5	0.46	1.05	黒曜石	完	
25		S84・W90	II・b	凹・有	(1.86)	1.22	0.3	(0.5)	黒曜石	茎部欠	
26	20	S72・W69	I	凹・有	(1.73)	(1.17)	0.36	(0.55)	黒曜石	片脚・茎部欠	
27	21	S66・W66	I・II・上	凹・有	1.84	1.41	0.35	0.65	黒曜石	完	
28		S66・W66	I・II・上	凹・有	1.43	(0.98)	0.37	(0.4)	黒曜石	片足欠	
29	22	S87・W84	II・上	平・無	(1.9)	1.59	0.58	(1.15)	黒曜石	先端一部欠	
30	23	S84・W90	II・b	〃	1.91	1.4	0.52	1.1	黒曜石	完	
31	24	S84・W90	II・b	凹・無	1.74	1.36	0.28	0.55	黒曜石	〃	5角形鏃
32		S66・W72		不明	(2.9)	(1.69)	0.32	(0.95)	チャート	先端片脚欠	未製品
33		S84・W90	II	凹・有	(1.44)	1.48	0.24	(0.4)	黒曜石	上半部欠	
34	25	S69・W69	I	凸・無	(1.94)	1.51	0.35	(1.05)	黒曜石	先端部欠	
35	26	IV区12住排土内		平・無	2.02	1.23	0.28	0.5	黒曜石	完	
36	27	S90・W90	I・II・上	凹・有	2.15	1.22	0.27	0.4	黒曜石	〃	有段
37		S90・W81	II	凹・有?	(1.93)	(1.4)	0.3	(0.6)	黒曜石	片脚(茎)欠	
38	28	S87・W72	I	凹・無	2.21	1.51	0.4	0.75	黒曜石	完	
39	29	S69・W66	I	凹・有	1.81	1.09	0.23	0.3	黒曜石	〃	
40											欠番
41		S90・W87	II・上	凹・有	(1.76)	1.45	0.35	(0.65)	黒曜石	茎部先端欠	
42		S87・W57	I	凹・無	(1.87)	(1.7)	0.32	(0.55)	チャート	先端・片脚欠	
43		S63・W75		凹・有	1.35	(0.96)	0.24	(0.25)	黒曜石	片脚欠	有段
44		S63・W75		不明	(1.99)	(0.79)	0.34	(0.4)	黒曜石	先端・片脚欠	
45		S87・W90	II・b・c	凹・有	(1.6)	1.09	0.37	(0.55)	黒曜石	先端茎部欠	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
46		S 87・W90	II・b c・上	凹・有	2.15	(1.53)	0.36	(0.75)	黒曜石	片脚基部欠	
47	30	S 87・W90	II・c・下	凹・無	1.69	1.15	0.36	0.5	黒曜石	完	
48		S 87・W90	II・c	凹・有	1.44	(1.06)	0.28	(0.25)	黒曜石	片脚欠	
49		S 87・W84	II・上	凹・有	1.6	(1.18)	0.3	(0.35)	チャート	片脚欠	
50		S 87・W84	II・上	凹・有	1.85	(1.13)	0.33	(0.5)	黒曜石	両脚欠	
51		S 87・W81	II	凹・有	(3.18)	(1.72)	0.48	(1.65)	黒曜石	片脚、基部欠	
52	31	S 69・W69	II	凹・有	1.94	1.27	0.29	0.4	黒曜石	完	
53	32	S 69・W69	II	凹・有	(1.57)	1.52	0.36	(0.45)	黒曜石	先端欠	有段
54		S 90・93・W84		凹・無	2.21	(1.55)	0.46	(1.0)	黒曜石	片脚欠	
55		S 84・W90	II・上(I・下)	凹・有	(1.61)	1.07	0.24	(0.25)	黒曜石	基部欠	
56		S 84・W66	I	凹・無	2.42	1.14	0.23	0.45	チャート	片脚欠	
57		S 84・W90	II・b	凹・有	(1.38)	1.21	0.27	(0.45)	黒曜石	基部欠	
58		S 84・W90	II・b	凹・有	(1.63)	0.94	0.27	(0.45)	黒曜石	基部欠	
59		S 84・W90	II・b	凹・有	(1.66)	1.15	0.29	(0.45)	黒曜石	先端欠	
60		S 84・W90	II・b	不明	(1.6)	(1.68)	0.51	(1.1)	黒曜石	先端・下半部欠	
61		S 90・W90	II・上		(2.06)	(1.44)	0.35	(0.8)	黒曜石	片脚欠	
62		S 90・W90	II・上	凹・無	(1.97)	(1.59)	0.33	(0.85)	黒曜石	先端・片脚欠	
63	33	S 72・W72	II	凹・無	2.28	1.63	0.45	1.0	黒曜石	完	
64	34	S 84・W90	II	凹・有	1.56	1.32	0.37	0.6	黒曜石	〃	
65	35	S 66・W72		凹・有?	(2.1)	(1.62)	0.59	(1.5)	黒曜石	片脚(基部)欠	飛行機鏃有段
66	36	S 69・W69	I	凹・無	1.3	1.25	0.32	0.35	黒曜石	完	未製品
67	37	S 69・W72	II	円	1.95	1.23	0.3	0.7	黒曜石	〃	
68	38	S 66・W72		凸・無	2.73	1.42	0.74	3.05	黒曜石	〃	
69	39	S 66・W69	II・上	平・無	1.86	1.75	0.6	1.8	黒曜石	〃	
70		S 90・W90	I・II・上	不明	2.95	(1.95)	0.65	(2.5)	黒曜石	片脚欠	未製品か?
71		S 81・W96		凹・有	1.64	1.56	0.32	0.6	黒曜石	基部欠	
72	40	S 81・W72	II・中	凹・無	2.18	1.04	0.32	0.5	チャート	完	
73		S 75・W72	II・中	凹・有	1.96	1.33	0.25	0.45	黒曜石	基部欠	
74	41	S 90・W102	II・中(II b相当)	凹・有	2.64	1.53	0.38	0.95	黒曜石	完	
75		S 87・W87	II・b相当	凹・有	(1.83)	(1.1)	0.31	(0.35)	黒曜石	先端、片脚、基部欠	
76		S 87・W87	II・b相当	凹・有	(1.03)	1.21	0.35	(0.3)	黒曜石	上半部欠	
77		S 84・W90		凹・有	1.88	(1.1)	0.34	(0.4)	黒曜石	片脚欠	
78	42	S 69・W63	II・中	凹・有	2.25	1.32	0.4	1.0	黒曜石	完	
79	43	S 78・W93		凹・有	2.09	1.46	0.45	0.85	黒曜石	〃	
80		S 84・W108	II・上	凹・有	(1.55)	1.37	1.34	(0.3)	黒曜石	基部欠	有段
81		S 84・W96		凹・有	(1.38)	(1.25)	0.23	(0.3)	黒曜石	片脚・基部欠	
82		S 84・W93		凹・有	1.88	(1.31)	0.31	(0.55)	黒曜石	片脚、基部欠	
83	44	S 78・W69	II・中	平・有	1.33	1.13	0.22	0.2	黒曜石	完	
84		S 84・W93		凹・有	(1.74)	1.18	0.38	(0.45)	黒曜石	基部欠	
85	45	S 72・W81	II・中	凹・有	2.55	1.13	0.33	0.5	黒曜石	完	
86		S 84・W102	II・中(II b)	凸・有	2.02	1.05	0.28	0.3	黒曜石	〃	有段
87	46	S 72・W66	II	凹・有	2.81	1.31	0.31	0.9	チャート	〃	
88		S 72・W66	II・中	凹・有	1.61	(1.33)	0.37	(0.45)	黒曜石	片側辺欠	
89	47	S 66・W78	II	凹・無	(1.67)	1.98	0.57	(1.4)	チャート	上半部欠	特殊形
90		V 区		凹・無	(1.58)	1.51	0.28	(0.4)	黒曜石	先端部欠	
91		S 93・W105	II	凹・有	1.78	(1.2)	0.24	(0.35)	黒曜石	片脚欠	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
92		S78・W75	II・中	凹・無	(2.9)	(1.33)	0.39	(0.9)	黒耀石	先端、片脚欠	
93	48	S78・W75	II・中	凹・無	2.21	1.69	0.4	1.05	チャート	完	
94		S72・W75	II・中	凹・無	(2.23)	(1.31)	0.35	(0.7)	黒耀石	先端、片脚欠	
95		S84・W96		凹・有	(1.84)	(1.26)	0.36	(0.55)	黒耀石	先端、片脚基部欠	
96		S81・W96		不明	(1.59)	(1.42)	0.34	(0.7)	黒耀石	下半部欠	
97		S75・W72	II・中	凹・有	(1.31)	1.45	0.27	(0.45)	黒耀石	先端、基部欠	
98	49	S84・W105	II a相当	円	2.45	1.68	0.47	1.45	黒耀石	完	
99		S84W105	II・a相当	凹・有	(1.63)	(1.32)	0.33	(0.35)	黒耀石	基部、片脚欠	
100		S84W105	II・a相当	凹・有	1.5	(1.5)	0.3	(0.35)	黒耀石	片脚欠	
101		S84W99	II	凹・有	2.48	(1.11)	0.41	(0.6)	黒耀石	片脚欠	
102	50	S84W99	II	凹・有	(1.25)	1.4	0.34	(0.4)	黒耀石	先端、基部欠	有段
103	51	S72W72	II・中	凹・有	2.06	(1.25)	0.26	(0.4)	黒耀石	片脚欠	
104	52	S87W99	II・中(II・b)	凹・無	1.34	1.26	0.19	0.25	黒耀石	完	
105	53	S75W72	II・中	凹・無	1.84	1.61	0.33	0.7	黒耀石	〃	
106		S81W93		不明	(1.24)	(1.25)	0.28	(0.3)	黒耀石	下半部欠	
107		S93W90	II・中	凹・有	(2.47)	1.66	0.43	(1.0)	黒耀石	基部欠	
108	54	S84W93		凹・無	2.37	1.56	0.25	0.9	チャート	完	
109	55	S87W108	II・b相当	凹・有	2.44	1.43	0.39	1.05	黒耀石	〃	
110	56	21住		凹・有	2.75	1.39	0.42	1.25	チャート	〃	
111		S83W93		凹・有	1.68	(1.23)	0.28	0.35	黒耀石	片脚欠	
112	57	S83W93		凹・有	1.43	1.14	0.41	0.45	黒耀石	完	
113	58	S78W81	II・中	凸・有	1.72	1.19	0.31	0.4	黒耀石	〃	
114		S78W81	II・中	不明	(2.83)	(2.32)	(0.59)	2.7	黒耀石	下半部欠	未製品か？
115		S93W105	II・上	凹・有	(1.52)	(1.02)	0.14	(0.2)	黒耀石	先端、片脚欠	
116		S84W99	II・上	凹・有	(1.67)	1.07	0.31	(0.4)	黒耀石	先端欠	
117	59	S78W90		凸・無	2.16	(1.04)	0.49	1.0	黒耀石	片側辺欠	
118		S93W87	II・上	不明	(2.1)	(1.7)	0.49	1.3	黒耀石	(縦割)半分欠	
119											欠番
120		S78W96	II	凹・？	(1.86)	(1.52)	0.44	0.9	黒耀石	両脚欠	
121	60	S84W96		凸・有	2.6	0.93	0.5	0.85	黒耀石	完	
122	61	S90W108	II	凹・有	(4.14)	(1.35)	0.56	2.3	チャート	片脚、基部欠	
123	62	S78W93	II・上	凹・有	1.98	1.54	0.47	0.8	黒耀石	完	
124		S90W78	I、II・上	凹・有	1.96	(1.12)	0.26	(0.35)	黒耀石	片脚欠	
125		S78W90	II・上	凹・有	(2.31)	1.38	0.5	(1.05)	黒耀石	先端欠	
126		土壙32		凹・有	1.4	(1.01)	0.21	(0.2)	黒耀石	片脚欠	
127	63	S69W75	II・下	平・無	1.91	1.12	0.42	0.7	黒耀石	完	
128		S87W96	II b・上	凹・有	2.16	(1.36)	0.44	(1.0)	黒耀石	片脚欠	
129	64	S87W96	II b・上	凸・有	1.37	0.83	0.3	0.25	黒耀石	完	
130	65	S75W84		凹・有	(2.63)	(1.34)	0.31	(0.8)	黒耀石	片脚、基部欠	特殊形
131	66	S87W93	II・上	凹・有	1.54	1.29	0.27	0.4	黒耀石	完	
132		S81W87	II	平・有	(1.9)	1.25	0.4	(0.7)	黒耀石	片脚、基部欠	
133		S90W87	II	凹・有	2.23	(1.41)	0.44	(1.15)	チャート	片脚先欠	
134	67	S90W87	II	円	2.15	1.53	0.38	1.1	黒耀石	完	
135		S81W96	II・上	凹・無	(2.35)	(1.48)	0.38	(1.25)	黒耀石	先端、片脚欠	
136		S81W96	II・上	平・有	(2.05)	(1.7)	0.38	(1.0)	黒耀石	片脚、基部欠	
137		S87W87	II	凹・有	(1.88)	(1.33)	0.31	(0.75)	チャート	先端、片脚欠	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
138	68	S78W90	II・上	凹・無	2.77	1.57	0.5	1.85	安山岩	完	
139	69	S81W90	II・上	円	1.65	1.32	0.38	0.65	黒耀石	〃	
140	70	S78W93	II・上	円	1.85	1.28	0.34	0.7	黒耀石	〃	
141	71	S84W90	II c	凹・無	1.99	1.59	0.35	0.8	黒耀石	〃	
142		S84W90	II c	凸・有	1.66	(1.06)	0.28	(0.3)	黒耀石	片脚、茎部欠	
143	72	S78W81	II・上	平・有	3.19	1.83	0.52	1.85	チャート	完	
144	73	S75W87	II・上	平・有	2.98	1.78	0.58	2.6	チャート	〃	
145	74	土壊37		凹・無	2.33	2.11	0.34	1.55	チャート	〃	
146		土壊37		凹・有	(0.83)	1.1	0.23	(0.2)	チャート	茎部上半欠	
147		土壊37		凹・有	1.9	(1.15)	0.28	(0.45)	黒耀石	片脚欠	
148	75	土壊37		平・有	1.43	0.85	0.27	0.25	黒耀石	完	
149	76	S75W84	II・上	凹・有	2.54	1.43	0.43	1.2	黒耀石	〃	
150		溝7(M-3)		平・無	(1.69)	1.4	0.44	(0.8)	黒耀石	先端欠	
151		S72W75	I・II・上	凹・有	(1.76)	1.38	0.31	(0.55)	黒耀石	片側辺欠	
152	77	17住		凹・有	1.52	0.88	0.22	0.2	黒耀石	完	
153		土器集中区3		凹・有	(2.35)	(1.18)	0.37	(0.7)	黒耀石	片脚、茎部欠	
154	78	土器集中区3		凹・有	2.09	1.11	0.31	0.65	チャート	完	
155		S87W93	II b・上	不明	(1.71)	(1.89)	0.49	(1.25)	黒耀石	下半分欠	
156	79	S90W93	II・上	凹・有	1.94	1.34	0.27	0.4	黒耀石	完	有段
157	80	S72W84	I	凹・有	2.61	1.58	0.4	1.3	黒耀石	〃	
158		S81W84	II a	凹・有	(1.57)	(1.1)	0.24	(0.3)	黒耀石	片脚先、茎部欠	
159		S93W105	II・上	凹・有	(1.82)	1.65	0.34	(0.6)	黒耀石	先端欠	
160	81	S78W90	II・上	凹・有	1.88	1.33	0.4	0.95	黒耀石	完	
161	82	S81W93		凹・無	1.91	1.37	0.38	0.5	黒耀石	〃	
162		S81W93		凹・有	(1.61)	1.19	0.41	(0.7)	黒耀石	先端欠	
163		土器集中区3		凹・有	(1.65)	(1.22)	0.24	(0.25)	黒耀石	片脚先、茎部欠	
164		S87W87	II	不明	(2.36)	(1.42)	0.42	(1.05)	黒耀石	片脚(茎部)欠	
165	83	S90W87	II	凹・有	1.57	1.08	0.34	0.35	黒耀石	完	
166	84	S90W87	II	凹・有	20	1.38	0.4	0.8	黒耀石	〃	
167		19住		不明	(1.62)	(1.46)	0.24	(0.45)	黒耀石	下半部欠	未製品か？
168		19住		不明	(1.15)	(0.97)	0.22	(0.2)	黒耀石	下半部欠	
169		S96W96	II・上(IV・上)	凹・有	2.26	1.41	0.23	(0.4)	黒耀石	片脚欠	特殊形
170		溝7		凹・有	1.9	(1.32)	0.36	(0.5)	黒耀石	片脚欠	
171		溝7		凹・有	(1.39)	1.13	0.34	(0.3)	黒耀石	茎部欠	
172		S72W84	I	不明	(1.2)	1.34	0.26	(0.25)	黒耀石	下半部欠	
173	85	S72W75	II・中	凸・有	1.98	1.12	0.58	1.25	黒耀石	完	
174		S84W84	II・上	凹・有	(2.28)	1.52	0.48	(1.15)	黒耀石	茎部欠	
175	86	S90W96	II b・上	凹・有	1.46	1.15	0.33	0.35	黒耀石	完	
176		S84W84	I	平・無	2.25	1.7	0.41	1.55	黒耀石	〃	未製品か？
177		S84W84	I	円？	1.84	(1.37)	0.26	(0.5)	黒耀石	片脚欠	
178		S90W108		円	(2.46)	1.44	0.58	(1.75)	安山岩	先端欠	
179		S78W87		不明	(2.24)	(1.25)	0.44	(1.0)	黒耀石	両脚欠	未製品
180	87	S90W78	I・II・上	平・無	2.14	1.22	0.5	1.2	黒耀石	完	
181		S87W93	II b	不明	(1.3)	(1.05)	0.14	(0.15)	黒耀石	両脚欠	
182	88	S66W72		凹・有	1.98	1.57	0.46	1.0	黒耀石	完	
183	89	S84W90	II c	凹・有	2.05	1.36	0.32	0.75	黒耀石	〃	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
184	90	S84W90	II c	凹・有	2.33	1.58	0.43	1.05	黒曜石	〃	
185	91	S69W75	II	凹・有	1.39	1.32	0.31	0.4	チャート	〃	
186		18住		平・有	(2.5)	1.72	0.31	(1.05)	黒曜石	先端欠	
187	92	土壌27		凹・有	1.83	1.15	0.28	0.4	黒曜石	完	
188	93	S87W87	II	平・有	2.8	1.22	0.6	0.95	不明	〃	
189		S87W87	II	凹・有	(1.74)	(1.37)	0.27	(0.5)	チャート	先端、片脚欠	
190		S87W87	II	凹・有	1.47	(1.14)	0.28	(0.3)	黒曜石	片脚欠	
191		S93W93	II	凹・有	(1.69)	1.14	0.36	(0.5)	黒曜石	先端欠	
192		S78W96	II・中	凹・有	(1.63)	1.18	0.2	(0.25)	黒曜石	先端、茎部欠	有段
193	94	S90W87	II	凹・有	2.11	1.41	0.44	1.05	黒曜石	完	
194	95	S90W87	II	凹・有	1.61	1.46	0.35	0.8	チャート	〃	
195		S69W75	II・上	凹・有	(1.15)	(1.13)	0.28	(0.25)	黒曜石	上半部片脚欠	
196		S84W87	II・上	凹・有	1.86	1.31	0.29	0.5	チャート	完	
197		土器集中区		凹・有	1.88	(1.26)	0.2	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
198		S87W84	II・上	凹・有	(1.83)	1.53	0.35	(0.7)	黒曜石	先端欠	
199		排土内		凹・有	1.9	(1.05)	0.31	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
200		S90W87	II	凹・有	(1.65)	1.5	0.33	(0.6)	黒曜石	先端欠	
201		土器集中区2		凸?	(3.51)	1.78	1.12	(6.4)	黒曜石	基部 or 下先端欠	石槍か?
202	96	S87W87	II	凹・有	2.05	1.26	0.36	0.75	チャート	完	
203	97	S87W87	II	凹・有	1.51	1.24	0.24	0.4	チャート	〃	
204		S87W87	II	凹・有	(2.06)	(1.45)	0.36	(0.65)	黒曜石	片脚、茎部欠	有段
205		S87W87	II	凹・有	(1.54)	1.17	0.26	(0.4)	黒曜石	先端欠	
206		S66W69		凸・有	(2.02)	1.46	0.44	(0.95)	黒曜石	茎部欠	
207		S66W69		凹・有	1.51	0.97	0.3	0.2	黒曜石	完	
208		S90W87	II	凹・有	1.31	1.27	0.32	0.35	黒曜石	〃	
209	98	土壌24		凹・無	(1.26)	1.54	0.34	(0.55)	黒曜石	先端欠	先端破損後に調整
210		S96W105	I	凹・有	(1.8)	1.2	0.39	(0.65)	黒曜石	先端欠	
211	99	土壌34		凹・有	2.03	1.41	0.52	1.25	黒曜石	完	
212	100	S69W69		凹・有	1.3	1.04	0.28	0.25	黒曜石	〃	
213	101	S75W63	I	平・無	1.79	1.51	0.39	0.75	黒曜石	先端欠	
214	102	S78W84	II・上	平・無	2.51	2.1	0.56	3.15	チャート	完	未製品か?
215	103	S78W90		平・無	1.57	1.21	0.36	0.75	チャート	〃	未製品か?
216		S93W105	I・II・上	円	(2.79)	1.4	0.79	(2.95)	黒曜石	先端欠	
217	104	S90W81	II・上	平・無	3.47	1.58	0.85	4.25	黒曜石	完	石槍か?
218		S87W99	II・上	凸・?	(1.89)	0.89	0.32	(0.55)	黒曜石	下半部欠	
219		S81W96	II・上	不明	(1.42)	(1.74)	0.26	0.55	チャート	下半部欠	
220	105	S90W87	II	平・無	1.74	0.91	0.36	0.55	黒曜石	完	
221	106	土壌37		円	2.11	0.9	0.45	0.8	黒曜石	〃	挟りこみ有り
222		S78W93	II	凸・無?	(1.87)	1.57	0.43	0.92	黒曜石	先端、片脚欠	
223		S78W69	II	不明	(3.88)	(1.95)	1.0	(6.55)	黒曜石	両脚欠	石槍か?
224		S81W87	II	不明	(2.2)	(1.02)	(0.23)	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
225		S69W63	II・上(I)	平・無	(2.15)	(1.22)	(0.4)	(1.02)	黒曜石	片脚欠	
226		排土		凸・有	1.76	0.92	0.42	0.65	黒曜石	完	
227		土壌23		凹・無	1.58	1.29	0.41	0.76	黒曜石	〃	未製品
228		土壌18			2.48	1.34	0.32	0.97	黒曜石	〃	未製品
229		S66W69	I		(2.38)	(1.91)	0.82	4.75	チャート	上半部欠	石槍か?

No.	図 No.	出土	土層	基部	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
230		S90W84	II	凹・有	1.32	1.27	0.22	0.3	チャート	完	
231		S90W84	II	不明	(1.01)	(1.22)	(0.34)	(0.31)	チャート	下半部欠	
232		S87W90/S84W90		平・無	2.6	(1.88)	0.45	(1.78)	チャート	片脚欠	
233		土壌38		円	2.06	1.07	0.44	0.78	黒曜石	完	
234		S72W69	I	凹・有?	1.98	1.55	0.38	0.87	黒曜石	側面欠	
235		S90W84	II・上	不明	1.96	1.22	0.38	(0.84)	黒曜石	下半部欠	
236		土壌38		平・無?	1.7	(1.6)	0.4	(1.52)	黒曜石	片脚欠	
237		S90W87	II	不明	(2.03)	(1.75)	0.39	(1.23)	黒曜石	片脚欠	
238	107	S90W84	II	凸・有	2.18	(0.96)	0.35	(0.61)	チャート	片脚欠	
239		S90W84	II	凹・無	(1.74)	(1.35)	0.38	(0.53)	黒曜石	両脚先端欠	
240		S66W69	I	平・無	3.55	2.79	0.86	(9.45)	チャート	完	未製品か?

石 錐

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	錐部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S69W66	I	2.76		0.6	1.25	黒曜石	完	頭部磨耗
2	2	S69W66	II・上	3.01		1.16	3.1	黒曜石	〃	頭部、錐部共に磨耗
3	3	S72W72	I	2.58		0.58	1.55	黒曜石	〃	頭部、錐部共に磨耗
4		S87W90	II c・F	(2.0)		0.69	(0.9)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
5		S66W75	I	(1.69)		0.49	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
6	4	S90W81	II・上	3.01		0.65	1.5	黒曜石	完	錐部磨耗
7		溝7(M-31)		(2.44)		0.73	(2.15)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
8		S90W90	II・上	(1.18)		0.32	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、錐部磨耗
9	5	S87W108	II b	2.55		0.57	1.55	黒曜石	完	錐部磨耗
10	6	S84W93	II・上	2.49		0.4	0.85	黒曜石	〃	錐部磨耗
11	7	S93W87	II・上	3.03	0.62	0.85	2.15	黒曜石	〃	つまみ、屈曲
12	8	S72W72	II・中	2.62		0.75	1.55	黒曜石	〃	
13		溝7		(1.26)		0.35	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、錐部磨耗
14		S84W102	II・中	2.5	0.46	0.48	1.15	黒曜石	完	つまみ
15		S81W92		(1.54)		0.53	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
16	9	S72W72	II・下	4.3	0.83	0.6	4.35	砂岩	完	つまみ
17	10	S90W108	II・中	2.24		0.63	1.15	黒曜石	〃	錐部磨耗
18	11	S84W96		3.19	0.67	0.37	0.95	黒曜石	〃	つまみ
19		S81W90	II b	(1.99)		0.44	(0.55)	黒曜石	頭部欠	
20		S87W78	II	(1.86)		0.7	(1.35)	黒曜石	頭部欠	
21		溝7		3.33		0.66	1.55	黒曜石	完	
22	12	S78W84		3.22		0.72	2.15	黒曜石	〃	
23	13	S78W81	II・中	4.16	0.68	1.2	2.6	黒曜石	〃	
24	14	S84W81		3.4		0.55	2.1	チャート	〃	
25	15	S90W102	II・中	3.87		0.82	4.2	黒曜石	〃	
26	16	S75W75	II・中	2.47		0.66	1.35	黒曜石	〃	錐部磨耗
27		S84W93		(2.31)		0.58	(1.0)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
28		S84W96		(1.91)		0.61	(0.75)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
29	17	S84W90		2.96		0.64	1.85	黒曜石	完	
30		S72W66	II・中	(1.84)		0.48	(0.8)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
31	18	S84W93		3.89		0.64	1.9	黒曜石	完	

No	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	錐部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
32	19	S75W72	II・中	3.61	0.94	0.91	2.5	黒曜石	〃	つまみ
33		S75W75	II・中	(3.17)	(0.66)	0.84	(2.9)	黒曜石	錐部欠	つまみ
34	20	S90W102	II・中	(3.24)	(0.76)	0.74	(2.7)	黒曜石	錐部欠	つまみ
35	21	S72W75	II・中	2.21		0.64	1.0	黒曜石	完	
36	22	S72W75	II・中	1.92		0.59	0.95	黒曜石	〃	錐部磨耗
37	23	S72W75	II・中	1.89		0.44	0.75	黒曜石	〃	
38	24	S78W96	II	2.07		0.43	0.6	黒曜石	〃	錐部磨耗
39	25	S78W93		3.8		0.5	2.2	黒曜石	〃	錐部磨耗
40	26	S75W87	II・上	2.97		0.55	1.6	黒曜石	〃	
41	27	S75W84	II・上	2.29		0.52	1.1	チャート	〃	
42	28	S90W87	II	3.33		0.53	2.15	黒曜石	〃	
43										欠番
44		S81W90	II・上	2.32	0.66	0.45	1.25	黒曜石	完	つまみ
45		S84W78		(2.31)		0.65	(1.4)	黒曜石	頭部欠	
46	29	S69W69	II・III	2.41		0.61	1.05	黒曜石	完	錐部磨耗
47	30	土器集中区3		2.96		0.54	2.3	チャート	〃	未製品か？
48	31	S69W72		2.55		0.65	1.6	黒曜石	〃	
49	32	S69W72		3.94		0.58	2.0	黒曜石	〃	錐部磨耗
50	33	土壙23		2.24		0.62	1.3	黒曜石	〃	錐部磨耗
51	34	S69W72		2.41		0.83	1.9	黒曜石	〃	
52	35	S81W84	II a	2.79		0.54	1.5	黒曜石	〃	
53	36	S87W96	II・上	(3.26)		0.65	(2.5)	黒曜石	頭部欠	
54	37	S90W96	I・II・上	(2.67)		0.8	(1.9)	黒曜石	錐部欠	
55	38	S78W90	II・上	(2.9)		0.53	(1.5)	黒曜石	頭部欠	
56	39	S81W84	II a	3.02		0.71	2.3	黒曜石	完	頭部、錐部ともに磨耗
57	40	S75W90	II・上	2.76		0.6	1.2	黒曜石	〃	
58	41	土壙28		(2.73)		0.67	(1.3)	黒曜石	頭部欠	
59		S87W93		(2.18)		0.38	(0.75)	黒曜石	頭部欠	
60	42	土壙37		2.73		0.44	1.0	黒曜石	完	石鏃か？
61	43	S84W84	II・上	2.54		0.49	0.75	黒曜石	〃	
62	44	S84W96	II a・上	(2.41)		0.63	(1.4)	黒曜石	錐部欠	
63		S87W87	II	(2.5)	(0.69)	0.48	(1.25)	黒曜石	頭部、錐部欠	つまみ
64	45	S78W93		1.71		0.53	0.6	黒曜石	完	
65		S81W96		(1.59)		0.56	(0.63)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
66	46	S69W66	II・上	2.53		0.53	1.19	黒曜石	完	
67		S81W84	II a	(1.95)		0.53	(1.25)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
68		S72W72	I	(1.42)		0.52	(0.5)	黒曜石	錐部先端欠	つまみ不明
69	47	S78W78	I・II	(1.92)		0.41	(0.59)	黒曜石	頭部欠	錐部磨減
70	48	S69W75	II・上	(2.07)	(0.59)	0.61	(0.88)	黒曜石	錐部先端欠	錐部磨減、つまみ
71	49	S69W75	I・下、II・上	2.61		0.55	1.38	黒曜石	完	
72		S69W75	I・下、II・上	2.09		0.74	1.97	黒曜石	〃	つまみ不明、錐部磨減
73	50	S87W81	II	2.61	1.07	0.68	1.6	黒曜石	〃	つまみ
74	51	S90W96	II a	2.75		0.58	1.69	黒曜石	〃	錐部磨減
75		S90W90	I・II・上	1.32		0.39	0.25	黒曜石	〃	
76		S87W90	II b・下	(3.09)		0.62	(2.27)	黒曜石	頭部欠	
77		S90W84		2.15		0.82	2.04	黒曜石	完	錐部磨減

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	錐部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
78		S 90W84	II	1.87		0.62	1.01	黒曜石	〃	錐部磨減
79		S 84W90	II b	(2.29)		0.51	(1.22)	黒曜石	頭部欠	錐部磨減
80		S 63W69		(1.85)		0.5	(0.96)	黒曜石	頭部欠	錐部磨減
81	52	S 93W81	II・上	2.38	0.56	0.49	1.57	黒曜石	完	つまみ
82		S 96W105	I	2.54	0.71	0.78	2.18	安山岩	〃	つまみ、石鏃か?
83		S 87W90	II a	1.23		0.53	0.5	黒曜石	〃	錐部、頭部磨減
84		S 87W90	II a	1.34		0.31	0.24	黒曜石	〃	錐部磨減
85		S 72W75	II	2.33		0.42	0.95	黒曜石	〃	

石 匙

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S 93W102	II	3.48	(6.65)	0.83	15.60	硬砂岩	側端欠	
2	2	S 87W81	II	1.49	2.85	0.42	1.20	黒曜石	完	

ピエス・エスキーユ

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	11号住		2.34	(1.98)	0.72	3.7	黒曜石	側端部欠	
2	2	S 75W84	II	2.00	2.00	0.63	3.0	黒曜石	完	
3	3	S 84W96		2.44	2.02	0.65	2.2	黒曜石	〃	
4	4	土壌52		2.29	2.21	0.63	2.9	黒曜石	〃	
5	5	土壌13		2.79	(1.60)	0.91	3.2	黒曜石	半身部欠	

スクレーパー

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	13住南側		4.48	10.04	1.70	86	硬砂岩	完	自然面 横長剥片
2	2	S 63W9		5.75	9.11	1.31	90	硬砂岩	〃	自然面 横長剥片
3	3	S 81W81	II・上	4.02	8.23	0.69	30	砂岩	側端部欠	自然面 横長剥片
4	4	溝5に切られる土壌		5.32	0.78	1.23	82	砂岩	完	自然面 横長剥片
5	5	S 81W93		3.96	(5.31)	0.94	30	ホルンフェルス(砂岩)	½欠	自然面 横長剥片
6		不明		5.07	6.81	1.12	45	細粒砂岩		自然面 横長剥片
7	6	E 3 S 45 N E		8.58	10.89	1.25	160	チャート	完	自然面 横長剥片
8	7	S 75W84	II・中	6.04	(7.33)	1.00	54	砂岩	½欠	自然面(側端部)横長剥片
9	8	S 96W102	I	6.66	(8.40)	1.10	75	砂岩	側端部欠	
10		不明		4.25	(6.20)	1.12	29	砂岩	½欠	磨耗
11	9	13住南側検出面		6.94	10.51	2.10	140	硬砂岩	完	
12	10	S 78W90	II・上	6.44	6.93	1.18	50	砂岩	〃	
13	11	S 72W81	II・中	7.28	8.23	1.41	86	砂岩	側端部欠	
14	12	溝1		9.56	10.92	3.16	314	砂岩	完	自然面
15	13	S 78W81	II・中	(4.84)	4.84	1.00	26	砂岩	側端部欠	
16	14	S 72W81	II・中	8.34	10.93	2.06	186	硬砂岩	完	自然面(両面)
17	15	S 81W84	II・中	6.64	6.36	0.73	42	砂岩	½欠	
18		土壌53		4.21	7.47	1.66	45	石英閃緑岩		磨製石斧か?
19	16	11住		7.58	6.78	0.53	53	千枚岩	完	
20	17	S 84W84	II a	6.24	7.39	1.22	79.49	砂岩	½欠	自然面打製石斧か?

打製石斧

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
1	50	S84W78NE	II・中	12.13	5.12	2.14	165	III-B	硬砂岩		下から½	—	
2		S72W78NE	II上	11.25	4.26	1.9	116	III-A	砂岩			—	
3	39	S84W965		12.14	3.80	1.66	110	III-A	〃			—	
4	54	S84W9628		11.07	5.19	2.31	144	III-B	ホルンフェルス(砂岩)		基端面	—	
5	46	S84W99SW	II中	14.12	5.57	2.07	19.4	II-B	硬砂岩			—	
6		S87W81SW	II	9.25	4.53	1.56	79	I-A	〃		基部付近	—	
7		S81W63SE	I・II(上)	10.93	6.69	2.14	217	III-B	〃		刃部付近	—	
8		V区半検出面		7.42	5.49	1.44	76	III-B	砂岩			—	
9		S69E9NE		7.71	6.58	2.54	140	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
10	45	土壌17		18.69	4.88	2.33	325	III-B	千枚岩			—	風化
11		S78W93SE	II上	11.78	3.64	1.5	73	II-A	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗	上半½	—	
12		表土検出面		11.54	3.32	1.14	69	II-B	砂岩		％	—	
13		S90W93NW	II上	12.62	6.24	1.86	194	II-B	ホルンフェルス(砂岩)		胴部	—	風化
14	51	S81W96NE	II上	11.67	4.76	1.91	145	III-B	硬砂岩	線条痕、刃部磨耗	全面	—	
15	52	S81W93ベルトNW		12.95	5.81	2.78	278	III-B	砂岩			—	風化
16	53	S87W81NE	II	10.31	4.54	1.75	135	III-B	〃	刃部、片側面一部磨耗	基端面	—	
17	44	S84W9627		12.12	4.83	1.14	84	II-B	珒岩	刃部片面磨耗		—	
18		S84W814		10.43	6.51	3.2	320	III-B	硬砂岩			—	
19		S66W69SW	I	6.64	4.98	1.72	86	III-B	〃			—	
20		土器集中区3周辺		6.79	4.34	1.69	62	III-B	頁岩	刃部両面磨耗	胴部	—	
21	56	S78W93SW	II上	11.02	5.38	1.53	132	III-C	砂岩			—	ねじれ
22	32	S75W81SE	II中	10.29	5.6	1.73	105	I-C	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗	両面	—	
23	57	S81W36NE	II上	11.84	5.14	2.65	144	III-C	硬砂岩		基部付近、刃部付近	—	
24	47	S63W63NE		12.89	5.11	1.9	155	II-C	砂岩	刃部磨耗	下から％	—	
25		S90W102SW	II上	10.85	4.45	1.75	109	II-C	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗	基端面	—	
26	55	S78W876		8.78	4.33	1.22	67	III-C	砂岩			—	風化
27		S72W81SW	II中	14.64	5.29	1.92	183	III-C	硬砂岩			—	
28	15	S87W96SW	II	16.30	7.42	2.69	452	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部～刃部	—	
29	4	S87W96	II	13.99	5.94	2.06	186	I-B	石英閃緑岩	刃部磨耗	片側	—	
30	5	土壌58下層		13.68	5.71	2.07	144	I-B	硬砂岩	刃部両面磨耗	下から½	—	ねじれ
31	28	S87W90NE	IIc・下	11.12	4.60	1.72	105	I-B	砂岩	刃部磨耗		—	
32		S81W9623		12.88	5.33	1.72	151	II-B	緑色火山岩		全面	—	
33	13	S72W72SW	II上	12.0	5.15	1.5	110	I-B	砂岩		上％	—	
34	70	S69W72南半住居上面		11.04	5.56	1.72	142	II-A	硬砂岩		基部～刃部	—	
35	2	S87W81NE	II	12.62	6.09	1.13	188	I-A	ホルンフェルス(頁岩)		基部付近	—	
36		S87W81SE	II	14.90	4.76	2.26	158	I-B	硬砂岩		基部側面付近	—	ねじれ
37	10	S87W102SE	II上	14.57	5.37	2.25	226	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	風化
38	42	S87W81SW	II	12.51	4.65	2.22	148	II-B	硬砂岩		胴部～刃部	—	
39	41	S84W8128		12.38	4.48	1.15	95	II-A	千枚岩	側縁部磨耗	％	—	
40	11	S81W7820		14.2	5.96	2.45	200	I-B	硬砂岩		刃部	—	
41	7	S63W72NW	I	13.21	5.81	2.25	195	I-B	砂岩		基部～刃部	—	
42		S93W87NW	II上	10.92	5.14	1.58	119	I-B	安山岩		刃部付近	—	風化
43	31	S72W75SE	II中	10.80	4.98	1.49	120	I-B	砂岩		刃部％	—	
44	6	S78W99SE	II上	13.34	6.24	1.32	150	I-B	硬砂岩			—	
45	29	土壌37		12.15	5.76	2.31	164	I-B	〃		基部、刃部½	—	
46	58	S90W84NW	II上	12.82	5.37	3.17	225	III-C	〃		下半½	—	
47		不明		12.11	6.1	1.64	170	I-C	〃		基部付近	—	
48	34	土壌38		13.19	5.92	1.23	119	I-C	ホルンフェルス(砂岩)		基部～刃部	—	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
49	33	S 81W105 SW	II上	12.21	5.46	2.11	133	I-C	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗		—	
50	35	S 50W90 S E	II上	12.67	8.72	1.85	192	I-C	砂岩		%	—	
51	16	表採		11.56	6.20	3.12	319	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
52		S 81W93 ²⁹		12.26	5.19	1.64	125	I-C	ホルンフェルス(砂岩)		全面	—	
53		S 72W78 N E	II中	10.91	6.11	2.12	187	IV-C	粘板岩		上半½	—	
54	38	S 90W81 N E	II	10.68	5.56	1.67	144	I-C	砂岩		基部~刃部	—	
55	8	S 75W69 N E	II中	12.03	5.63	2.32	173	I-B	安山岩			—	
56	18	S 93W108 S E	II上	10.65	3.97	1.28	64	I-B	砂岩	刃部磨耗		—	
57		S 72W72 N E	I	9.52	3.95	0.97	50	I-B	ホルンフェルス(真岩)	基部一部磨耗	全面	—	
58	49	S 84W105 NW	II a	7.97	3.21	1.27	38	II-B	ホルンフェルス(砂岩)		胴部~刃部½	—	
59		S 69W75 S E	I下・II上	8.47	2.83	1.07	29	I-B	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗		—	
60		S 66W69 N E	I	9.12	4.34	1.74	95	I-B	硬砂岩		基部~刃部	—	
61	9	S 66W72 焼土面西半		10.88	4.44	1.25	68	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
62		S 75W87 N E	I	8.31	4.89	2.17	105	II-B	硬砂岩			—	
63		S 66W72 焼土面西半		8.09	3.82	1.03	30	I-A	砂岩		基部~刃	—	
64	30	S 84W96 ²⁸		6.63	3.93	0.99	32	I-B	硬砂岩			—	
65		S 84W96 S W	II a 上	9.27	4.56	1.28	60.1	I-C	砂岩	刃部磨耗		—	
66		S 75W75 NW	II中	9.2	4.14	0.94	41	II-B	〃			—	
67		S 87W90 S E	II c	9.61	4.69	1.23	73	II-B	〃			—	
68	26	S 84W81 ²⁸		10.47	4.89	1.61	96	I-B	硬砂岩	刃部、側縁部磨耗	側縁部	—	
69	17	S 84W87 ¹⁶		9.59	4.71	1.56	88	I-B	〃	刃部磨耗		—	
70		S 87W78 ²		10.59	5.65	2.62	177	I-B	〃		胴½	—	
71	14	S 84W108 NW	II上	11.65	7.62	2.04	235	I-B	砂岩		全面	—	
72	19	S 90W102 S E	II上	7.79	6.15	1.58	100	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		〃	—	
73		S 81W78 NW	I・II	9.58	7.13	2.46	173	I-B	砂岩			—	
74	20	S 90W90 N E	II中	7.58	5.49	1.85	106	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		胴部	—	
75	21	土塊37西		8.43	6.46	1.81	99	I-B	硬砂岩	線条痕	刃部片側面	—	
76		S 81W90 ²⁶		11.8	6.74	1.33	164	I-B	砂岩		両面	—	
77	43	V区排土		11.87	4.71	1.25	88	II-B	ホルンフェルス(砂岩)		全面	—	
78		S 72W72 S E	II中	7.86	7.33	1.69	139	I-B	砂岩		胴部	—	
79		S 93W72 S E	I	10.73	8.91	3.2	248	I-B	硬砂岩			—	
80	22	S 63W9 S W		12.71	8.01	2.50	256	I-B	砂岩		基部~刃部	—	
81	24	土塊37		9.04	5.44	2.42	199	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		〃	—	
82	23	S 87W96 N E	II b 上	10.09	6.17	1.55	115	I-B	硬砂岩			—	
83	25	S 72W75 S E	II中	97.1	5.24	1.48	99	I-B	石英閃緑岩			—	
84	36	S 54W15 S E		14.29	7.41	3.10	338	I-C	硬砂岩		両面	—	
85	37	S 90W84 N E	II	16.10	6.91	2.38	256	I-C	〃			—	
86	1	S 63W66 N E	II中	12.68	5.37	2.45	217	I-A	ホルンフェルス(砂岩)			—	
87	12	S 78W96 ²⁴		15.1	6.16	2.58	255	I-B	硬砂岩		両面	—	
88	59	S 72W72 NW	II中	12.16	5.21	1.6	122	IV-B	緑色火山岩	線状痕	基部~刃部	—	
89		S 81W78 ²⁰		(8.68)	6.45	1.93	(140)	III-B	硬砂岩	刃部磨耗	側縁部刃部	A ₁	
90	27	S 78W96 ²⁶		(7.12)	5.37	1.08	(61)		〃	刃部磨耗、線条痕		C ₁ C ₂	
91		S 78W96 ³⁰		13.74	(5.22)	1.74	(146)	I	緑色凝灰岩	刃部、側縁部磨耗	刃部、側縁一部	C ₂	
92		S 81W90 ¹³		(10.95)	(6.21)	(2.55)	(186)	III	硬砂岩		側縁部	A ₂	
93		S 84W81 ¹²⁴		(4.84)	(4.68)	(1.26)	(36)	III-C	千枚岩(真岩)			A ₁	
94		S 84W81 ¹²⁹		(7.73)	5.16	1.51	(74)		硬砂岩		基部、側縁部	B ₁	
95		S 81W90 ²⁸		(7.15)	6.62	1.89	(145)	I	〃			C ₂	風化
96		S 84W90 ²²		(7.44)	6.45	1.76	(116)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
97		S 78W87 ¹⁴		(10.69)	6.82	3.01	(329)	III-B	硬砂岩	刃部磨耗		A ₁	

No.	図 No.	出 土	土 層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石 質	使用痕	自然面	破損部 位	備 考
98		S84W9032		(4.62)	5.41	1.07	(40)		砂岩				
99													欠番
100		S81W9011		(6.26)	5.42	1.35	(52)		珩岩				
101		S81W9022		(7.48)	(4.86)	1.62	(59)		安山岩		基部		
102		S78W9023		(9.26)	(5.37)	(2.42)	(150.7)	II	〃		基部	A ₂	
103		S81W9023		8.1	(4.82)	0.87	(36)		砂岩				
104		S78W9024		(8.99)	6.68	2.82	(210)	III	〃		両面	A ₂	
105		S87W7831		(6.44)	4.38	1.2	(44)		珩岩				
106		S81W9021		(8.66)	5.09	2.13	(126)	III	ホルンフェルス(砂岩)				A ₂
107		S81W9023		(12.65)	6.99	2.6	(260)	III	〃		基部	C ₂	風化
108		S81W9024		(6.15)	4.49	1.42	(45)	B	〃			C ₁ C ₂	
109		S81W9035		(6.95)	5.86	1.68	(83)	II	緑色火山岩				
110	68	S81W9039		11.88	4.69	2.03	169		ホルンフェルス(砂岩)			—	未製品
111	60	S87W84NW	II上	(11.34)	(8.26)	(4.07)	(560)	I	硬砂岩		両面	C ₁ C ₂	268と接合
112		S81W9026		(11.28)	7.47	1.9	(163)		千枚岩				
113		S81W9019		(6.85)	(3.8)	(1.67)	(45)	B	硬砂岩				C ₁ C ₂
114	48	S84W9022		(7.9)	(4.74)	(2.18)	(82)		ホルンフェルス(砂岩)				C ₁ C ₂
115		S81W9036		(6.17)	(2.43)	0.69	(13)	III	砂岩				A ₁
116		S54W12S W		(9.21)	(5.89)	1.21	(73)		砂質泥岩				
117		S72W72NW	I	(10.71)	7.21	2.28	(195)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)				C ₁
118		S54W6NW		(8.26)	(4.93)	(1.74)	(86)	II-B	〃				A ₁
119	66	S69W78S W	I	(7.73)	5.74	2.05	(119)	III-B	〃				A ₁
120	65	S69W75S E	II上	(8.23)	4.74	1.94	(102)	III-B	〃	刃部磨耗			A ₁
121	40	V区排土		12.81	4.4	1.59	113	II-B	砂岩				—
122		S54W12S W		(7.33)	(3.92)	0.68	(26)	I-C	頁岩				C ₁
123		10号住		(10.54)	7.26	1.73	(136)	I	砂岩		胴部		C ₁ C ₂
124		S72W75S W	I・II上	(6.71)	(4.57)	(1.1)	(43)	III-C	〃		側部		A ₁
125		S75W81N E	II中	(9.1)	6.91	2.85	(215)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)				A ₁
126		S19W81S W	I	(6.16)	(7.16)	(1.7)	(103)	I	硬砂岩		側部		C ₁ C ₂
127		18住NW		(5.87)	(7.4)	(0.98)	(50)	B	〃	刃部磨耗			C ₁ C ₂
128		S81W72N E	I・II上	(9.32)	(7.15)	(2.24)	(175)		〃		側部一部		C ₁ C ₂
129		S69W69N E	I	(6.99)	(4.88)	(2.27)	(82)		〃				
130		S78W93S W	II上	(5.74)	(6.28)	(1.7)	(63)	B	〃		刃部、側縁部		C ₁ C ₂
131		S78W84N W	II上	(8.12)	(3.16)	(0.96)	(28)		砂岩				C ₂
132		S75W81N W	II中	(6.21)	6.92	1.62	(76)		安山岩				
133		S90W72N W	I・II(上)	(13.2)	9.04	2.07	(286)	I-C	安山岩				C ₁
134		19住		(6.18)	(4.43)	(1.0)	(37)		砂岩				
135		S90W96N E		(8.46)	6.37	1.25	(81)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)				C ₁
136	3	S75W90S E	II上	(13.59)	5.96	1.42	(143)	I-A	〃 (〃)		刃部～胴部		C ₁
137		S72W72N E	II中	(6.74)	5.43	1.92	(93)	I-C	〃 (〃)	刃部磨耗	刃部、側縁部		A ₁
138	71	S72W81S W	II中	(12.0)	(5.94)	1.8	(120)	I	硬砂岩		刃部～基部		C ₂
139		S87W48S E	II中	8.45	3.28	1.21	35	I-B	〃	刃部磨耗	片側面		—
140		S90W60S W	I	(5.56)	4.45	1.15	(35)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗	刃部		A ₁
141		S72W72S E	I	(5.07)	(6.08)	(1.2)	(44)	B	〃				C ₁ C ₂
142		S72W72S E	II	(6.23)	(6.1)	(1.76)	(70)	B	硬砂岩	刃部線条痕、磨耗	刃部		C ₁ C ₂
143		S93W72N E	15住	(4.88)	(6.03)	(1.15)	(33)		砂岩				
144		S72W72N W	I	(8.5)	7.57	1.42	(112)	III-B	緑色火山岩	刃部磨耗			A ₁
145	69	S75W90S E	II上	(13.02)	(5.15)	2.14	(183)	I	ホルンフェルス(砂岩)				C ₂
146		S72W81S W	II中	(8.81)	5.62	1.77	(108)	I-B	〃 (〃)				C ₁

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
147		S78W75NW	II中	(5.66)	(4.1)	(1.19)	(34)		砂岩				風化
148		S69W63NE	II上(I)	(7.92)	6.67	1.98	(134)	I-B	ホルンフェルス(頁岩)			A ₁	
149		S81W90NW	II上	11.05	4.71	1.35	76	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
150		S78W84SE	II上	11.97	6.04	1.64	139	III-B	硬砂岩			—	
151		S75W84SE	II中	(11.42)	(5.42)	(1.68)	(119)		砂岩	刃部、側縁部磨耗		D ₁	
152		V区排土内		(7.43)	(5.71)	2.45	(147)		ホルンフェルス(砂岩)				
153		S72W84SW	I	(8.77)	(6.25)	(2.83)	(190)	I	緑色火山岩			A ₂	
154		S75W81NW	II中	(7.92)	8.88	1.46	(146)	I-B	硬砂岩	刃部磨耗		A ₁	
155		S90W72NW	I・II(上)	(7.59)	4.85	1.52	(76)	I-B	〃			A ₁	
156		S76W90SE	II上面	(8.08)	5.19	2.06	(93)		〃			C ₁ C ₂	
157		S75W78SW	II中	(6.62)	4.09	(1.02)	(38)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗		A ₁	
158		S69W78SW	II上	(3.95)	(7.77)	(1.48)	(52)		硬砂岩				
159		V区排土		(9.2)	5.59	2.32	(142)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
160		S75W78SW	II中	11.98	5.18	1.94	127	III-C	砂岩		両面	—	
161		S81W81NE	II中	(9.82)	(6.55)	(0.84)	(74)	I	硬砂岩		片側面	C ₂	
162		S78W72NE	II中	(8.84)	7.79	(1.97)	(185)		〃			C ₁ C ₂	
163		不明		(4.51)	5.95	(1.99)	(72)		〃			C ₁ C ₂	
164		V区SE	I	11.76	5.16	1.35	100	III-C	〃			—	
165		S78W93SE	II上	(8.64)	6.1	1.04	(72)		〃				
166		S90W72NW	I	(8.28)	(5.23)	(1.82)	(100)	II-C	安山岩			A ₁	風化
167		S75W69NE	II上	(8.88)	(7.62)	(3.27)	(303)		硬砂岩				
168		S90W66NE	I	10.83	4.95	1.72	111	III	〃			A ₂	
169		S72W78SW	II上	(6.76)	(5.14)	1.38	(61)	I-B	〃			A ₁	
170		S72W81NE	II中	(9.38)	5.91	2.63	(165)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
171		S72W81SW	II中	(6.38)	(5.17)	(1.22)	(45)		硬砂岩				
172		S78W84SE	II中	(7.72)	(4.79)	(2.0)	(93)	II	ホルンフェルス(砂岩)			C ₂	
173		S81W78NW	I・II	11.94	5.46	1.23	97		〃 (ク)		側縁部	—	未製品
174		S84W60SW	II上	10.05	5.56	1.39	90		硬砂岩		側縁部	—	未製品
175	63	S57W21SE		(13.82)	7.33	(2.23)	(250)		珒岩				
176		S81W78SW	I・II	(5.57)	(7.86)	(1.58)	(80)	C	硬砂岩			C ₁ C ₃	
177		S78W90NW	II上	(6.33)	(6.39)	(1.3)	(45)	B	〃			C ₁ C ₃	
178													欠番
179		S75W72SW	II中	(5.22)	(5.63)	0.83	(24)	I-B	硬砂岩				
180		S75W87NE	I	(9.25)	(4.53)	1.71	(99)		蛇紋岩			C ₁ C ₂	
181		S75W90SE	II上	(9.3)	9.48	(2.84)	(343)	I-B	硬砂岩	刃部磨耗		A ₁	
182		S72W84SE	I	(11.50)	(4.74)	(1.81)	(187)		〃			B ₁	
183		S78W78	I・II	(10.94)	(6.45)	2.33	(90)		頁岩		基部付近		
184		S72W75SE	II中	(6.38)	3.39	0.92	(27)	I-B	安山岩	刃部磨耗		C ₁	
185		S69W78SE	II上	(3.53)	(6.85)	(1.55)	(47)	A	硬砂岩			C ₁ C ₃	
186		S69W69NE	II	(7.15)	(5.05)	2.05	(103)	I	安山岩		基部	A ₂	風化
187		S72W72SW	I	(5.33)	(5.25)	(1.62)	(44)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₃	
188		S72W66NE	II中	10.7	5.42	1.8	117	II-C	〃 (ク)			—	
189		S72W72SW	I	(6.08)	6.9	(1.95)	(106)	B	硬砂岩			A ₁	風化
190		不明		(9.6)	4.68	1.32	(77)	III-B	〃	線条痕		C ₁	
191		S69W78SE	II上	(9.79)	5.39	1.55	(98)	I-B	〃			C ₁	
192		S66W72焼上面西半		(7.59)	6.01	2.05	(103)	B	〃			A ₁	
193		S63W72NW	I	(8.8)	4.32	1.35	(64)		砂岩				
194		S54W0NW		(9.21)	6.22	(1.86)	(107)		ホルンフェルス(頁岩)				
195		S84W48SW	II中	(7.77)	5.64	(1.97)	(75)	I-B	砂岩			A ₁	

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
196		S69W72南半住居上面		(6.24)	4.19	1.56	(60)	I-A	硬砂岩			A ₁	
197		S75W78SE	II中	(7.51)	4.97	1.78	(75)	I-B	〃			A ₁	
198		S81W84SE	II中	(8.49)	(5.88)	2.57	(156)	I	〃			A ₂	
199		S75W87SE	II上	(9.41)	(6.94)	(3.43)	(245)	I-B	砂岩			A ₁	
200		S72W72SW	II中	(11.2)	5.58	(1.63)	(128)	I-B	珒岩			C ₁	
201		S78W60NE	I	10.63	7.24	2.63	274	III-B	硬砂岩			—	
202		S75W87NE	I	(9.34)	4.46	1.73	(102)	III-C	〃			C ₁	
203		S78W90NW	II上	(9.51)	(6.62)	(3.13)	(243)	I	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
204		S66W69SE・SW	I	(6.82)	(5.38)	(1.03)	(52)	I-C	珒岩			A ₁	
205		S90W72NW	I	(7.21)	(5.7)	2.28	(132)		安山岩		両面		
206		S78W90NE	II上	(7.21)	(5.95)	2.1	(90)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
207		S66W72NW	I	(6.97)	4.3	1.94	(68)	I	硬砂岩			A ₂	
208		S69W66NW	II	(7.31)	(5.37)	(1.76)	(65)	B	頁岩			C ₁ C ₃	
209		S69W75SW	I(下)・II(上)	(5.1)	(3.53)	(1.1)	(25)		砂岩			C ₂ C ₃	
210		S51W0SW		(7.05)	(3.43)	(1.7)	(25)	B	〃			C ₁ C ₂	
211		S63W66NE	II中	(5.65)	(4.96)	(1.6)	(56)		〃			C ₂ C ₃	
212		S72W75SW	I・II上	(9.14)	(6.19)	(1.62)	(107)		硬砂岩			C ₁ C ₂	
213		S72W78SE	II中	(7.72)	6.4	1.4	(79)	III-B	砂岩			A ₁	
214		S81W81NE	II中	8.65	3.35	0.82	32	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部～刃部	—	
215		S72W72SE	II中	(8.91)	(3.3)	1.11	(42)	I-A	砂岩	片側面一部磨耗		C ₁	
216		S78W81SW	II上	(7.74)	(6.83)	(1.46)	(59)	II-B	〃		側縁部	A ₁	
217		S78W90NE	II上	(5.62)	(3.2)	(0.86)	(20)	II-B	石英閃緑岩			C ₁	
218		S14住ベルト内		(5.11)	(6.31)	(0.79)	(23)	C	砂岩		側縁一部	C ₁ C ₃	
219		S66W75SE		(6.03)	5.51	(1.9)	(173)	C	〃			A ₁	
220		S69W66SE	I	(5.21)	(6.45)	(0.87)	(40)	I	〃		側面一部	C ₁ C ₂	
221		S78W84NE	II上	(6.21)	(4.89)	(1.59)	(53)		〃			C ₂ C ₃	
222		S69W60NW	II上	(5.83)	(4.3)	(1.01)	(27)		〃			C ₁ C ₂	
223		S75W72NE	II中	(14.01)	8.12	2.56	(337)	I-A	ホルンフェルス(頁岩)			C ₁	
224		S72W81NE	II中	(11.28)	(5.98)	2.08	(130)	B	〃(砂岩)			C ₁	
225		S78W84NW	II中	(10.52)	7.08	(2.05)	(175)		砂岩				
226		S90W72SE	I	(4.64)	(5.12)	(1.43)	(45)	I-B	〃		基部端	C ₁ C ₃	
227		S51W3NW		(9.54)	(7.84)	(2.97)	(245)		〃			C ₂ C ₃	
228		S78W93SE	II上	(7.65)	5.41	1.89	(108)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
229		S75W90SE	II上	(6.59)	(5.08)	(2.7)	(77)		砂岩			C ₂ C ₃	
230	62	V区排土内		(8.98)	4.01	(1.46)	(70)	III-B	〃	線条痕	両面	C ₁	
231													欠番
232		S78W42SE	I	(6.98)	(4.6)	1.25	(52)		砂岩				
233		S78W93SE	土集下	(7.08)	5.16	(0.97)	(42)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
234		S78W81NW	II上	(8.26)	(3.22)	(1.0)	(38)		珒岩			D ₁ D ₃	
235		S78W84NE	II上	(4.07)	(4.21)	(0.89)	(26)	C	砂岩			A ₁	
236		S78W90SE	II上	(4.42)	(4.14)	(1.14)	(24)		〃				
237	67	10号住		(6.91)	(5.76)	(1.29)	(73)		〃				
238		S69W72NE	I	(4.46)	(5.57)	(1.54)	(39)		硬砂岩				
239		S78W81SW	II上	(8.6)	(3.6)	(1.0)	(35)		硬砂岩				
240		14住		(3.51)	(4.85)	(0.83)	(14)	A	〃			C ₁ C ₂	
241		S69W78SE	II上	(3.61)	(6.07)	(0.95)	(28)		頁岩				
242		S66W72排土面東半		(6.24)	(5.45)	(1.98)	(72)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
243		S75W75NW	II中	(6.9)	(5.5)	(1.46)	(75)	III-B	〃(〃)			A ₁	
244		S69W69NE	I	(7.38)	(2.9)	(0.9)	(21)	I-B	〃(〃)			C ₁	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
245		S 72W72 SW	II中	(8.72)	(5.01)	(2.51)	(148)	I	" (")			A ₂	
246		S 75W81 SW	II中	(6.64)	(5.02)	(6.04)	(71)		硬砂岩			C ₂	
247		土器集中区3		(5.67)	(5.52)	(1.3)	(52)	I	千枚岩(頁岩)			A ₂	
248		S 75W90 S E	II上	(8.29)	(4.09)	(0.79)	(24)		" (")				
249		S 66W72 NW	I	(8.08)	(4.79)	(1.8)	(101)	III	ホルンフェルス(頁岩)			A ₂	
250		S 75W72 SW	II上	(4.65)	(5.37)	(1.67)	(57)	B	硬砂岩			C ₁ C ₃	
251		S 72W66 NW	II中	(10.45)	(5.57)	(2.39)	(70)	I	石英閃緑岩			C ₂	
252		S 84W96 ㊦		(6.89)	(3.59)	(1.16)	(34)	II	珩岩			C ₂	
253		S 84W96 ㊧		(9.45)	(5.22)	(2.29)	(105)		砂岩				
254		S 84W96 ㊨		(5.55)	(6.64)	(1.81)	(90)	I	"			C ₂	
255		V区±25		(4.79)	(4.45)	(0.92)	(24)		"				
256		S 84W81 SW	II上	(7.65)	(5.11)	(1.51)	(71)	III-C	硬砂岩			A ₁	
257		S 84W81 S E	II上	(7.39)	(5.09)	(1.16)	(39)		"		基部一部		
258		S 84W90 N E		(7.01)	(5.61)	(1.42)	(78)	I-A	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
259		S 84W108 N E	II a	(6.75)	4.37	1.22	(57.9)	III-A	頁岩			A ₁	
260		S 84W90 NW	II b	(6.45)	(5.43)	(1.75)	(63)		硬砂岩		両面	C ₁ C ₂	
261		S 84W84 NW	II上	(7.57)	(7.56)	(0.91)	(77)		砂岩				
262		S 84W102 S E	II中	(7.52)	(8.46)	(3.21)	(291)	I	"			C ₁ C ₂	
263		S 84W102 S E	II中	(7.36)	(5.19)	(2.25)	(86)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₃	
264		S 87W90 N E	I中	(8.71)	(6.53)	(2.96)	(180)	III-C	" (")			A ₁	
265		S 87W90 N E	II下	(7.66)	(6.27)	(2.23)	(106)		硬砂岩				
266		S 87W81 NW	II	(11.86)	5.81	1.14	(82)	I-B	砂岩			C ₁	
267		S 90W78 S E	I・II上	(7.23)	(4.78)	(1.67)	(74)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
268	60	S 84W108 S E	II上	(10.81)	(9.28)	(4.07)	(502)		砂岩				IIIと接合
269		S 87W87 NW	II b	(15.96)	(6.58)	(2.25)	(264)	I	石英閃緑岩			C ₂	
270		S 84W84 N E	I	(7.43)	(2.89)	(1.09)	(37)	III-B	砂岩			C ₁	
271		S 81W93 S E	II	(10.09)	(6.78)	(3.46)	(230)		ホルンフェルス(頁岩)			C ₁ C ₂	
272		S 81W99 SW	II上	(9.04)	(6.82)	(1.78)	(148)	I	" (砂岩)			A ₂	
273		S 81W96 N E	II上	(5.83)	(6.54)	(2.19)	(107)	B	千枚岩(頁岩)			C ₁ C ₃	
274		S 81W96 N E	II上	(8.06)	(5.18)	(2.14)	(93)	I	硬砂岩			A ₂	
275		S 84W66 N E	II中	(3.01)	(5.11)	(1.26)	(25)		"			C ₁ C ₂	
276		S 84W81		(8.16)	(5.23)	(1.90)	(125)	I-B	"			C ₁	
277		S 69W72 坩土		(7.71)	(8.64)	(3.51)	(300)	A	砂岩		側面一部	C ₁ C ₃	
278		S 72W69 N E	I	(4.93)	(5.23)	(1.16)	(23)	C	頁岩			C ₁ C ₃	
279		S 81W90 NW	II上	(10.90)	(6.42)	(3.22)	(289)	II-B	砂岩			A ₁	
280		S 78W84 S E	II上	(4.13)	(4.90)	(1.73)	(47)		"			C ₁ C ₂	
281		不明		(7.97)	(4.67)	(2.05)	(71)		"			C ₁ C ₂	
282		S 90W93	II a	(11.88)	(5.12)	2.23	(190)	I	"			C ₂	
283		S 90W93	II a	(7.25)	5.41	1.41	(80)	I-B	"			A ₁	
284		S 90W93	II a	(12.47)	8.50	(1.82)	(254)	I-B	"			A ₁	
285		S 90W102 N E	II中	(7.48)	(4.18)	(1.30)	(36)	III-A	"			C ₁ C ₃	
286		S 90W96	II a	(8.25)	(4.32)	(1.41)	(56)	II	"			A ₂	
287		S 90W96	II a	(11.93)	8.35	(1.52)	(193)	I-B	"			A ₁	
288		S 90W81 S E	II	(5.64)	(4.84)	(2.25)	(95)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
289		S 87W93 N E	II b上	14.46	(4.83)	(1.72)	(140)		砂岩	刃部磨耗		C ₁ C ₂	
290		S 90W102 SW	II上	(8.95)	3.54	1.32	(57)	III	緑色凝灰岩			C ₂	
291		S 90W108 S E	II上	(8.78)	(4.72)	(1.48)	(71)	I	硬砂岩			A ₂	
292		S 90W108 S E	II上	(6.02)	(4.05)	(1.38)	(41)	C	硬砂岩			C ₁ C ₃	
293		S 90W102 N E	II	(12.04)	(5.58)	(1.66)	(149)	I	ホルンフェルス(砂岩)		刃部~基部	C ₂	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
294		S90W93NW	II上	(6.16)	(3.41)	(1.43)	(45)	III-B	硬砂岩			A ₁	
295		S87W90SE	I下	(8.12)	(4.40)	(1.65)	(94)	III	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
296		S87W78SE	II上	(7.75)	(6.03)	(1.43)	(76)	I-B	硬砂岩		刃部付近	A ₁	
297		S87W90NW	I	(7.96)	5.03	1.96	(105)	III-A	〃	刃部磨耗	刃部	A ₁	
298		S90W93SE	II上	(6.61)	(6.82)	(1.63)	(95)		〃			C ₁ C ₂	
299		S90W93SE	II上	(7.09)	(3.93)	(1.74)	(75)	III-B	〃			A ₁	
300		S90W96NW	II中	(6.36)	(4.68)	(1.55)	(64)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部	A ₁	
301		S90W102SE	II上	(4.60)	(5.01)	(1.18)	(39)		砂岩				
302		S87W93SW	II	(10.78)	4.89	1.70	(116)	II	ホルンフェルス(砂岩)		刃部~基部	C ₂	
303		S93W102SE	II	(4.65)	(3.42)	(1.19)	(24)		硬砂岩				
304		S81W84NE	II中	5.51	3.15	1.98	20	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
305		S81W84NE	II中	(7.01)	(3.68)	(1.03)	(30)	I-C	〃 (〃)		胴部	C ₁	
306		S81W93NW	II上	(3.98)	(5.19)	(1.26)	(32)	B	硬砂岩			C ₁ C ₃	
307		S66W78SE	I	(3.28)	(4.23)	(1.04)	(19)		〃				
308		S81W87NW	II中	(4.91)	(4.98)	(1.34)	(40)		ホルンフェルス(砂岩)				
309		S78W81SW	II中	(7.79)	(6.73)	(1.30)	(83)		〃 (〃)		基部		
310		S81W87SW	II	(6.33)	(5.35)	(1.88)	(54)		硬砂岩				
311		S84W87NW	I	(5.60)	(4.83)	(0.83)	(35)		砂岩			C ₁ C ₂	
312		S90W81NW	II	(4.80)	(5.38)	(1.80)	(62)	I-A	安山岩			C ₁ C ₃	
313		S72W72NE	II	(8.61)	(4.89)	(2.01)	(79)		砂岩			C ₁ C ₂	
314		S72W72SE	II	(7.01)	(2.83)	(0.66)	(20)	III-B	〃		刃部~胴部	C ₁	
315		S66W69SE	I	(10.22)	(4.48)	(1.54)	(69)	I	ホルンフェルス(砂岩)		基部	C ₂	
316		S90W93NE	II中	(10.08)	(4.91)	(2.82)	(185)	III	砂岩			A ₂	
317		S78W93SW	II上	(10.59)	(6.58)	(1.46)	(164)	II-B	石英閃緑岩		胴部	A ₁	
318		S78W93SW	II上	(9.77)	(7.56)	(2.03)	(229)	II-B	砂岩		胴部	A ₁	
319		S78W93SW	II上	(10.02)	(5.86)	2.25	(150)	I	〃			C ₁ C ₂	
320		S93W78NE	II上	(13.77)	(9.14)	3.06	(5.39)		〃		両面		
321	64	S90W90NE		16.10	8.15	4.73	(765)	II-A	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁	
322		S69W63SW	II中	(7.27)	(6.79)	(2.75)	(1.12)		砂岩				
323	61	S72W69SE	I	(7.14)	(3.28)	(1.11)	(34)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	線条痕		C ₁	
324		S72W63NW	I	(6.88)	(5.74)	(2.25)	(100)		硬砂岩				
325		S69W60SW	II中	(10.04)	(4.92)	(0.96)	(55)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)		刃部	C ₁	
326		S75W81NW	I・II上	9.93	6.68	2.18	200	I-B	砂岩			—	
327		S87W102SW	II中	(4.46)	(4.50)	(0.94)	(21)	B	硬砂岩			C ₁ C ₃	
328		S84W87NE	I	9.84	5.26	1.25	92		砂岩			—	横刃?
329		S90W84SE	II	(8.37)	(5.64)	(1.65)	(85)		〃				
330		S90W87NE	II中	(8.24)	(4.84)	(1.51)	(65)		安山岩			C ₁ C ₂	
331		S87W69SE	II上	(7.14)	(5.04)	(0.73)	(33)	I	砂岩			A ₂	
332		S90W87SE	II	(4.37)	(4.84)	(1.51)	(37)	B	ホルンフェルス(砂岩)	刃部磨耗		C ₁ C ₃	
333		S90W87NE	II	(7.53)	(5.39)	(2.89)	(85)	A	砂岩			A ₁	
334		S96W87NW	II下	(5.85)	(4.56)	(2.27)	(50)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₃	
335		S87W99NW	II中	(6.13)	(6.38)	(1.95)	(1.64)	III-B	砂岩			C ₁ C ₃	
336		S87W87SE	II上	(6.09)	(4.19)	(1.05)	(63)	III	〃			A ₂	
337		S48W18NE		(14.33)	(8.85)	(2.38)	(285)	I	〃		基部~胴部	C ₂	
338		S72W72NE	II下	6.01	(2.96)	(0.72)	(15)		硬砂岩			D ₁	
339		S72W69NE	I	(4.17)	(4.87)	(0.78)	(25)		ホルンフェルス(砂岩)				
340		S45W12NE		(9.48)	(6.87)	(2.84)	(193)	I	砂岩		基部~胴部	A ₂	
341													欠番
342		土塊36		(5.08)	(5.75)	(1.42)	(45)		頁岩				

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
343		S 84W9616		(5.20)	(6.32)	(1.65)	(82)	I	砂岩			A ₂	
344		S 78W847		(8.67)	(4.49)	(1.01)	(43)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
345		S 78W8420		(6.54)	(5.74)	(1.22)	(54)	I-C	安山岩			A ₁	
346		S 84W9616		(7.87)	(7.33)	(1.63)	(116)	I-A	珩岩			A ₁	
347		S 78W8420		9.27	(2.49)	(1.36)	(27)	III-B	安山岩			B ₁	
348		S 84W9610		(7.12)	(5.24)	(1.43)	(55)	III-B	砂岩			A ₁	
349		20住		(6.48)	(4.15)	(1.52)	(46)	I	〃			A ₂	
350		土塚18		(3.30)	(4.29)	(0.96)	(15)		〃				
351		土塚58		(3.58)	(5.33)	(1.67)	(45)		安山岩			C ₁ C ₂	
352		排土内V区		(12.65)	6.62	2.19	(265)		チャート		両面		
353		土塚50		(6.62)	(6.51)	(2.60)	(154)	III-B	砂岩			A ₁	
354		IV区溝4		(9.10)	5.06	1.04	(59)	I-C	千枚岩(頁岩)			C ₁	
355		III区溝2		(9.91)	5.94	0.96	(91)	III-C	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁	
356		VI区溝1		(8.24)	5.65	1.52	(75)	I-B	硬砂岩		刃部付近	A ₁	
357		V区溝7(N3)		(5.66)	(3.63)	(1.04)	(32)	III	ホルンフェルス(砂岩)		基部先端	A ₂	
358		土塚23		(5.56)	(5.37)	(1.92)	(55)	B	チャート		側縁部	C ₁ C ₃	
359		土塚23		(4.95)	(4.28)	(1.52)	(34)		ホルンフェルス(砂岩)				
360		土塚58		(8.32)	(5.91)	(2.19)	(144)	III-B	〃 (〃)		両側面	C ₁ C ₂	
361		土塚52		(7.41)	(3.61)	(1.68)	(68)	III	硬砂岩		基部付近	C ₂	
362		土塚37		(6.84)	(4.27)	(1.72)	(62)	II	〃		両側	C ₁ C ₂	
363		墓14		(9.59)	(4.65)	(1.75)	(75)	I-C	〃			C ₂	
364		土塚29		(9.16)	(5.31)	(2.16)	(104)	III-A	〃			B ₁	
365		土塚49		(7.42)	(4.91)	(1.72)	(86)	III	珩岩		基部	A ₂	
366		土塚27		(6.11)	(3.65)	(0.69)	(16)		緑色火山岩				
367		土塚37		(6.67)	(5.12)	(2.0)	(76)	II-B	砂岩			A ₁	
368		土塚37		(4.64)	(5.32)	(1.48)	(44)		〃				
369		土塚27		(8.42)	(7.04)	(2.97)	(169)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
370		排土		(10.0)	(5.71)	(2.43)	(148)	I-B	〃		片側部	C ₁	
371		排土		(9.75)	(5.98)	(2.07)	(89)	I	ホルンフェルス(砂岩)		胴部	C ₂	
372		排土		(13.21)	(7.24)	(1.83)	(199)	I-B	砂岩		刃部~基部	C ₁	
373		S 87W90N E	II c 下	(3.26)	(5.27)	(1.05)	(20)		石英閃緑岩				
374		S 87W90N E	II c 下	(8.93)	(5.53)	(1.93)	(119)	I-B	〃			A ₁	
375		S 87W84 S W	II上	(7.48)	(5.27)	(1.79)	(84)	II	砂岩			A ₁	
376		S 87W102N E	II上	(5.01)	(9.06)	(1.15)	(60)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
377		S 93W102N W	II上	(5.23)	(9.09)	(1.86)	(121)		砂岩		片側部		
378		S 75W72 S W	II中	(8.55)	(4.51)	(1.64)	(84)		〃		両面		
379		S 75W72N E	II中	(6.27)	(5.76)	(1.01)	(42)	A	頁岩			A ₁	
380		20住NW		(10.37)	(3.61)	(1.13)	(78)		珩岩			B ₁	
381		S 57W 9 N W		(7.18)	(4.99)	(1.34)	(45)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
382		S 69W69N E	I	(6.18)	(4.83)	(1.84)	(66)	II-C	〃 (〃)			A ₁	
383		V区土器集中区3		(5.32)	(4.82)	(2.09)	(55)	III-B	〃 (〃)			A ₂	
384		S 87W84 S W	II上	(9.43)	(4.93)	(1.36)	(80)	III-C	千枚岩			C ₁	
385		S 78W99 S E	II上	(5.05)	(3.94)	(1.34)	(24)	III-A	硬砂岩			C ₁ C ₂	
386		S 87W99N W	II中	(5.23)	(65.6)	(1.54)	(48)	B	砂岩			C ₁ C ₂	
387		S 69W72N W	II下	(6.51)	(6.31)	(2.07)	(84)		〃				
388		S 93W87 S E	II上	(4.82)	(8.83)	(2.23)	(48)	II-B	〃			C ₁ C ₂	
389		S 93W102N E	II上	(3.26)	(4.03)	(0.77)	(15)	B	〃			C ₁ C ₂	
390		S 87W108 S E	II上	(5.25)	(3.99)	(0.99)	(13)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
391		S 96W105N E	I	(5.82)	(4.02)	(1.92)	(55)	III-B	砂岩		下半部	C ₁ C ₂	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	石質	使用痕	自然面	破損部 位	備考
332		S50W90SE	II上	(12.8)	(5.57)	(2.06)	(128)	I	硬砂岩		刃部~基部	C ₂	
333		S87W99SW	II上	(13.27)	(6.85)	(2.81)	(226)	I	砂岩		基部付近	C ₂	
334		S87W93NW		(10.99)	(5.88)	(2.39)	(174)	I	硬砂岩		胴部一部	C ₂	
335		S87W96SE	II上	(9.25)	(5.33)	(1.49)	(90)		砂岩				
336		S90W84NW	II	(8.0)	(3.13)	(0.92)	(29)		〃			D ₁ D ₂	
337		S78W93NE	II上	(10.09)	(3.9)	(0.77)	(31)		〃				
338		S87W57NE	I	12.23	4.45	1.05	57	II-C	緑色火山岩			—	スクレイ パーか?
339		S87W90SE	I	(6.10)	(5.71)	(2.21)	(65)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₃	
400		S90W84SE	II	(7.41)	(4.12)	(1.65)	(63)	III	砂岩			C ₂ C ₃	
401		S87W96SW	II b上	(5.37)	(7.18)	(2.88)	(135)		〃			C ₂	
402		S87W99SW	II上	(6.56)	(4.78)	(1.63)	(43)	III-B	蛇紋岩			C ₁ C ₃	
403		S90W87NE	II	(4.48)	(3.15)	(1.11)	(14)		砂岩			C ₂ C ₃	
404		S54W12SE		(6.45)	(5.03)	(2.18)	(79)	I	〃			C ₂ C ₃	
405		S87W102NE	II中	(4.26)	(5.34)	(1.17)	(39)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₃	
406		S87W99SW	II上	(6.85)	(4.38)	(1.67)	(64)	I-C	砂岩			A ₁	
407		S78W96SW	I	(6.41)	(4.32)	(1.82)	(76)	III-B	〃			A ₁	風化
408		S87W93NW	II b相当	(9.47)	(6.25)	(1.61)	(119)	II-C	〃			A ₁	
409		S87W90(塊)NE	I	(10.28)	(9.68)	(2.02)	(290)	I-B	〃		胴部	A ₁	
410		S87W99NW	II中	(6.14)	(4.92)	(1.83)	(68)	III-B	安山岩			A ₁	
411		S87W99NW	II中	(9.92)	(6.61)	(1.51)	(90)	III-C	千枚岩(頁岩)			A ₁	
412		S87W108SW	II上	(6.26)	(4.64)	(1.04)	(40)	I	硬砂岩			A ₂	
413		S90W96	II b	(7.61)	(4.46)	(1.83)	(76)	I	砂岩			A ₂	
414		S87W93SW	II b上	(8.39)	(5.99)	(1.72)	(119)	III-A	〃		刃部~胴部	A ₁	
415		S87W84NE	II上	(7.46)	(5.58)	(1.17)	(110)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部付近	C ₁ C ₃	
416		S93W105NE	II上	(9.46)	(5.24)	(2.92)	(159)	III	石英閃緑岩			A ₂	

磨製石斧

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S78W93	II	(4.35)	(2.37)	(1.0)	(12)	珪長岩	刃部の一部欠	
2	2	S69W81	I	(11.54)	(4.21)	(2.05)	(160)	石墨片岩	頭~胴部の一部欠	
3	3	S72W78	II・上	(2.41)	(4.85)	(0.99)	(17)	雲母片岩	頭~胴部欠	
4	4	S90W90	I・II・上	(12.07)	(4.1)	(2.03)	(156)	緑泥片岩	頭部の一部刃部欠	未製品か?
5	5	S84W93		(10.97)	(5.53)	(3.98)	(315)	閃緑岩	頭・刃部欠	
6	6	S84W84	I	(10.7)	(4.14)	(2.81)	(210)	閃緑岩	頭~胴部たてに半欠	
7	7	18住		(2.8)	(4.29)	(0.95)	(16)	閃緑岩	頭~胴部欠	
8	8	S69W78	II・上	(5.52)	(3.8)	(1.06)	(34)	閃緑岩	一部欠	
9	9	S84W90	II・上、I・下	(5.67)	(3.77)	(0.77)	(21)	閃緑岩	一部欠	
10	10	S81W96		(3.01)	(4.93)	(1.02)	(13)	石墨片岩	頭~胴部欠	
11	11	S72W78	II・中	(7.29)	(4.28)	(2.44)	(111)	閃緑岩	下半欠	
12	12	S93W78	II・上	(13.92)	(5.01)	(3.19)	(386)	閃緑岩	刃部~側片欠	
13	13	S87W96	II・b・上	(8.06)	(4.29)	(3.43)	(182)	閃緑岩	刃部たてに半欠	
14	14	S75W81	I・II・上	(5.81)	(4.36)	(1.73)	(51)	閃緑岩	刃部欠	
15	15	S87W81	II・上	(8.93)	(5.55)	(3.79)	(282)	閃緑岩	上半欠	
16	16	S81W87	II	(11.86)	(4.87)	(2.59)	(233)	閃緑岩	刃部の一部欠	
17	17	S66W69	I	(8.38)	(4.12)	(2.23)	(116)	閃緑岩	頭部の一部欠	
18	18	S87W96	II	(9.18)	(5.78)	(2.86)	(255)	閃緑岩	頭~胴部欠	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
19	19	S 78W81	II・上	(12.28)	(5.07)	(2.54)	(154)	砂岩	縦に半欠	
20	20	S 84W93		(11.1)	(2.85)	(1.93)	(110)	玄武岩質 安山岩	刃部欠	
21	21	V区	II・下	(12.01)	(4.13)	(3.2)	(255)	閃緑岩	刃部欠	
22	22	土壌13		(12.54)	(5.14)	(3.59)	(382)	閃緑岩	刃部欠	
23		S 75W72		(2.91)	(2.41)	(0.33)	(2)		一部残	
24	23	S 66W66	I・II・上	(9.66)	(5.49)	(3.39)	(263)	砂岩	頭・刃部欠	

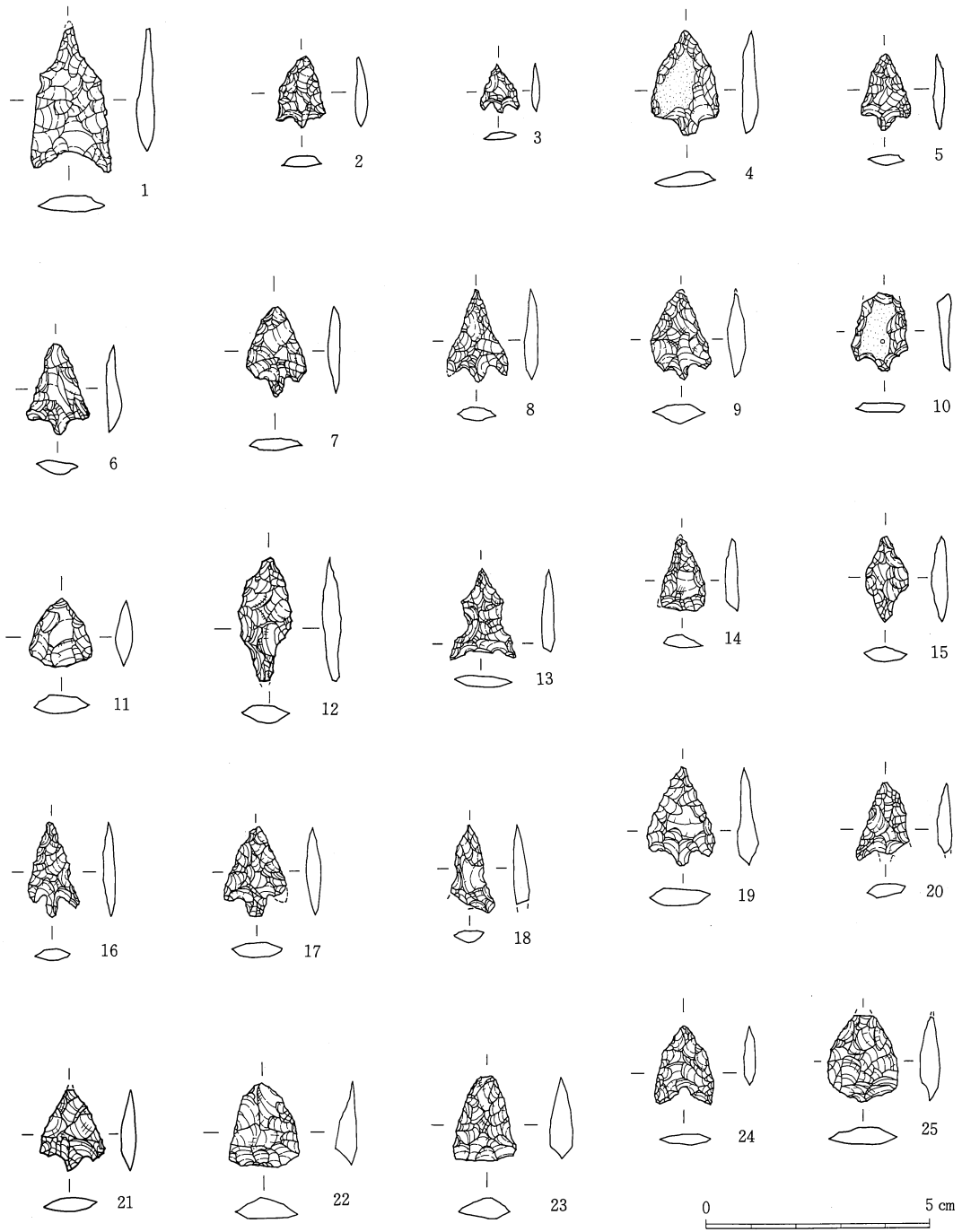
敲・磨・凹石・石皿

No.	図 No.	出土	土層	凹部	敲打痕	磨面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1		S 78W96		○	○		(11.74)	(3.93)	(2.79)	(150)	砂岩	1/2欠	
2		S 81W93		○			(8.74)	(5.13)	(2.1)	(100)	砂岩	3/4~1/2欠	
3		S 81W93		○(×2)	○		(8.75)	(4.83)	(2.8)	(106)	砂岩	1/4欠	
4		S 87W81				○(×2)	(8.09)	(5.64)	(1.75)	(110)	砂岩	一部残	
5		20住		○(×2 両面)	○	○	7.31	5.06	1.56	86	砂岩	完	
6		S 87W78				○	(6.91)	(3.85)	(1.57)	(50)	砂岩	一部残	
7		S 69W78	II上			○(×2)	(7.54)	(4.69)	(1.97)	(98)	閃緑岩	一部残	磨製石斧?
8		S 81W93			○		(6.07)	(2.48)	(1.57)	(28)	石英閃緑岩	一部残	
9		S 81W93				○	(8.12)	(5.55)	(1.44)	(78)	砂岩	一部残	
10		S 81W93				○	(9.81)	(4.63)	(5.55)	(259)	粗石英閃緑岩	1/4欠	
11		S 81W93				○	測定不可	(10.37)	(3.67)	(765)	砂岩	1/2欠	
12		S 84W78				○	(4.56)	(4.38)	(0.93)	(23)	石英閃緑岩	一部残	
13		S 81W96			○		(5.55)	(5.14)	(1.64)	(62)	粗石英閃緑岩	1/4欠	
15		S 81W96			○	○	(6.17)	(5.27)	(2.56)	(114)	砂岩	1/4欠	
16		S 78W87				○	5.0	4.04	1.66	47	砂質頁岩	完	
17		S 78W87				○	(4.31)	(2.72)	(0.9)	(11)	砂岩	一部残	
18		S 78W87		○	○	○	(6.67)	(3.79)	(2.86)	(102)	石英閃緑岩	1/2欠	
19		S 78W87				○	(5.0)	(4.1)	(1.14)	(36)	砂岩	一部残	
20		S 84W96			○	○	(6.48)	(4.78)	(1.8)	(97)	石英閃緑岩	1/4欠	
21		S 78W87				○	(7.16)	(4.18)	(2.11)	(50)	砂岩	一部残	
22		S 78W87			○	○	(9.6)	(6.56)	(5.57)	(247)	石英閃緑岩	3/4~1/2欠	
23		S 78W87				○	(9.29)	(7.74)	3.35	(368)	不明	1/2欠	
24		S 78W93			○		(6.88)	(4.59)	(2.93)	(100)	砂岩	1/4欠	
25		S 78W90		○		○	(8.55)	(4.51)	(1.33)	(50)	砂岩	一部残	
26		S 78W93				○	(5.79)	(5.45)	(1.96)	(57)	硬砂岩	一部残	
27		S 78W90				○	(9.31)	(4.83)	(4.02)	(254)	砂岩	1/2欠	
28		S 78W90				○	(8.15)	(7.6)	(3.14)	(200)	砂岩	一部残	
29		S 78W90				○	(9.56)	(8.13)	(2.9)	(274)	凝灰岩	一部残	
30		S 81W90		○		○	(7.53)	(5.13)	(2.82)	(92)	砂岩	一部残	
31		S 81W90				○	(10.53)	(5.12)	(1.9)	(90)	砂岩	一部残	
32		S 81W90			○	○	(5.13)	(3.45)	(1.39)	(42)	砂岩	一部残	
33		S 81W90		○		○	(6.6)	(5.67)	(2.35)	(75)	石英質砂岩	一部残	
34		S 81W90		○		○	(6.78)	(4.77)	(1.11)	(32)	砂岩	一部残	
35		S 84W90		○	○	○	(7.59)	(5.34)	(3.96)	(220)	礫質砂岩	1/4欠	
36		S 81W96		○(×2)	○	○	9.54	4.68	4.58	316	砂岩	完	
37		S 81W93				○	(11.49)	(6.23)	2.03	(160)	砂岩	1/2~1/4欠	
38		S 84W90				○	(9.13)	(9.27)	(2.55)	(302)	砂岩	3/4~1/4欠	石皿
39		S 81W93			○		7.48	7.64	6.98	484	砂岩	完	

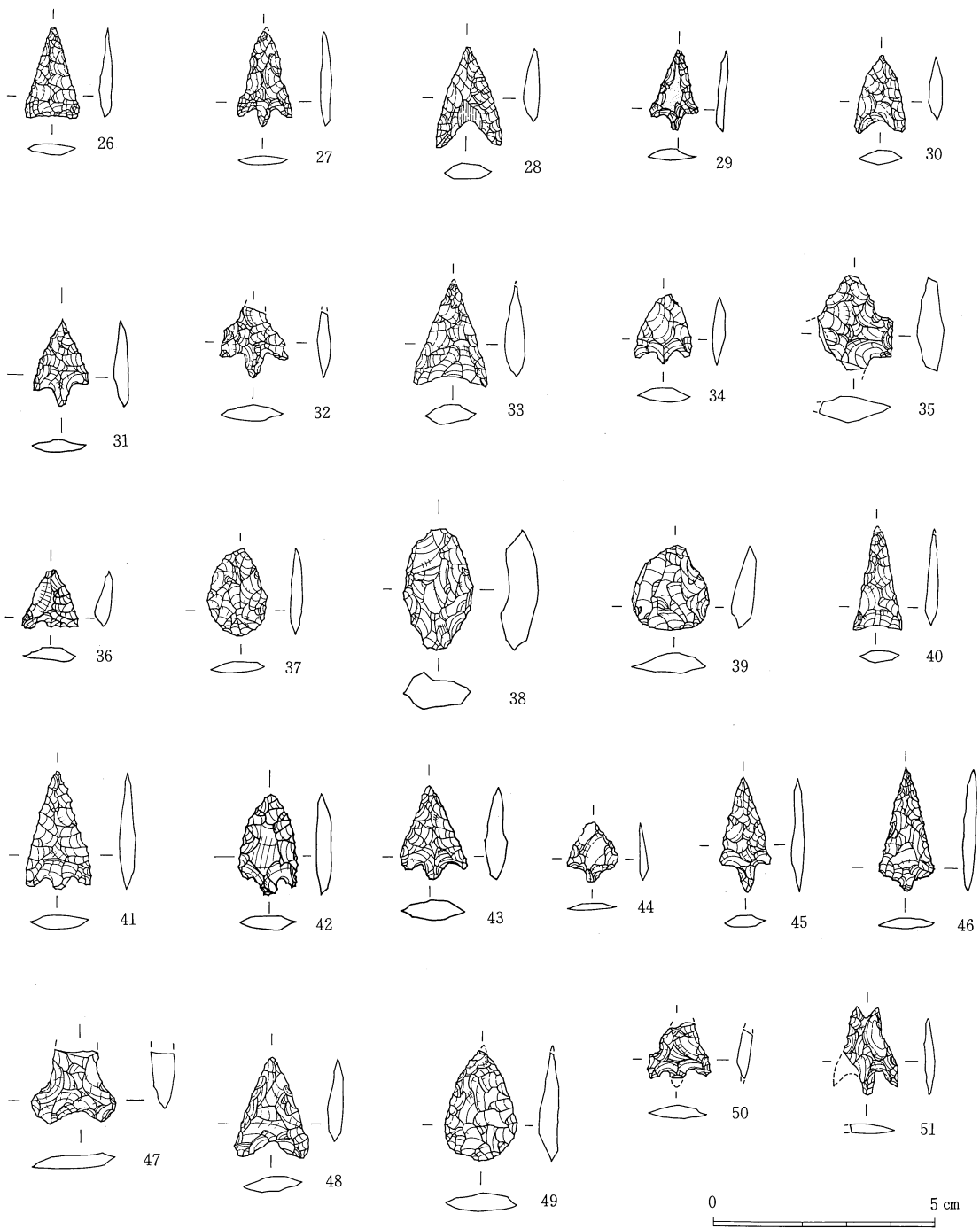
No	図 No	出土	土層	凹部	敲打痕	磨面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
40		S78W96				○	(9.0)	(9.11)	(3.28)	(383)	砂岩	½欠	
41		土壙37		○(×2 両面)		○	7.22	2.68	0.63	16	砂岩	完	
42	1	S90W87		○(×2)			(7.75)	(7.26)	(5.13)	(475)	石英閃緑岩	½欠	
43	2	S72W78	II上	○			(12.83)	(9.68)	(2.92)	(461)	砂岩	½欠	
44	3	S81W84	II中	○			(5.53)	(5.14)	(1.77)	(78)	砂岩	¾欠	
45	4	S76W90	II上	○(×2 両面)	○		5.53	4.17	2.66	87	砂岩	完	
46	5	14住		○(×2)	○		15.36	6.91	6.43	798	砂岩	完	
47	6	S81W87	II		○		13.98	4.95	2.85	373	砂岩	完	
48	7	S78W78	II a	○		○	(8.47)	(6.04)	(4.74)	(342)	砂岩	½欠	
49	8	S81W90		○(×2 両面)			8.53	8.23	3.05	280	安山岩	完	石皿か?
50	9	溝7	II a上	○(×2)			7.72	6.62	6.46	238	石英閃緑岩	½欠	
51	10	S78W96	II	○	○		(12.64)	(8.18)	(4.07)	(474)	砂岩	½欠	
52	11	S87W93	II b	○			(11.45)	(11.25)	(2.19)	(378)	安山岩	½欠	
53	12	土壙37		○			(6.14)	(4.63)	(2.02)	(80)	砂岩	¾欠	
54	13	S78W84	II上			○	(7.90)	(5.37)	(2.44)	(100)	砂岩	½欠	
55	14	S84W96		○(×2)	○		10.00	8.12	6.29	615	砂岩	完	
56	15	S90W86		○(×2)			18.00	16.50	3.62	1200	砂岩	完	
57	16	S78W93		○(×2)	○		(10.67)	(7.25)	(6.88)	(733)	砂岩	½欠	
58	17	S90W96	I・II・上	○(×2)	○		(9.40)	(5.80)	(3.69)	(322)	石英閃緑岩	¼欠	
59	18	S93W78		○(×3 三面)			(8.93)	(4.40)	3.89	(215)	砂岩	½欠	
60	19	S75W90	II・上			○	11.40	3.75	2.46	154	砂岩	完	
61	20	S69W75	II上	○			(10.78)	(9.80)	(4.16)	(590)	砂岩	½欠	
62	21	S78W81	II上				(9.46)	(5.56)	(2.70)	(182)	砂岩	½欠	
63	22	S78W78	II a	○	○		(9.68)	(5.54)	(3.42)	(256)	砂岩	½欠	
64	23	S72W78	II中	○(×2 両面)			(8.77)	(6.36)	(1.77)	(156)	砂岩	½欠	
65	24	S72W72	II中		○		(20.05)	(6.75)	(2.54)	(121)	砂岩	½欠	
66	25	S81W87	II		○		(6.95)	(6.77)	(2.90)	(154)	砂岩	½欠	
67	26	S84W99	II上		○	○	(5.81)	(4.78)	(4.38)	(176)	砂岩	½欠	
68	27	S78W96	I		○		(11.30)	(7.21)	(6.53)	(756)	安山岩	½欠	
69	28	S78W78	I・II		○		(7.89)	(3.99)	(2.61)	(131)	砂岩	¼欠	
70	29	S81W90	II上			○	(8.93)	(5.05)	(2.44)	(142)	砂岩	¾欠	
71	30	S90W84	II上			○	(7.74)	(6.26)	(2.90)	(201)	砂岩	½欠	
72	31	S78W96				○	(10.85)	(6.43)	(6.09)	(684)	砂岩	½欠	
73	32	3住			○		(11.53)	(11.49)	(2.61)	(576)	砂岩	½欠	被熱
74	33	S72W78	II上			○	(10.26)	(4.26)	(4.23)	(256)	砂岩	½欠	
75	34	5住		○			(7.60)	(7.08)	(3.99)	(275)	砂岩	¾欠	
76	35	S87W81	II	○	○		7.80	7.42	2.64	229	砂岩	完	
77	36	S81W87	II			○	(10.37)	(6.86)	(2.77)	(225)	砂岩	½欠	
78	37	溝5		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(595)	砂岩	½欠	
79	38	S69W72	II上	○			(11.19)	(6.08)	(4.72)	(549)	砂岩	½欠	
80	39	S90W84	II上			○	(5.82)	(4.99)	(3.36)	(132)	閃緑岩	½欠	磨製石斧?
81		S69W69	II中			○	(9.12)	5.14	(4.69)	(311)	石英閃緑岩	½欠	
82		5住		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(595)	砂岩	½欠	

その他の石器

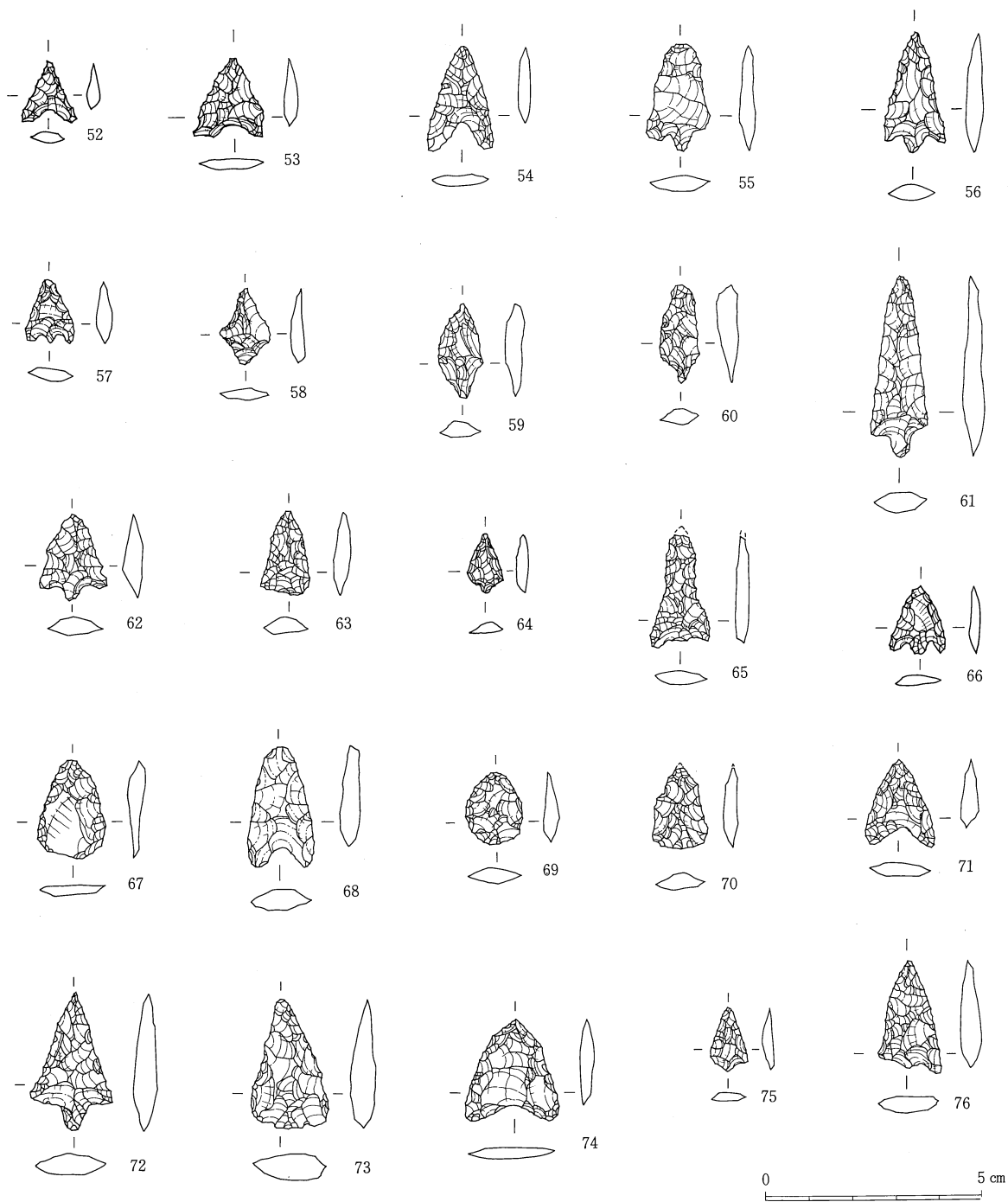
No	器種	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備 考
1		S78W72	II層中	3.98	1.38	0.51	3.35	砂岩	先端部欠	
2		S87W99	II層上NE	3.93	2.40	0.81	3.30	玢岩	先端部欠	磨製石斧の転用
3		S78W96	II層中	1.34	2.61	0.50	1.20	黒曜石	完	縁辺部つぶれ
4	石刃状剥片	S84W105	II層(遺構中)	11.44	3.87	1.21	45.50	黒曜石	〃	縦長剥片
5	環状石器	S78W84	II層	8.90	(5.79)	2.03	(164.80)	花崗閃緑岩	約1/2欠	
6	〃	S81W93		5.14	(6.10)	1.36	(45.30)	砂岩	〃	
7	〃	S84W90		5.37	(3.53)	1.88	(44.80)	砂岩	〃	
8	〃	土壙13	フク土	3.20	(3.34)	0.83	(10.60)	砂岩	〃	
9	〃	排土内		2.98	(4.71)	0.90	(14.85)	砂岩	〃	



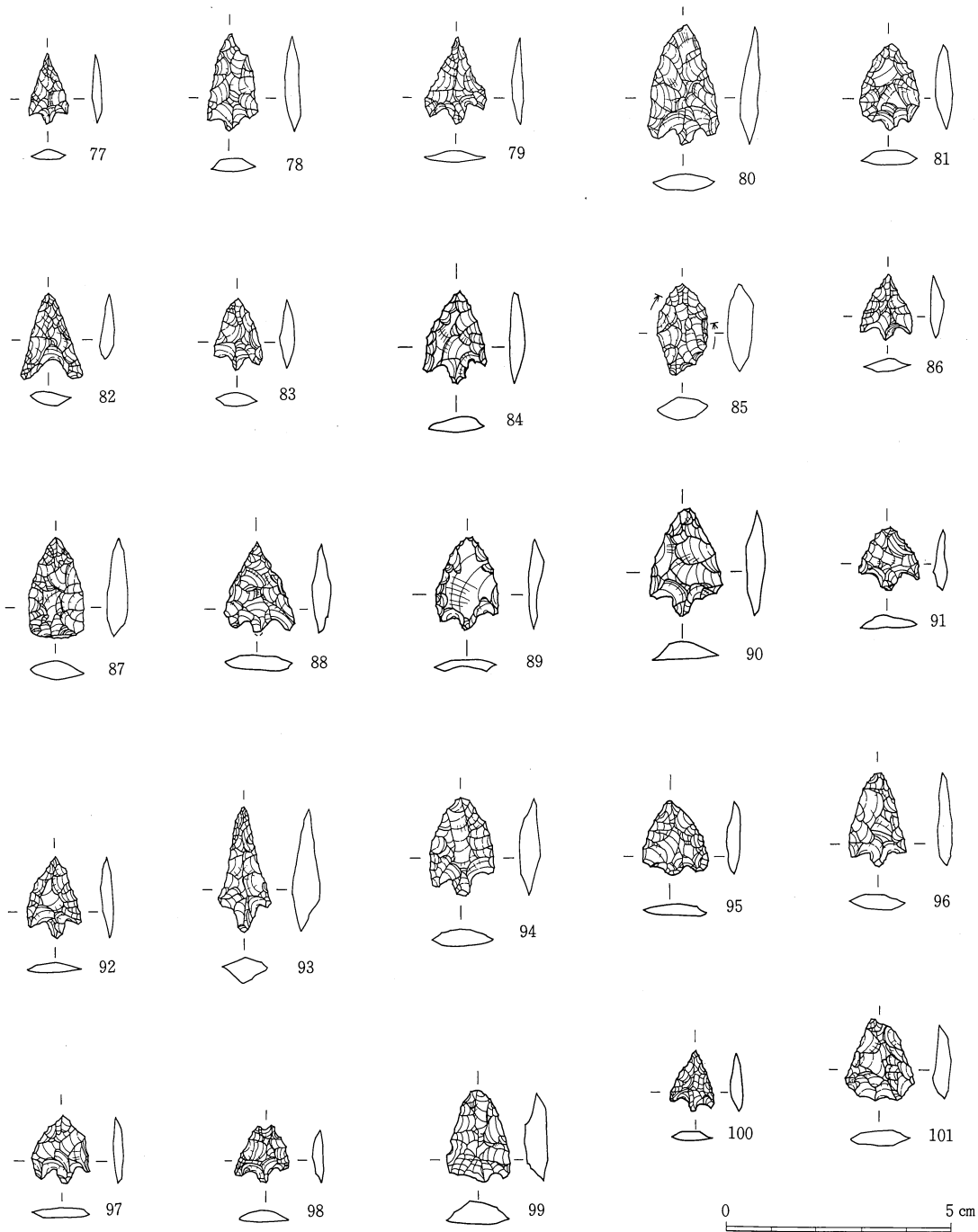
第57図 石器(1) (石鏃 1~25)



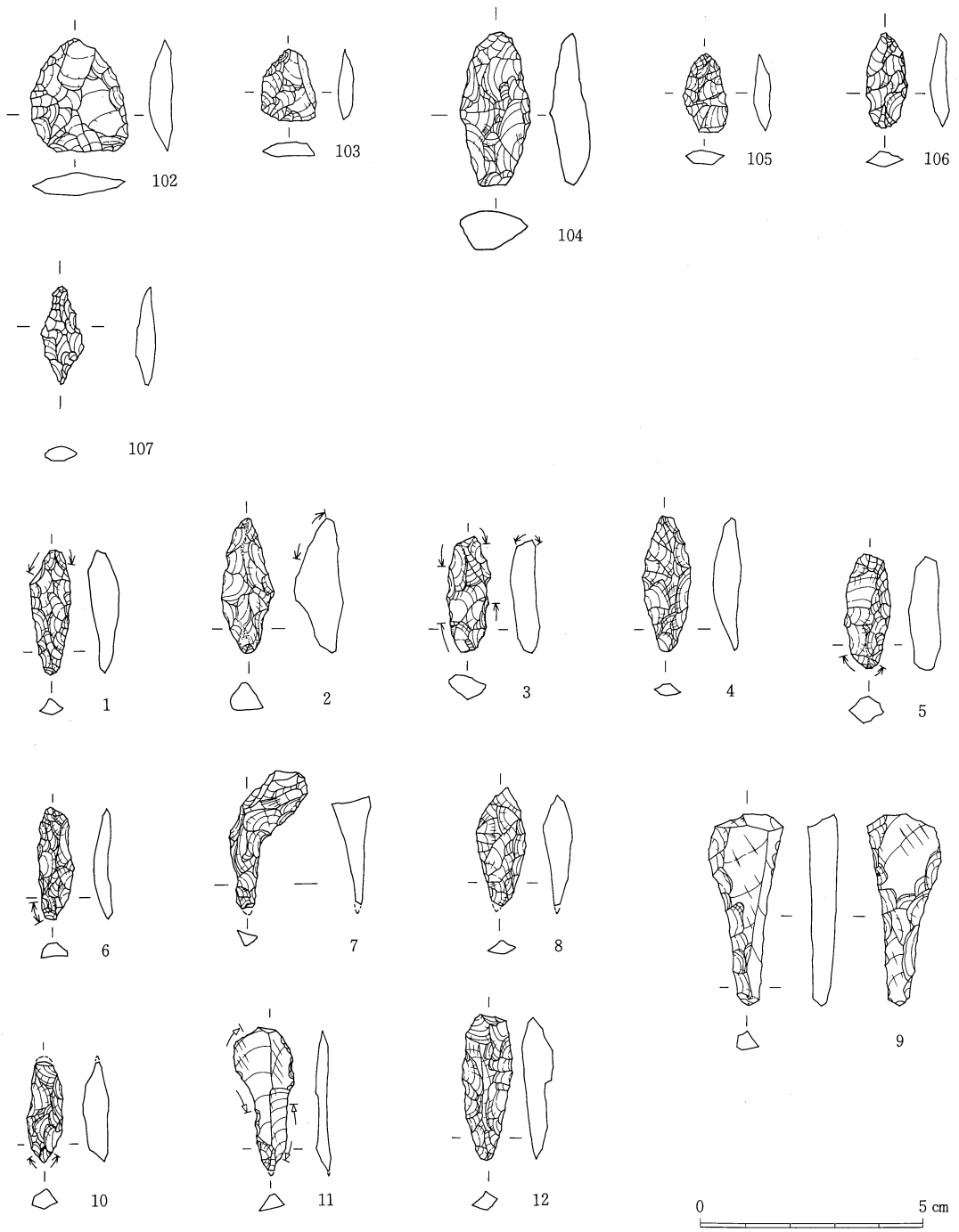
第58図 石器(2) (石鏃26~51)



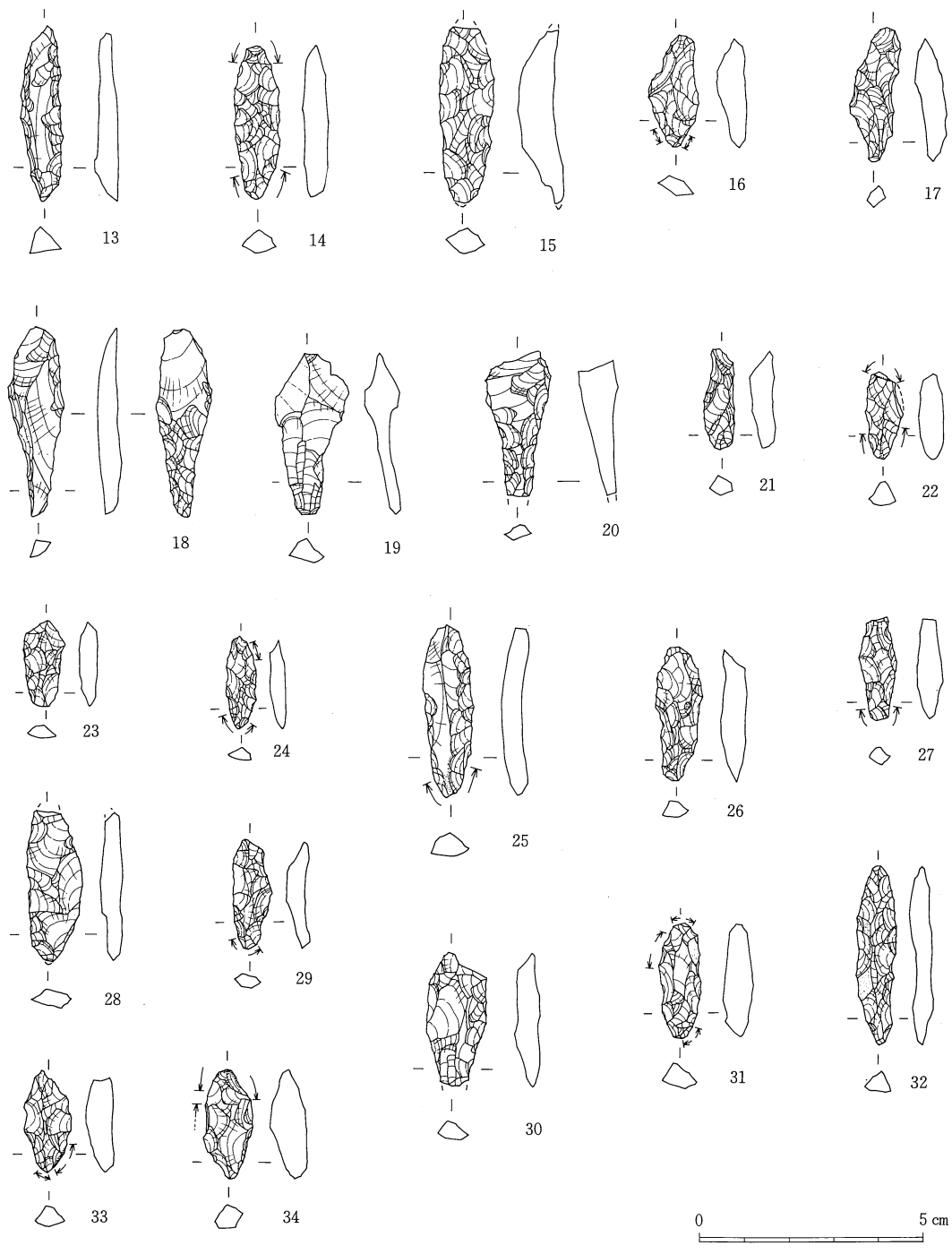
第59図 石器(3) (石鏃52~76)



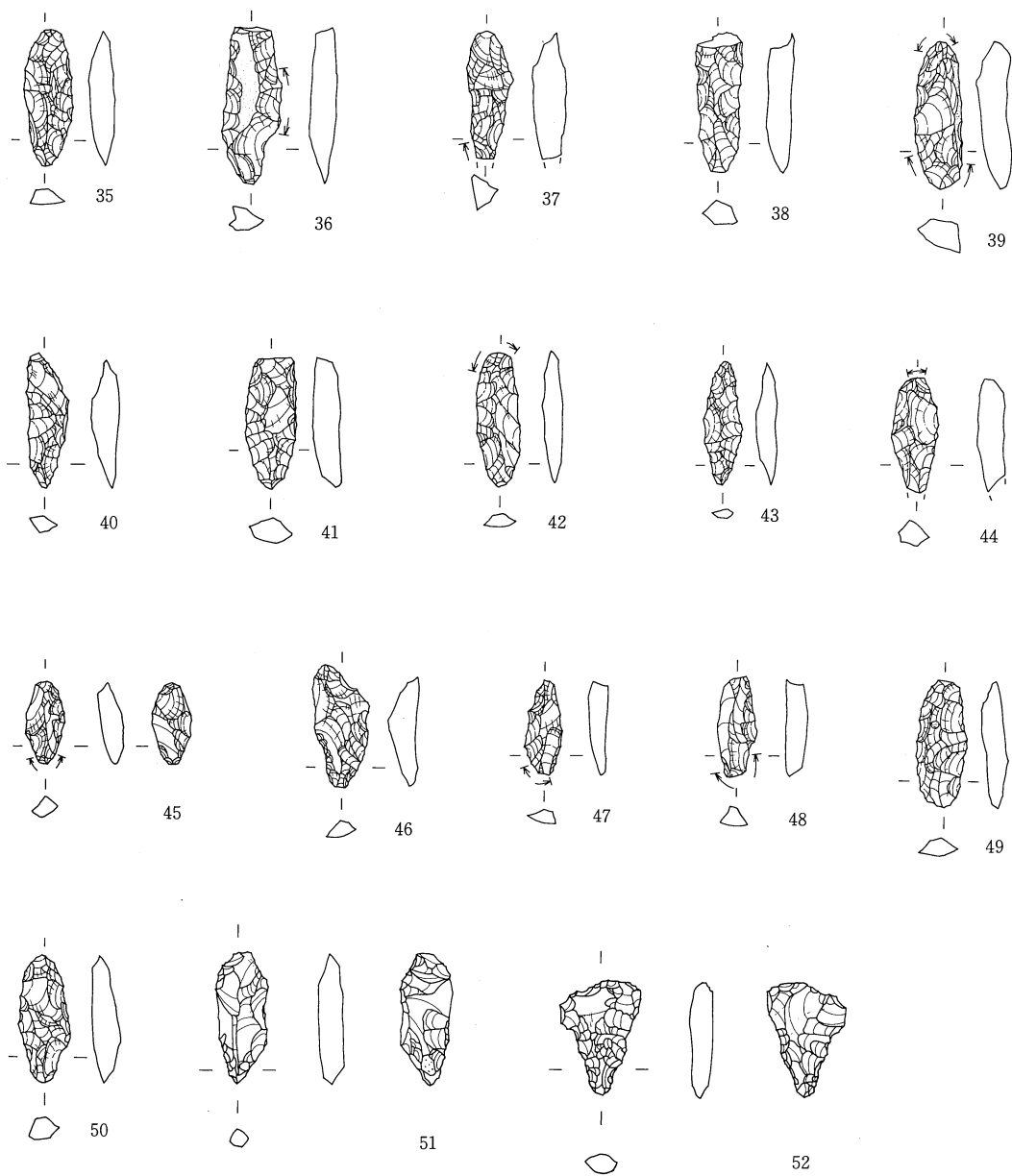
第60図 石器(4) (石鏃77~101)



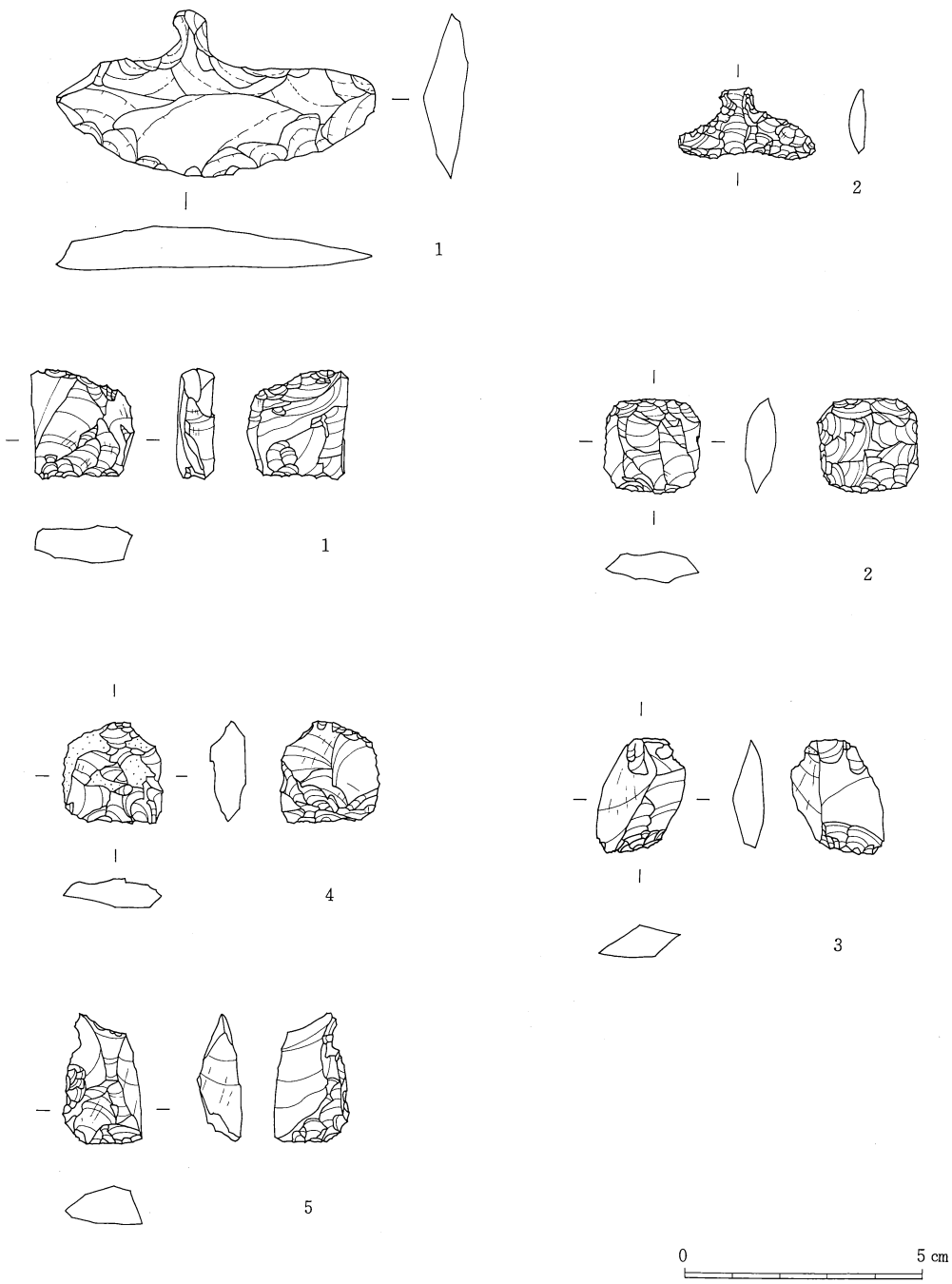
第61図 石器(5) (石鏃102~107)
石錐 1~12)



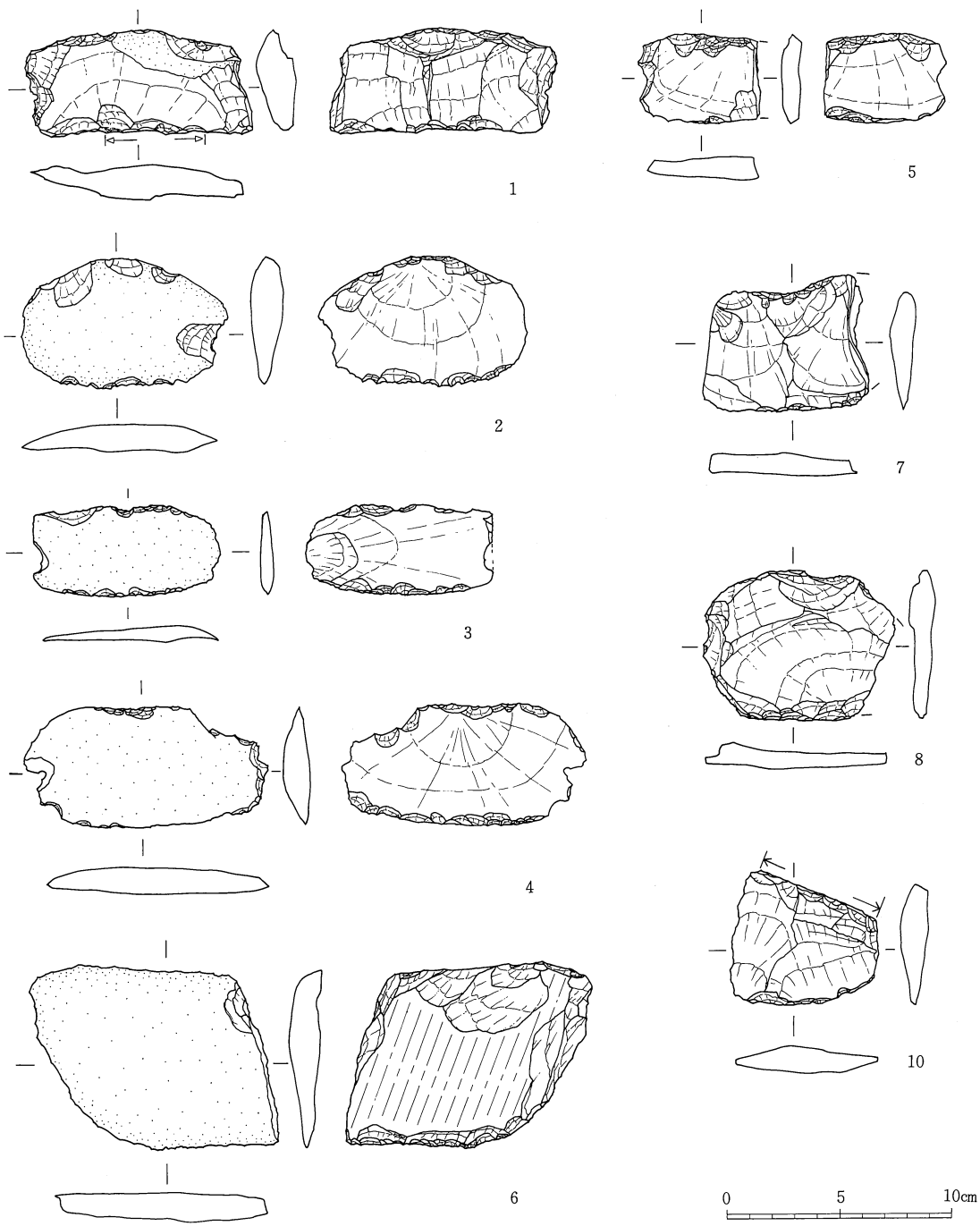
第62図 石器(6) (石錐13~34)



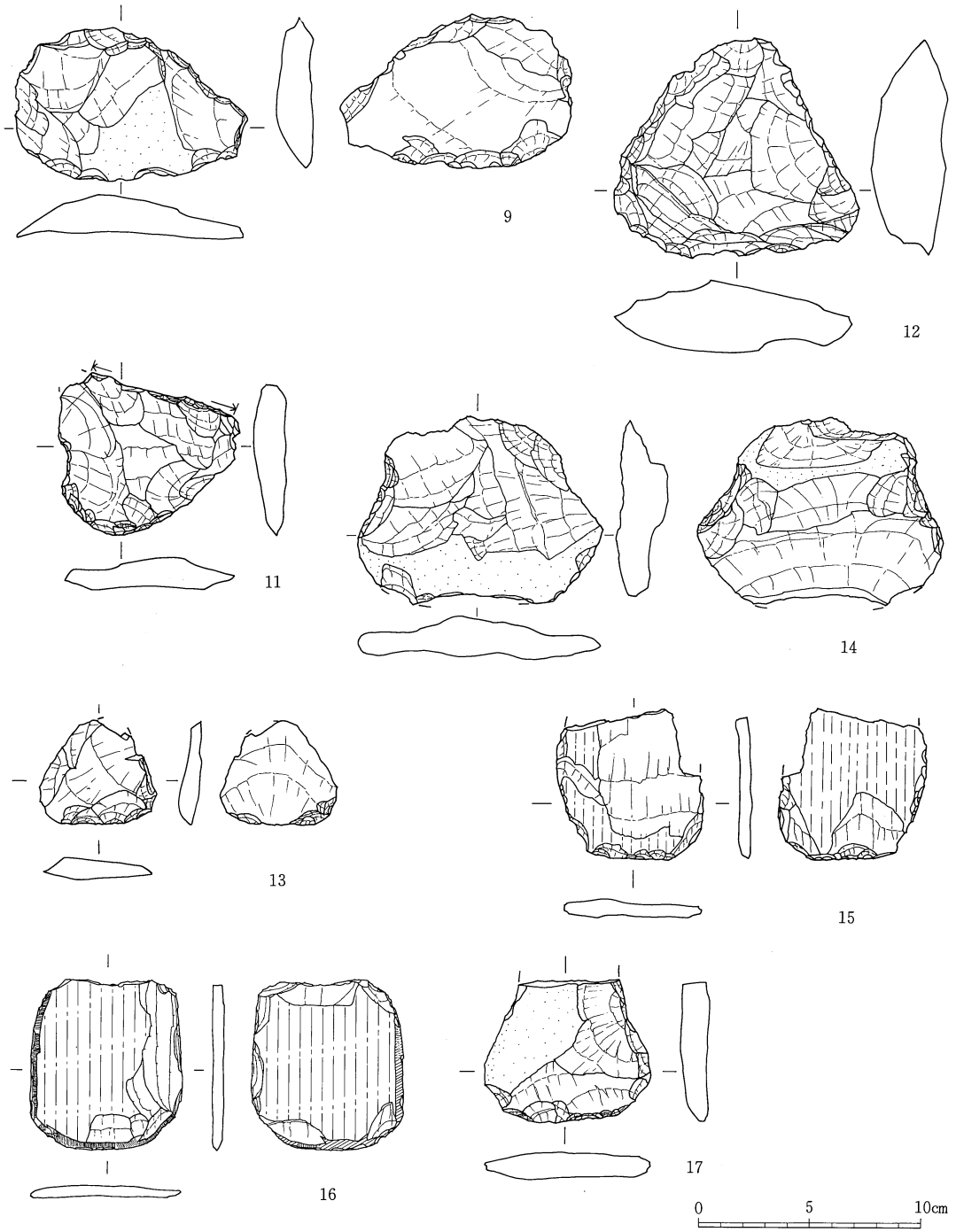
第63図 石器(7) (石錐35~52)



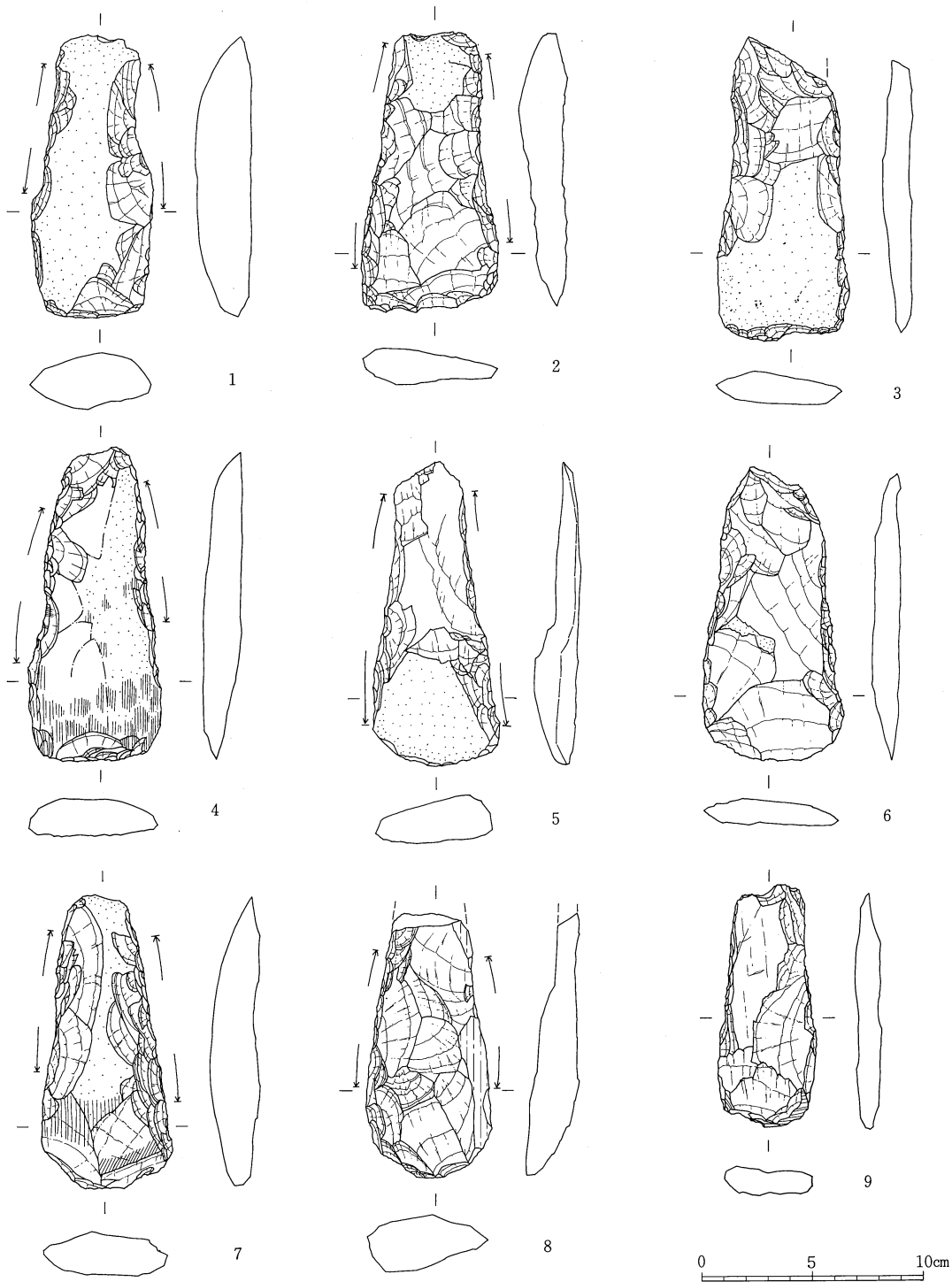
第64図 石器(8) (石匙1・2, ピエス・エスキュー1~5)



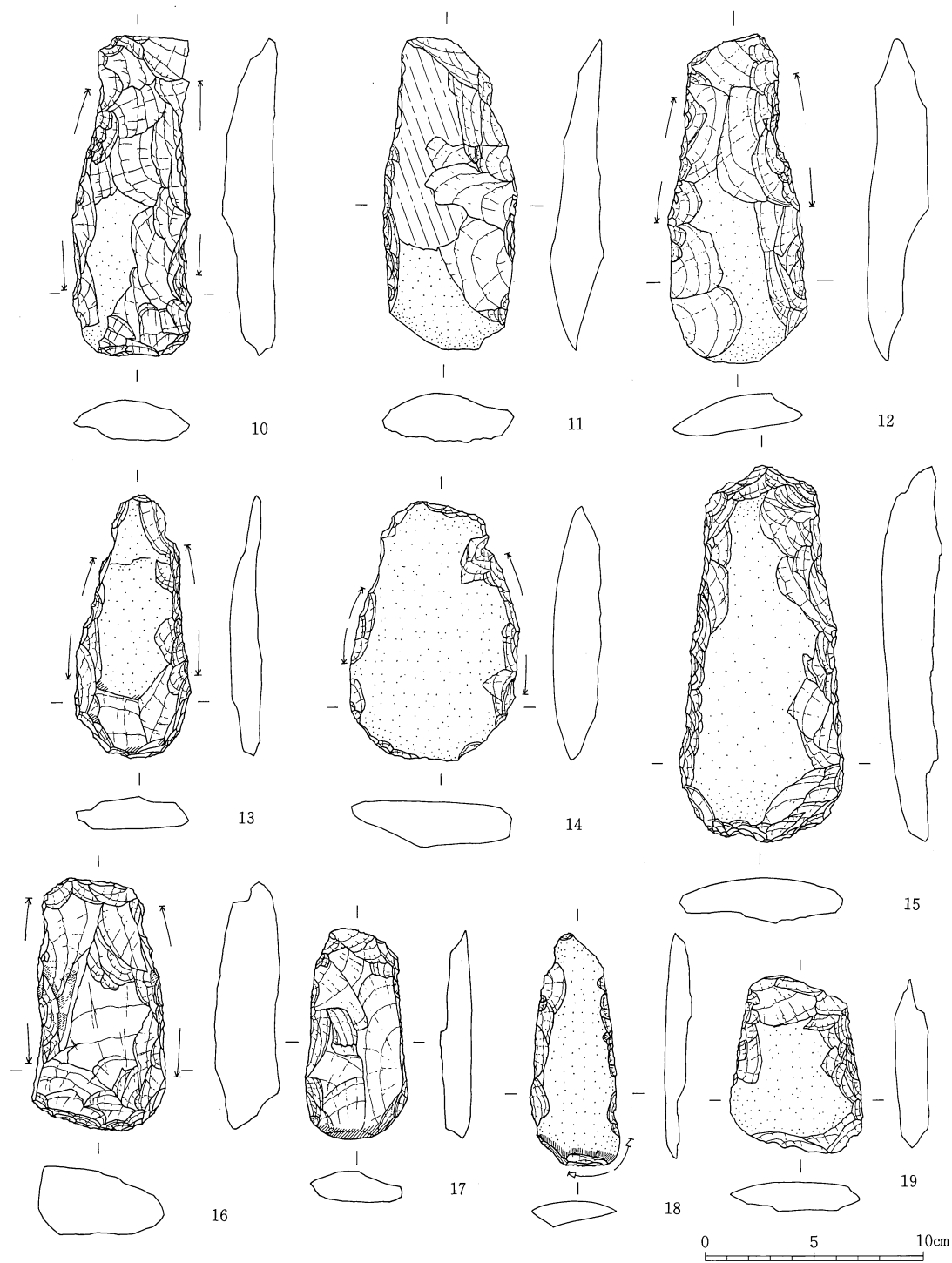
第65図 石器(9) (スクレーパー1~8・10)



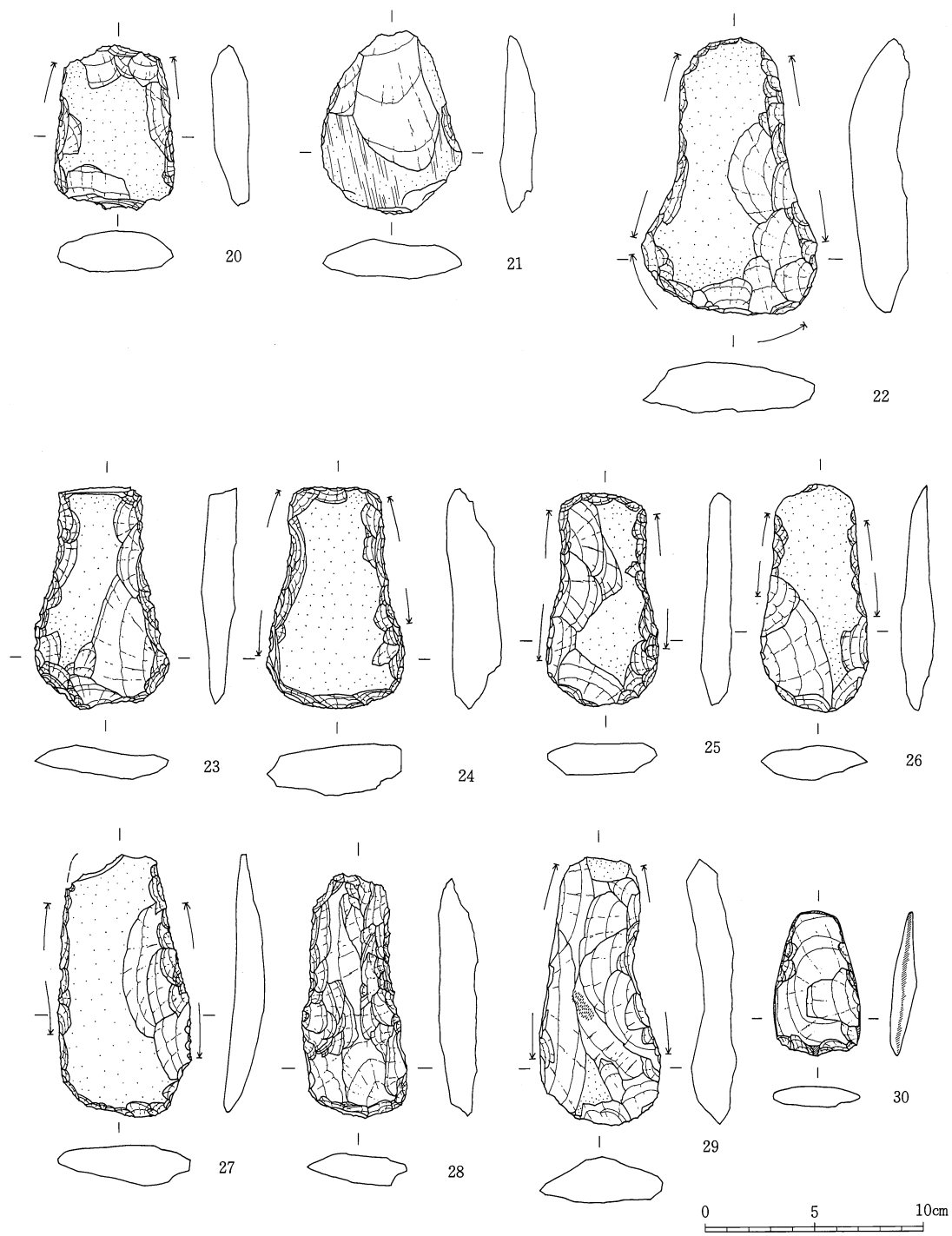
第66図 石器(10) (スクレーパー 9・11~17)



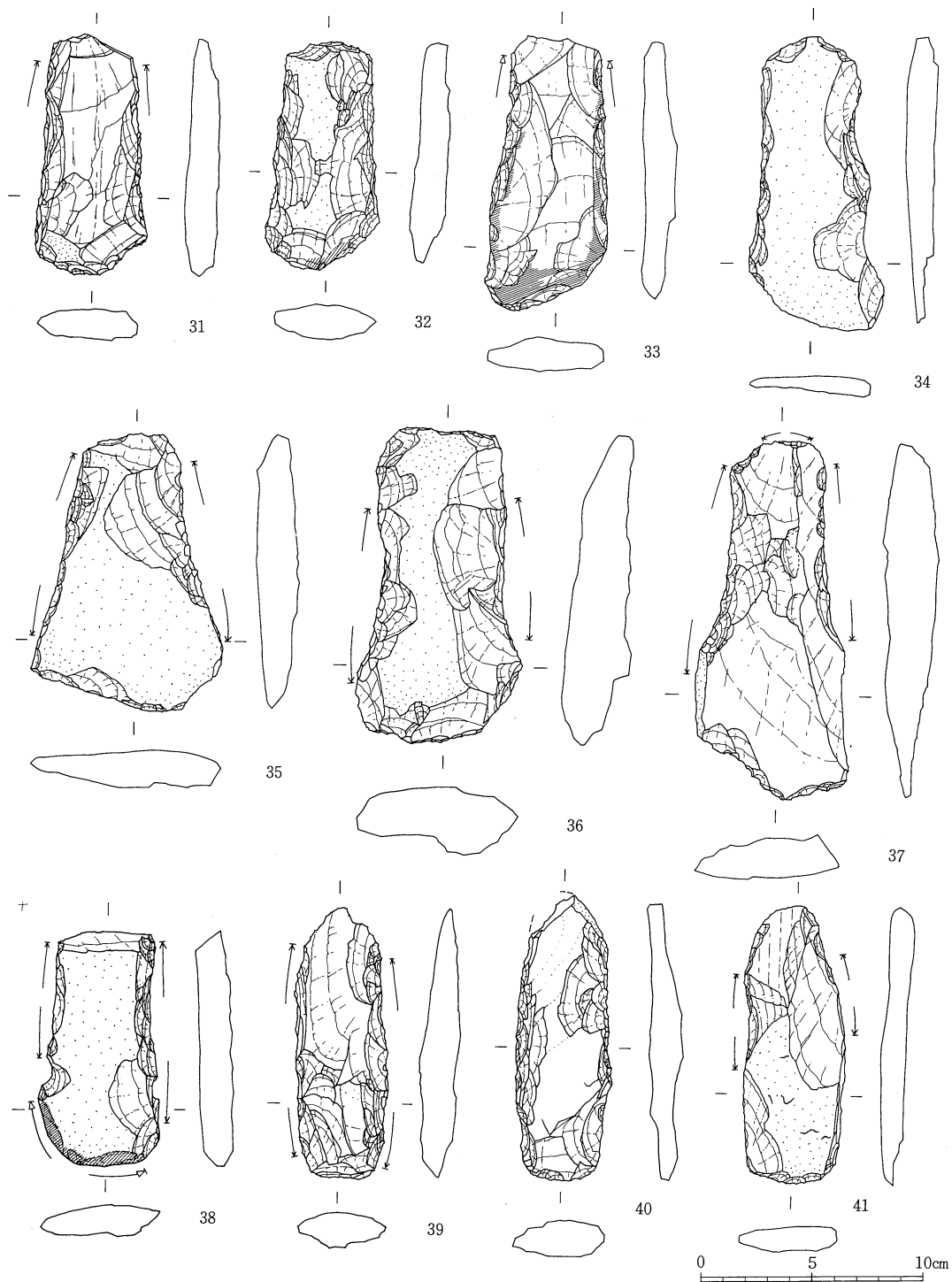
第67图 石器 (1)



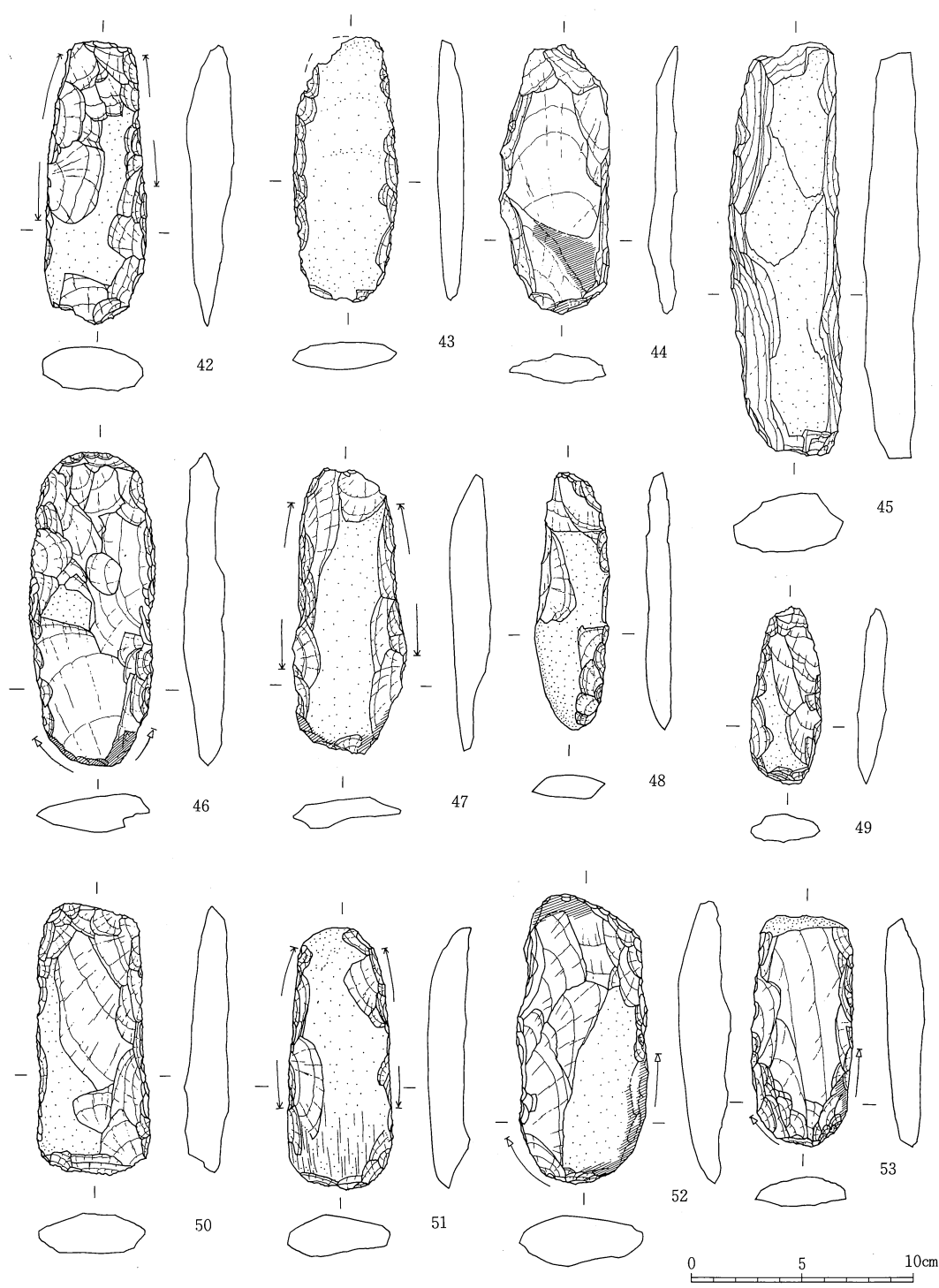
第68图 石器 (12)



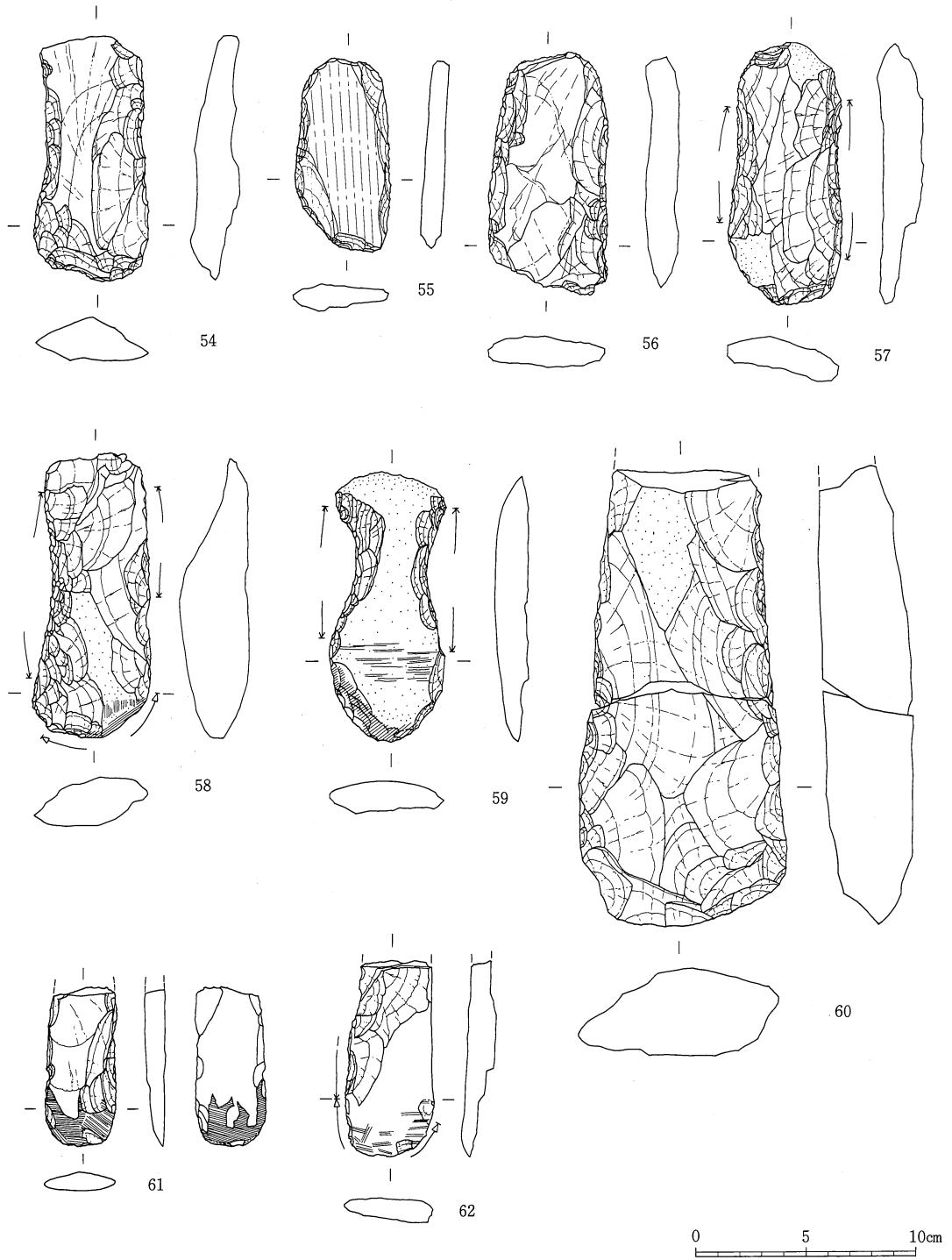
第69图 石器 (13)



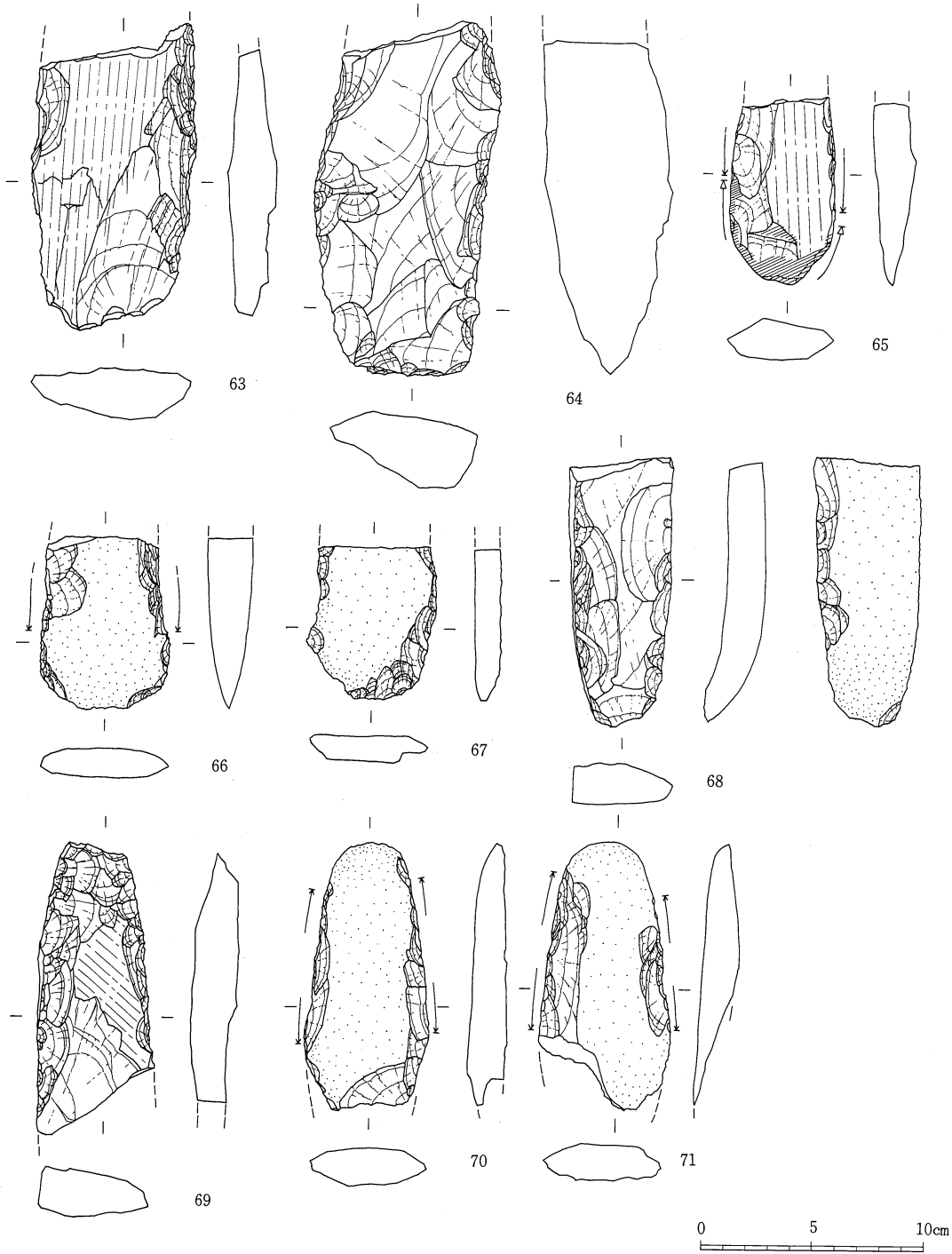
第70図 石器 (14)



第71图 石器 (15)



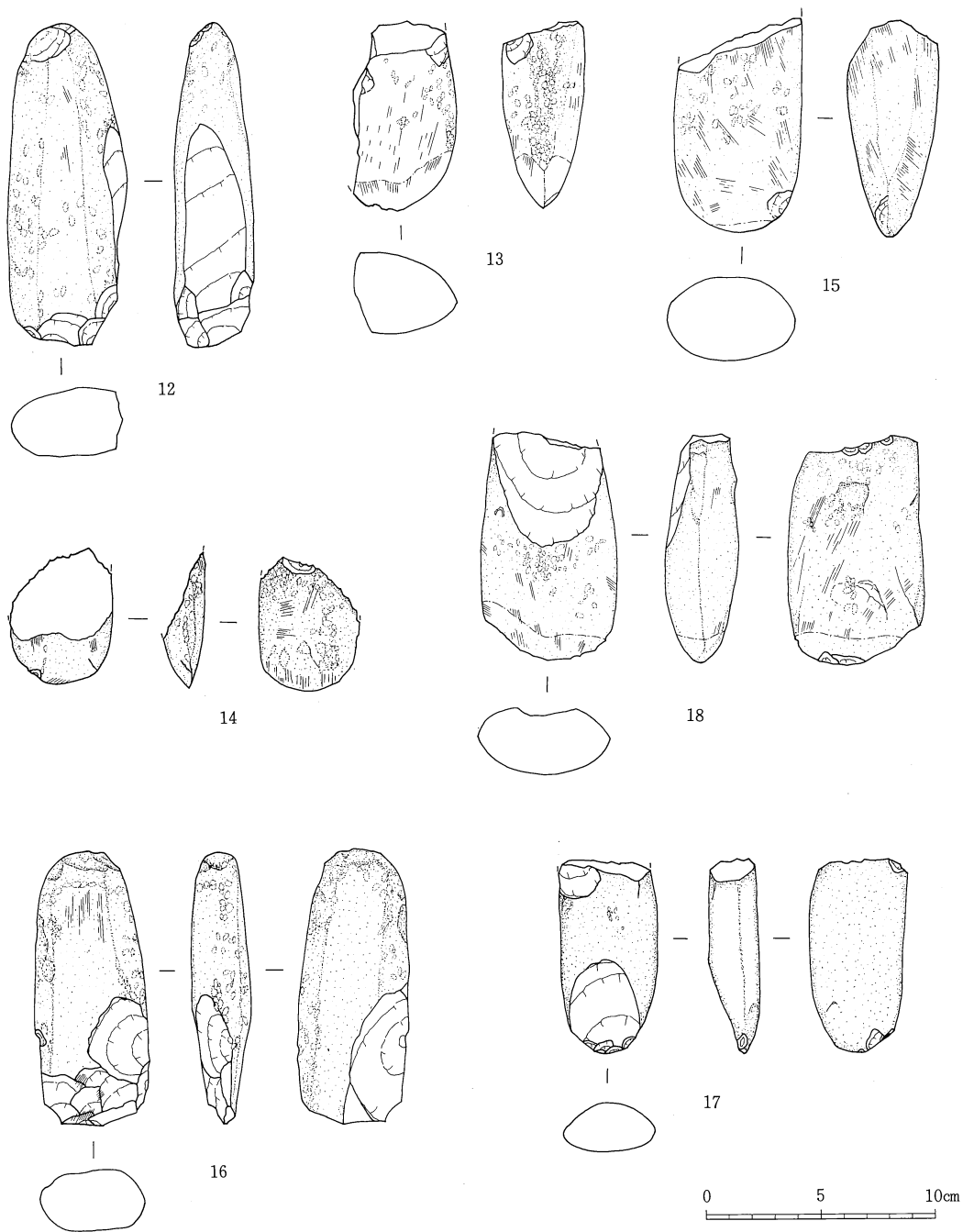
第72図 石器 (16)



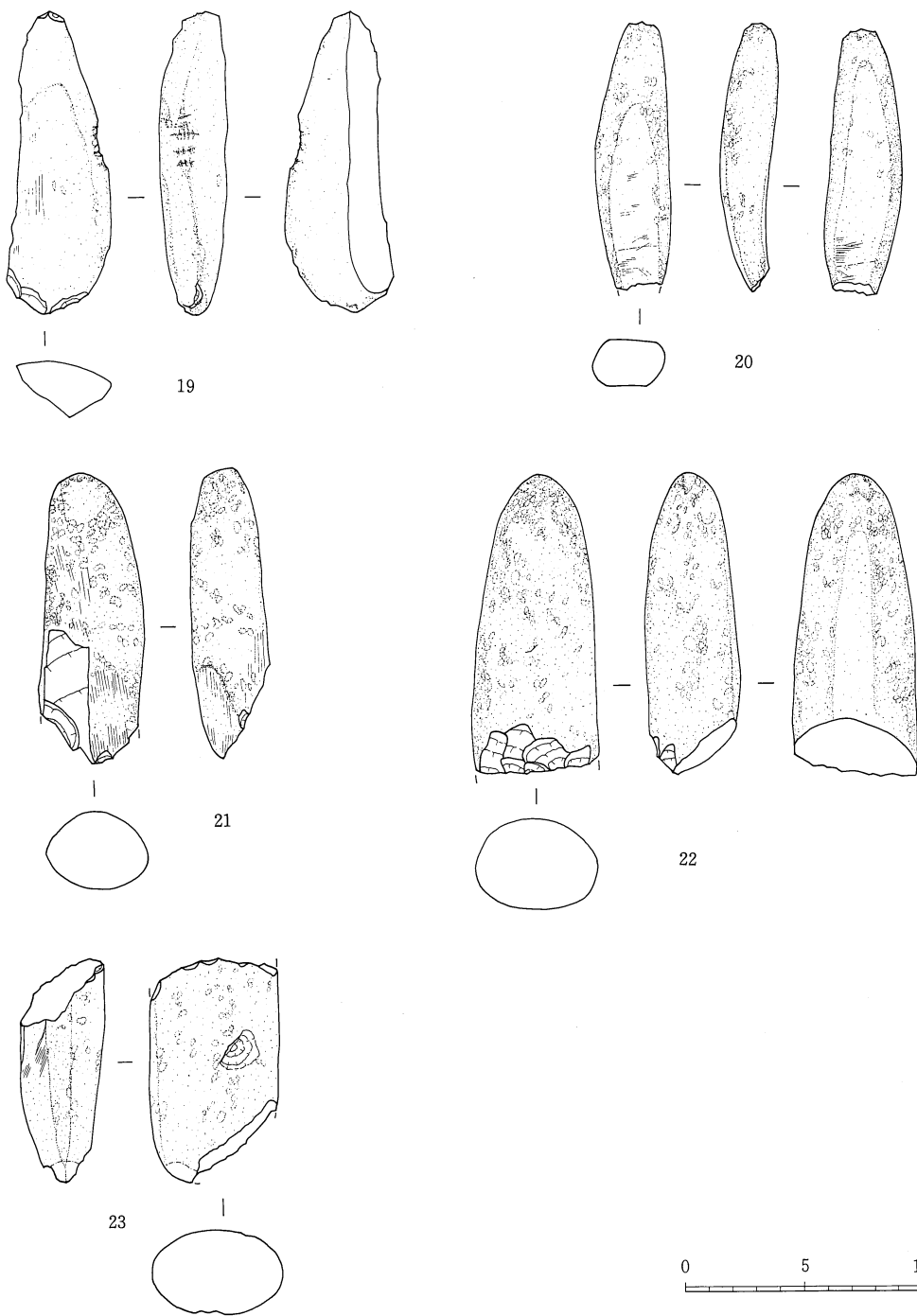
第73图 石器 (17)



第74図 石器(18) (磨製石斧 1~11)



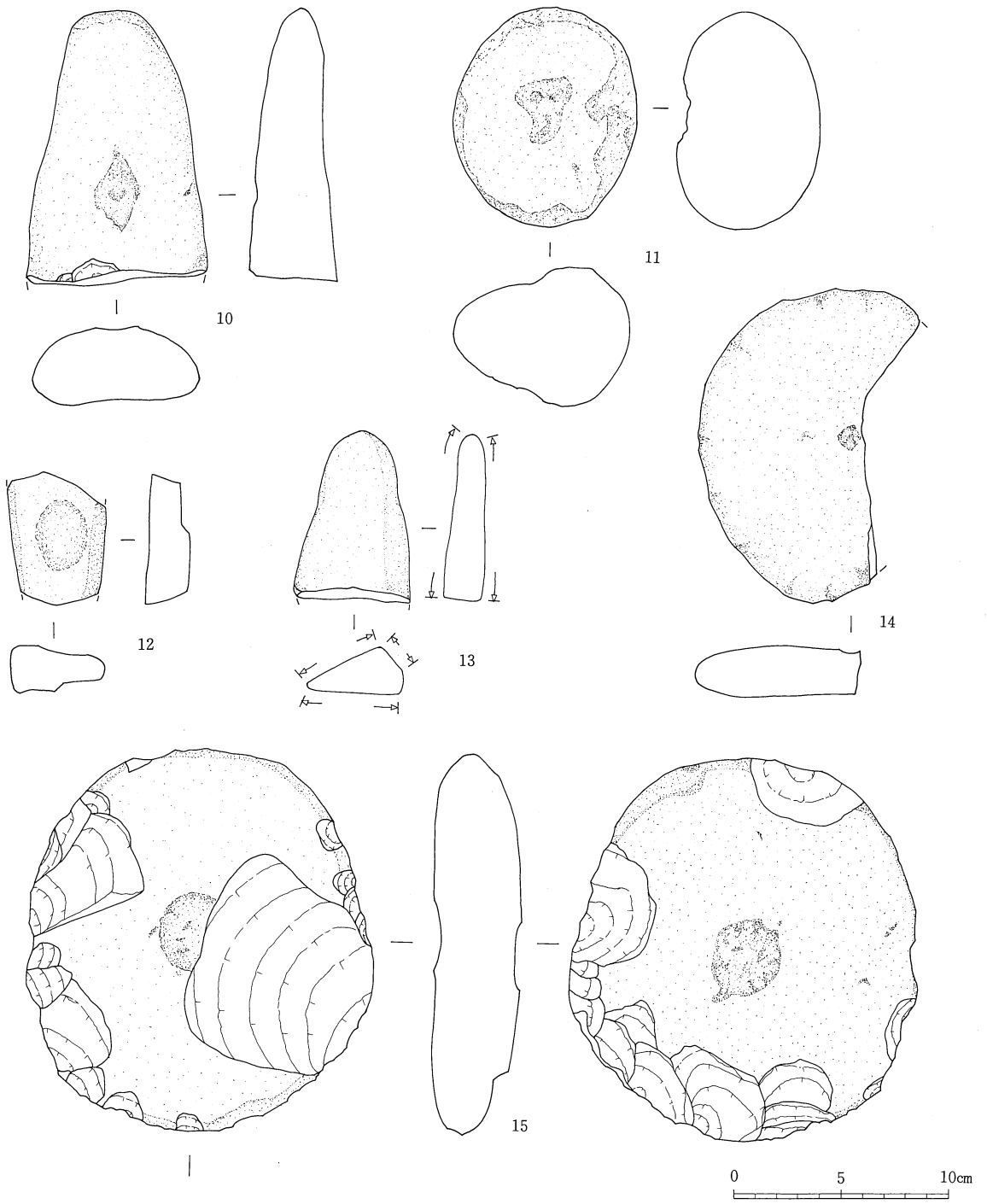
第75図 石器(19) (磨製石斧12~18)



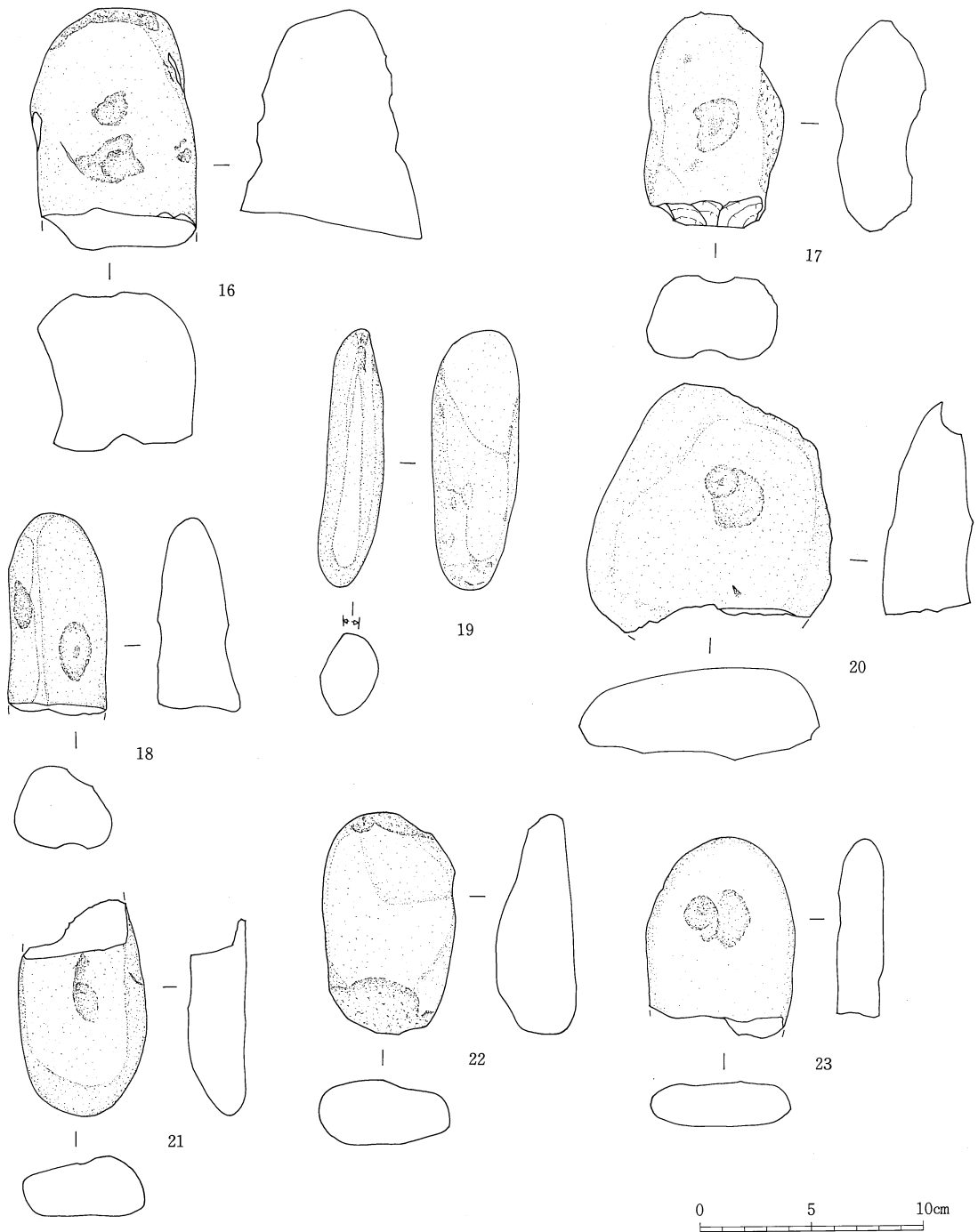
第76図 石器(20) (磨製石斧19~23)



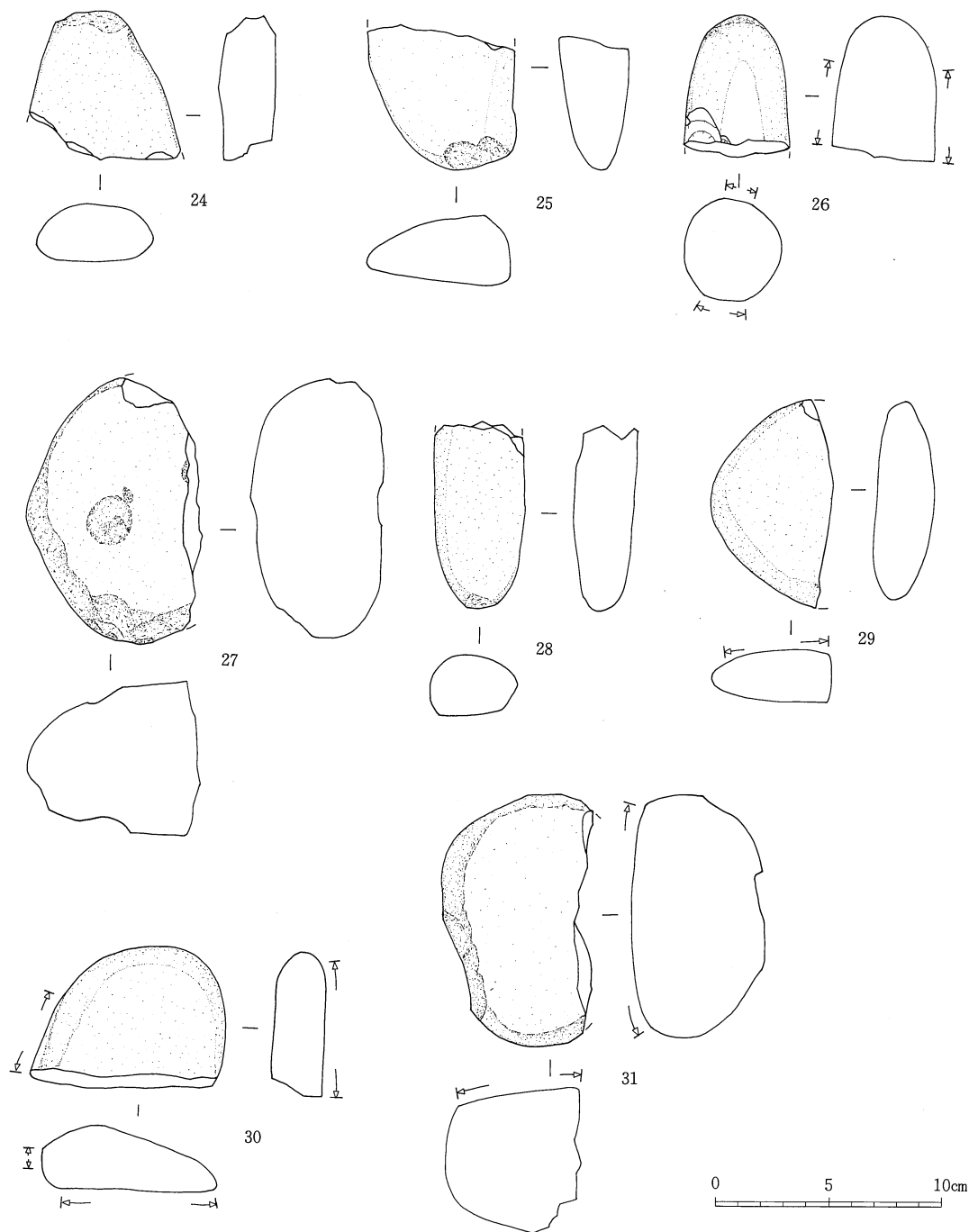
第77図 石器(21) (敲・磨・凹石 1~9)



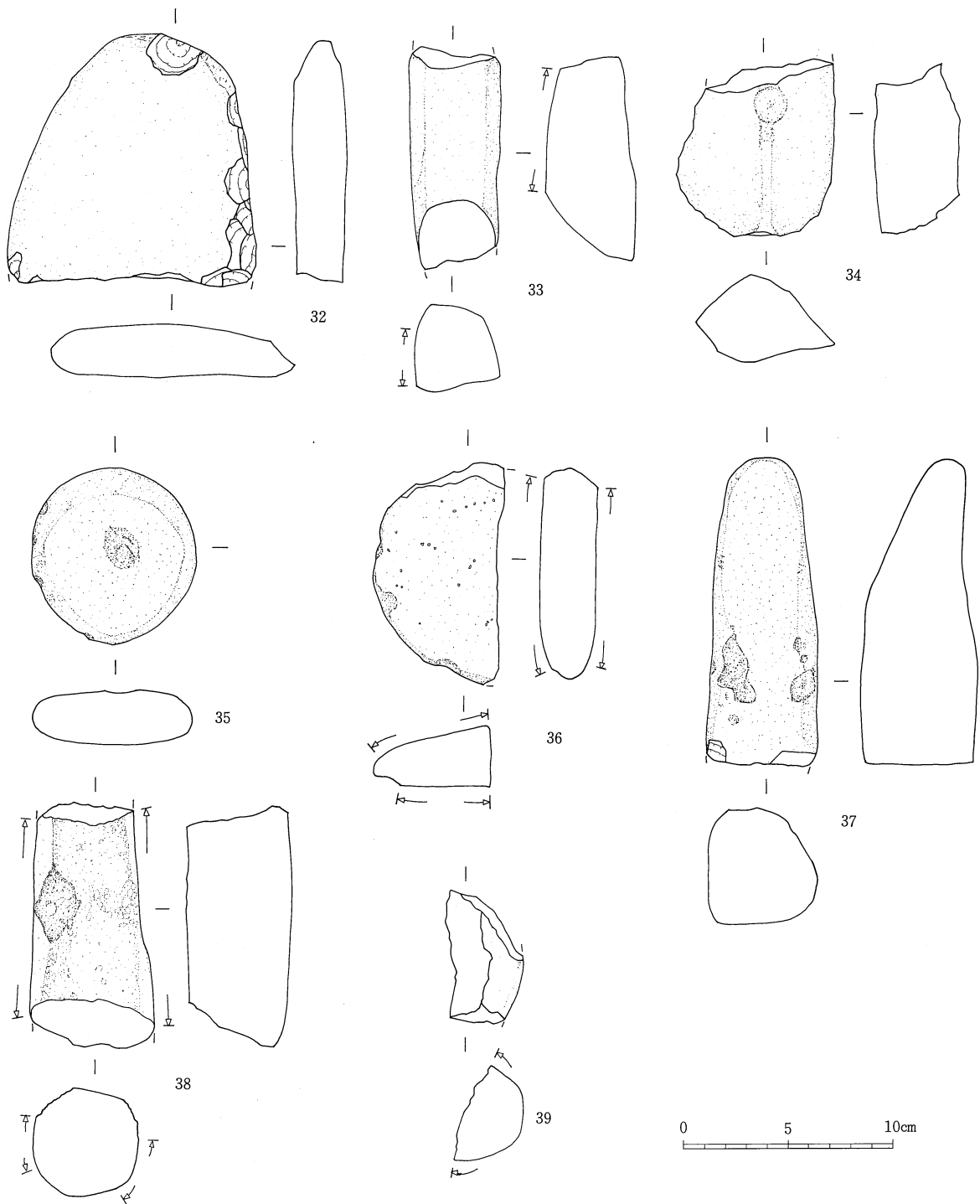
第78図 石器(2) (敲・磨・凹石10~15)



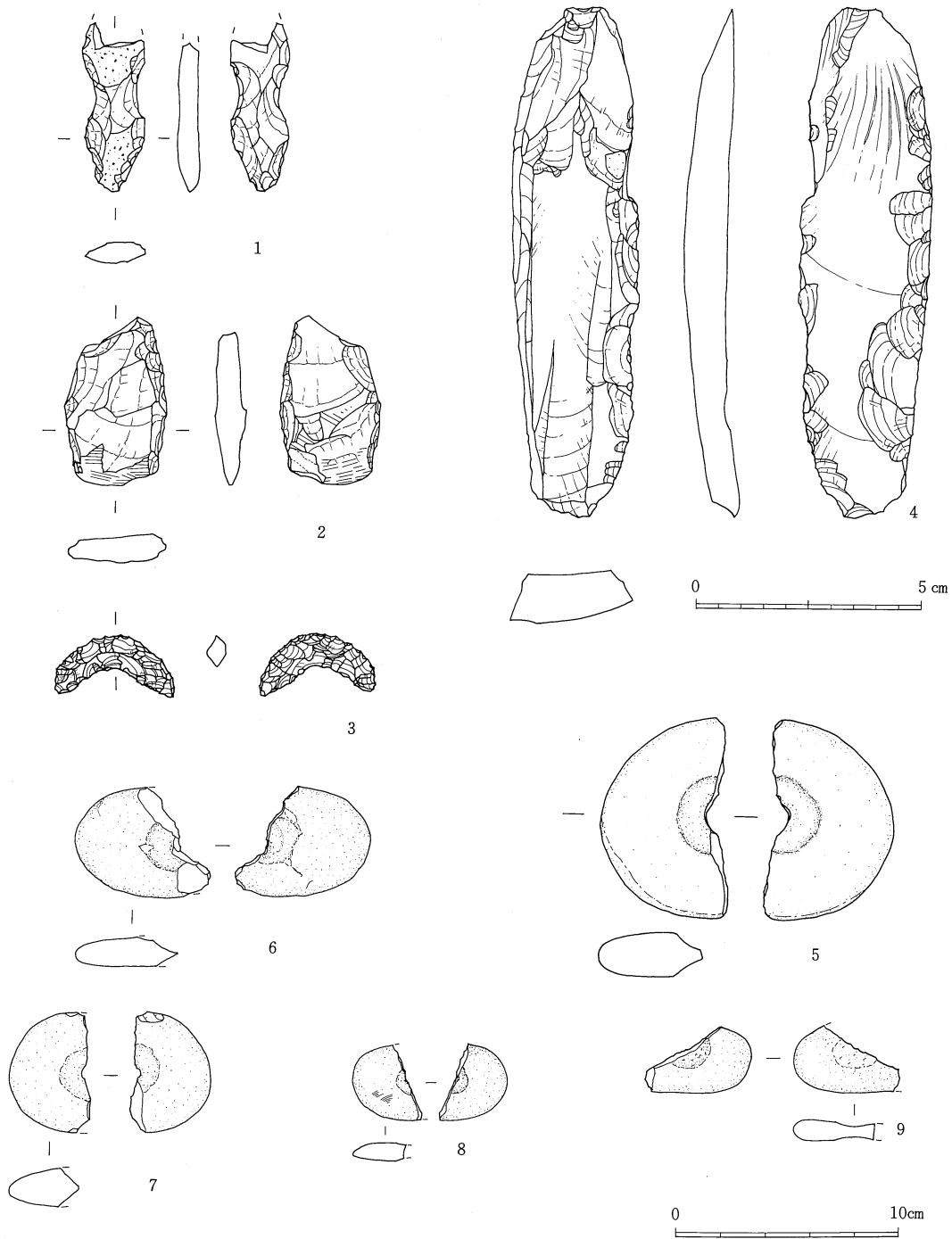
第79図 石器(23) (敲・磨・凹石16~23)



第80図 石器(24) (敲・磨・凹石24~31)



第81図 石器(25) (敲・磨・凹石32~39)



第82図 石器(26) (その他 1~9)

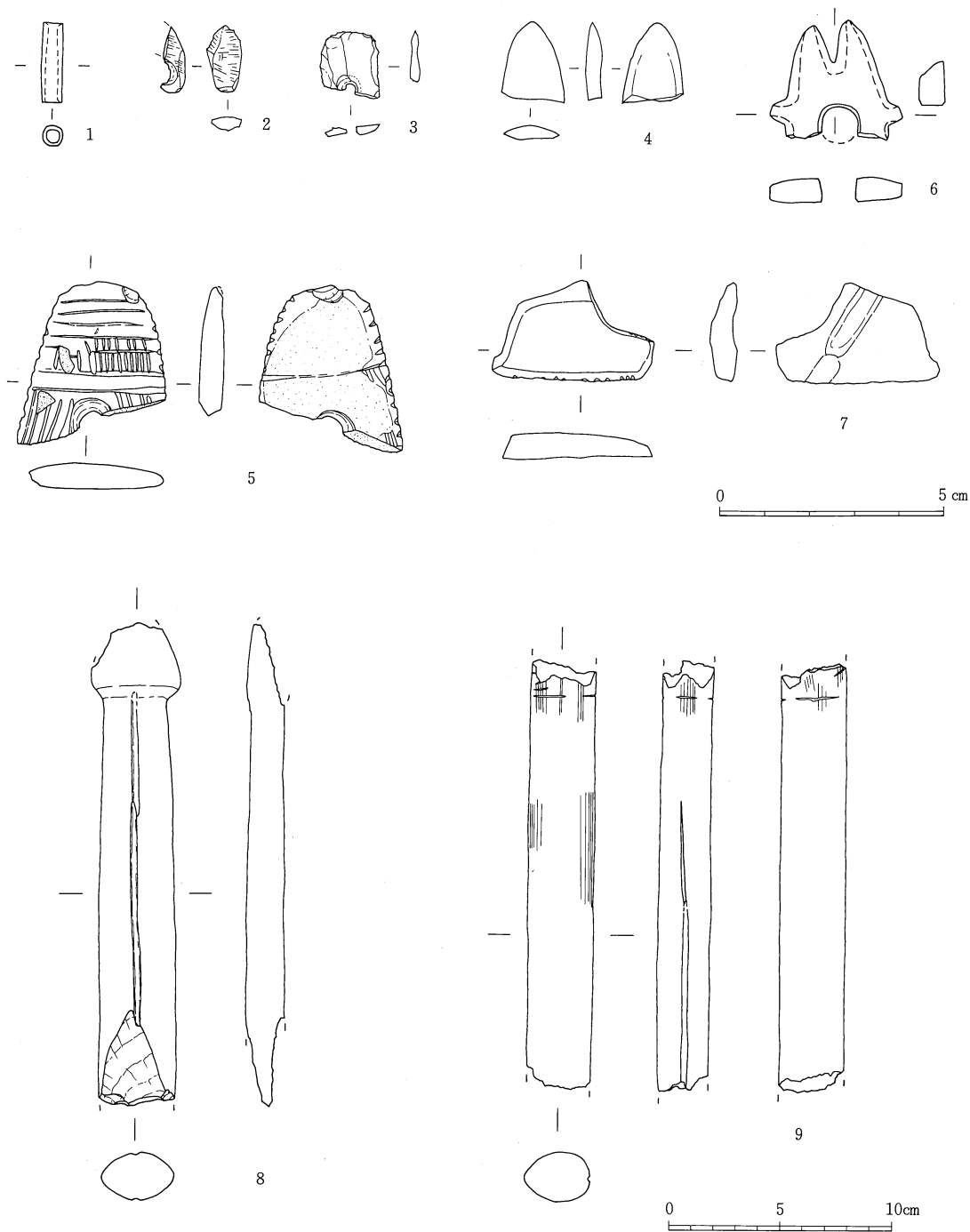
(4) 石製品 (図83)

10点出土し、9点を図化した。1は凝灰岩製の管玉。表面はよく研磨されている。上・下端とも端部から穿孔部にかけて凹んでいる点特徴的である。淡緑灰色を呈する軟質の凝灰岩製である。縄文時代には管玉はあまりみられないこと、弥生～古墳時代にかけて緑色凝灰岩製の管玉が多くみられることから、時期が下がる可能性をもつものである。2は装身具の一種と考えられるもの。器形はC字状を呈していたと考えられる。研磨は非常にあらく、成形剝離時の稜線を残している。めのう製。3は有孔の石製品。孔は両面からの回転穿孔である。周縁には成形と考えられる調整剝離が施されている。砂岩製。4は剣状の先端をもつ石器。研磨がよく施され、鋭い刃部を呈している。横断面は低いカマボコ状を呈する。裏面は周縁にそって鈍い稜がみられる。千枚岩製。5は装身具又は呪具と考えられるもの。孔の部分で破損しており全体形はわからない。孔は両面からの回転穿孔である。扁平な礫を素材とし、側縁部には浅い刻み目を施し、体部両面には線刻を施している。線刻はタテ・ヨコ方向を組み合わせたモチーフである。裏面の線刻文様は器面の剝落によりよくわからなかった。砂岩製。6も有孔の石製品である。孔はおそらく片面からの回転穿孔であろう。上方にはV字状の切り目が施され、両側には突出部をもつ。裏面は平坦である。全体形は推定できなかった。泥質砂岩製。7は刻み目をもつもの。表面の下端部、右側に凹状を呈する縁辺の一部に細かな刻み目が施されている。裏面は斜めに浅い凹状の溝が施されている。砂岩製。8は石剣。一部を欠いているが亀頭状の頭をもち、頭部から下は断面紡錘形の棒状の体部が伸びている。体部の両面には中央に沈線が施されている。緑れん片岩製。9は石刀。断面が偏紡錘形を呈する棒状のもので反りはない。頭は折れて失われているが、頭部寄りのところには横走する沈線が施されている。

表4 石製品一覧表

№	器種	出土	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	管玉	S69 W78	Ⅱ層上	1.79	0.47	0.47	0.45	凝灰岩	完	
2	装身具	S75 W75	Ⅱ層下	(1.52)	(0.71)	(0.57)	(0.65)	めのう	1/2欠	
3	剣形石製品	S84 W96		(2.88)	(2.63)	(0.55)	(4.70)	砂岩	〃	
4	石剣	S81 W93		(3.60)	(2.76)	(0.72)	(1.65)	千枚岩	先端残	
5	装身具?	S81 W93	Ⅱ	(3.61)	(3.21)	(0.54)	(8.10)	砂岩	1/2欠	
6	〃	土壙13	覆	(2.76)	(2.98)	0.61	(4.40)	泥質砂岩		
7	不明	土壙27		2.27	3.50	0.60	5.20	砂岩	ほぼ完	
8	石剣	S84 W90	Ⅲ	(21.50)	(3.29)	(1.99)	(247)	緑れん片岩	先端・下端欠	
9	石刀	S66 W66	Ⅱ	(19.20)	(2.86)	(2.23)	(235)	?	下端欠	
10	石刀?	S84 W90	Ⅱ層上部	(10.52)	(3.01)	(1.81)	(96.10)	玢岩	下半欠	

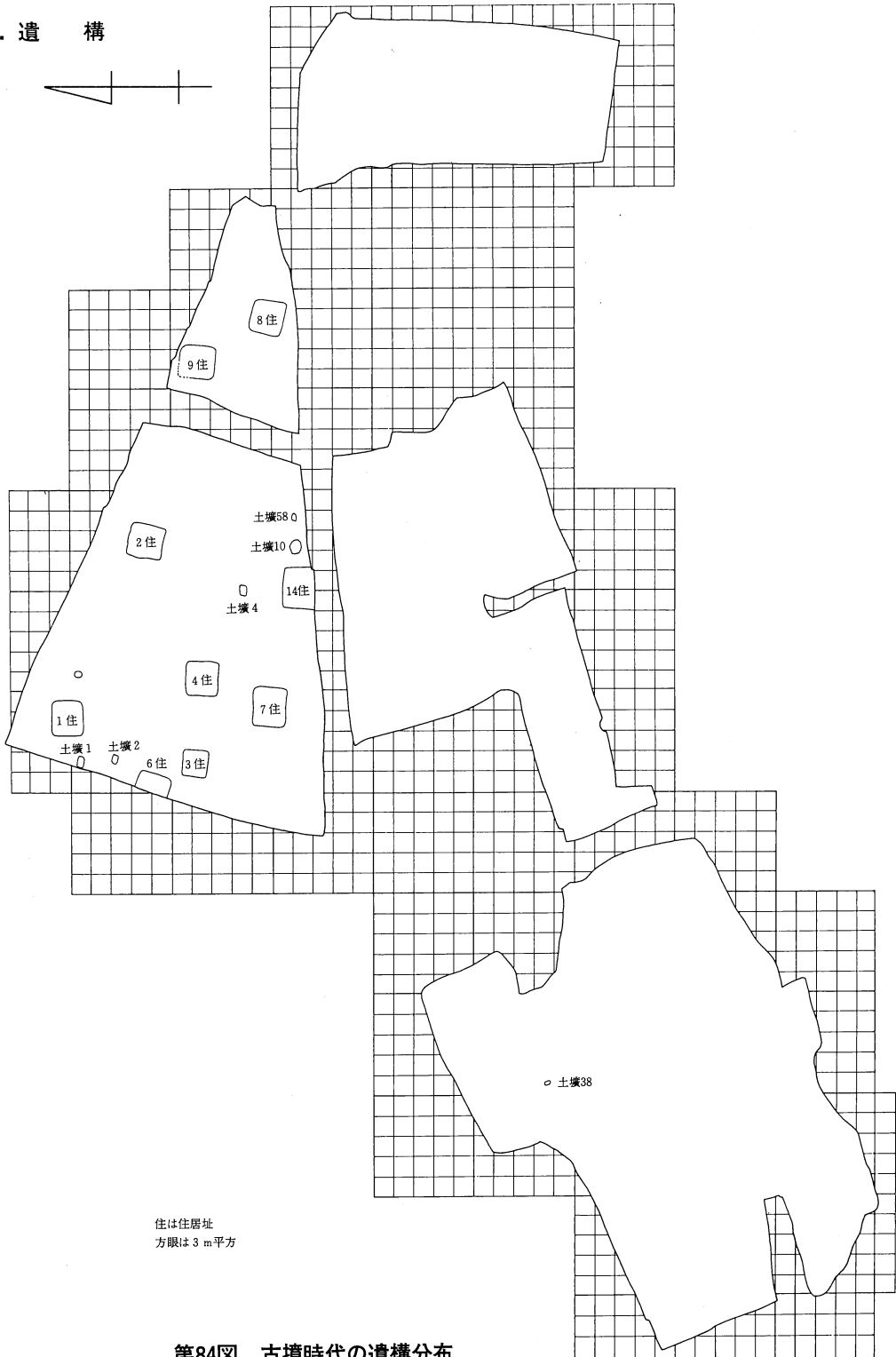
また、刃のない背部の下半には1条の沈線が施されている。石質は不明。10は図示していないが、石刀の可能性をもつもの。先端の一部、下半を大きく失っているが、横断面が偏紡錘形、外反りの棒状のもの。研磨痕が一部に推察される。



第83図 石製品

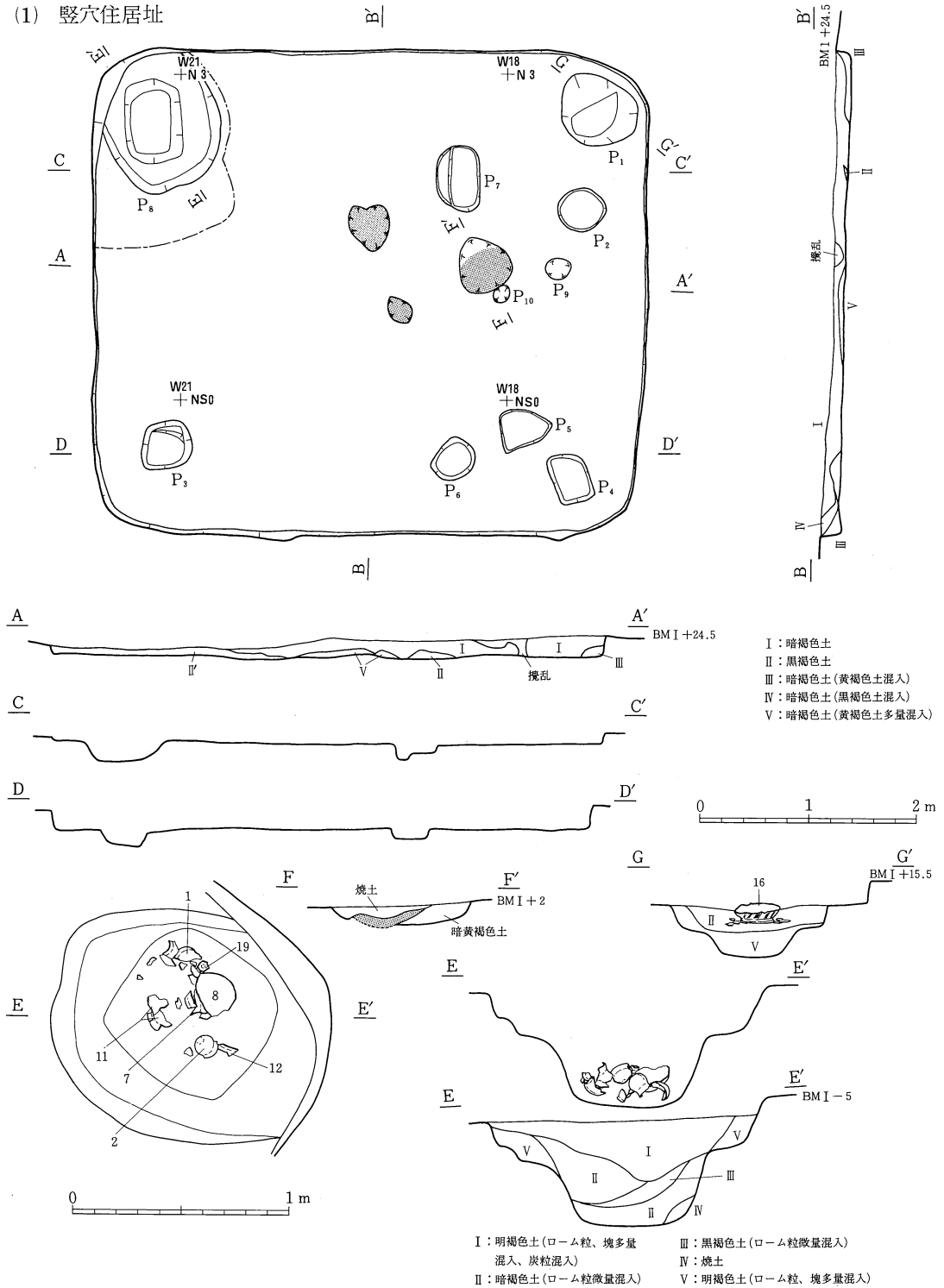
3 古墳時代の遺構と遺物

1. 遺 構

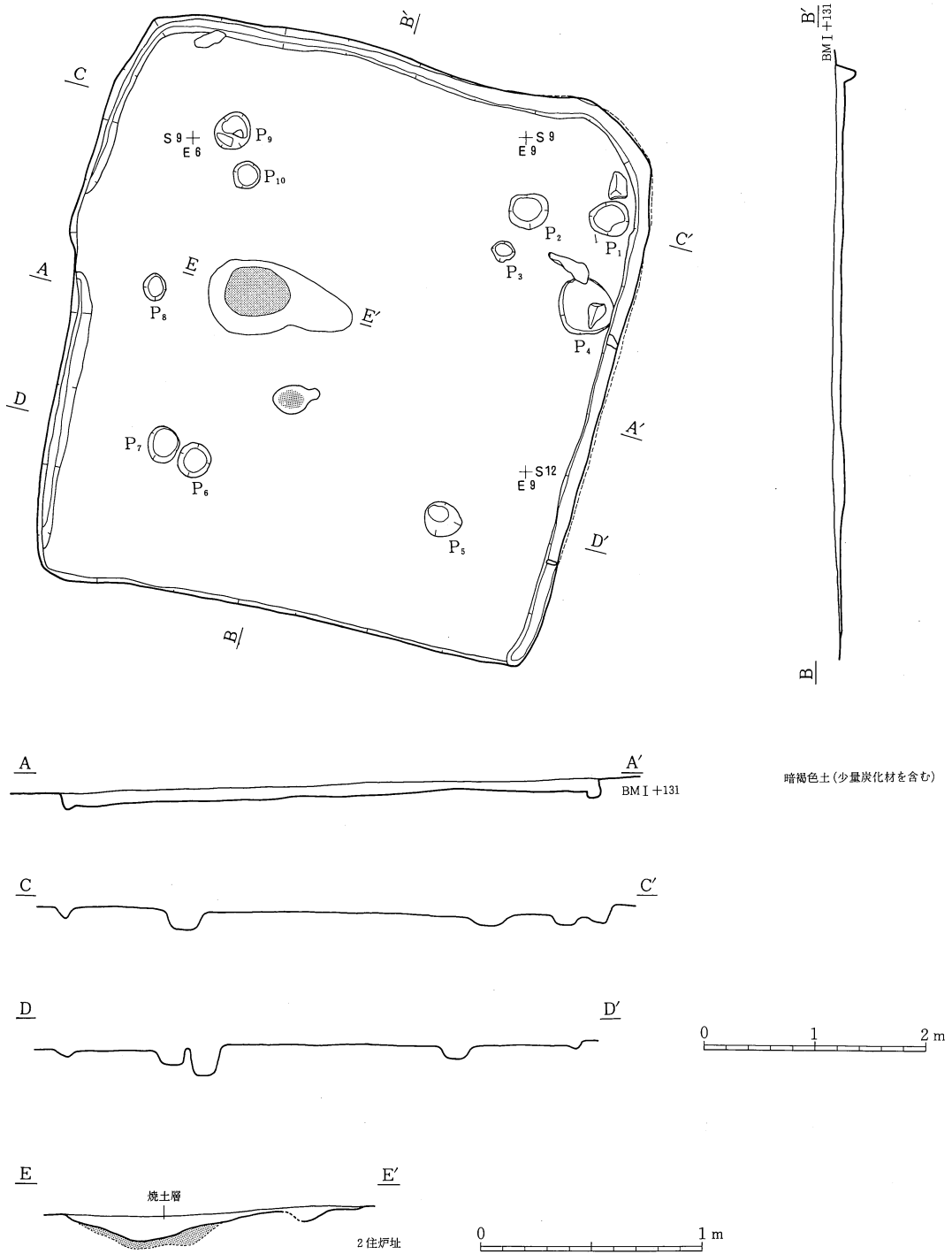


第84図 古墳時代の遺構分布

(1) 竪穴住居址

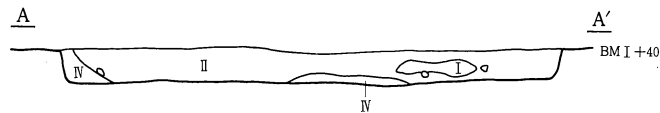
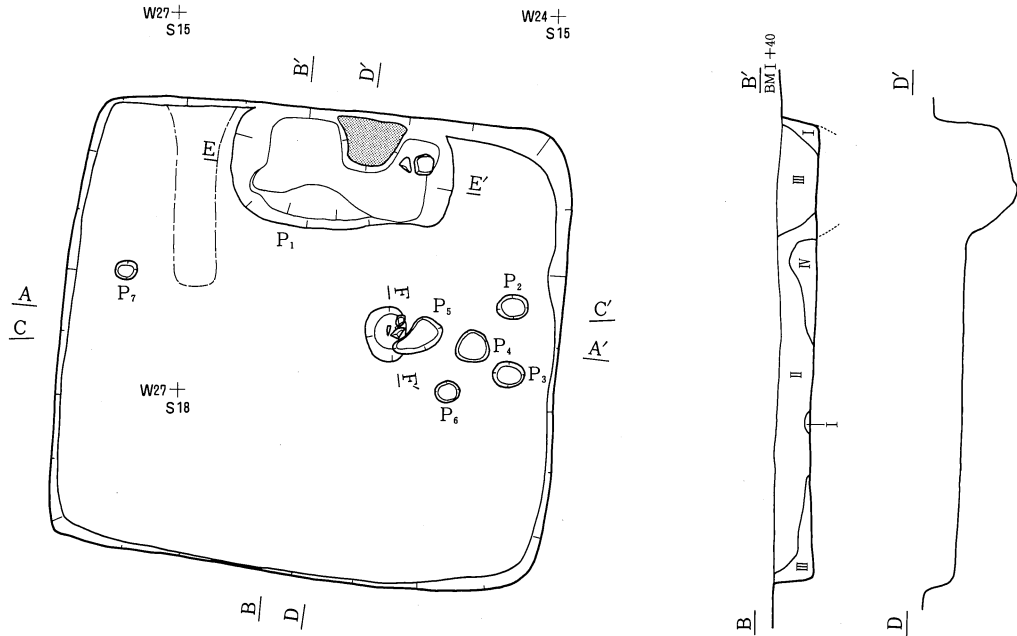


状況壁上部削平 床地山直床軟弱 床面積21.7m² 貯蔵穴北西隅P₈・周囲に周堤状の堅い床 出土遺物P₁(16)、P₈(1・2・7・8・11・12・19)一括遺物、他は覆土中から小片となり出土(～18)鉄鏃1(1)、刀子1(2) 時期古墳時代前期

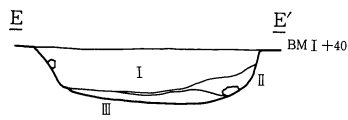
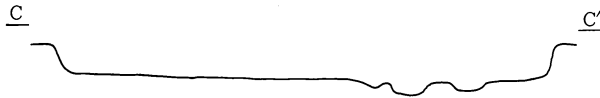


状況壁上部削平攪乱、覆土は耕作の影響をうける 床地山直床軟弱、直上から炭化材少量、柱穴配置より拡張の可能性、棟持ち柱？
 (P₈) 出土遺物耕作のため破壊小片となって多数(20~36)、砥石(6) 床面積22.3m² 時期古墳時代前期

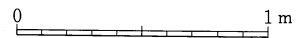
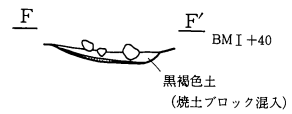
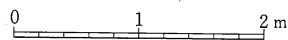
第86図 第2号住居址



- I : 漆黒色土
- II : 褐色土
- III : 明褐色土
- IV : 明黄褐色土

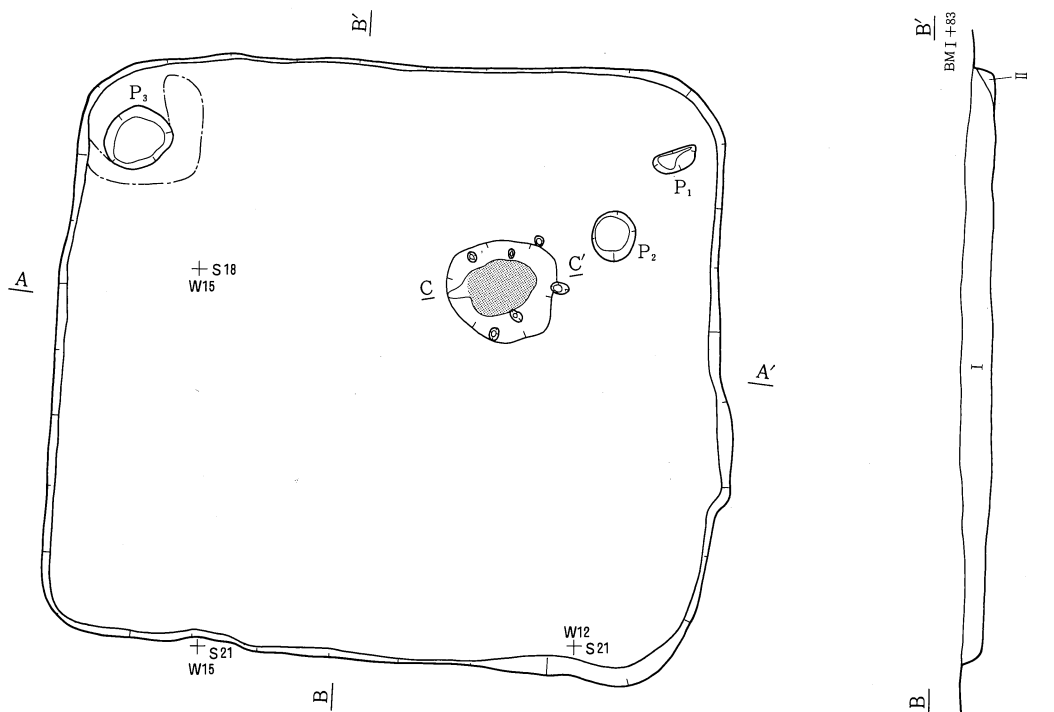


- I : 黒色土 (黄褐色土塊混入)
- II : 暗褐色土 (炭化物、焼土少量混入)
- III : 暗黄色土 (黄色土粒混入)

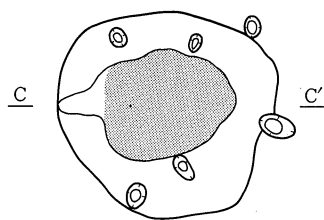
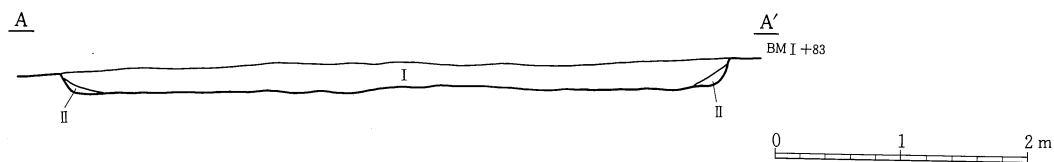


状況壁良好残存 床地山直床 貯蔵穴 P₁内部に炭化物・焼土の面・P₁南外に周堤状の堅く高い床 柱穴不明 出土遺物覆土中・床上から少量散見 (37~40) 床面積13.3m² 時期古墳時代前期

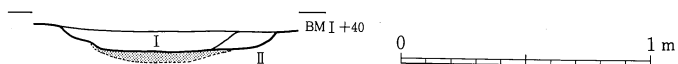
第87図 第3号住居址



I : 暗褐色土 (黄褐色土ブロック含む)
II : 黄褐色土

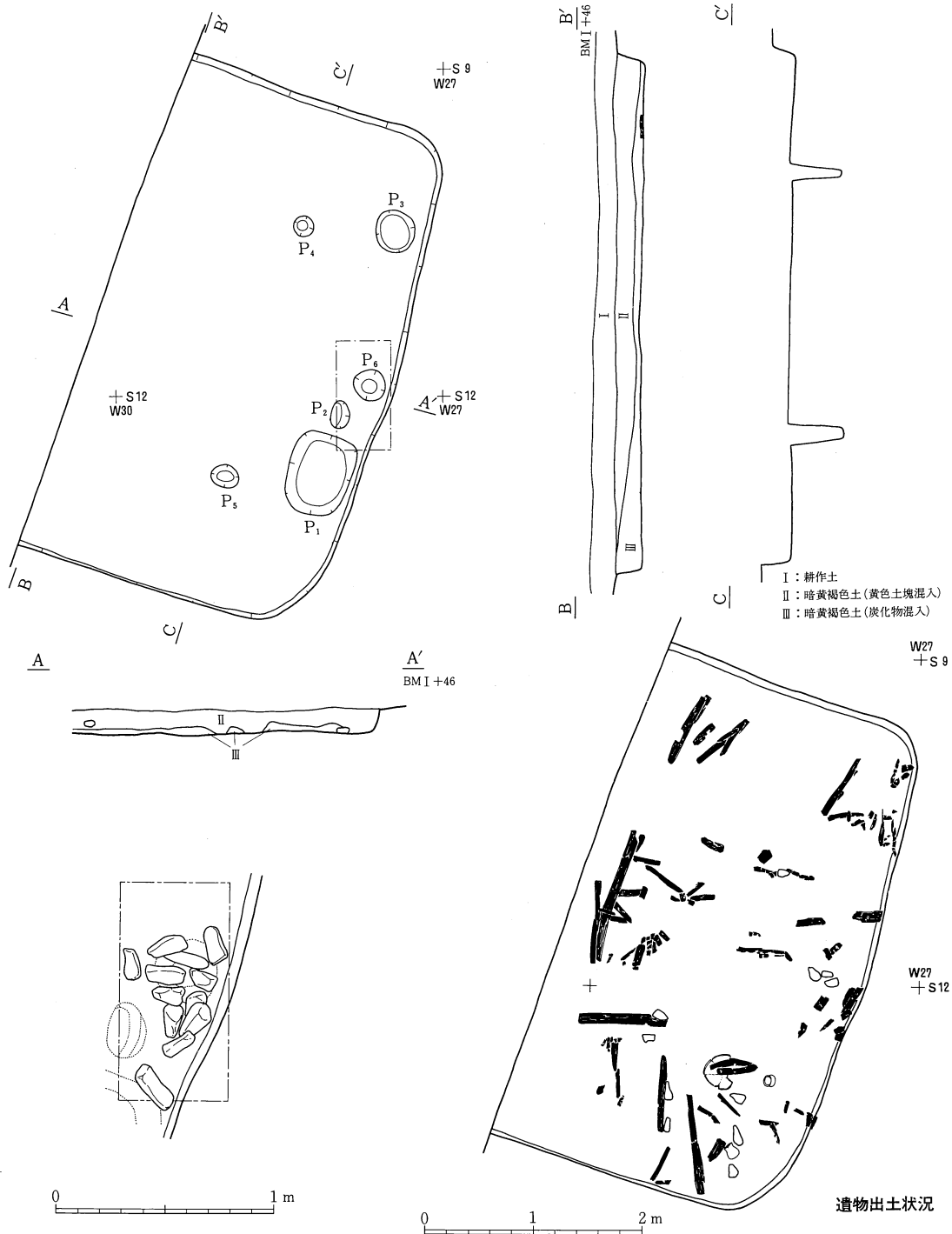


I : 焼土
II : 暗黄褐色土



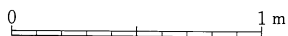
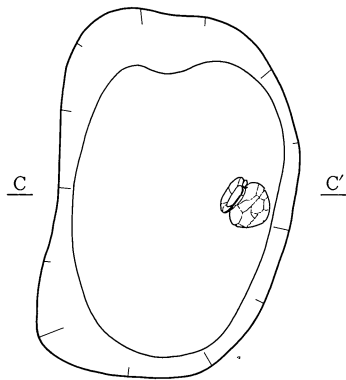
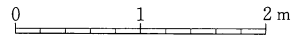
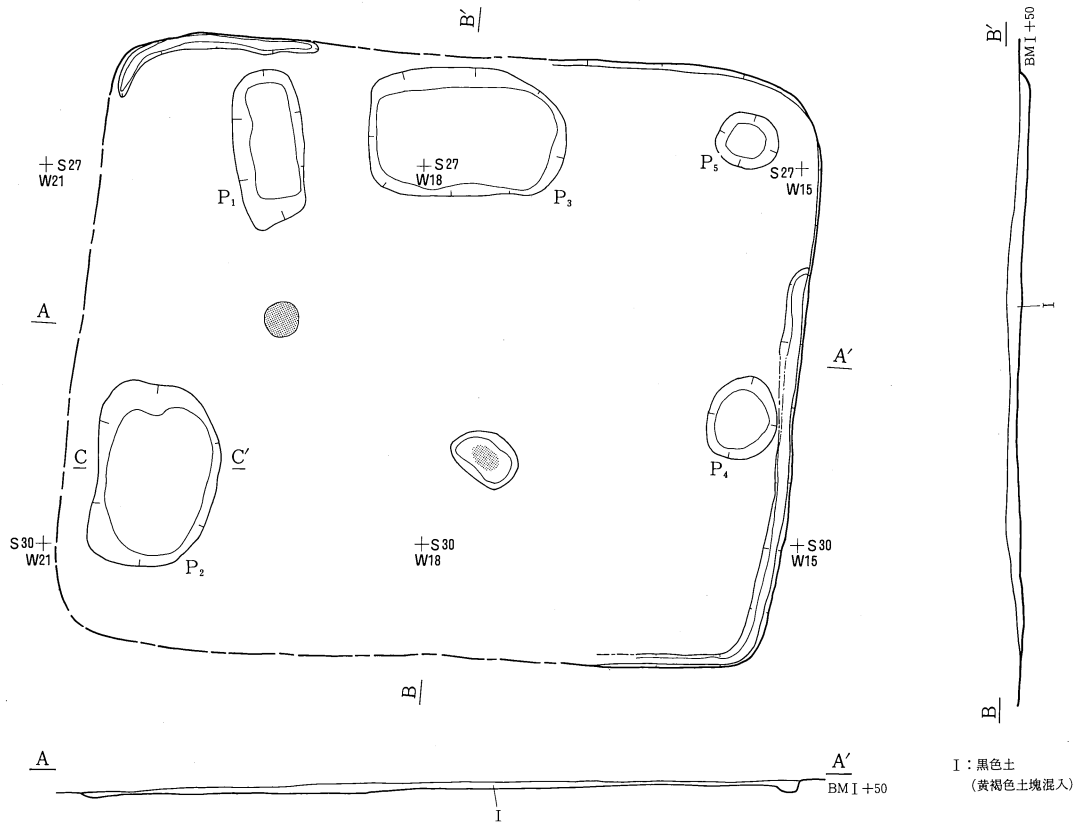
状況壁上部削平 床地山直床、中央部に2ヶ所良好堅緻な部分、床上に少量炭化材 貯蔵穴 P₂周堤状に堅く高い床 床面積23.4 m² 出土遺物覆土・床上から小片多数出土 (41~55) 器種鉢・器台・壺・甕・平底甕・丸底甕・台付甕 時期古墳時代前期

第88図 第4号住居址



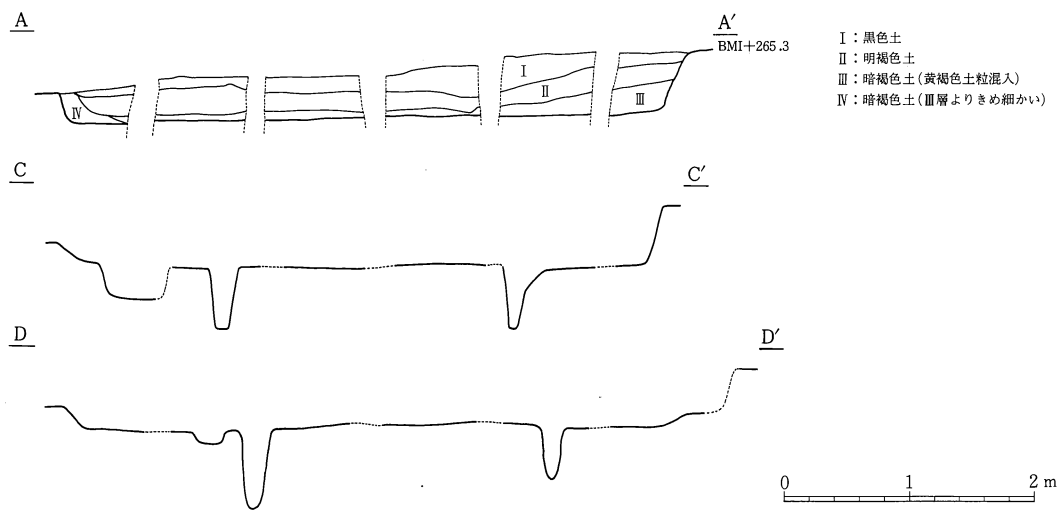
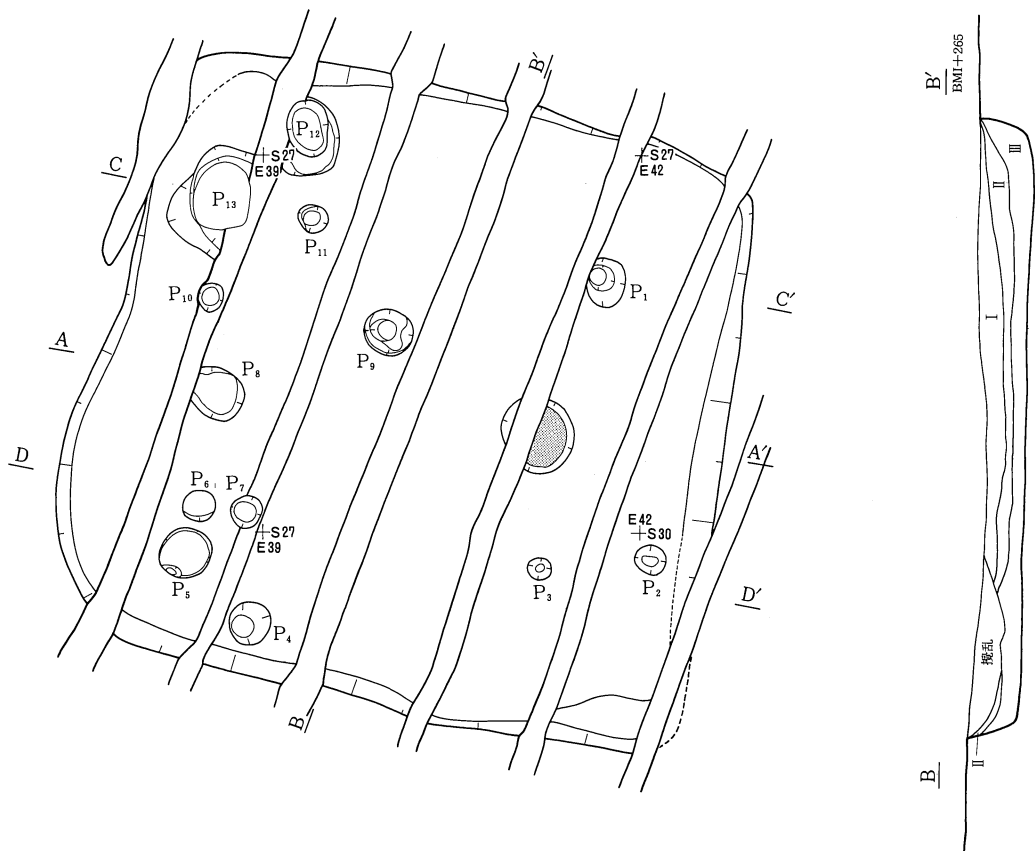
状況壁上部削平されるが掘り込み深く下部は良好、床地山直床、炭化材多数出土 貯蔵穴P₁内よりホゾ穴のある炭化材 出土遺物炭化材中より完形品2他(56~59) 器種 椀・壺・瓢壺・S字甕、礫石錘12ヶ 調査部分床面積12.8m² 時期古墳時代中期

第89図 第6号住居址



状況壁・床のほとんどが削平 床残存なし 貯蔵穴 P₁~P₃ 推定床面積27.1m² 出土遺物 P₂より完形土器(60)、他は少量、器種は平底甕 時期古墳時代前期

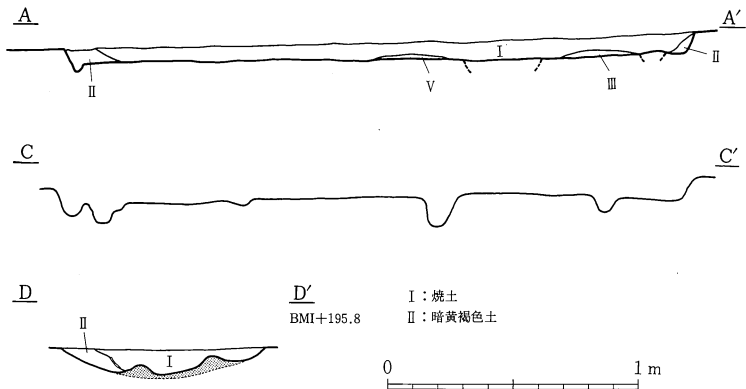
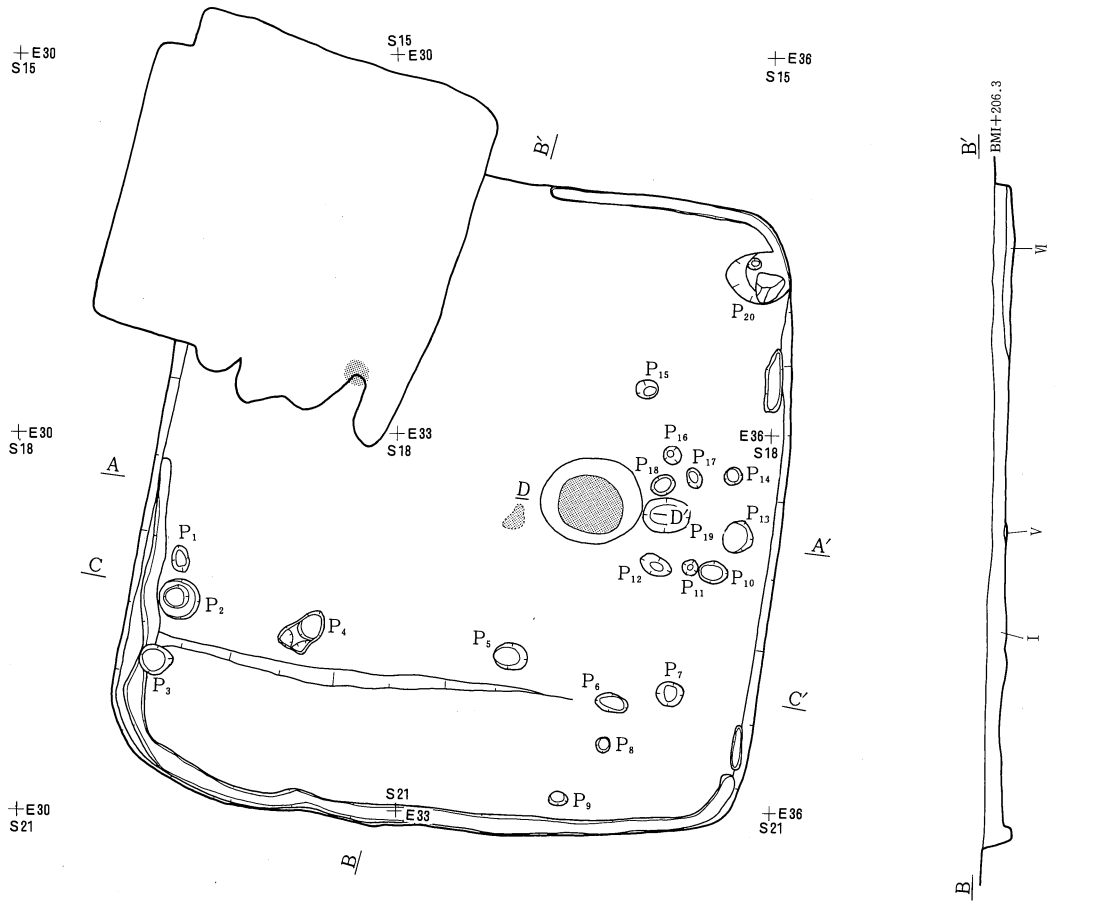
第90図 第7号住居址



- I : 黒色土
- II : 明褐色土
- III : 暗褐色土 (黄褐色土粒混入)
- IV : 暗褐色土 (III層よりきめ細かい)

状況深耕によりズタズタに破壊、壁上部ほとんど攪乱 床地山直床、部分的に良好 貯蔵穴 P₁₃ 床面積21.8m² 出土遺物 P₁₃より一括土器(65)、他は床近くから少量出土 (62~67) 器種鉢・直口壺・有段口縁壺・丸底甕・平底甕、砥石(9) 時期古墳時代前期

第91図 第8号住居址

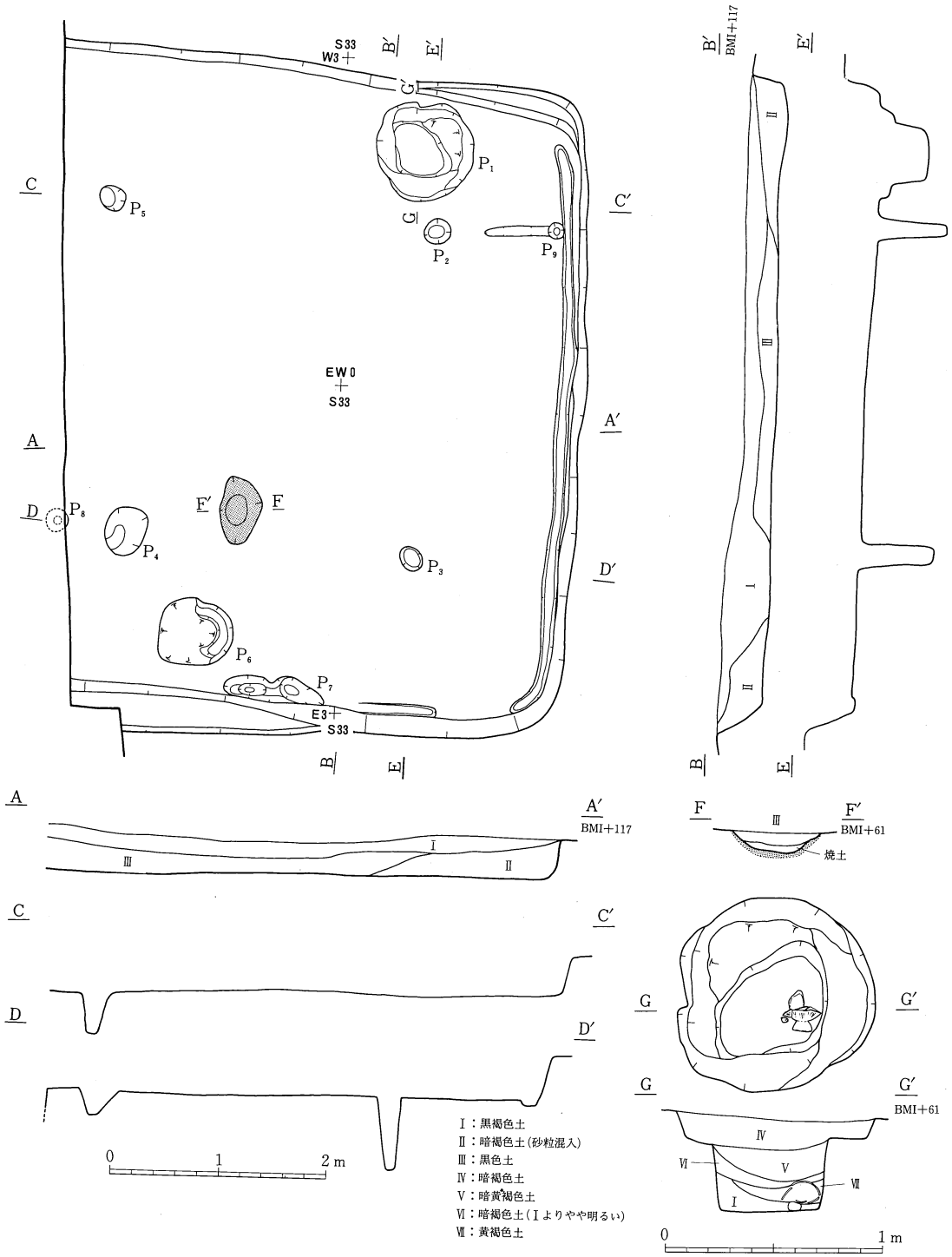


- I : 暗褐色土(黄褐色土ブロック少量混入)
- II : 暗黄褐色土
- III : 黒色~黒褐色土
- IV : 黄褐色土(暗褐色土ブロック多量混入)
- V : 焼土層

D' I : 焼土
 BMI+195.8 II : 暗黄褐色土

状況北西部大きく破壊、壁上部若干削平 床地山直床、北西部若干高くなる部分あり床上に炭化材少量 出土遺物床上一括土器(69・71)、他は(68~74)小片、72は8住と遺構間接合 器種短頸壺・器台・台付甕・壺・丸底甕 推定床面積23.6m² 時期古墳時代前期

第92図 第9号住居址

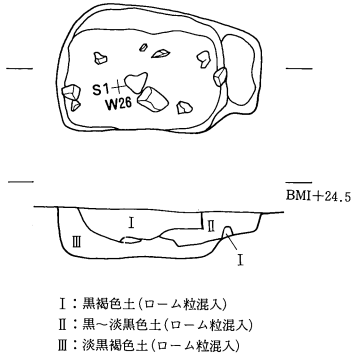


状況壁上部削平 床地山直床軟弱、北西隅一帯に高く堅い床 貯蔵穴 P₁ 床上僅かに炭化材 出土遺物 P₁内一括土器(77)、他も床上に細片だが一括(75~79) 器種短頸壺・鉢・台付甕・甕 時期古墳時代前期

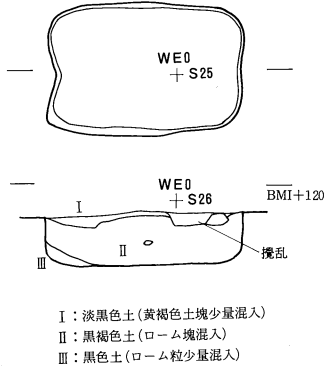
第93図 第14号住居址

(2) 土 壙 (表7:P173参照)

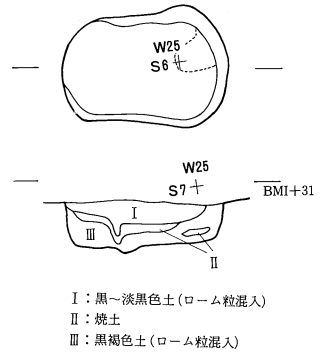
土壙 1
W26
+ N50



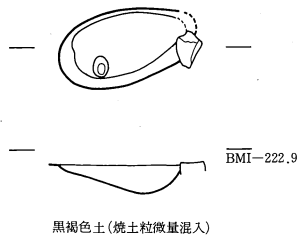
土壙 4



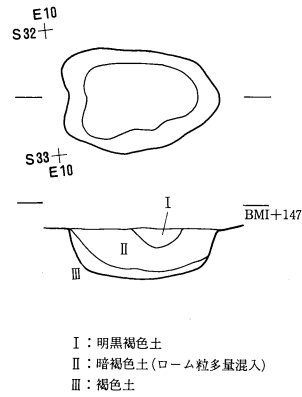
土壙 2



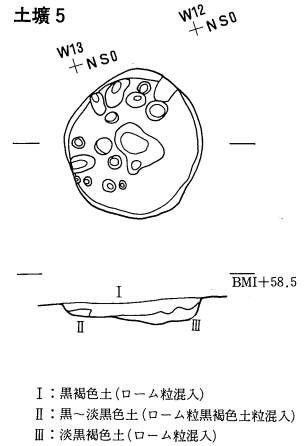
土壙 38



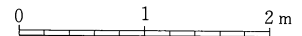
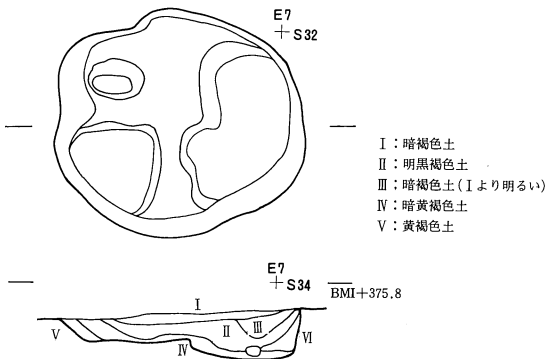
土壙 58



土壙 5



土壙 10



第94図 古墳時代の土壙

2. 遺物

(1) 土器

表5 古墳時代土器一覧表

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調整	備考
住居址			器高		胎土	外面	
土器			口径				
図			底径		焼成	内面	
1	鉢	1/2破片	8.0	暗橙褐色	砂粒多混	口縁部ヨコナデ後ミガキ 体部ヘラナデ後やや粗雑なミガキ 底部—無調整	
1			11.5				
95			2.7				
1	鉢	体部中位以上1/2欠損	8.2	淡橙褐色	やや緻密	体部以下ヘラナデ→体部中位以上ヘラナデ→口縁部ヨコナデ→ミガキ (底部を含む)	内外面にスス附着 二次焼成をうける
2			9.1				
95			3.3				
1	小型壺	口唇部を除く1/2破片		橙褐色	砂粒多混	ヘラ又は指によるナデ→胴部中位及び頸部付近ハケ→ミガキ 底部—無調整	
3							
95			4.9				
1	小型直口壺	口縁部1/2破片		濃橙褐色	砂粒多混 石英多量に混入	口縁部ヨコナデ→全面ミガキ	
4			11.3				
95							
1	小型直口壺	口縁部1/2		暗灰黄色	緻密	ハケ→口唇部ヨコナデ→口唇部入念なミガキ→口縁部粗雑なミガキ	
5			10.4				
95							
1	鉢	体部中位以上1/2破片		黒褐色	小砂粒、石英多混	器面荒れて不明	二次焼成を受ける 在地品か?
6			14.7				
95							
1	甕	口縁部完存 胴部以上1/2破片		淡橙褐色	砂粒多混	ハケ→頸部下位方向へのハケ→口唇部ヨコナデ 胴部ハケ→中位以上ヘラナデ→口縁部ハケ→上半のみヨコナデ	煮沸時以外の二次焼成を受ける
7			13.3				
95							
1	壺	胴部1/2破片		橙褐色	砂粒多混	下位付近ユビナデ→中位以上ハケ→上位下位方向へのハケ 下位付近輪積部ヨコ方向のハケ	外面スス附着 二次焼成を受ける
8							
95							
1	壺	胴部1/2破片		暗黄褐色	砂粒多混	胴部中位ハケ・頸部付近下方向へのハケ→全体をヘラナデ	
9							
95							
1	平底甕	胴部中位以上1/2欠損	23.2	橙褐色	砂粒多混	・底部一方へのケズリ 胴部ハケ→底部付近指ナデ 上位下方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ ・胴部ヘラナデ 指頭圧痕を顕著に残す 口縁部ハケ→ヨコナデ	胴部中位及び底部付近の 外面全体にスス附着 二次焼成を受ける
10			15.4				
96			7.5				
1	丸底甕	1/2破片	16.7	茶褐色	小砂粒多混	胴部以下細密かつ条単位がやや不明瞭なハケ 口縁部ヨコナデ	煮沸時以外の二次焼成を受ける 在地品
11			14.0				
96			—				

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調整	備考
住居址			器高		胎土	外面	
土器			口径				
図			底径		焼成	内面	
1	甗	胴部上位以上 1/2破片	15.0	橙褐色	砂粒多混	胴部下位方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ	外面全体、口縁部内面に スス附着
12					軟質	胴部ヘラか指によるナデ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	甗	胴部上位以上 1/2破片	17.1	橙黄褐色	砂粒多混	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面1/2に厚くスス附着
13					軟質	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	平底甗	底部破片	6.8	暗黄褐色	砂粒多混	底部 回転ヘラケズリ 胴部ハケのち底部近くをヘラナデ	
14					堅緻	ハケ→ユビナデ 中央に指頭によるユビオサエ痕	
96							
1	丸底甗	胴部上位以上 1/2破片	11.2	暗灰黄 褐色	砂粒多混	胴部細密なハケ 口縁部ヨコナデ	外面にスス附着、口唇部 内外面に丸く肥厚 搬入品かは不明
15						胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	S字甗	口唇部1/2、肩 部1/2及び脚部 欠損	17.3	茶褐色	小砂粒多混 金雲母微混	胴部ハケ→胴脚接合部 口縁部ヨコナデ	搬入品か
16					堅緻	口縁部上段に沈線を伴うヨコナデ 肩部指頭ナデ痕 胴部ヘラナデ 胴脚接合部上下ともヘラおさえ	
96							
1	台付甗	脚部破片	8.3	暗黄褐色	砂粒混入	ハケ 胴脚接合部ユビナデ	脚部の外面中位と内面下 端にスス附着
17					やや堅緻	ハケ	
96							
1	台付甗	脚部破片	8.8	橙褐色	砂粒多混	ハケ 胴脚接合部ユビナデ	外面の一部にスス附着
18					やや軟質	ヘラナデ	
96							
1	小型 台付甗	脚部破片	5.1	橙褐色	砂粒多混	ユビナデか？	内、外面にスス附着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける
19					軟質	ヘラナデ	
96							
2	広口壺	胴部中位以上 1/2破片	10.8	濃橙褐色	小砂粒混	口縁部ヨコナデ→全体を入念なミガキ	内、外面にスス附着
20					やや緻密	口縁部ヨコナデ→入念なミガキ 胴部中位以下ヘラケズリ→中位以上ヘラナデ	
97							
2	受口壺	胴部以上1/2破 片	15.2	橙褐色	砂粒、石英 粒多混	胴部ハケ→頸部付近ユビナデ→平行櫛描文→右回り櫛 描波状文→ミガキ 口縁部ハケ 受口部ヨコナデ→櫛 歯状工具による刺突文の模倣、口唇部面取り	二次焼成を受ける 在地品
21						ヘラナデ→受口部ヨコナデ	
97							
2	壺		15.8	橙黄褐色	大粒の 砂粒多混	ヘラナデ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	全体に器面が荒れている
22					軟質	ヘラナデ→口唇部ヨコナデ	
97							
2	壺？	底部破片	6.9	暗茶褐色	砂粒多混	底部不定方向のヘラケズリ 胴部ヘラナデ→ミガキ	二次焼成を受ける
23						ヘラナデ	
97							
2	壺	胴部破片		黄褐色	やや緻密	ヘラナデ→ミガキ	内、外面及び断面にスス 附着 二次焼成を受ける 下方の欠損レベルが同じ
24						ヘラナデ	
97							

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考	
住居址	土器		器高		胎 土	外 面		
土器			口径		焼 成	内 面		
図			底径					
2	鉢?	体部下位以下 1/2破片		暗赤褐色	砂粒混	底部回転ヘラケズリによる上げ底 体部ヘラナデ→底 部付近をヘラケズリ	内、外面及び断面にスス 附着 二次焼成を受ける	
25			3.3			ヘラナデ		
97								
2	甕	胴上位以上1/2 破片		19.1	砂粒及び石 英粒多混	胴部ハケ→中位近くをユビナデないヘラナデ 口縁部 条間隔の粗いハケ→ヨコナデ→下半ケズリ	煮沸時以外の二次焼成を 受けるか?	
26						堅 緻		胴部ヘラナデ→頸部付近ヘラケズリ 口縁部 条間隔の粗いハケ→ヨコナデ→ハケ
97								
2	丸底甕	胴部以上1/2欠 損	24.2	橙褐色	砂粒少混	底部ヘラケズリによる丸底 胴部下位ハケ→ユビナデ →成形第1段階部分ヨコ方向のハケ→中位以上ハケ→ 頸部近くをユビナデ	底部を除く外面全体及び 口縁部内面の一部にスス 附着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 在地品	
27			14.4			やや緻密 かつ堅緻		口縁部ハケ→ヨコナデ全体 ハケ→成形第1段階部分 ヘラナデ 口縁部上半ヨコナデ
97			—					
2	平底甕	1/2破片	16.3	淡茶褐色	砂粒多混	底部一方向のヘラケズリ→縁辺部回転ヘラケズリ 胴部以上ハケ→胴部ヘラケズリ 口唇部ヨコナデ	外面にスス附着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 口唇部はヨコナデにより 若干内湾	
28			14.4			やや堅緻		胴部以下底部条間隔の粗いハケ→全体ヘラナデ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ
98			6.2					
2	平底甕	胴部の中位以 上1/2口縁部を 欠損		黄褐色	小砂粒混入	底部は一方向のヘラケズリ→縁辺部回転ヘラケズリ 胴部ハケ→底部付近ユビナデ 頸部ヨコナデ	胴部中位以上の外面全体 に厚くスス附着 胴部中位以下内面に焦げ つき痕あり	
29						堅 緻		胴部ハケ (のちにユビナデが入るか?) 頸部ハケ→ヨコナデ
98			7.0					
2	甕	胴部1/2及び底 部を欠損		淡黄褐色	緻密 砂粒含まず	胴部ユビナデか? 口縁部幅広の条線を残すヨコナデ	外面全体にスス附着 胴部下位の内面に焦げつ き痕あり	
30			11.5					胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ
98								
2	甕	胴部上位以上 1/4破片		灰黄色	砂粒混入 やや緻密	胴部ヘラナデ→頸部以上ヨコナデ	外面全体にスス附着 煮沸時以外の二次焼成受 ける 口唇部はヨコナデにより 若干内湾する	
31			14.3					胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ
98								
2	甕	口縁部1/2破片		淡黄褐色	砂粒少混 やや緻密	口唇端部ヨコナデによる面取り ハケ→全面を幅広の条線を残すヨコナデ	外面にスス附着 在地品か?	
32			12.6					ハケ→全面を幅広の条線を残すヨコナデ
98								
2	丸底甕	頸部以上1/4破 片		暗灰黄 褐色	石英粒小石混 軟 質	胴部細密なハケ 口縁部ヨコナデ	在地品か? 外面にスス附着	
33			11.9					胴部不明 口縁部ヨコナデ 口唇端面取りし強く内 傾させるも、ほとんど肥厚せず
98								
2	丸底甕	胴部下位以下 破片		淡茶褐色	砂粒多混 軟 質	ハケ→ユビナデ (部分的に光沢を帯びることからさら にミガキが入るか?)	底部外面磨耗 在地品	
34								底部ユビナデ (内面は平坦) 胴部ハケ→ユビナデ
98			—					
2	甕	胴部上位以上 1/2破片		濃橙褐色	大粒砂粒及 び白色砂粒 混入	胴部 条間隔の粗いハケ→下方向の細いハケ 口縁部ヨコナデ 口唇端面取り	搬入品か?	
35			15.7			堅 緻		胴部ヘラナデ→口縁部は下半を条間隔の粗いハケ→全 体をヨコナデ
98								
2	S 字 三連甕	1/2破片	8.5	茶褐色	金雲母少混 緻密かつ堅緻	脚部 短絡線状のハケ 胴部 横線を欠くハケ 口縁部ヨコナデ 各個体接合はハケ調整後に行われる	6号住居址より同一個体 片出土 搬入品か?	
36			6.7					
98			5.8					胴部以上ユビナデ 口縁部ヨコナデ 脚裾部折返し

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考	
住居址			器高		胎 土	外 面		
土器			口径		焼 成	内 面		
図			底径					
3	有段口縁壺	口縁部 $\frac{1}{2}$ 及び胴部 $\frac{1}{4}$ 破片		橙褐色	砂粒多混	頸部以下ヘラナデ 口縁部上段ヨコナデ→全体を粗雑なミガキ 口唇端部 ヨコナデによる軽い面取り		
37			12.9		軟 質			ヘラないし指によるナデ→口縁部上段をヨコナデ
99								
3	鉢	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3.9	橙褐色	小砂粒多混	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ 底部リング状を呈す	内面にモミ圧痕あり	
38			10.3		軟 質			
99			5.3					
3	甕	胴部中位以上破片		淡黄褐色		胴部ハケ→頸部以上ヨコナデ 胴部下位ユビナデ 頸部に断続的なヘラ描沈線有り	外面全体にスス附着	
39			10.8		緻 密			胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ
99								
3	S字甕			淡黄褐色		胴部ヘラケズリ→乱雑なハケ 口縁部ヨコナデ 胴部ユビないしはヘラによるナデ 中位に指頭によるナデ圧痕有り 口縁部上段の一部に沈線を有するヨコナデ	在地品か？	
40			11.2		やや緻密かつ堅緻			
99								
3	テツクネ	口唇部 $\frac{1}{2}$ 欠損	2.0	茶褐色	砂粒多混		外面の一部にスス附着	
41			3.0					
99			2.4					
3	壺	胴下部 $\frac{1}{4}$ 破片		茶褐色	砂粒、白色粒子多混	ハケ→ミガキ	二次焼成を受ける	
42					堅 緻	ハケ→ミガキ		
99								
4	鉢	体部以上 $\frac{1}{2}$ 欠損	6.1	灰黄褐色	砂粒多混	体部以上ヘラナデ 底部リング状を呈す		
43			12.8		軟 質			ユビナデ→ハケ
99			5.9					
4	不明	下段部破片		淡黄褐色	砂粒少混	ユビナデ→下段部ミガキ	内、外面の一部にスス附着	
44			7.8		堅 緻	ヘラナデ		
99								
4	器台	$\frac{1}{2}$ 破片	6.6	橙黄褐色	砂粒多混	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ		
45			8.4		小石少混			
99			8.6		軟 質			ヘラナデ→口縁部ヨコナデ
4	壺	胴部中位以上破片		橙褐色	白色粒子多混	底部リング状を呈す 胴部ハケ→成形第1段階部分ケズリ→ユビナデないしはヘラナデ		
46			6.6		軟 質	ヘラナデ		
99								
4	平底甕		20.2	暗灰黄褐色	やや緻密	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ 底部リング状を呈すか？	内、外面にスス附着 底部外面にモミ圧痕有り	
47			15.6		軟 質	ヘラナデ→口縁部ヨコナデ		
99			6.6					
4	甕	胴部上位 $\frac{1}{2}$ 及び胴部中位以下欠損		淡灰黄色	緻 密	胴部ユビナデ 頸部以上ヨコナデ	外面全体スス附着 煮沸時以外の二次焼成痕有り	
48			14.7		軟 質	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ		
100								
4	甕	口縁部 $\frac{1}{4}$ 破片		淡茶褐色	砂粒多混	ハケ→口縁部ヨコナデ	外面にスス附着	
49			14.7					
100						胴部ヘラナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ		

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址			器高		胎 土	外 面	
土器			口径		焼 成	内 面	
図			底径				
4	甕	胴部上位以上 1/2破片		暗茶褐色	緻 密	胴部ハケ→ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	歪み顕著
5			9.8		軟 質	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	
100							
4	平底甕	底 部 破 片		茶 褐 色	砂 粒 混	底部 不定方向ヘラケズリ 胴部ヘラナデ→底部付近 ユビナデ	外面にスス附着
51					堅 緻	ヘラナデ	
100			4.9				
4	丸底甕	胴部中位以上 1/2破片		灰 黄 色	やや緻密	胴部やや細密なハケ 口縁部間隔の粗い条線を有すヨ コナデ	頸部付近を除く外面全体 にスス附着 煮沸時以外の二次焼成痕 在地品か？
52			12.4			胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 口唇端部に水平面 を有す	
100							
4	平底甕	底 部 破 片		暗茶褐色	やや緻密	底部無調整 胴部ユビナデ	外面にスス附着
53							
100			5.5			ヘラナデ	
4	台付甕	脚部1/2破片		橙 褐 色	小石混入	不 明	外面にスス附着 内面に焦げ付き痕有り
54					軟 質	ヘラナデ	
100			8.7				
4	台付甕	胴部以上1/2破片		暗茶褐色	砂粒、白色 粒多混	胴部ハケ→中位を除きユビナデ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス附着
55			17.3			胴部ハケ→中位ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	
100							
6	椀	口唇部1/2欠損	5.5	暗赤褐色	石英粒多混	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	外面の一部にスス附着 内面中位に黒色で光沢を 帯びるもの附着 全面赤彩
56			7.1		堅 緻	口唇部ヨコナデ→ミガキ	
100			—				
6	瓢 壺	ほ ぼ 完 形	11.6	橙黄褐色	砂 粒 混 入	底部ヘラケズリ→ミガキ 底部は粘土を貼り足して丸 底とする	外面1/2にスス附着
57			8.2			ユビナデ→口縁部ミガキ	
100			—				
6	壺	胴部下位以下 破片		橙 褐 色	砂 粒 多 混	ミガキ	
58						ヘラナデ	
101			—				
6	S 字 甕	脚部1/2破片		灰 黄 色	緻 密	ハケ→ユビナデし短絡線状とする	在地品か？
59					軟 質	ユビナデ→裾部折返し	
101			7.8				
7	平底甕	完 形	16.0		やや緻密	底部回転ヘラケズリ 胴部底部付近ヘラケズリ→ハケ →頸部付近ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	胴部外面の中位を中心に スス附着 胴部内面下位に焦げ付き 痕有り
60			12.5		堅 緻	胴部ハケ→中位以下ヘラケズリ 口縁部ハケ→ヨコナ デ	
101			5.7				
7	平底甕			黄 褐 色	緻 密	底部ハケ 胴部 底部付近ヘラケズリ→ハケ	内外面の一部にスス附着
61							
101			6.3			ヘラナデ	
8	鉢	体部中位以上 1/2破片		暗 灰 茶 褐 色	石英粒多混	体部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面の一部にスス附着 在地品か？
62			16.7			体部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ→ミガキ	
101							

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考	
住居址			器高		胎 土	外 面		
土 器			口径		焼 成	内 面		
図			底径					
8	直口壺	口縁部 $\frac{1}{4}$ 破片	14.1	灰黄褐色	砂粒混入	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ 口唇端部に水平面を有す	在地品か？	
63					堅 緻	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ		
101								
8	直口壺	口縁部 $\frac{1}{2}$ 破片	9.1	灰黄褐色	緻 密	ハケ→ヨコナデ→ミガキ 口唇端部面取り		
64						ハケ→ヨコナデ→ミガキ		
101								
8	有段口縁壺	口縁部破片	10.4		砂粒多混	ユビナデ→上段部のみヨコナデ		
65								
101						ユビナデ→上段部のみヨコナデ		
8	丸底甕	口縁部 $\frac{1}{2}$ 破片	12.6	暗黄褐色	砂粒多混	ヨコナデ 端部わずかに肥厚	外面にスス付着 在地品	
66								
101					軟 質	ヨコナデ		
8	平底甕	胴部下位以下 $\frac{1}{2}$ 破片		暗 橙 黄 色 暗 褐 色	砂粒多混	底部ヘラケズリ→粘土貼付けにより補強→ミガキ 胴部ハケ		
67								
101					8.3	ハケ→ユビナデ		
9	短頸壺	胴部 $\frac{1}{4}$ 、底部欠損	15.3		やや緻密	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	二次焼成痕有り	
68								
102					堅 緻	胴部ハケ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ		
9	器 台	脚裾 $\frac{1}{2}$ 欠損	9.2		砂粒・石英粒多混	脚部ハケ→ミガキ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ 口唇端部面取り	器受部内面の一部にスス 付着	
69			9.2		堅 質	脚部上半部ヘラケズリ→下半部ハケ→裾部ヨコナデ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ		
102			13.0					
9	台付甕	胴・脚接合部破片			砂粒・白色粒子多混	ヘラナデ		
70								
102						軟 質		ヘラナデ
9	壺	胴部上位以上欠損			砂粒・白色粒子小石混	底部 無調整 胴部ミガキ	底部外面にモミ圧痕有り タキ割れ痕顕著	
71								
102					8.5	ヘラナデ→胴部中位以上ミガキ		
9	台付甕	胴部、口縁部の一部欠損	11.2		石英粒・赤色粒多混	胴部以下 ハケ→胴脚接合部ユビナデ	煮沸以外の二次焼成痕有り	
72			8.0			口縁部 ヨコナデ		
102			6.1			胴脚接合部ユビナデ 口縁部ヨコナデ		
9	丸底甕	底部破片			緻 密 白色粒・石英粒多混	細密なハケ	煮沸時以外の二次焼成痕 有り 在地品か？	
73								
102					—	堅 緻		細密なハケ 底部しばり痕らしきもの有り
9	丸底甕	胴部上位以上底部 $\frac{1}{2}$ 破片	23.3	淡灰黄色	緻 密 赤色粒混	胴・底部ハケ 口縁部 ハケ→ヨコナデ	外面全体にスス付着	
74			15.0					
102			6.4			底部ヨコナデ 胴上位ハケ 口縁部ヨコナデ		
14	短頸壺	口唇部 $\frac{1}{2}$ 、胴部 $\frac{1}{4}$ 欠損	27.9	橙 褐 色	砂粒・白色粒多混	底部無調整 胴下位ヘラケズリ 胴中位～頸部ハケ→ユビないしヘラナデ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ		
75			13.0					
103			7.5			胴部ハケ 口縁部ハケ→ユビないしヘラナデ→口唇部ヨコナデ		
14	鉢	体部上位以上 $\frac{1}{2}$ 破片		暗 橙 茶 色 暗 褐 色	石英粒多混	体部 ヘラナデ→頸部以上ヨコナデ	二次焼成を受けるか？ 在地品	
76						14.0		
103								体部ユビナデ 口縁部ヨコナデ

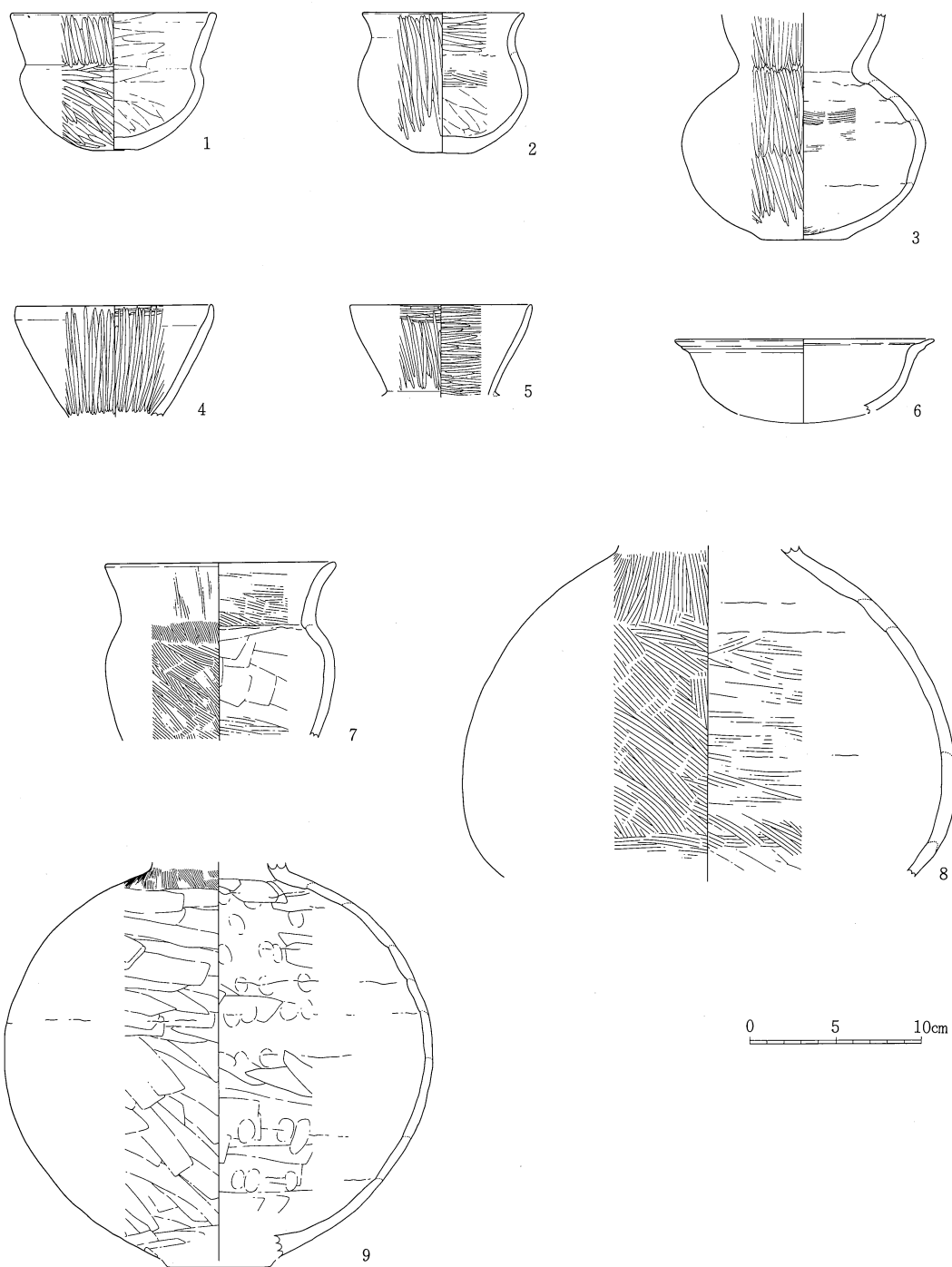
図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考	
住居址			器高		胎 土	外 面		
土 器			口径					
図			底径		焼 成	内 面		
14	台付甕	胴部以上 $\frac{1}{2}$ 破片	13.9	橙茶褐色	やや緻密 赤色粒多混	ハケ→成形第1段階部分及び頸部ユビナデ→ユビナデ 範囲に細密なハケ ヨコナデは口唇部のみ	胴部中位外面を中心にス ス附着	
77						ハケ→口縁上半ヨコナデ		
103								
14	甕	胴部中位以上 $\frac{1}{2}$ 破片	11.4	暗褐色	砂粒多混	胴部ハケ→中位を除くユビナデ 口縁部ヨコナデ	胴部中位以上の外面全体 にスス附着	
78					軟 質	胴部下方方向のヘラナデ→成形第1段階部分ハケ→中 位以上ヘラナデ		
103								
14	台付甕	胴部上位以上 欠損		暗橙茶 褐色	赤色粒、白 色粒混	脚部ヘラナデ→裾部ヨコナデ 胴部ヘラナデ（一部ヘ ラケズリ）	胴部中位以上の外面にス ス附着 胴部下位内面に焦げ付痕 有り	
79						堅 質		脚部ヘラナデ→裾部ヨコナデ 胴部ヘラナデ（一部ケ ズリ状）
103					10.6			
土塚1	S字甕	胴部上位以上 $\frac{1}{4}$ 破片	17.8	橙茶褐色	緻 密 金雲母微混	胴部横線を欠くハケ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス附着	
80						堅 緻		胴部ユビナデ 口縁部上段に沈線を伴うハケ
101								
土塚2	壺	底部 $\frac{1}{4}$ 破片		淡黄褐色	砂粒、白色 粒混入	底部無調整 胴部ハケ類似具（植物の茎を束ねたもの か）によるナデ	底部外面モミ圧痕 二次焼成有り 同一個体の口縁破片有り	
81						堅 緻		ヘラナデ
101					6.5			
土塚38	短頸壺	胴部上位以上 $\frac{3}{4}$ 破片	13.6	灰黄色	緻 密	ハケ→口縁部ヨコナデ	外面の一部にスス附着 同一個体の胴部及び底部 の破片あり	
82						軟 質		胴部ハケ→ユビナデ 口縁部ヘラナデ→ヨコナデ
101								
土塚38	台付甕	脚部上半破片			砂粒多混	ハケ→胴・脚接合部ユビナデ		
83						軟 質		ハケ→ユビナデ
101					8.4			
土塚38	器台？	脚部上半破片		淡黄褐色	緻 密	不 明		
84						軟 質		ヘラナデ
101								

(2) その他

表6 礫石錘一覧表

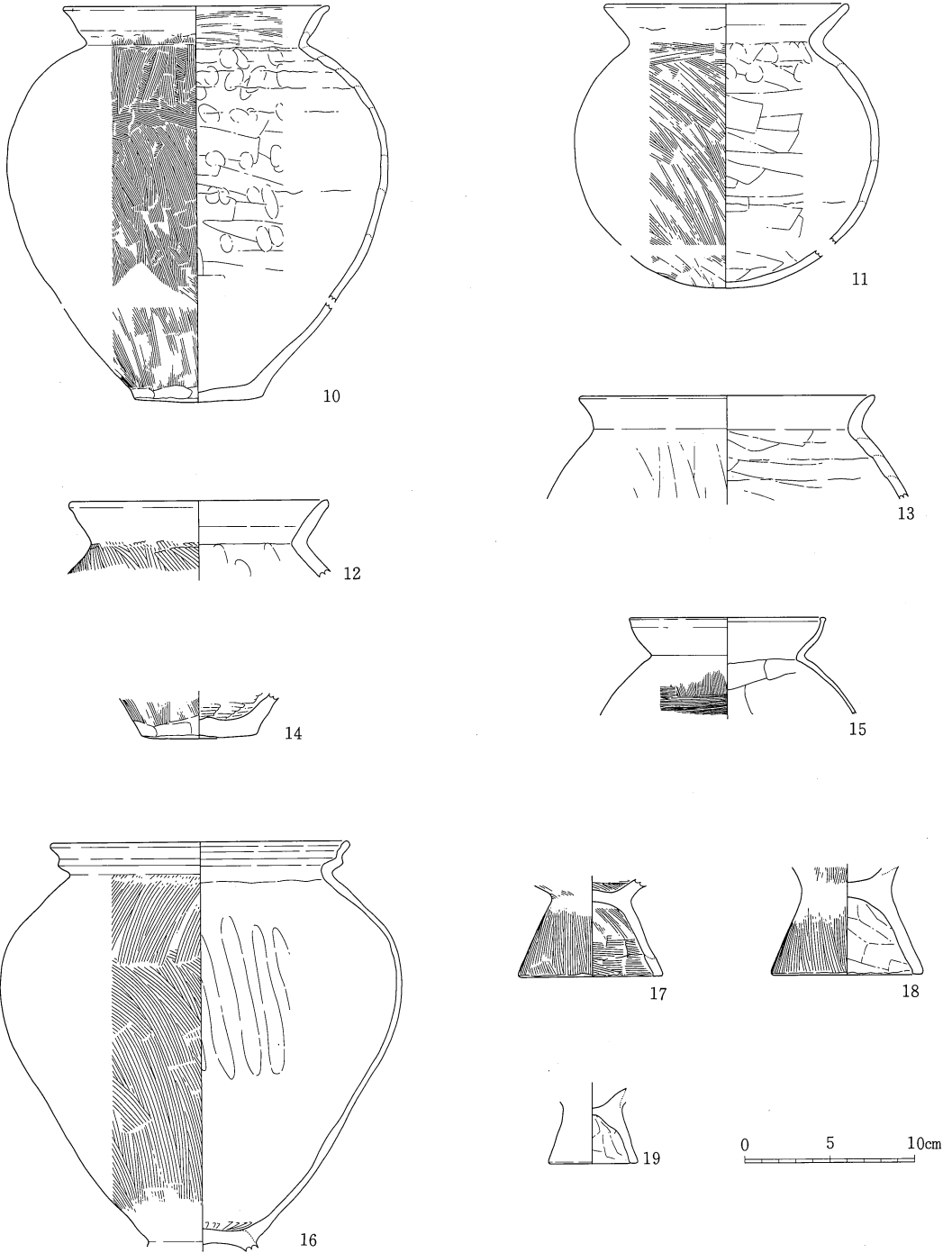
No.	註記	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	欠損状況	備考
1	6住	18.40	8.82	5.92	1100	砂岩		
2	〃	19.20	9.42	6.45	1080	石英閃緑岩		
3	〃	18.80	8.57	7.98	1500	砂岩		
4	〃	18.20	8.05	6.64	1095	石英閃緑岩		
5	〃	(15.27)	(8.53)	(5.14)	(1064)	礫岩	1/5欠?	
6	〃	15.23	6.36	6.38	1093	砂岩		
7	〃	18.20	8.18	4.87	1400	ホルンフェルス(砂岩)		
8	〃	14.67	7.47	6.13	1012	礫岩		
9	〃	(15.36)	8.27	4.45	(849)	砂岩	上端 下端欠?	
10	〃	12.37	7.89	7.30	959	砂岩		
11	〃	21.00	6.78	3.56	689	砂岩		
12	〃	20.80	8.16	5.55	1092	礫岩		

第1号住居址



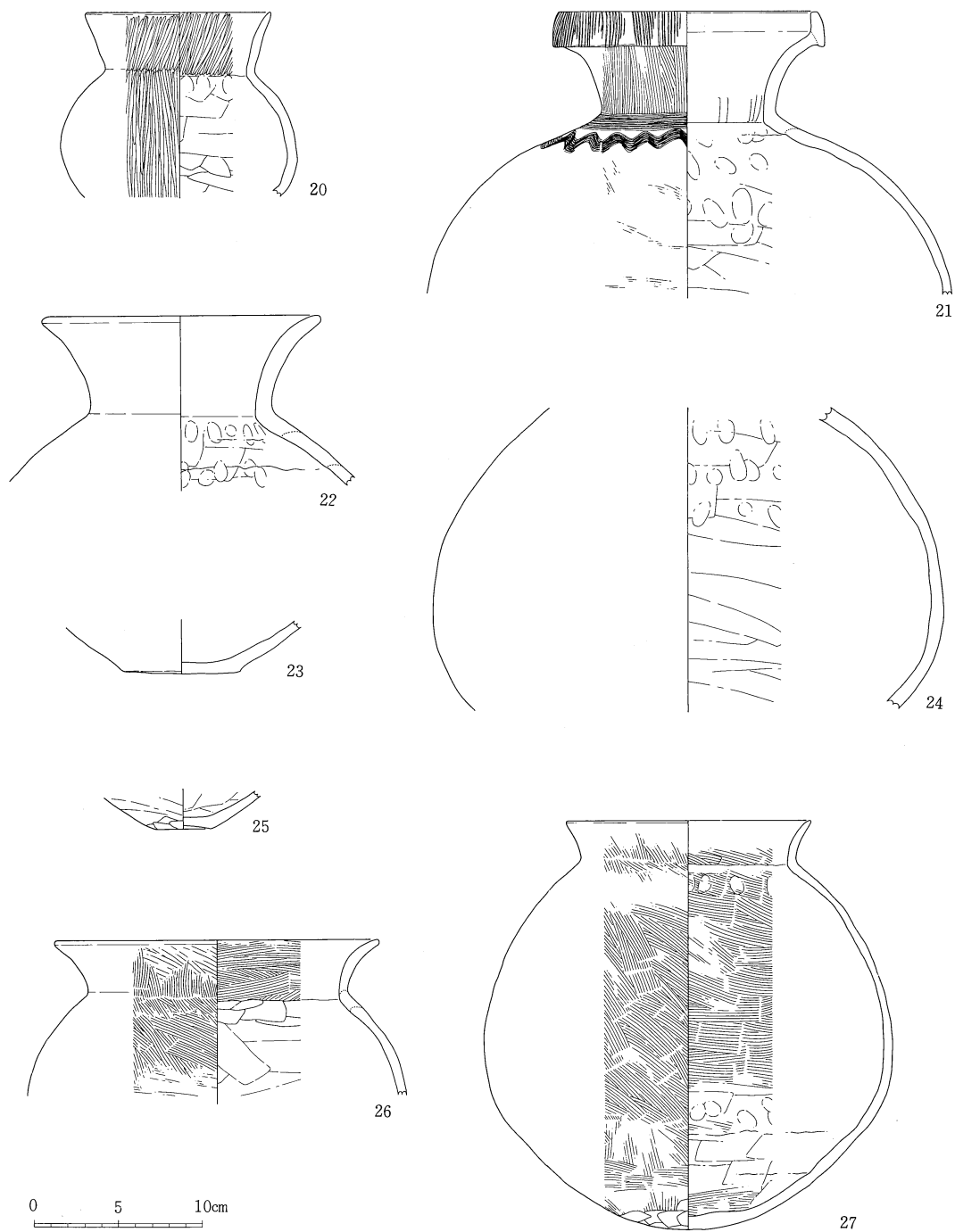
第95図 古墳時代土器(1)

第1号住居址



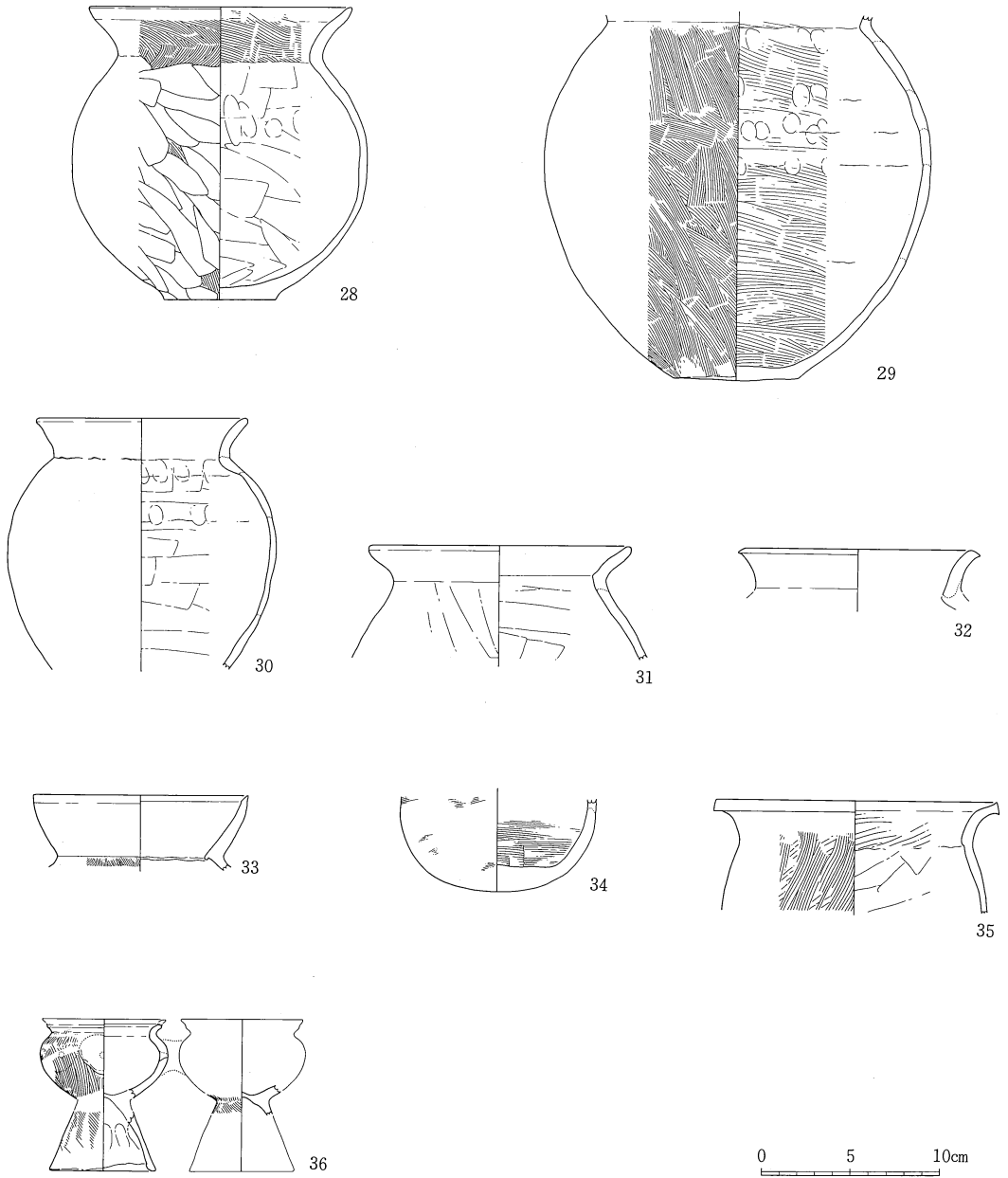
第96図 古墳時代土器(2)

第2号住居址



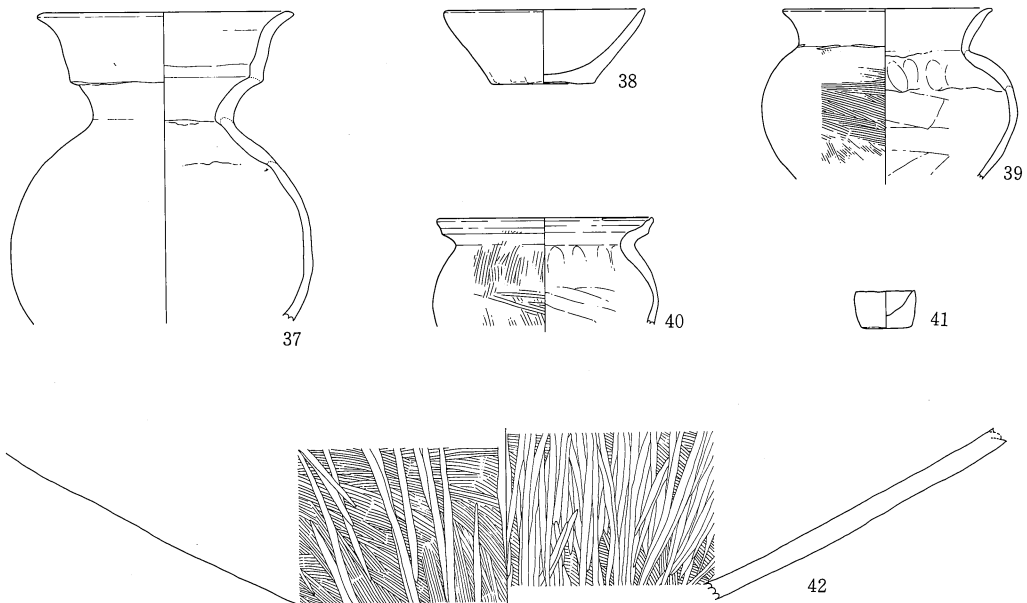
第97図 古墳時代土器(3)

第2号住居址

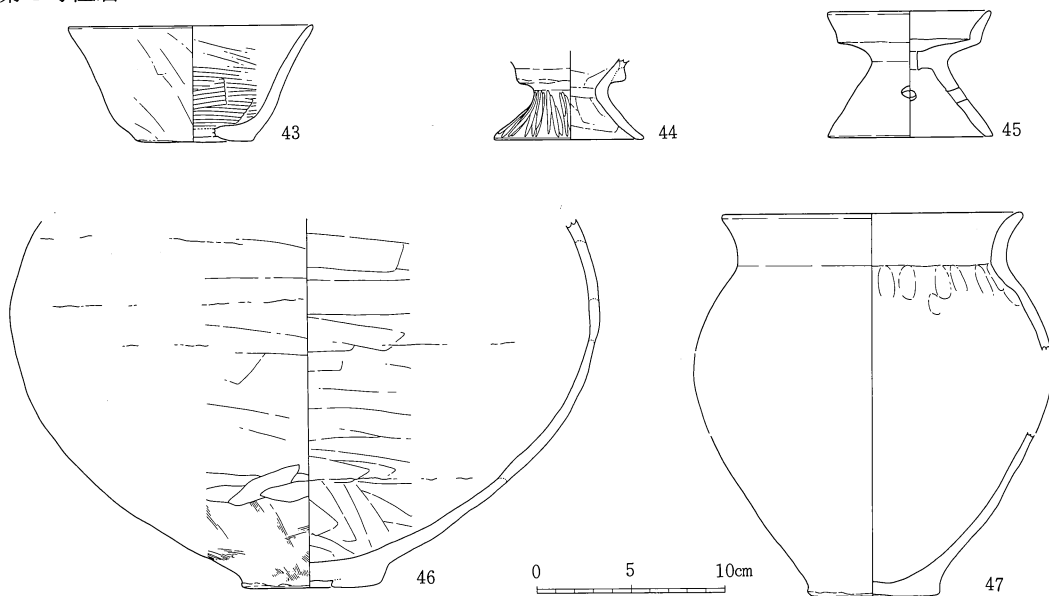


第98図 古墳時代土器(4)

第3号住居址

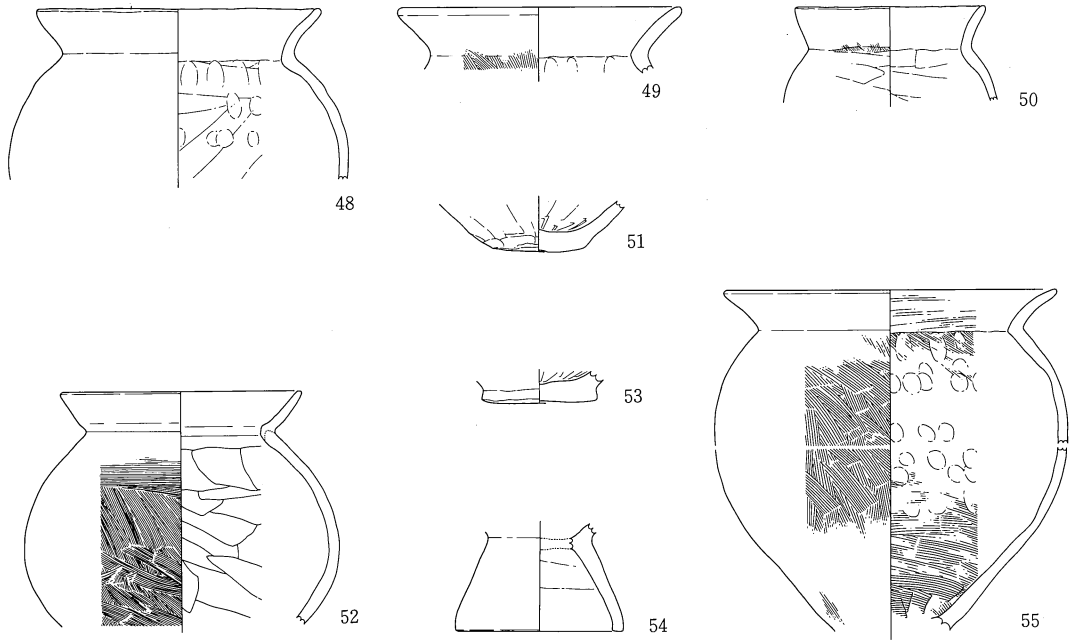


第4号住居址

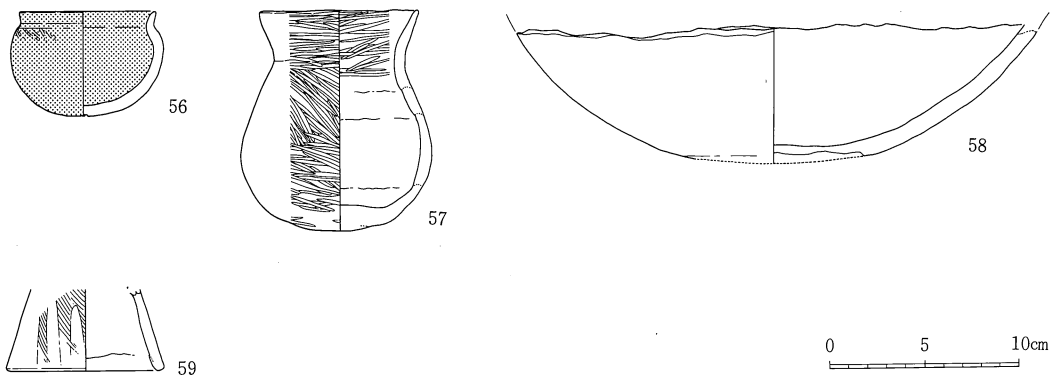


第99图 古墳時代土器(5)

第4号住居址



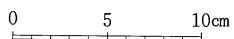
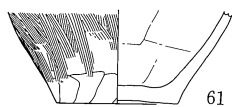
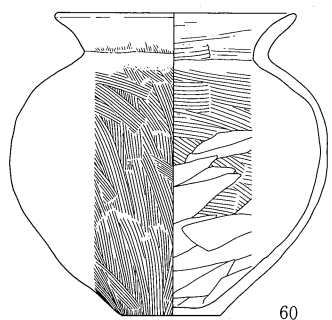
第6号住居址



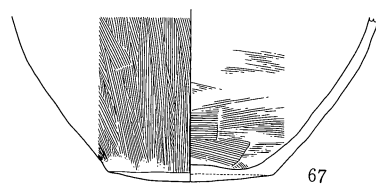
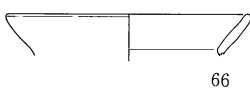
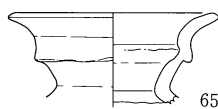
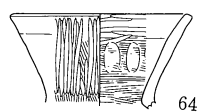
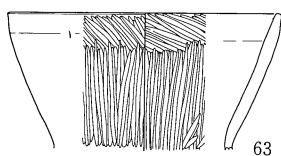
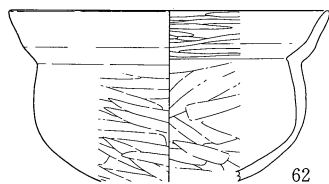
0 5 10cm

第100図 古墳時代土器(6)

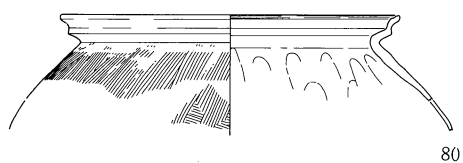
第7号住居址



第8号住居址



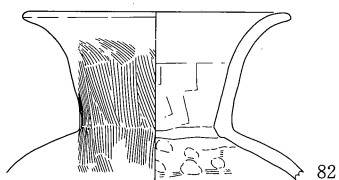
土壙1



土壙2

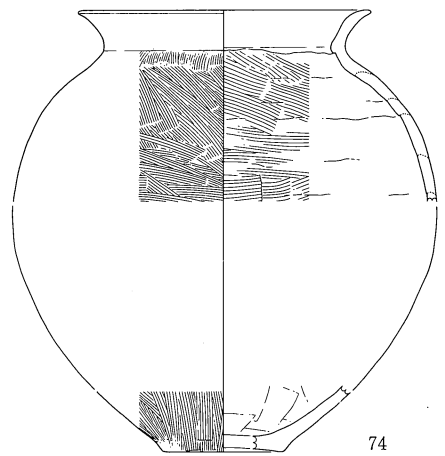
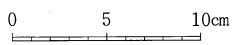
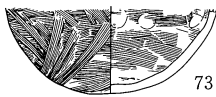
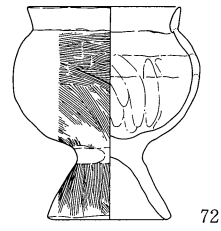
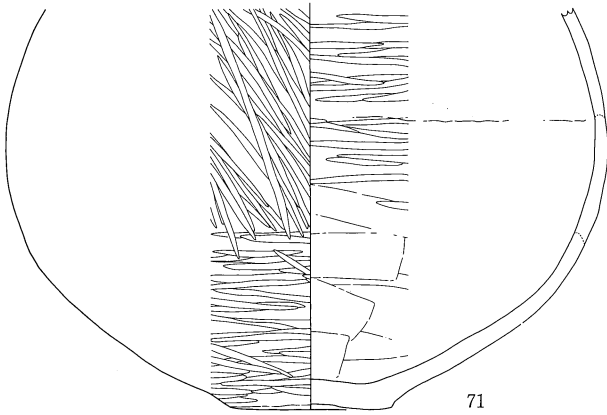
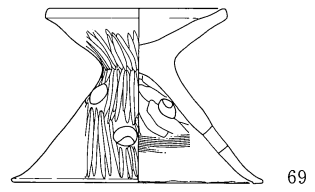
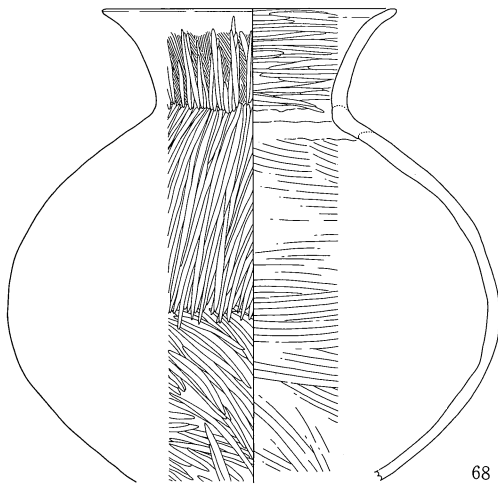


土壙38



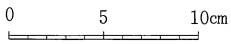
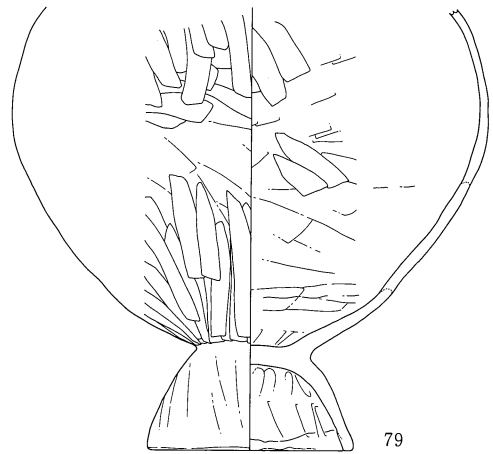
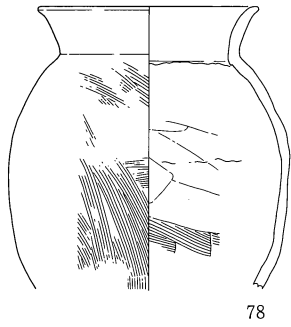
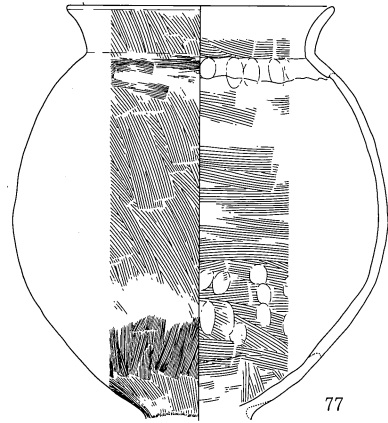
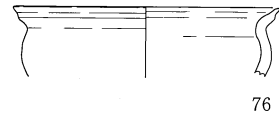
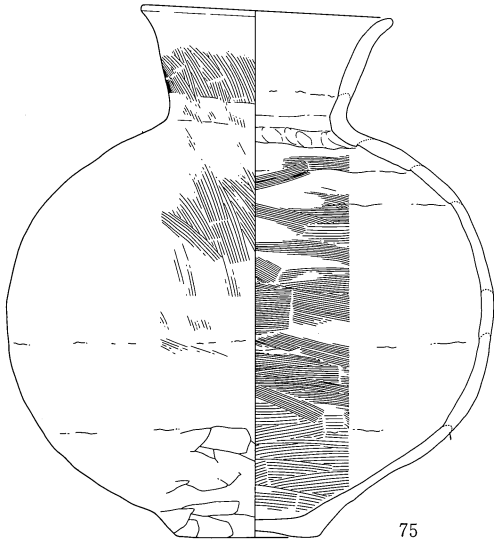
第101図 古墳時代土器(7)

第9号住居址



第102図 古墳時代土器(8)

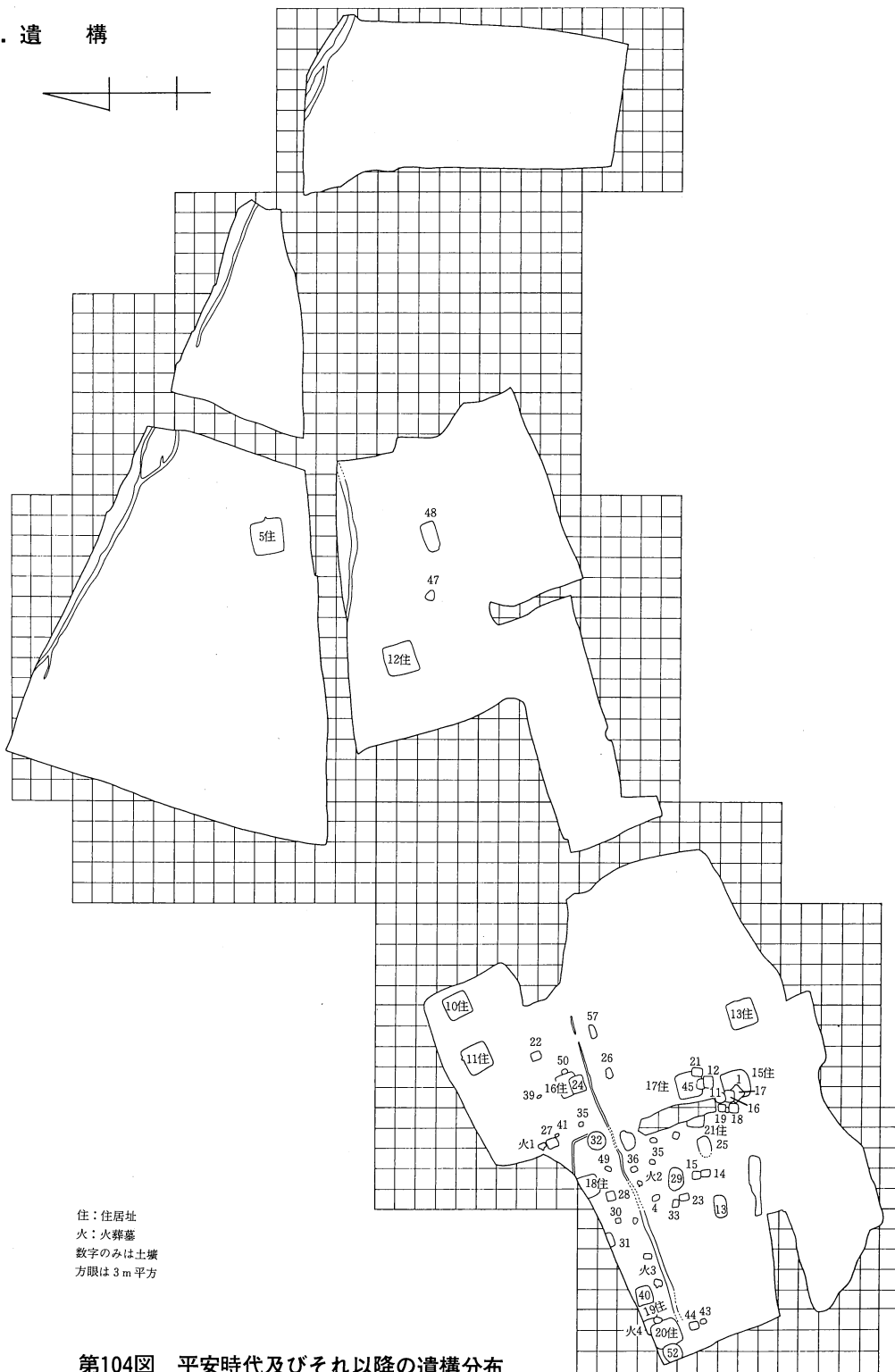
第14号住居址



第103図 古墳時代土器(9)

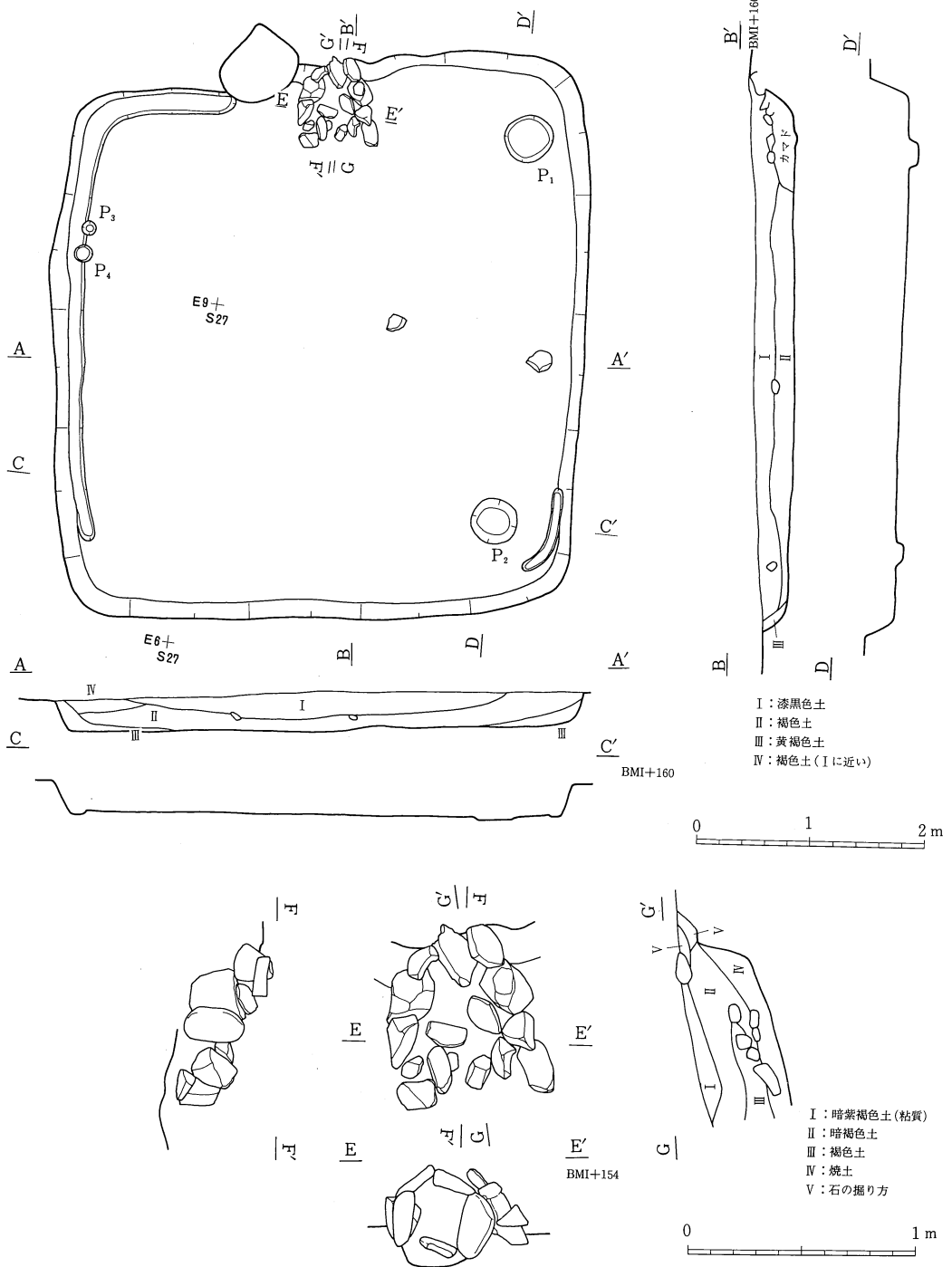
4 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物

1. 遺 構



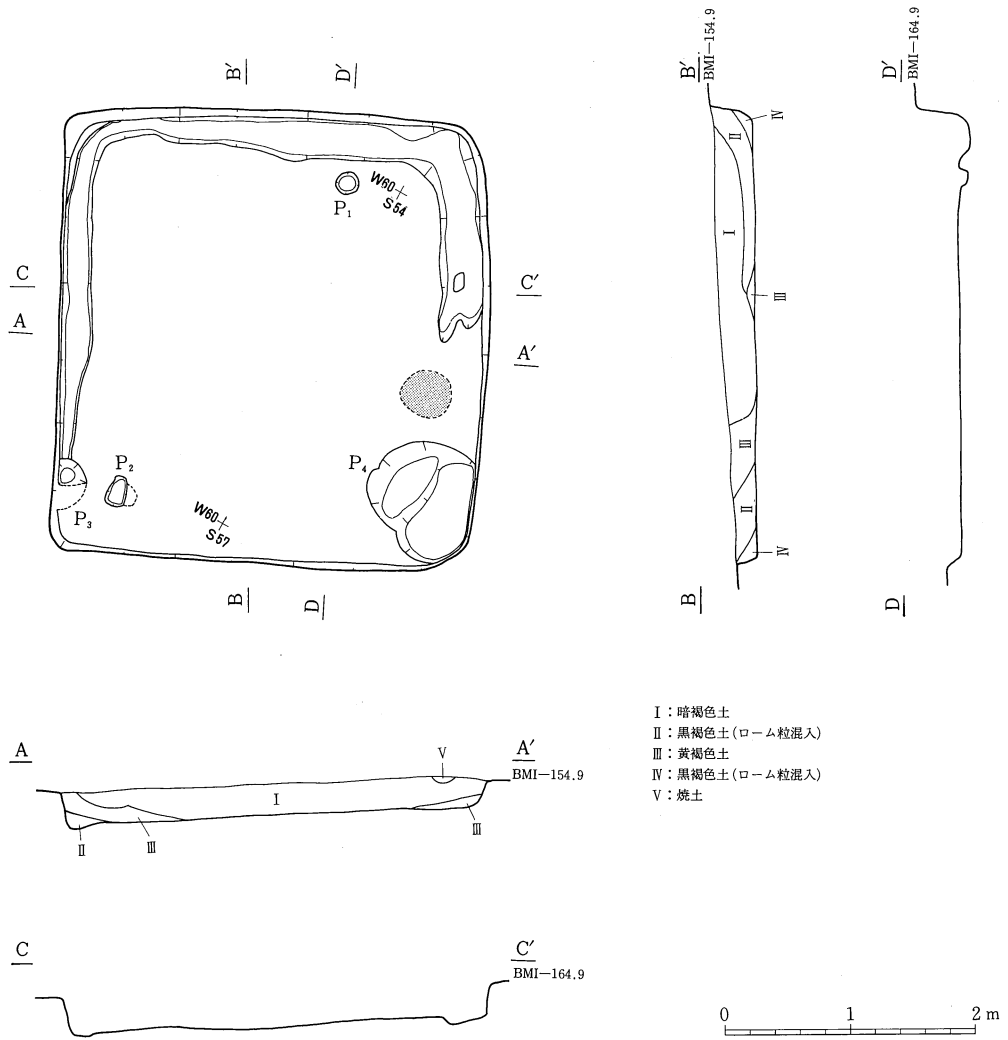
第104図 平安時代及びそれ以降の遺構分布

(1) 竪穴住居址



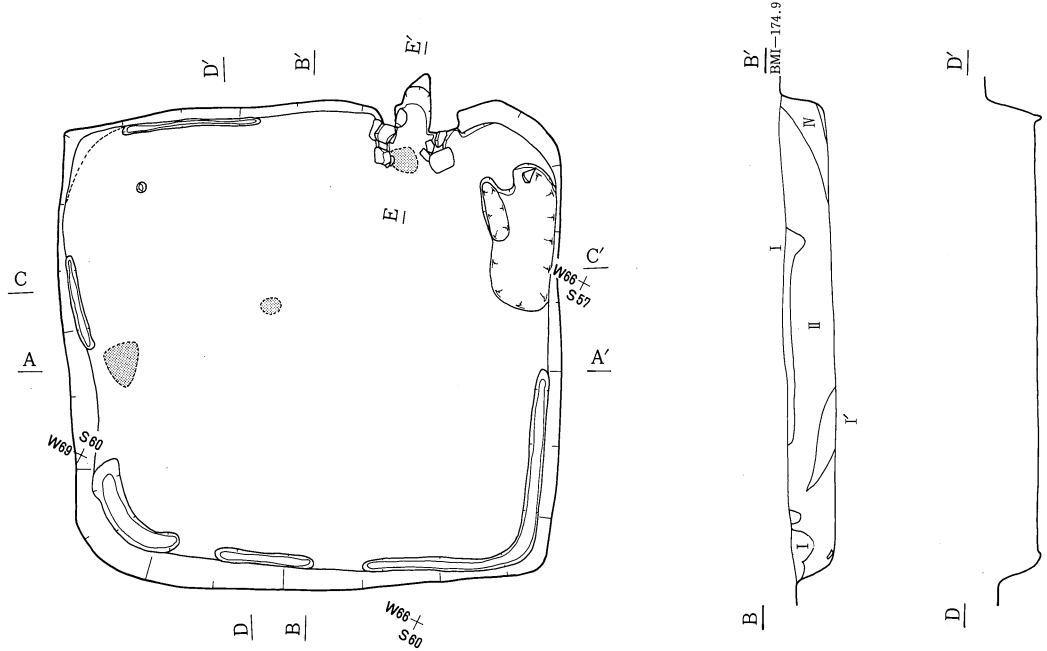
状況壁良好残存、カマド脇攪乱 床地山直床平坦良好 柱穴不明 床面積19.5m² 出土遺物覆土から散発的に出土 (81~88) 器種 土師器坏・埴、砥石(5) 刀子1(4) 不明鉄器1(16) 時期平安時代

第105図 第5号住居址

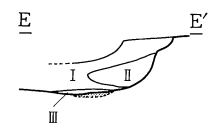
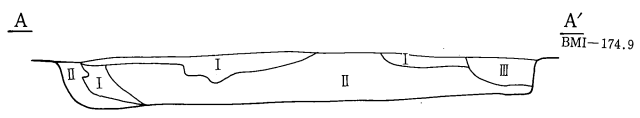


状況壁は良好に残存 床地山直床、平坦堅緻で良好、部分的に周溝あり 柱穴なし カマドなし、東壁下の焼土が該当か？ 床面積11.4m² 出土遺物覆土中から少量の縄文土器・土師器が散発的に出土・図化できるものなし、火打金具1(巾) 時期平安時代

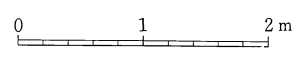
第106図 第10号住居址



- I : 耕作土
- II : 暗褐色土(砂質)
- III : 攪乱
- IV : 黒褐色土
- V : 黄褐色土(ローム粒混入)

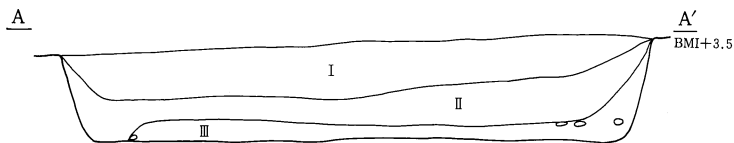
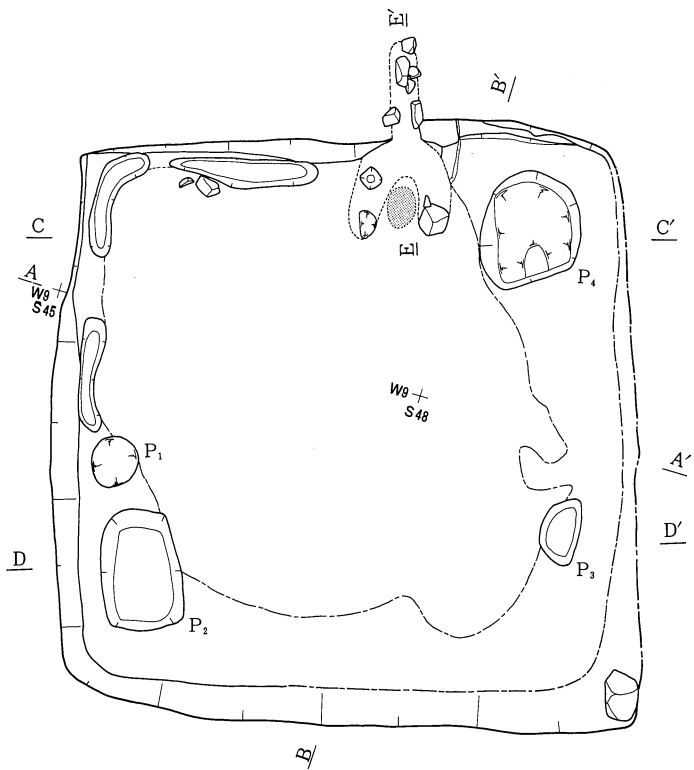


- I : 暗黄褐色土(ローム塊混入)
- II : 暗褐色土
- III : 焼土

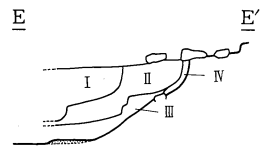


状況壁良好残存 床地山直床、堅緻、周溝あり カマドあり、西壁下の焼土第1次のカマド跡? 床面積12.9m² 出土遺物土師器碗・小形甕・灰釉碗(89~92)、覆土中から散発的に出土・鉄滓1(3) 刀子1(5) 時期平安時代

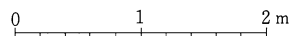
第107図 第11号住居址



- I : 黒色土 (やや灰色っぽい)
- II : 暗褐色土
- III : 暗黄褐色土 (ローム混入)

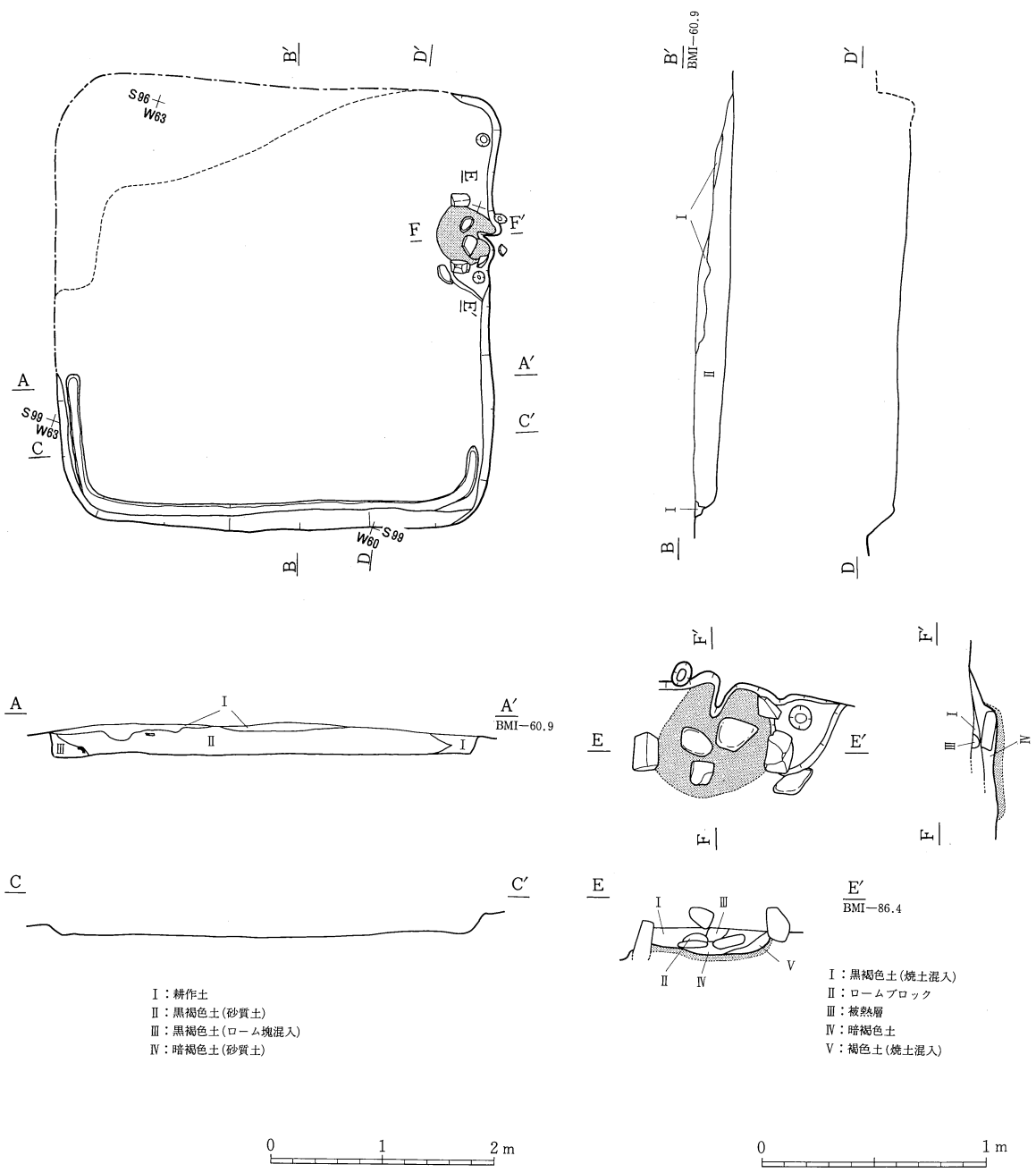


- I : 暗褐色土
- II : 暗黄褐色土 (ローム粒混入)
- III : 暗黄褐色土 (焼土混入)
- IV : 暗褐色土 (煙道より流入)



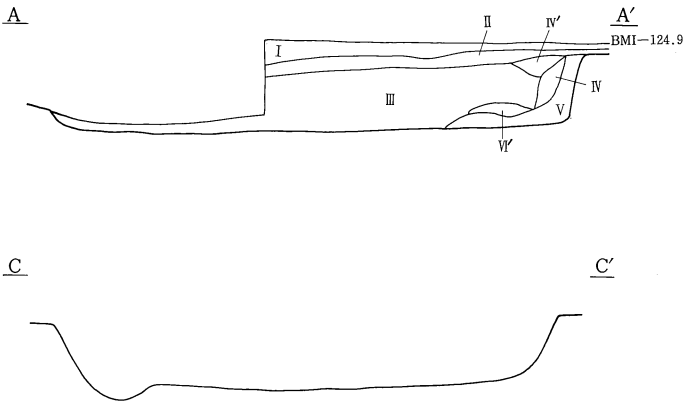
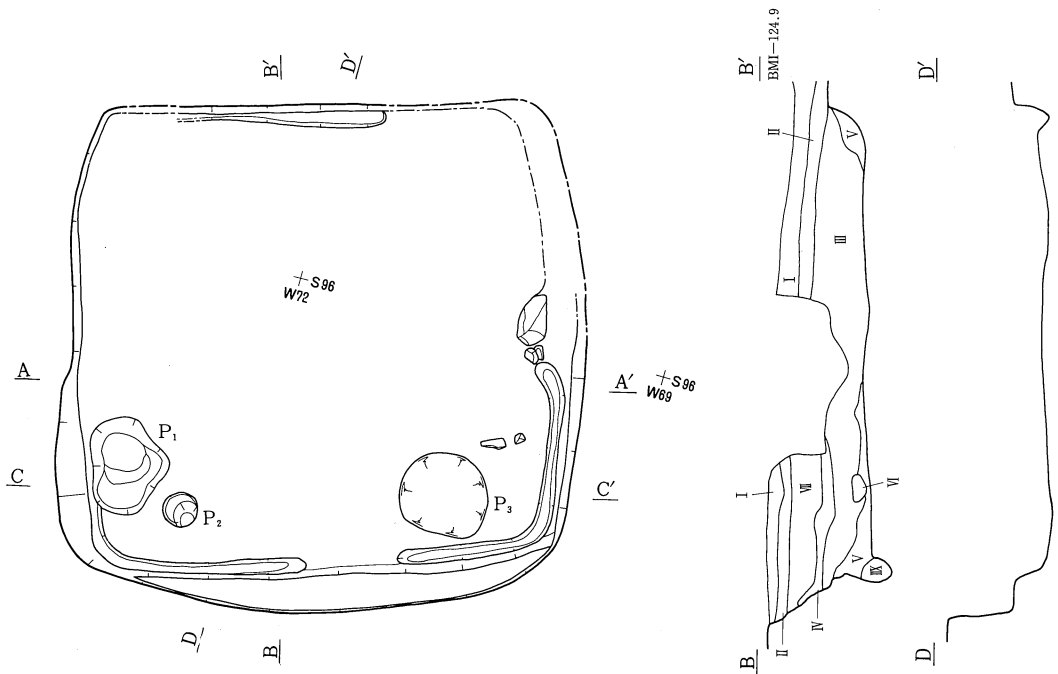
状況北・東・西壁良好残存、南壁は黒色土中のため不明瞭 床地山部分は良好、一部黒色土に黄色土貼り床 カマド既破壊、石材
 抜去の穴あり 床面積18.7m² 出土遺物土師器杯・壺・小形甕・羽釜、灰釉碗 (95~110) 覆土下層・床面より一括品出土 時期
 平安時代

第108図 第12号住居址

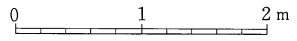


状況北西部一帯削平、壁全体的に上部削平 床地山直床、残存部分は非常に堅緻良好 カマド既破壊石材散乱 床面積14.3m²
 出土遺物土師器甕、灰釉碗(93・94) 甕はカマド内から一括出土 時期平安時代

第109図 第13号住居址



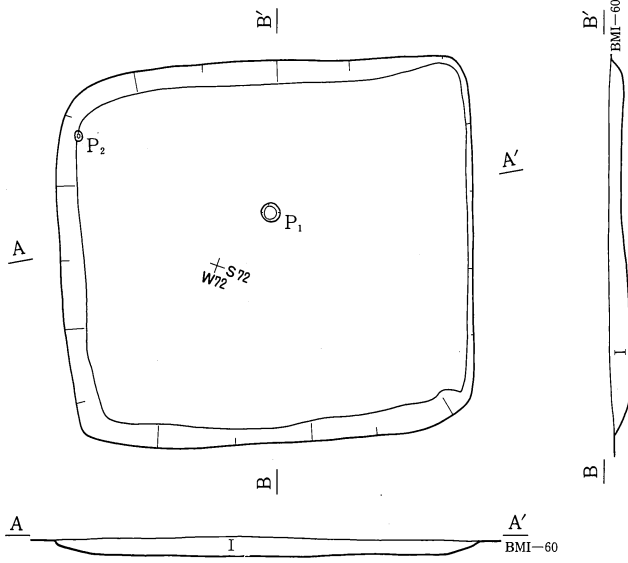
- I : 明褐色土(砂、ローム微粒子少量混入)
- II : 明褐色土(Iよりやや暗い、ローム微粒子微量混入)
- III : 黒褐色土(ロームブロック少量混入)
- IV : 暗褐色土
- IV' : 暗褐色土(IVよりやや明るい)
- V : 暗褐色土(IVより暗い、やや粘質)
- VI : 黄色ロームブロック
- VI' : 明褐色土(やや粘質)
- VII : 黒褐色土(IIIより明るい、ロームブロック微量混入)
- IX : 黒色土(ローム粒子ロームブロック多量混入)



状況土壙16・17西壁上部を破壊、北東1/4誤認して削平、他の壁は良好 床黒色土を叩き堅めて良好 カマド東壁に残骸あり 出土遺物土師器坏・坑、灰釉皿(112~114)、刀子(6)、鉄滓(2)、砥石(2)、灰釉(112)はP₁と本址周辺出土のもの接合、完形 時期平安時代

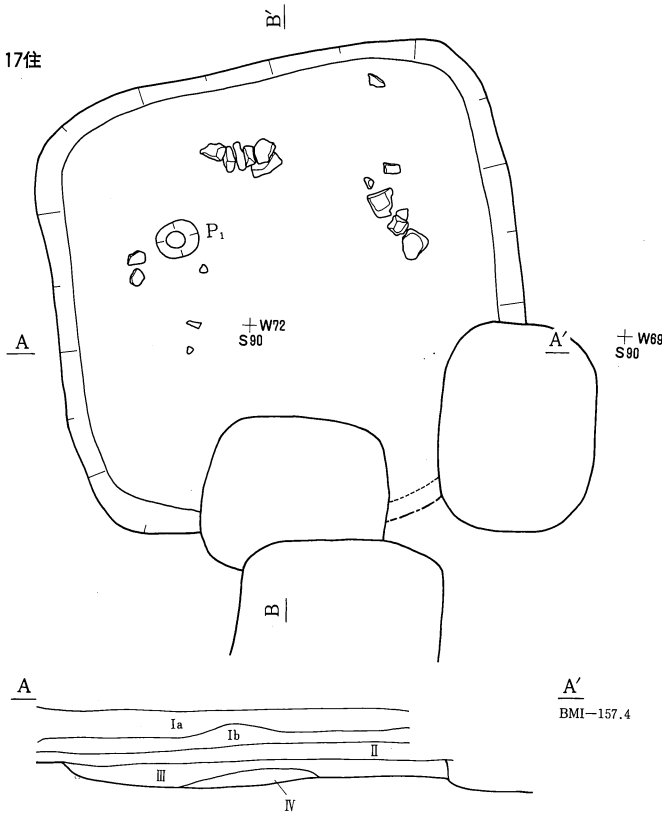
第110図 第15号住居址

16住



I: 褐色土(ローム粒・砂粒を多量に含む)

17住



Ia, Ib: 耕作土
 II: 黒褐色土(ローム粒混入し有り)
 III: 黒褐色土(しまり無)
 IV: 暗灰褐色土

0 1 2 m

16住

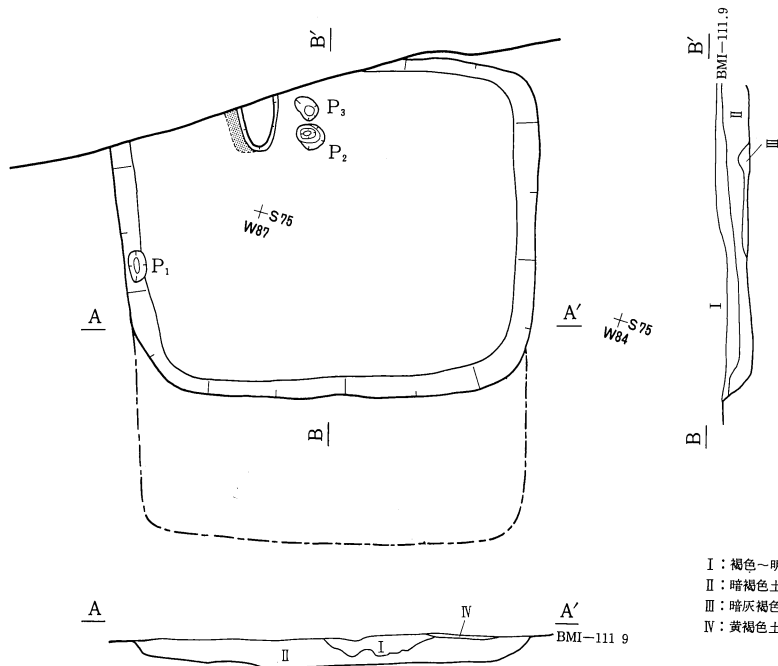
状況土擴37・24の上部を切り、壁ならぬ。床地山直床北西部堅緻。カマドなし。床面積8.9m²。出土遺物若干の縄文土器片、古墳時代土器片のみ図化なし。時期平安時代以降。

17住

状況土擴21・45に南東部を切られる。壁傾斜緩く良好。床黒色土を叩き堅緻良好。カマドなし。床面積11.5m²。出土遺物若干の縄文土器・平安時代土器片散見。時期平安以降。

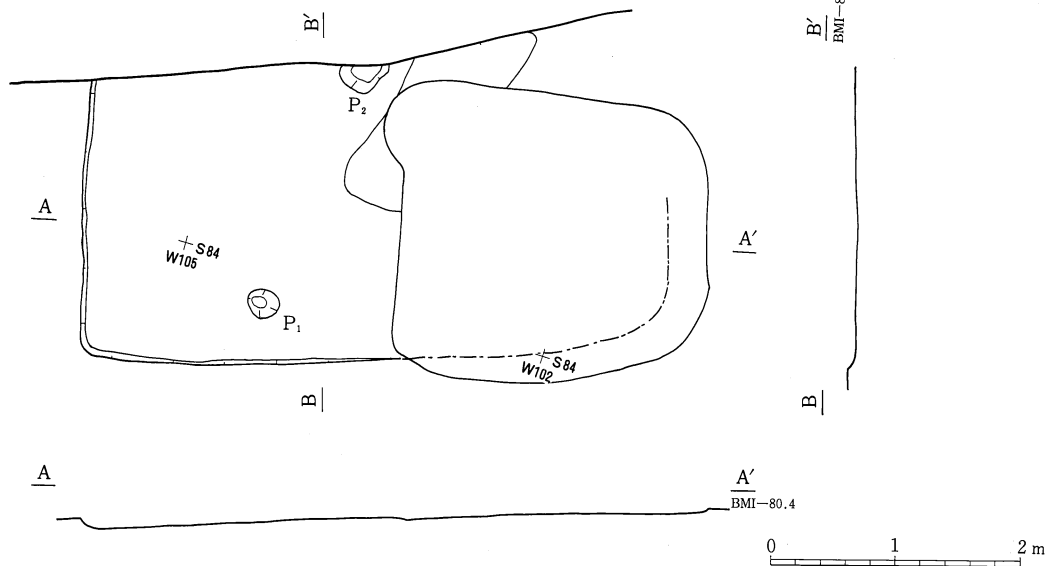
第111図 第16・17号住居址

18住



- I: 褐色～明褐色土(硬質)
- II: 暗褐色土(焼土粒微量混入)
- III: 暗灰褐色土(IIよりやや粘質)
- IV: 黄褐色土(砂質)

19住



18住

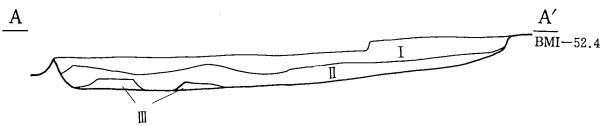
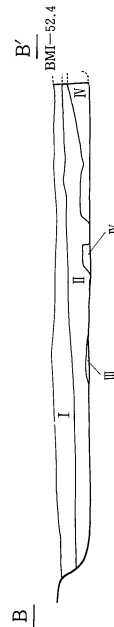
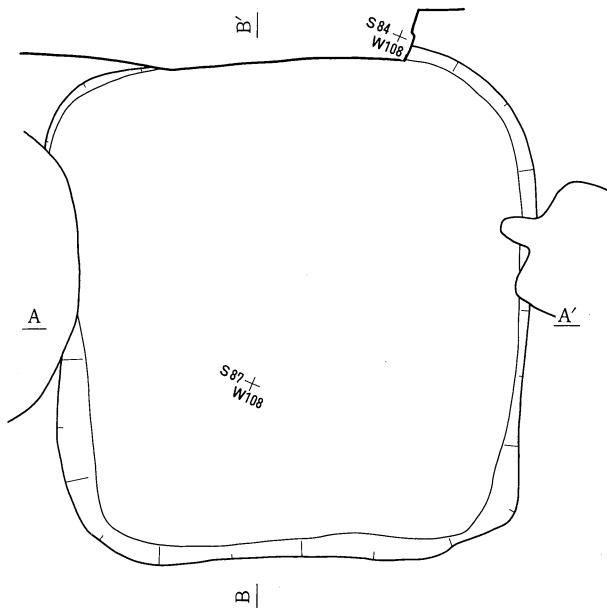
状況壁低いが良好 床地山直床堅緻良好 カマド北壁方面の焼土と高まりが該当? 出土遺物若干の縄文土器片のみ
図化なし 調査部分床面積6.6m² 時期平安以降

19住

状況北半区域外、ほとんど削平、土壌40・48に切られる。床黒色土中にあり軟弱 出土遺物若干の縄文土器片のみ図化なし
調査部分床面積12.8m² 時期平安以降

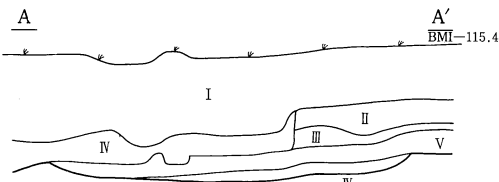
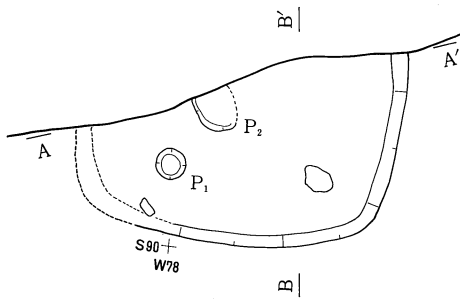
第112図 第18・19号住居址

20住

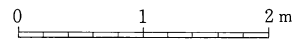


- I : 黒色土
- II : 暗褐色土(しまり無)
- III : 明褐色土(しまり有)

21住



- I : 耕作土
- II : 暗黄褐色土
- III : 褐色土(砂質)
- IV : 暗褐色土(砂質)
- V : 耕作土(古い深掘り層、IにIIがブロック状に混入)
- VI : 黒褐色土
- VII : 暗褐色土(IVに黄褐色粗砂多量混入)



20住

状況上層に近世墓・土壇51、壁やや不明瞭 床黒色土中にあり軟弱不明瞭 床面積12.7m² 出土遺物縄文土器多数(晚期包含層を掘り込んでいたため) 時期平安以降

21住

状況東半区域外北壁全く削平、他は良好 床黒色土を叩いて堅緻 出土遺物若干の縄文土器片、北壁外に灰釉皿2枚一括出土(117・118)、刀子(3) 調査部分床面積2.6m²

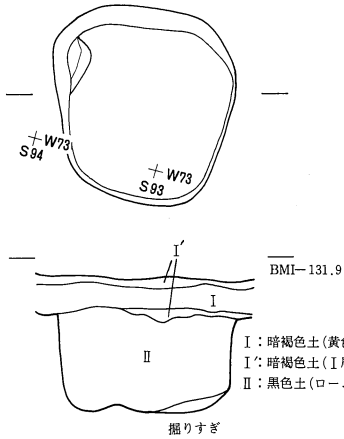
第113図 第20・21号住居址

(2) 土 壙

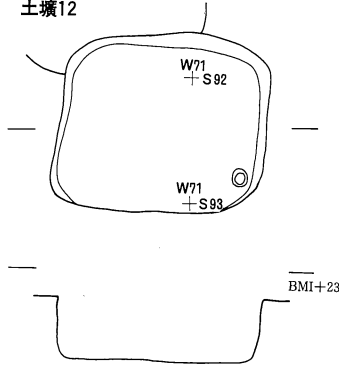
表7 土壙一覧表

番号	掲載図	位 置 代	平面形 規 模 (cm)	断面形 深 さ (cm)	覆土の 特 徴	備 考 (遺構の切合い関係 新>旧)	番 号	掲載図	位 置 代	平面形 規 模 (cm)	断面形 深 さ (cm)	覆土の 特 徴	備 考 (遺構の切合い関係 新>旧)
1	94	S1 W26 古 墳	長 方 形 162×96	長 方 形 37	b	S字壘 (80)	31	119	S78 W94	長 方 形 183×(150)	長 方 形 7		
2	94	S6 W25 古 墳	長 方 形 132×84	長 方 形 35	b	短頸壺 (81)	32	118	S77 W81	楕 円 形 (270)×263	長 方 形 36	b	
4	94	S25 WE0 古 墳	長 方 形 152×102	長 方 形 43	b		33	116	S88 W89	長 方 形 107×85	長 方 形 14	a	
5	94	NSO W13 古 墳	円 形 120×110	長 方 形 20	b		34	115	S85 W90	長 方 形 111×75	長 方 形 30	b?	
6	6	S40 W64 縄 文	円 形 315×290	台 形 145	b	土器 (1・2・4・5)	35	116	S84 W83	円 形 87×86	長 方 形 17	a	
8	6	S110 W83 縄 文	円 形 125×100	長 方 形 20	b		36	116	S81 W84	長 方 形 103×82	長 方 形 25	b	
9	6	S113 W85 縄 文	円 形 115×112	長 方 形 58	b		37	6	S70 W73 縄 文	半 円 形 285×135	台 形 95	b	土製円盤 (36) 土器 (6~29, 303~309)
10	94	S32 E7 古 墳	円 形 201×168	長 方 形 34	b		38	94	S63 W73 古 墳	楕 円 形 113×56	台 形 23	b	棒状土製品 (57)
11	114	S93 W73	楕 円 形 156×135	長 方 形 83	a	銭 (1・2)	39	116	S68 W73	長 方 形 70×52	長 方 形 29	a	
12	114	S92 W71	長 方 形 165×143	長 方 形 50	a		40	119	S84 W102	長 方 形 252×217	長 方 形 4		
13	117	S95 W90	長 方 形 333×202	長 方 形 16	a	装身具? (6)	41	116	S70 W79	長 方 形 58×41	長 方 形 35	a	
14	114	S91 W85	長 方 形 126×117	長 方 形 36	a	砾石 (1)	42	116	S71 W81	長 方 形 197×72	長 方 形 7		
15	114	S91 W83	長 方 形 125×114	長 方 形 40	a		43	116	S92 W106	長 方 形 94×64	台 形 32	b	
16	114	S82 W74	長 方 形 184×130	長 方 形 42	a	銭 (3・4)	44	115	S90 W106	長 方 形 146×108	長 方 形 40	b	
17	115	S82 W73	長 方 形 198×184	長 方 形 19	a	灰釉 (115) <土壙16, >15住	45	115	S91 W70	長 方 形 148×124	長 方 形 40	a	<土壙12, >18住
18	114	S96 W75	長 方 形 138×130	長 方 形 43	a	銭 (5・6・7)	46	119	S51 E1	長 方 形 427×177	長 方 形 37		
19	114	S95 W75	長 方 形 107×104	長 方 形 10	a		47	117	S52 EW0	楕 円 形 130×126	台 形 70		
20	116	S95 W75	楕 円 形 83×(65)	長 方 形 19	a	<土壙18	48	117	S83 W103	長 方 形 (190)×75	長 方 形 15		<土壙40
21	114	S91 W67	長 方 形 168×127	長 方 形 32	a	>18住	49	116	S78 W84	長 方 形 93×65	長 方 形 22	a'	
22	114	S68 W67	楕 円 形 156×130	長 方 形 50	a		50	116	S71 W70	円 形 98×(78)	長 方 形 15	a'	<16住
23	115	S89 W88	長 方 形 142×110	長 方 形 43	a	土偶 (4)	51	118	S88 W106	長 方 形 216×135	長 方 形 17		19住の下部
24	119	S74 W72	長 方 形 243×203	長 方 形 16		>16住	52	118	S88 W111	円 形 260×(250)	長 方 形 28	b	
25	117	S92 W81	長 方 形 (210)×(165)	長 方 形 10	a		53	115	S88 W79	長 方 形 94×81	長 方 形 35	a	
26	115	S77 W70	長 方 形 140×81	長 方 形 17	a		54	118	S82 W80	長 方 形 289×190	長 方 形 23		
27	115	S69 W80	長 方 形 157×139	長 方 形 48	a	不明 (石) (?)	55	116	S74 W77	円 形 78×77	長 方 形 14	a'	
28	115	S78 W88	長 方 形 140×128	長 方 形 50	a		56	6	S87 W93 縄 文	円 形 326×323	台 形 115	b	不明 (土) (67) 土器 (30~35, 310~317)
29	117	S87 W85	楕 円 形 352×235	長 方 形 22	a	有孔球状土製品 (46)	57	117	S75 W63	長 方 形 192×103	長 方 形 56	c	
30	116	S79 W92	長 方 形 73×70	長 方 形 11	a		58	94	S33 E10 古 墳	楕 円 形 121×76	長 方 形 40	b	

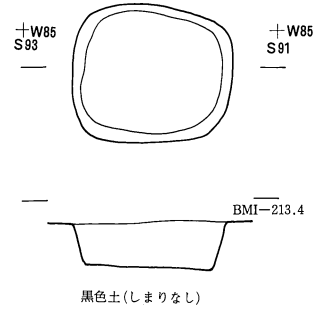
土壌11



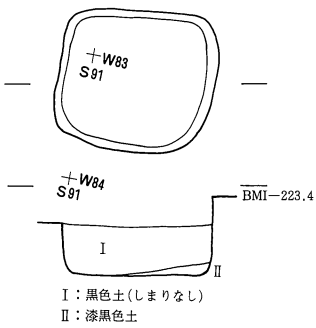
土壌12



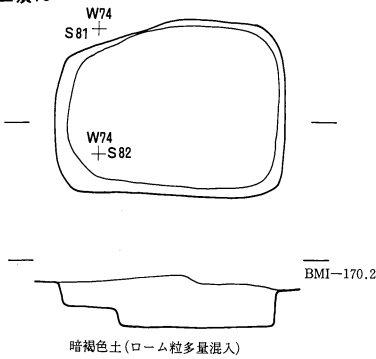
土壌14



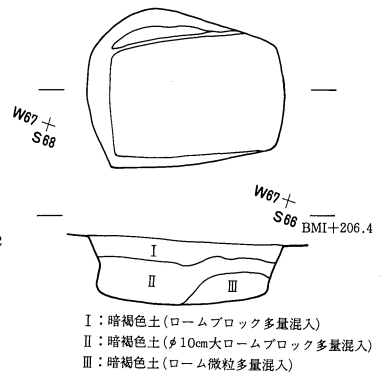
土壌15



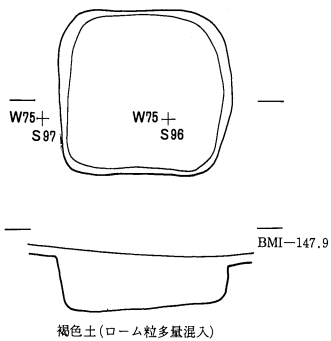
土壌16



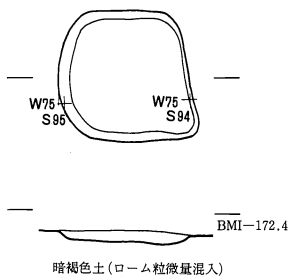
土壌22



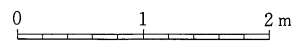
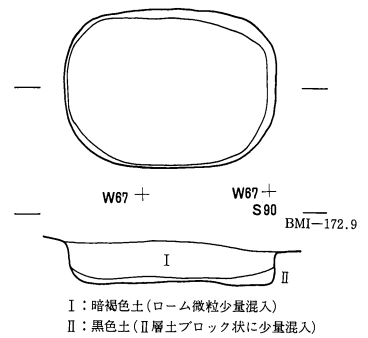
土壌18



土壌19

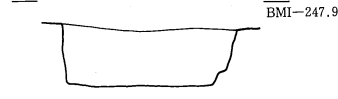
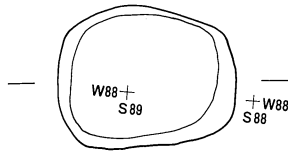


土壌21



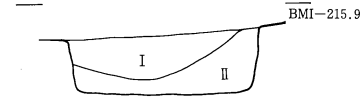
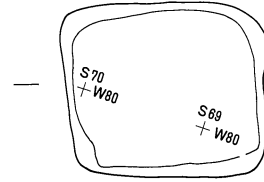
第114図 平安時代以降の土壌(1)

土壙23



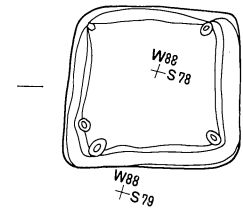
暗褐～黒褐色土(ロームブロック混入)

土壙27



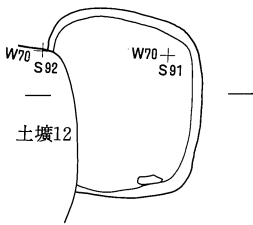
I: 暗褐色土(ローム粒混入)
II: 褐色土(ローム塊多量混入)

土壙28

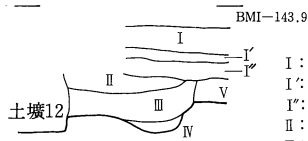


暗褐色土(ローム粒混入)

土壙45

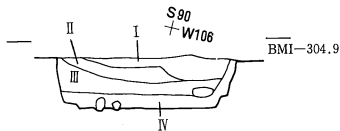
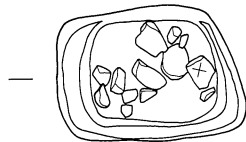


土壙12



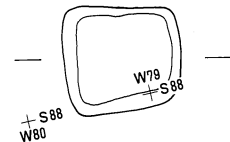
土壙12

土壙44



I: 明褐色土
II: 暗褐色土(ローム粒混入)
III: 黒褐色土
IV: 明褐色土

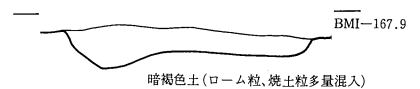
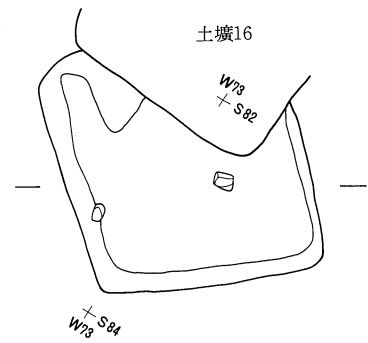
土壙53



黒褐色土(炭化物、焼土粒少量混入)

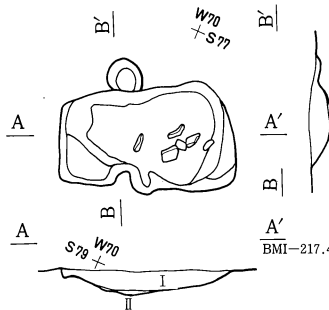
I: 暗褐色土
I': 暗褐色土(黄色味帯びる)
I'': 暗褐色土(灰色味帯びる)
II: 暗褐色土(ローム粒微量混入、しまりなし)
III: 暗褐色土(IIよりロームブロック多い)
IV: 茶褐色土(ローム微粒多量混入)
V: 17住覆土

土壙17



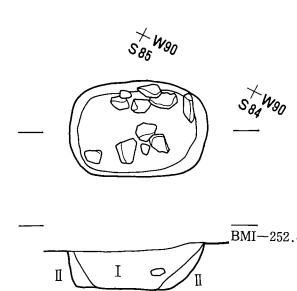
暗褐色土(ローム粒、焼土粒多量混入)

土壙26

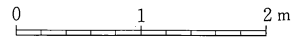


I: 褐色土(ローム粒、焼土、白色粘質土混入)
II: 黒色土(炭)

土壙34

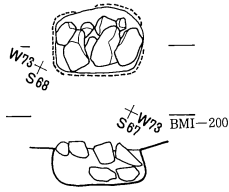


I: 黄褐色土
II: 暗褐色土



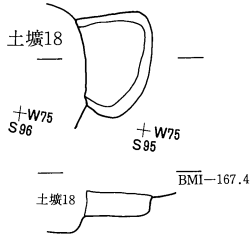
第115図 平安時代以降の土壙(2)

土壙39



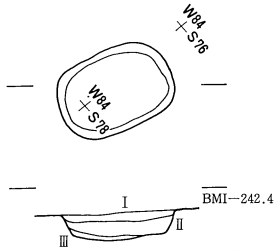
褐色土(ローム粒混入、砂質)

土壙20



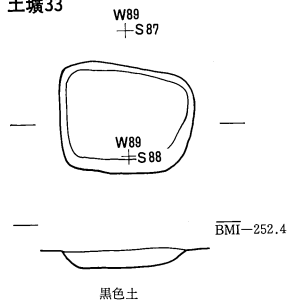
褐色土(しまりある明褐色土塊混入)

土壙49

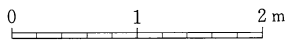


I : 暗褐色土(軟化した炭、焼土ブロック混入)
 II : 暗褐色土(焼土粒混入)
 III : 暗褐色土(やや粘質)

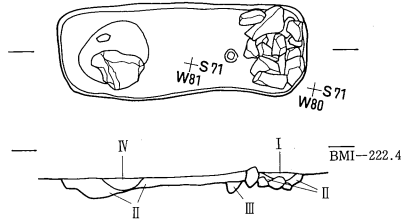
土壙33



黒色土

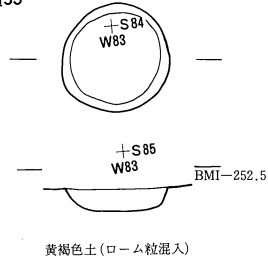


土壙42



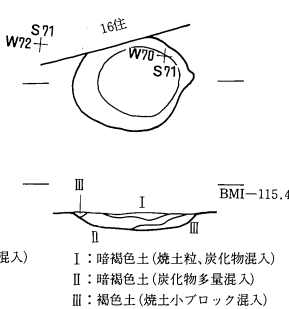
I : 灰黄色土(ローム塊まばらに混入)
 II : 暗黄褐色土(ローム粒混入)
 III : 黒褐色土
 IV : 暗褐色土

土壙35



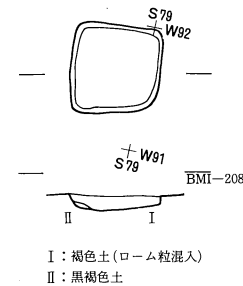
黄褐色土(ローム粒混入)

土壙50



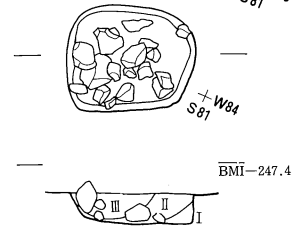
I : 暗褐色土(焼土粒、炭化物混入)
 II : 暗褐色土(炭化物多量混入)
 III : 褐色土(焼土小ブロック混入)

土壙30



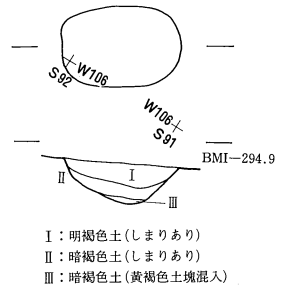
I : 褐色土(ローム粒混入)
 II : 黒褐色土

土壙36



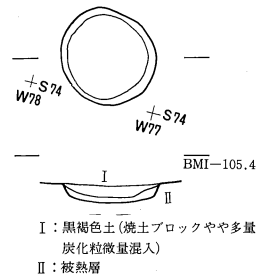
I : 暗褐色土
 II : 暗黄褐色土
 III : 暗褐色土(ローム粒混入)

土壙43



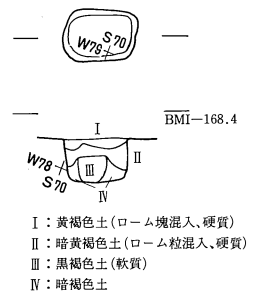
I : 明褐色土(しまりあり)
 II : 暗褐色土(しまりあり)
 III : 暗褐色土(黄褐色土塊混入)

土壙55



I : 黒褐色土(焼土ブロックやや多量炭化粒微量混入)
 II : 被熱層

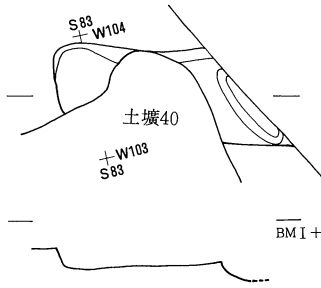
土壙41



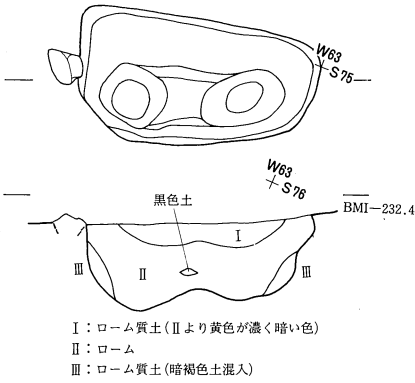
I : 黄褐色土(ローム塊混入、硬質)
 II : 暗黄褐色土(ローム粒混入、硬質)
 III : 黒褐色土(軟質)
 IV : 暗褐色土

第116図 平安時代以降の土壙(3)

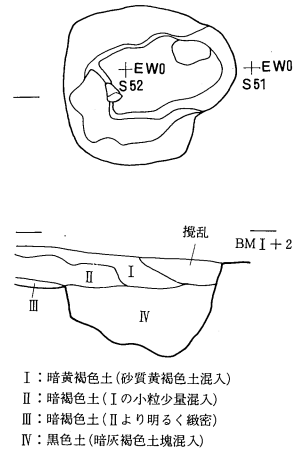
土壙48



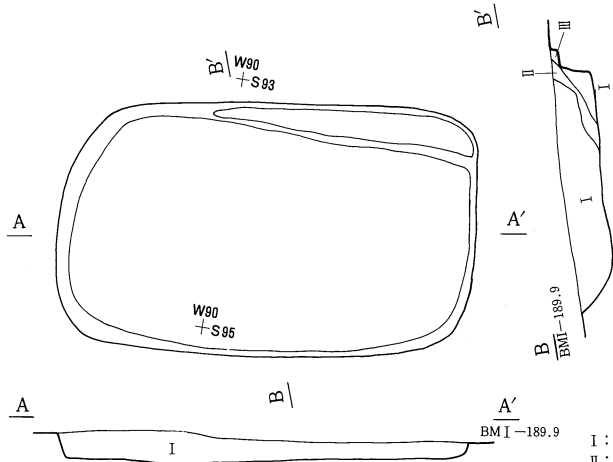
土壙57



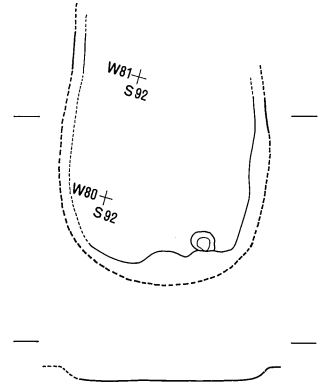
土壙47



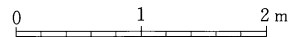
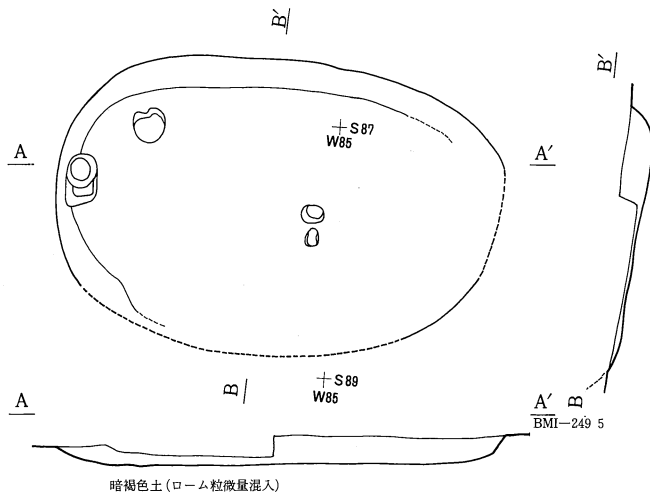
土壙13



土壙25

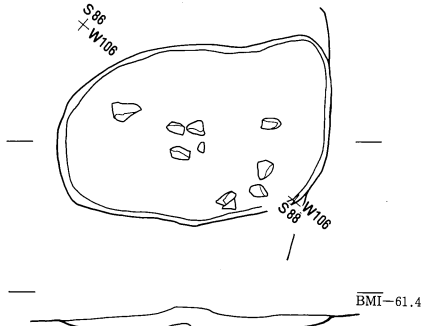


土壙29



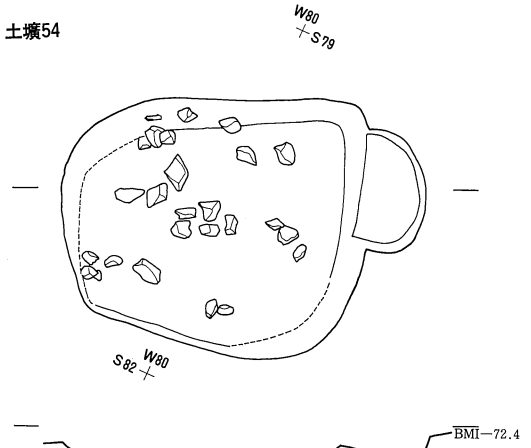
第117図 平安時代以降の土壙(4)

土壙51

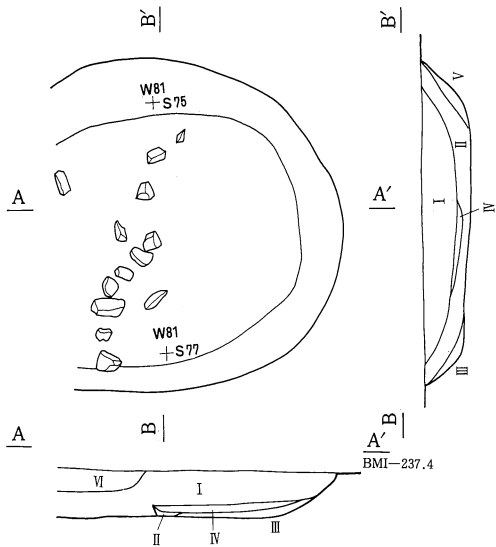


明褐色土(焼土粒、炭化物、少量混入、やや砂質)

土壙54

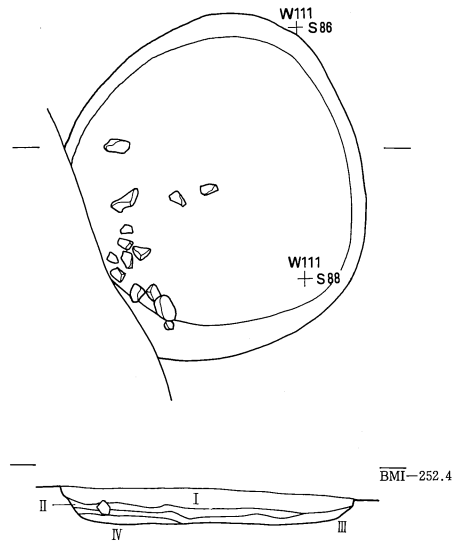


土壙32

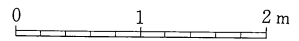


- I : 暗褐色土
- II : 黄褐色土
- III : 暗黄褐色土
- IV : 明黄褐色土(砂質)
- V : 黑色土
- VI : 灰褐色土(黄褐色土混入)

土壙52

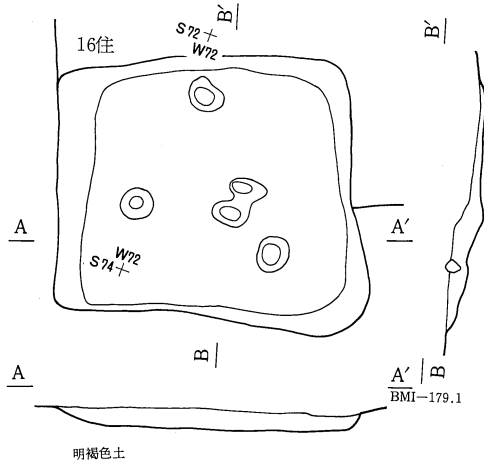


- I : 暗褐色土(土器、細礫混入)
- II : 暗灰褐色土(粘質)
- III : 明褐色土
- IV : 褐色土(粘質)

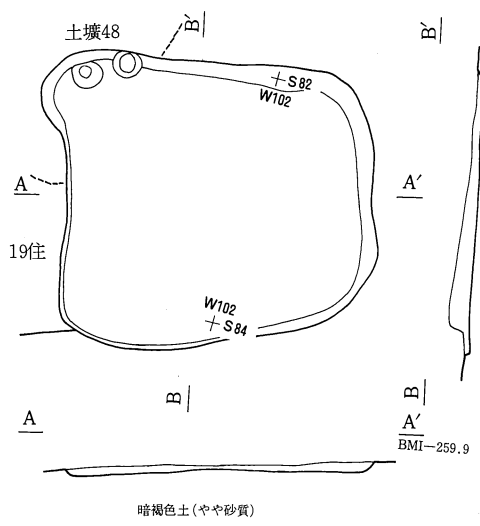


第118図 平安時代以降の土壙(5)

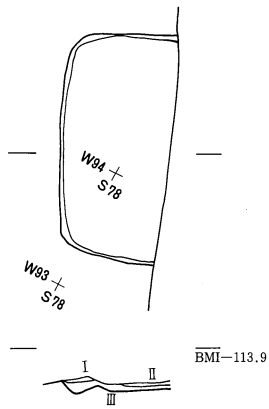
土壌24



土壌40

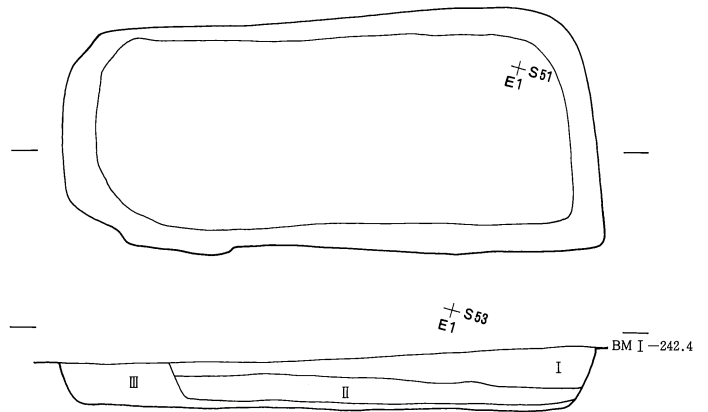


土壌31

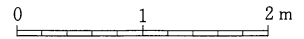


- I : 明黄褐色土
- II : 黒色土(硬質)
- III : 褐色土(ローム粒微量混入)

土壌46

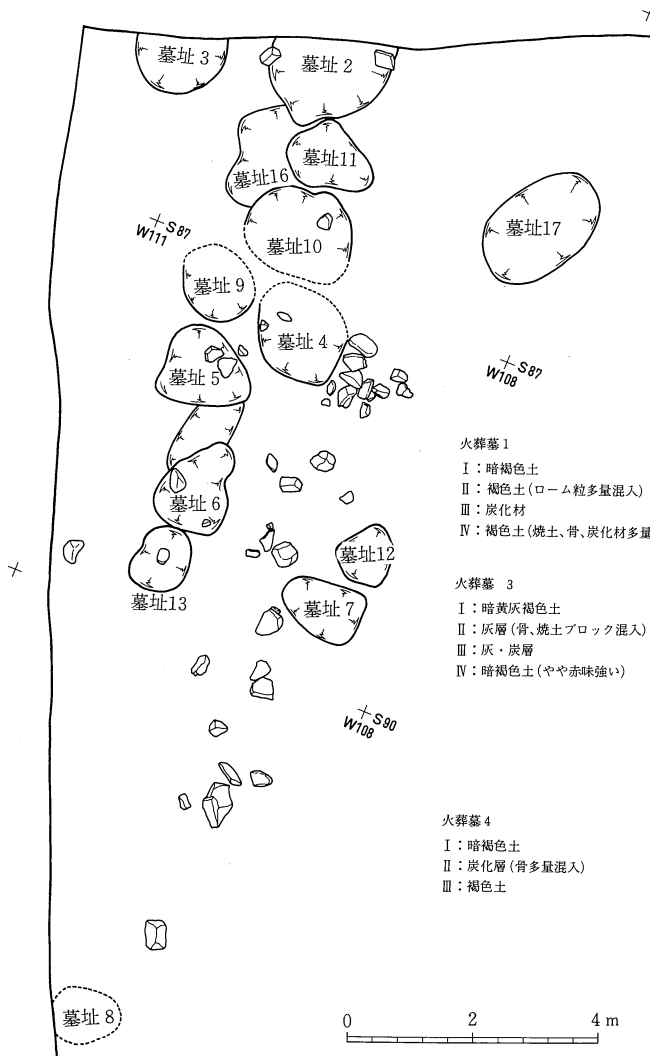


- I : 暗褐色土
- II : 暗褐色土(炭多量に混入)
- III : 黒色土(粘性あり)



第119図 平安時代以降の土壌(6)

(3) 火葬墓・墓址

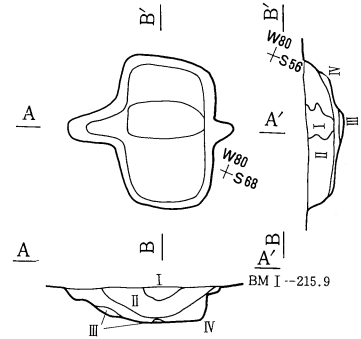


火葬墓 1
 I: 暗褐色土
 II: 褐色土(ローム粒多量混入)
 III: 炭化材
 IV: 褐色土(焼土、骨、炭化材多量混入)

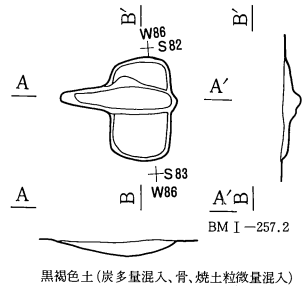
火葬墓 3
 I: 暗黄灰褐色土
 II: 灰層(骨、焼土ブロック混入)
 III: 灰・炭層
 IV: 暗褐色土(やや赤味強い)

火葬墓 4
 I: 暗褐色土
 II: 炭化層(骨多量混入)
 III: 褐色土

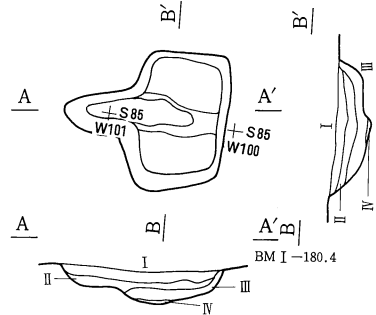
火葬墓 1



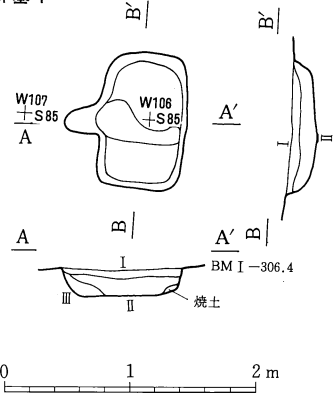
火葬墓 2



火葬墓 3



火葬墓 4



近世墓 V区西端、検出層位 I b 層(耕土下黒褐色土)上面~層中平面形円形を基調とする不整形で断面形浅い鍋底状。重複が著しい。多量の火葬骨片・木炭・灰の層を下部にもち、古銭を多量に出土した。古銭は遺存の良いものと被熱損傷しているものがある(表)

火葬墓 4 基発見、いずれも隅丸長方形を基調、長辺中央の片側に張り出しをもつ。覆土下部に木炭・灰・焼土ブロック・骨片を伴う層があり、周囲の壁も焼けている。遺物は火葬墓 2 から古銭 5 枚分(10・11)、3 から 6 枚(14~16)、4 から 4 枚分(17・18~表)が出土、いずれも被熱損傷が著しい。

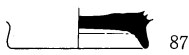
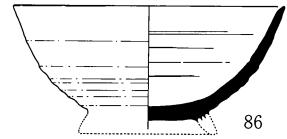
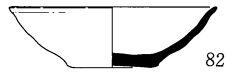
第120図 火葬墓、近世墓の分布

2. 遺 物
(1) 土 器

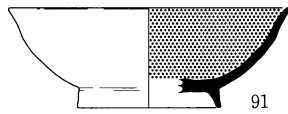
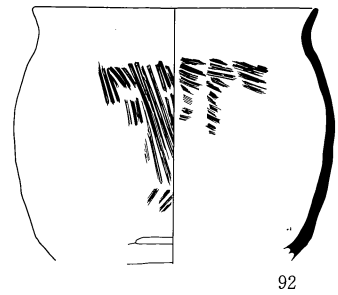
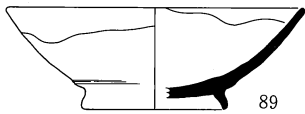
表 8 平安時代土器一覽表

No.	出土地点	種別	器形	寸法 (cm)			残存度 口径 (底部)	色 調		成形・調整・形態の特徴	備 考
				口径	底径	器高		外 面	内 面		
81	5 住	灰 釉	碗	14.2			1/5	灰白	(白)	ロクロナデ	
82	〃	土師器	坏	10.8	4.0	3.2	1/10	黄灰～黄褐	黄灰～黄褐	ロクロナデ, 底部回転系切り	
83	〃	〃	〃	11.5	4.8	4.5	1/6	黄褐	黄褐	ロクロナデ, 底部回転系切り	
84	〃	〃	〃	10.8	5.6	3.5	1/5	暗橙灰	黄灰～黄褐	ロクロナデ, 底部回転系切り	
85	〃	〃	〃	11.2	4.6	2.4	1/6	黄灰～黄褐	暗橙灰	ロクロナデ, 底部回転系切り	
86	〃	〃	碗	14.2			2/5	黄褐	暗褐～赤褐	ロクロナデ, 体部内面放射状ヘラミガキ, 口縁ヘラミガキ・面取り, 底部回転系切り	
87	〃	〃	〃		7.1		(完)	赤橙	暗褐	底部内面, ロクロナデのち十字形の放射状暗文 付け高台のちヨコナデ, 底部回転系切り	
88	〃	〃	〃		6.6		(2/3)	橙灰	黄灰	底部内面ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部外面ナデ	
89	11 住	灰 釉	碗	7.8	7.2	5.4	2/5	白～灰白	白～灰白	ロクロナデ, 口縁外面ヨコナデ, 付け高台のちヨコナデ 底部回転系切り	白色不透明釉
90	〃	土師器	碗	14.4			2/5	黄橙～赤褐	暗褐～赤褐	ロクロナデ, 口縁内面ヨコナデ・外面ヨコナデ	口縁外面スス付着
91	〃	〃	〃	14.8	7.5	5.3	1/2	赤橙～黄橙	黒～暗赤褐	ロクロナデ, 胴部内面放射状ヘラミガキ, 口縁内面 ヘラミガキ, 付け高台, 底部回転系切り	内黒
92	〃	〃	小形甕	14.8			2/5	黄褐～橙褐	黄橙～黄褐	胴部細いケ様のものによるナデ・外面下半ヨコナデ	
93	13 住	灰 釉	碗	16.2	5.7	4.7	1/3	灰白	灰白	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部回転系切り	漬けがけ, 透明釉 重ね焼痕
94	〃	土師器	甕	14.6	10.2	17.2	2/3	黄橙	黄橙	胴部ナデ・内面上半ハケ様のもの, 口縁面取り, 底部圧迫痕・ナデ	胴下半二次的 被熱
95	12 住	灰 釉	碗		7		(2/3)	灰白	灰白	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ 底部回転ヘラケズリ・ナデ	重ね焼痕 釉なし
96	〃	〃	〃	12.3	5.2	4.3	1/6	灰白～白	(淡緑透明)	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部回転系切り	重ね焼痕
97	〃	〃	〃	14.4	6.5	5.4	1/3	灰白	(淡緑)	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ	漬けがけ 重ね焼痕
98	〃	土師器	坏	11.8	5.0	3.5	1/6	暗赤灰～黄灰	茶橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	
99	〃	〃	〃	11.3	5.2	3.1	完	橙灰	橙灰～薄橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	靱圧痕
100	〃	〃	〃	11.5	5.0	3.1	1/5	薄橙	薄橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	
101	〃	〃	〃	10.9	5.4	3.1	1/3	薄橙	薄橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	各所にスス付着
102	〃	〃	〃	11.8	5.7	3.0	2/5	暗褐	黄橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	タール状のスス 付着
103	〃	〃	〃	10.7	6.3	3.2	1/6	暗黄褐	黄灰	ロクロナデ, 口縁ヨコナデ, 底部回転系切り	
104	〃	〃	碗	14.3	7.7	4.7	2/3	黄橙～黄灰	暗橙	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 内側に棒状の らせん痕, 底部回転系切りのちナデ	
105	〃	〃	〃	13.5				黄褐	黒	ロクロナデ, 胴部上半ヨコミガキ・下半タミガキ	内黒
106	〃	〃	小形甕	9.0	5.6	6.1	1/3	暗褐	暗褐	ロクロナデ, 胴部内面工具によるロクロナデ 底部回転系切り	
107	〃	〃	碗		6.6		完	黄灰	黄灰	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部内面 ロクロナデのちヘラミガキ・外面ナデ	
108	〃	〃	碗(皿)	12.1			1/5	薄橙灰	薄橙灰	ロクロナデ	皿形の可能性あり
109	〃	〃	甕	16.4			1/8	黄褐～黄橙	黄褐～黄橙	ロクロナデ	
110	〃	〃	羽 釜	15.2			1/6	暗褐	暗褐	ナデ・部分的にハケ目, 口縁ヨコナデ	
111	14 住	灰 釉	碗		7.6		完	灰白～白	(淡緑)	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部 回転ヘラケズリ	重ね焼痕 淡緑色釉
112	15 住	〃	皿	12.9	6.6	2.9	完	灰白	(透明)	ロクロナデ, 胴部下半ヘラケズリ, 付け高台のち ヨコナデ, 底部回転ヘラケズリ	漬けがけ・透明釉 重ね焼痕
113	〃	土師器	坏	10.8	4.0	3.5	1/6	赤褐～暗赤褐	黄褐～黄橙	ロクロナデ, 底部回転系切り	
114	〃	〃	碗		6.7		1/3	黄橙	黄橙	付け高台, 底部内面ロクロナデ・外面 棒状のらせん痕	
115	土壌17	灰・釉	碗	13.4	5.2	4.3	1/6	灰白～白	灰白～白	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ 底部ナデ	釉なし
116	IX区 S87-W78NE	〃	〃	15.2	6.1	4.8	1/8	暗灰色	(灰白～白)	ロクロナデ, 体部下半回転ヘラケズリ, 付け高台 のちヨコナデ, 底部回転ヘラケズリ, 漬けがけ	重ね焼痕・土壌17 土層と接合
117	IX区 S89-W78NE	〃	皿	11.4	6.8	2.4	1/3	〃	(白)	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部 回転ヘラケズリ	漬けがけ 重ね焼痕
118	IX区 S89-W78NE	〃	〃	12.1	6.8	2.9	2/3	〃	(黄緑)	ロクロナデ, 付け高台のちヨコナデ, 底部 回転ヘラケズリ, 漬けがけ	重ね焼痕・No17と 重なって出土

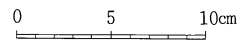
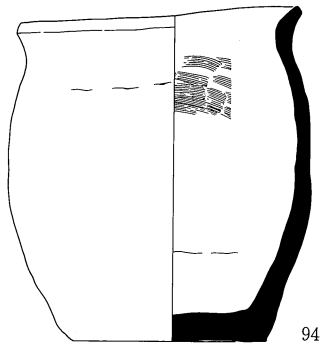
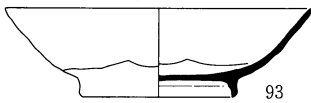
第5号住居址



第11号住居址

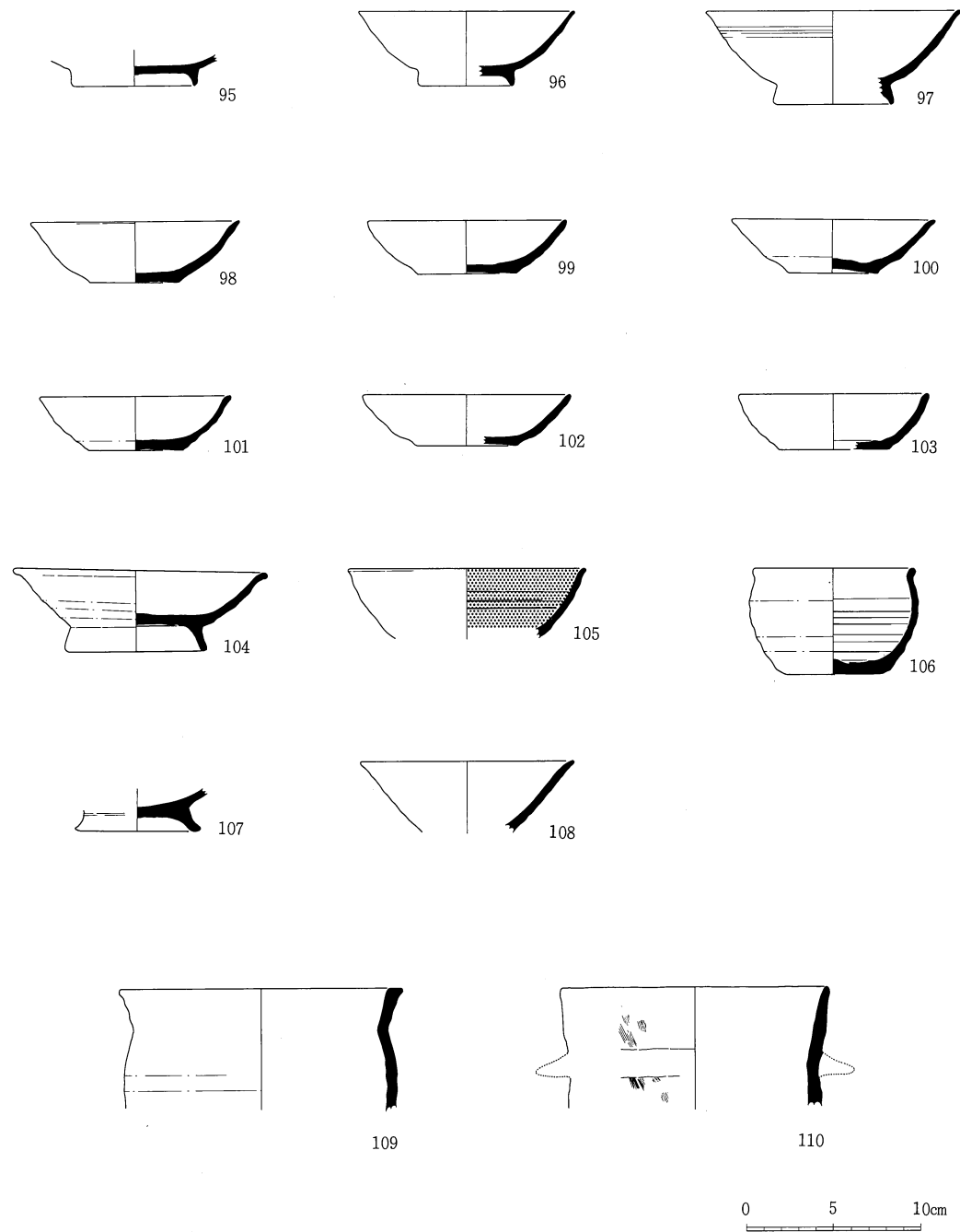


第13号住居址



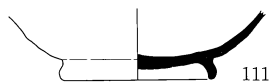
第121図 平安時代土器(1)

第12号住居址

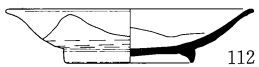


第122図 平安時代土器(2)

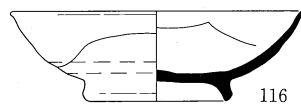
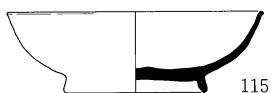
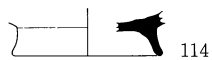
第14号住居址



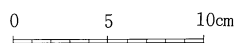
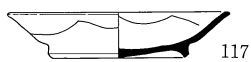
第15号住居址



土壙17



S89-W78 NEⅡ層上

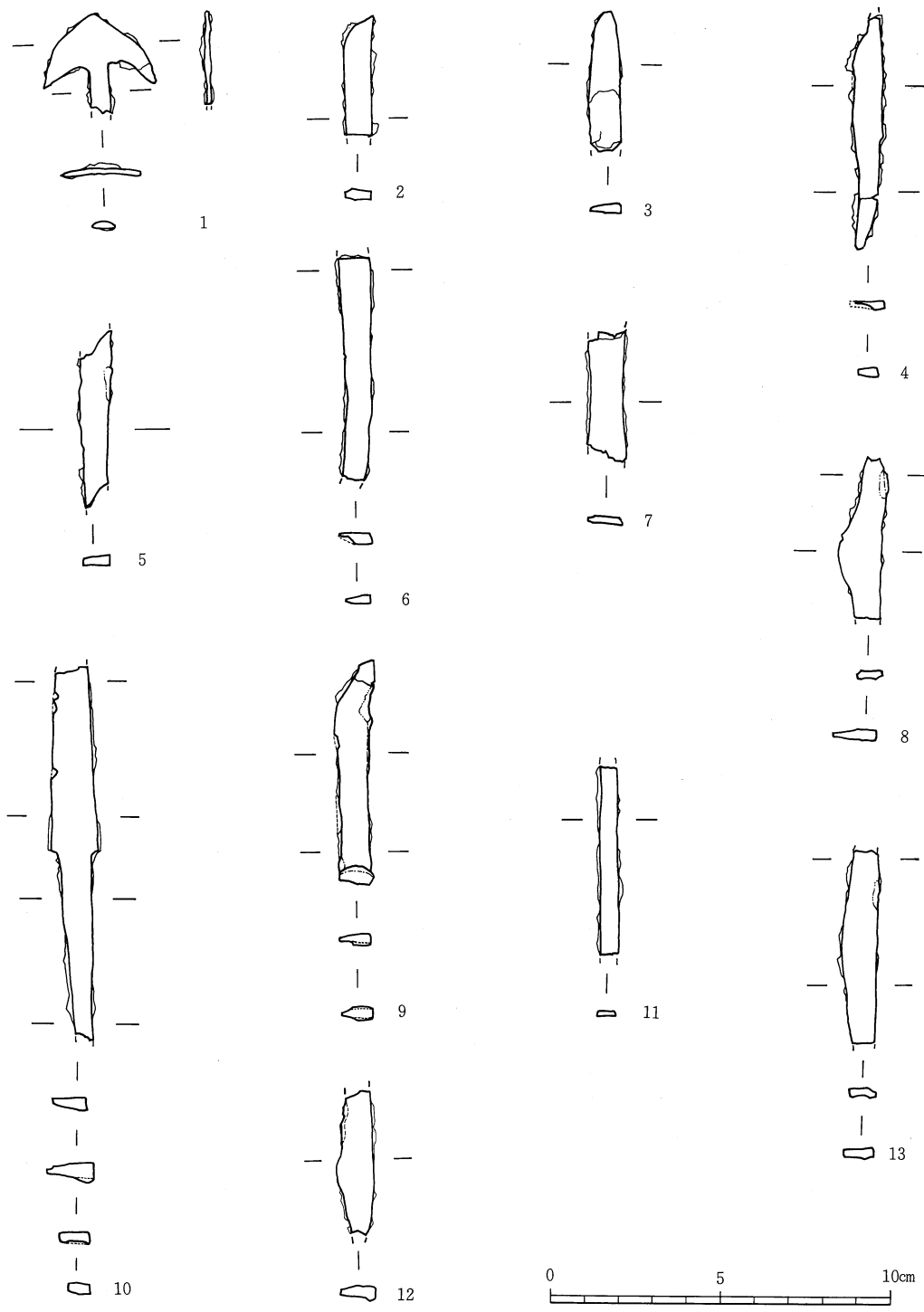


第123图 平安時代土器(3)

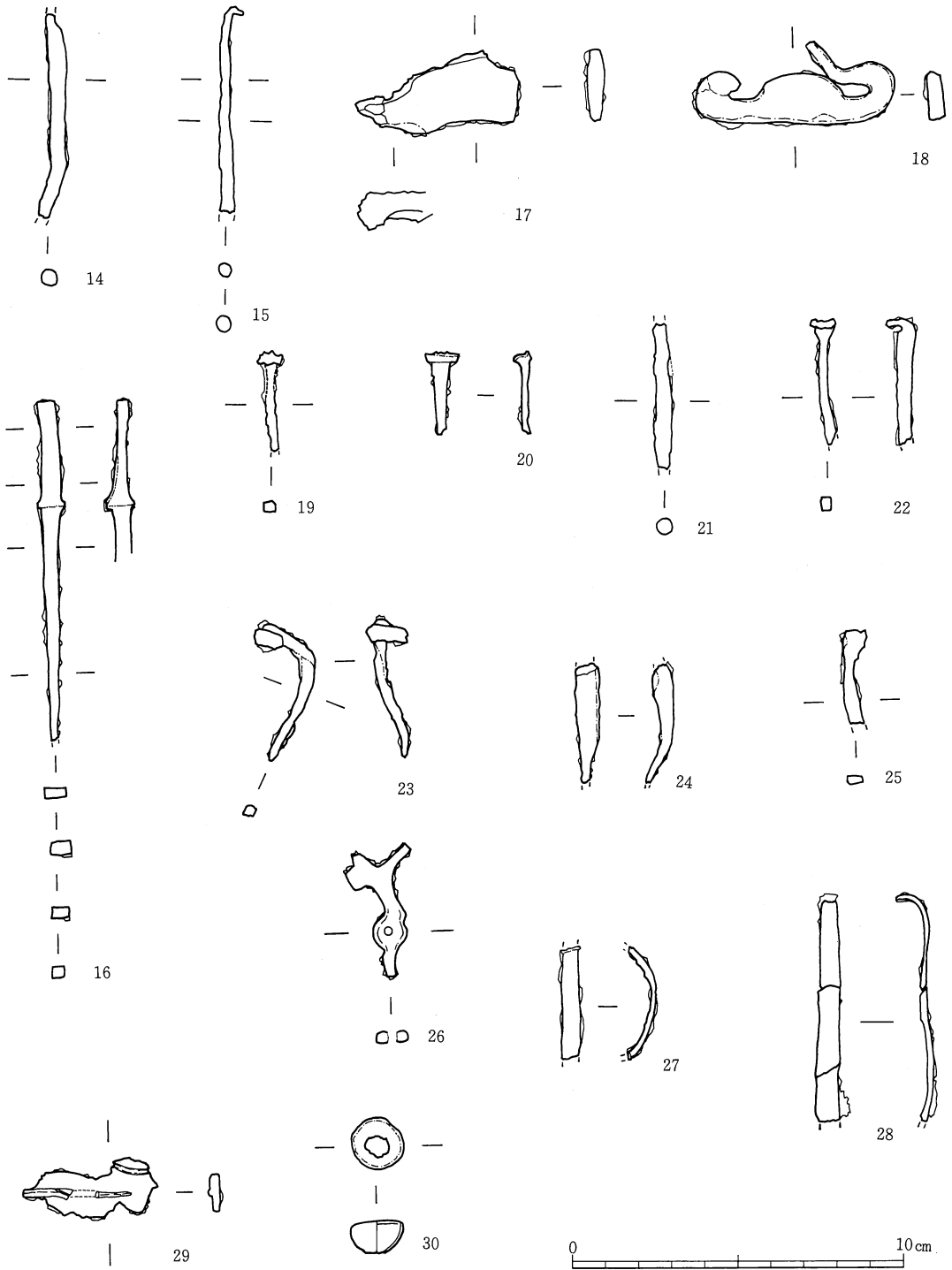
(2) 金属製品

表9 金属製品一覧表

番号	器種	出土	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	欠損状況	備考
1	鉄 鎌	1住 No29	(2.89)	3.19	0.42	(2.51)	下部欠損	
2	刀 子	1住 No34	(3.59)	(0.86)	(0.37)	(2.34)	上・下部欠損	
3	〃	21住	(4.06)	(1.04)	(0.70)	(3.68)	下部欠損	
4	〃	5住 No10	(6.85)	(1.25)	(0.34)	(4.06)	上部及刀部欠損	
5	〃 (茎)	11住覆土	(5.27)	(0.92)	(0.48)	(4.91)	上・下部欠損	
6	〃	15住 No 4	(6.54)	(1.09)	(0.51)	(5.58)	〃	
7	〃	S93 W72・I	(3.87)	(1.18)	(0.41)	(3.48)	〃	
8	〃 (?)	S63 W69	(4.67)	(1.35)	(0.30)	(5.85)	〃	
9	〃	S78 W87・II	6.49	1.35	0.64	7.88		上・下部屈曲
10	〃	S81 W60・II	(10.96)	(1.59)	(0.58)	(15.22)	上・下部欠損	
11	〃 (?)	S90 W81・II	(5.42)	(0.71)	(0.35)	(2.75)		
12	〃	S93 W69・I	(4.28)	(1.11)	(0.50)	(4.99)		同一個体の一部あり
13	〃	Ⅲ区検出面	(5.56)	(1.01)	(0.36)	(5.88)	上・下部欠損	
14	紡錘車(軸)	S69 W78・II	(6.01)	^(径) (0.61)	—	(5.98)	〃	
15	〃 (〃)	S72 W75・II	(6.10)	^(径) (0.45)	—	(3.03)	下部欠損	
16	不 明(茎)	5住 No 9	(10.18)	(0.94)	(0.94)	(10.64)	上部欠損	
17	火打金具	10住覆土	(4.85)	(2.21)	(1.21)	(24.84)	両端欠損	火打金具(?)
18	〃	S78 W81・II	5.97	2.54	0.72	(19.51)	一部欠損	
19	釘	S72 W78・II	(3.04)	(0.82)	(0.38)	(1.39)	上・下部欠損	
20	〃	S78 W84・II	(2.39)	(1.16)	(0.28)	(1.34)	下部欠損	
21	〃	S81 W81・II	(4.27)	^(径) (0.59)	—	(3.54)	上・下部欠損	同一個体の一部あり
22	〃	S93 W69・I	(3.72)	(0.78)	(0.38)	(2.38)	下部欠損	
23	〃	Ⅲ区検出面	4.18	1.32	0.86	3.49		軸部屈曲
24	〃 (?)	S96 W105・I	(3.71)	(0.71)	(0.65)	(4.04)	上・下部欠損	刀子の一部(?)
25	不 明	S90 W66・I	(2.83)	(0.78)	(0.38)	(2.08)	〃	同一個体3片あり
26	〃	S93 W72・II	(3.89)	(2.22)	(0.99)	(6.55)	不 明	飾り金具?
27	〃	溝7	(3.34)	(0.64)	(0.24)	(1.42)	上・下部欠損	
28	〃	S93 W72・II	(6.71)	(1.07)	(0.48)	(3.48)	〃	
29	〃	Ⅲ区検出面	(4.11)	(1.96)	(0.45)	(5.69)	一部残	
30	キセル		1.64	1.47	(0.91)	(1.81)	頭部の一部のみ	銅 製
31	鉄 滓	11住覆土				2.23		
32	〃	15住 〃				3.99		
33	〃	〃 〃				3.86		
34	〃	S69 W69・I				3.05		
35	〃	S75 W75・I				95		
36	〃	S75 W90・II				5.08		
37	〃	S78 W81・II				5.88		
38	〃	S87 W57・I				4.10		同一個体5片
39	〃	S87 W69・II				128.0		
40	〃	S90 W78・I・II				125.0		
42	〃	S90 W72・I				2.85		
43	〃	S93 W69・II				6.79		
44	〃	S93 W87・II				9.95		



第124図 鉄器 (1)

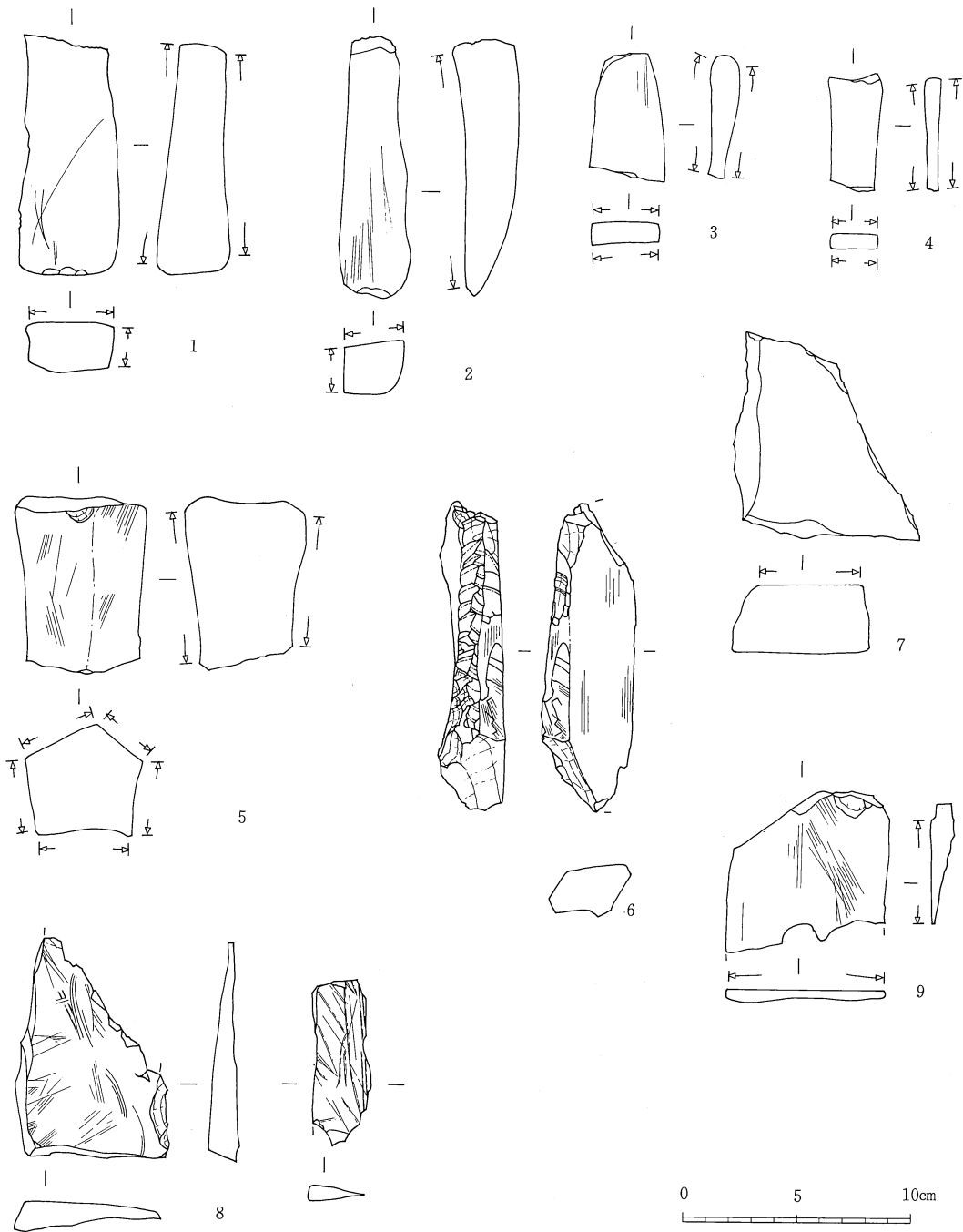


第125図 鉄器 (2)

(3) 石製品

表10 砥石一覧表

No.	出土	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	砥面の数	欠損状況	備考
1	土壙14		(10.27)	4.00	2.60	(169.00)	凝灰岩	4	約1/4欠	
2	15住	覆土	11.30	3.10	2.36	119.00	砂岩	2	完	
3	S75 W72	II	(5.68)	(3.42)	(1.30)	(30.80)	粘土質岩	4	約1/3欠	
4	S93 W69	I・II	(5.10)	(2.34)	(0.73)	(12.45)	〃	4	上・下欠	
5	5住No.13		(7.26)	5.41	6.99	(298.00)	石英質砂岩	5	約1/4欠	
6	2住No.61		(13.49)	4.29	2.24	(163.50)	砂岩	2	ほぼ完	製作痕(タガネ?) 顕著に残る
7	S78 W75	II	8.92	8.21	3.05	—	〃	1	約3/4欠	
8	S81 W84	溝7覆土	(9.52)	(6.79)	(1.36)	(69.51)	頁岩	1	約2/3欠	他に同一個体が 2片
9	8住No.3		(6.77)	(6.95)	(1.04)	(49.10)	砂岩	3	約3/4欠	



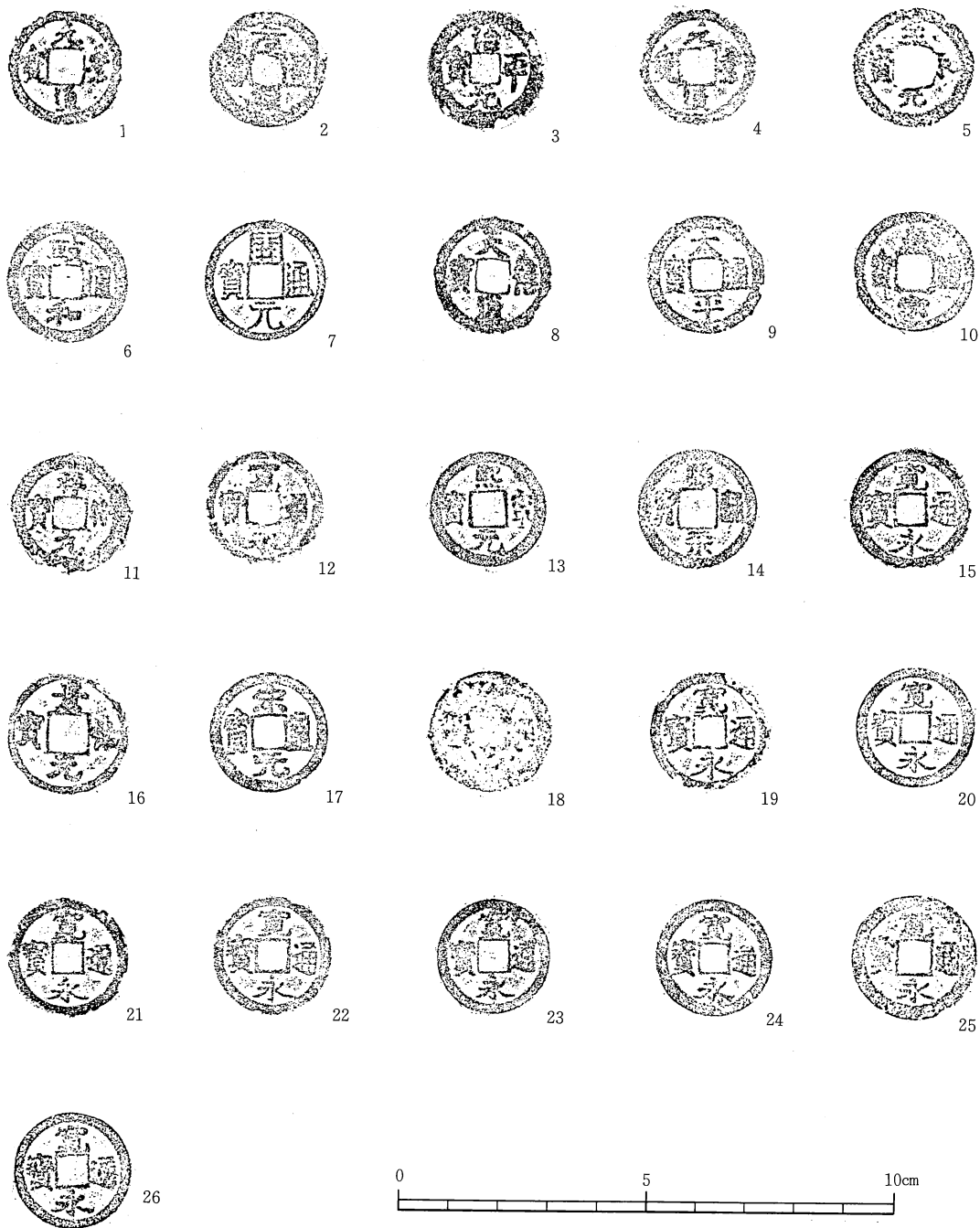
第126图 砥 石

(4) 銭 貨

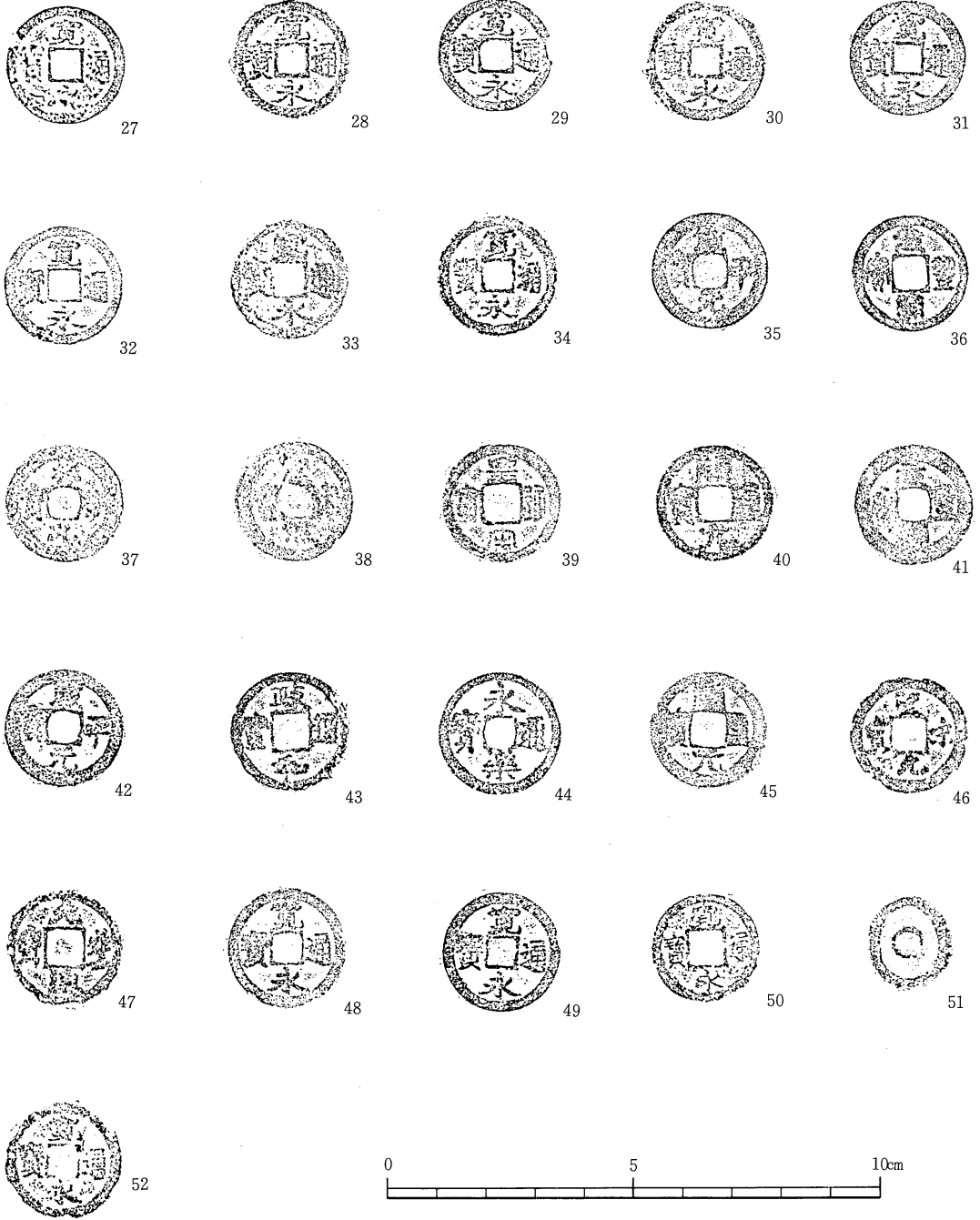
表11 銭一覧表

№	出土地	名称	初鑄年	径(mm)	重量(g)	拓本番号	備 考
1	土壌11	元豊通宝	1078	23.5	1.74	1	外回りが少々腐蝕している
2	土壌11	不明	—	24.0	2.19	2	腐蝕が激しい 元○○○か
3	土壌16	鐸 銭	—	21.0	1.01		腐蝕が激しい
4	土壌16埋土	治平元宝	1064~7	24.0	2.41	3	腐蝕がすすむ
5	土壌18	皇宋元宝	1253~8	(24.0)	1.69		2片割れ
6		治平元宝	1064~7	24.0	2.47		通宝の字が内側へ変形している
7	土壌18	元豊通宝	1078	23.5	2.49	4	腐蝕がすすんでいる
8	溝5	至通元宝	995~7	24.0	2.22	5	中央の穴の部分が欠損して大きくなっている
9	S 93 W72 15住覆土SE	政和通宝	1111	24.0	1.98	6	外回りが少々腐蝕している
10	火葬墓2	不明	—	24.0	7.81		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
11		開元通宝	621	24.0	3.25	7	完存
12		天禧通宝	1017~21	23.5	2.36	8	外回りが少々腐蝕している
13		咸平元宝	998	(25.0)	2.56		2片に割れた状態で出土
14	火葬墓3	不明	—	25.0	8.36		三枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
15	火葬墓3	不明	—	24.0	1.88		少量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
16		不明	—	25.0	4.72		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
17	火葬墓4	不明	—	(24.0)	4.05		四枚付着の状態で少量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
18	火葬墓4	不明	—	(24.0)	3.35		四枚付着の状態で出土 少量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
19		不明	—	—	0.66		少量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
20	墓址1	太平通宝	976	24.0	2.52	9	外回りが少々腐蝕している
21		皇宋通宝	1038	24.0	2.53	10	字が可成り擦れている
22		祥符元宝	1008	24.5	2.48	11	外回りが少々腐蝕している
23	墓址2	寛永通宝	1626	24.0	1.99	12	腐蝕すすむ
24		熙寧元宝	1068	23.5	3.78	13	字が少々擦れている
25		治平通宝	1064~7	24.0	3.91	14	字が少々擦れている
26		寛永通宝	1626	23.5	3.47		変形
27	墓址3	不明	—	24.0	5.25		二枚付着の状態で出土、両面裏側のため銭名判読不可能
28		寛永通宝	1626	24.0	12.38	15	四枚付着の状態で出土
29	墓址4	寛永通宝	〃	(24.0)	1.58		3片に割れた状態で出土、多少欠損
30		景祐元宝	1034	24.0	2.93	16	腐蝕がすすんでいる
31	墓址5	宋通元宝	971	24.0	2.96	17	完存
32		不明	—	(24.0)	1.08		少量残 ○豊通○か 腐蝕が激しい
33		寛永通宝	1626	25.0	14.59	18	四枚付着の状態で出土 ○永通○、寛永通○なので両面 寛永通宝と思われる
34	墓址6	寛永通宝	〃	24.0	2.73	19	外回りが腐蝕している
35	墓址6	寛永通宝	〃	24.0	2.79	20	完存
36		寛永通宝	〃	24.5	2.21	21	外回りが腐蝕している 宝の字の横に穴が空いている
37		寛永通宝	〃	24.0	2.26	22	外回りが腐蝕している
38		寛永通宝	〃	23.0	2.15	23	
39		寛永通宝	〃	24.0	6.92	24	二枚付着の状態で出土
40		寛永通宝	〃	(24.5)	1.19		4片に割れ多少欠損

41	墓址7	不明	—	24.5	17.66		六枚付着の状態出土
42	墓址8	寛永通宝	1626	25.0	2.74	25	
43	墓址9	寛永通宝	々	23.5	2.82	26	完存
44		不明	—	(24.5)	2.06		2片に割れた状態で出土、々量残、腐蝕が激しく銭名判読不可能
45		寛永通宝	1626	24.0	4.06	27	宝の字の左上少々欠損
46		寛永通宝	々	23.5	1.97	28	寛と宝の字の間に亀裂
47		寛永通宝	々	23.0	2.04	29	中心の穴の外側が擦れている
48		寛永通宝	々	24.5	2.92	30	外回りが少々腐蝕している
49		寛永通宝	々	23.0	2.10	31	完存
50	墓址10	寛永通宝	々	24.0	13.37	32	四枚付着の状態出土
51		寛永通宝	々	24.0	2.12	33	腐蝕がすすんでいる
52	墓址10	不明	—	(24.0)	1.56		々量残 寛〇〇宝
53		不明	—	(24.0)	1.60		2片に割れた状態で出土、々欠損 寛永〇〇
54		皇宋通宝	1038	(25.0)	2.11		3片に割れた状態で出土、腐蝕が激しい
55		寛永通宝	1626	24.0	9.79	34	三枚付着の状態出土
56	墓址11	咸平元宝	998	23.5	5.06	35	二枚付着の状態出土、片面は裏が出ている
57		{元豊通宝 祥符元宝	{1078 1008	{23.5 24.0	6.48	{36 37	二枚付着の状態出土
58		皇宋元宝	1253~8	24.0	2.43	38	字が可成り擦れている
59		皇宋通宝	1038	24.0	2.04	39	
60		開元通宝	621	23.5	3.17	40	字が可成り擦れている
61		元豊通宝	1078	24.0	2.71	41	
62		咸平元宝	998	24.0	2.20	42	元の字の左が欠損
63	墓址14	永楽通宝	1411	(25.0)	1.74		2片に割れた状態で出土
64		政和通宝	1111	24.0	2.63	43	外回り少々腐蝕
65		不明	—	—	2.29		4片に割れ々欠損、〇通元〇、又は〇元通〇か？腐蝕激しい
66	墓址14 東隣	永楽通宝	1411	25.0	5.63	44	二枚付着の状態出土
67	墓址15	不明	—	—	1.07		細かい破片の状態出土、銭名判読不可能
68	墓址15	開元通宝	621	24.0	2.81	45	裏表何かで擦ってある
69	土18, 19, 20 検出面	不明	—	23.0	1.44		腐蝕激しく銭名判読不可能
70		聖宋元宝	1101	24.0	2.24	46	
71	S75 W90 II層上SE	開元通宝	621	(24.0)	1.77		3片に割れている
72	S78 W81 SE~II層上	不明	—	—	0.34		々量残 腐蝕激しい
73	S84 W108 Ib層下NE	元豊通宝	1078	23.5	1.96	47	腐蝕激しい
74	S93 W105 NW II層上	寛永通宝	1626	24.0	2.76	48	外回り少々腐蝕
75		不明	—	24.0	20.18		五枚付着の状態出土、両面裏側が出ているので銭名判読不可能
76	S93 W108 II層上面SE	寛永通宝	1626	24.0	1.94	49	寛の字の右、永の字の左が欠損
77	S84 W93 I層SE	開元通宝	621	(25.0)	2.75		3片に割れた状態で出土、腐蝕がすすむ
78	W48 S78ES 第I層	寛永通宝	1626	22.0	1.73	50	腐蝕がすすむ
79	S81 W90 NE I層	鏹 銭	—	17.0	1.91	51	
80	S84 W93 I層SE	皇宋通宝	1038	(25.0)	2.62		2片に割れた状態で出土
81	黒色土	不明	—	(25.0)	1.12		々量残 咸〇〇宝 咸豊元宝又は咸豊通宝か
82	S75 W69 II層上SE	寛永通宝	1626	23.5	1.68	52	寛の字の右が欠損



第127図 古 銭 (1)



第128图 古 钱 (2)

Ⅲ 調査のまとめ

1 縄文時代の土器について

縄文晩期土器については既述の如く分類を行った。土器群の位置付けについてはおおよそ氷Ⅰ式終末を主体とする事を述べたが、ここでは特定の器種等を挙げ、再度まとめをしておく。

i) 浅鉢について

本遺跡での特徴としては、①浅鉢Aは少なく、主要な構成要素ではない。②代って浅鉢Cが増加することが挙げられよう。

浅鉢Aは網状文モチーフb・cのみ見られ、器形も5を主体とする。この内容は氷Ⅰ式の新しい段階を示しており、松本平ではトチガ原遺跡等で見られる。

浅鉢Cでは器形5の存在が目立っている。口外帯を欠き、頸部のくびれも形骸化、すなわち幅広の沈線文に近くなっている。

この2つの特徴は相関するものと受けとってよく、浅鉢A5から浮線文を省略したC5への変化が考えられよう。そして浅鉢Dは浮線文の消失と関連して新たに出現するものと受けとれる。

ii) 甕・深鉢について

本遺跡での特徴は①両器種ともCが主体となる②B類ではB2が多いことが挙げられる。

甕・深鉢B2は手法的にB1の省略・変化として捉えられよう。詳細な検討をする余裕はないが、B1の1条隆線→B2の1条沈線の変化が考えられないだろうか。多条の沈線帯も同様に技法の省略の可能性が強い。

甕・深鉢Cにおいては、組成に占める割合が増し、特にC'cの存在が目立っている。口外帯は消失の方向へ向うものの依然強く残る。甕は全般に体部の張りが弱く、器形3が現れる。

以上の特徴は甕・深鉢は基本的に無文化の方向をたどる。器形的には甕体部の張りが弱まり、深鉢との差がなくなりつつある過程が読みとれよう。特に甕の器形3は刈谷原遺跡に類例を求めることができ、氷Ⅰ式以後につながるものと理解できないだろうか。深鉢の器形4は水神平式の甕と類似し、新しい要素であろう。

iii) 壺について

壺は本遺跡においても量的に少なく、器形の把握が困難である。今回あえて細分を試みたが問題点を残す。基本的には1から2への変化、2・3から4の派生を考え行ったが、他遺跡との比較や、資料数の増加を待って再検討する必要がある。

壺も甕や浅鉢同様、無文化をたどり、また精製品が減少するようである。器形の変化と合せ、条痕文系土器等との関連の中で検討しなければならない。

iv) 第2類土器について

本類土器は第1類土器とは胎土・技法等、明瞭に異なる土器群である。中南信地方を中心に、氷I式に伴出するものであるが、その出自・変遷等実体の不明な部分が多い。今回出土のものを御社宮司遺跡出土例と比較すると、沈線文を付す口端部が水平に取り付く。口頸部文様帯、特にレンズ状付帯文が細長く、立体感を失う・全体に整形(ミガキ)が雑になる点に違いが認められよう。第1類土器の位置付けより見て、この相違はおそらく時間差によるものと見られる。詳細な分類は今後の課題として、①口端面は内傾→水平に変化②レンズ状付帯文の退化する点のみ指摘しておく。

東海地方を含め、広範囲での資料集成が必要となろう。

v) 第3類土器について

本文で述べた様に、檜王式～水神平式に位置付けられよう。そのほとんどは搬入品と思われるが地域の特定は困難である。口縁部突帯に貝殻背面による圧痕を付すものは、木曾川中流域(岐阜県)で認められるようである。内陸部で模倣されたものが搬入されていることも考えられよう。

vi) 土器組成について

土器組成については本文で触れたが、ここではまとめとして他遺跡と比較しておく。本遺跡では水遺跡や御社宮司遺跡と比べ、浅鉢の比率が3分の1程である。壺や第3類土器は各遺跡ともあまり変わらない。従って甕・深鉢の占める割合が他遺跡より大きい事が言える。

この様に組成上からも浅鉢の減少が示すように本遺跡の土器群がより新しい様相のものであることが言えよう。壺は他遺跡と変化なく、浅鉢の減少とは相関を示さない。新しい傾向を示してはいるものの基本的な構成は氷I式のそれと変わらないと見てよいだろう。

vii) 針塚遺跡出土土器について

最後に、本遺跡の土器群に後続する資料として、針塚遺跡出土土器を取り上げ、晩期土器の観点に従って分類をしておく。尚針塚遺跡出土土器については先に『長野県史』に掲載したもの他、今回新たに実測したものも呈示している。また、図の番号は『長野県史』に対応するものである。

①第1類土器

甕 A'b 1点認められる。9は口縁部に小突起をもち、肩部の丸く張る器形2である。肩部は太い沈線を横走させ、段をつくる。体部外面の整形はケズリの後、2条1単位の原体により粗大な条痕を施す。整形の方向はB型である。内面は横ケズリの後ナデを行う。

壺 C'a 4は器形2の特徴を示す。体部は肩の張り、ふくらみをもって底部に至るが、全体に歪みが大きい。底部は口径より小さく不安定である。体部の整形は、内面は口頸部を除き横にナデ、体部外面は縦方向にケズリを行う。口頸部は内外面ともケズリを行い、後ナデる。外面はケズリ・ナデ共に不十分で、輪積成形痕が残る。器厚も1cm前後で厚手である。

壺 C'b 6・7の2点ある。7は器形3で、体部中位が屈曲して張り、菱形を呈する。小突起は上端に圧痕が付加され、4単位取り付く。外面の整形はケズリの後縦位に粗いミガキ、内面は横位ナ

デを行う。6は器形2ないし3で、肩が張る長胴の体部を有する。小突起は4単位設計、押圧を加える。肩部には深い非彫刻的な沈線を施し、上下を画す。肩部以上にはLRの縄文を9段前後横位に転がす。体部外面は縦方向ケズリの後、縦ミガキを行う。下半部は明瞭にケズリ痕を残す。

壺Cc 2・5・Aが該当する。2・Aは器形2で、肩部がやや張り、下半部は直線的に収束する。圧痕は2は口端面に深く工具を押しつけ、Aは口端側面にヘラ状具により刻む。内面は口縁部はケズリのちナデ、体部はナデを横位に行う。外面の整形はどちらも、3条1単位前後の条痕による。2の工具は先端の間隔が一定しない。方向は下半で縦位ないし斜位、肩部以上は左上り斜位～横位に施す。5は器形4で、体部は中位で強く張る。口端側面には刻目を連続させ、第3類土器に似せる。整形は内外面粗くケズリ（横～斜位）を行い、後ナデる。外面は最初2条前後の太い条痕を体部に施し（斜～横位）、さらに3cm巾前後の、間隔の一定しない櫛状具により縦位の整形を行う。

壺D 3は口頸部を欠く。体部上位に最大径をもつ器形2と思われる。肩部には2本の沈線を引き、その間に3本1単位の沈線文を山形に数単位連続させ、木葉文風のモチーフをつくり出す。沈線は彫刻的でない。外面は文様帯内外をミガキ仕上げ（縦位）する。

壺E 1は器形2を呈し、やや肩の張る体部を有する。口縁部は断面逆L字状に突起を貼付し、端側面には工具により深く圧痕をつける（口縁部圧痕a手法）。又、突帯上面には工字文風の沈線文を配する。沈線は深く刻まれ、沈線間、沈線内側縁にはミガキを施すが、沈線底面は未調整である。体部外面の調整はケズリの後、3条前後の間隔の一定しない条痕を縦位→斜位に施す。

Bは口頸部を欠するが、本類の器形2と思われる。体部は強く張り、長く直線的に収束する。外面の整形はケズリの後、6本歯の櫛状具により縦位～斜位に条痕を施す。

②第3類土器

壺A Dは太い頸より外反する口縁がつく。口縁端面は外傾し、浅く凹ませる。突帯は断面三角形を呈し、工具により深く圧痕を施す。体部は3条前後の、貝殻に似せた条痕を施す。方向は底部付近で縦位、それ以上を横ないしやや左上りに施す。胎土は第1類と同様、在地系である。

壺B1 11は肩部に区画文を有する。頸部及び肩部に横位の断面四角形の隆帯を横走させ、4ヶ所で縦位の隆帯により連結する。隆帯上には貝殻による押し引きを施し、区画内は波状文を貝により施す。口頸部及び体部は横位に貝殻条痕を施す（右→左）。突帯は下向きで、深く押圧する。胎土は東海系ではない。

Cは突帯をもたない。全面を貝殻条痕により整形するが、体部中位～頸部は羽状条痕となる。条痕は右→左、下→上に施される。胎土は東海系とは異なる。

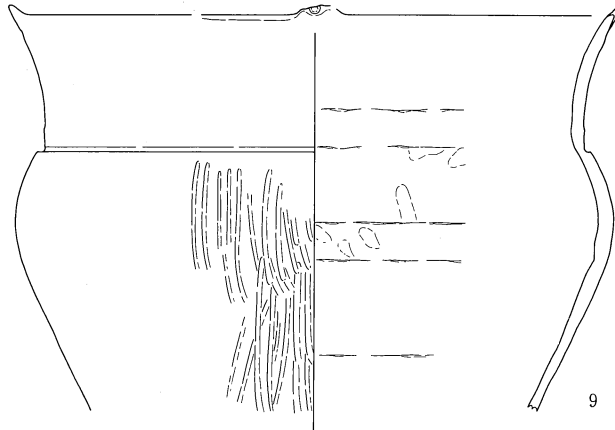
③第4類土器

石行遺跡晩期土器にはない類で、遠賀川系土器を扱う。12・13の2点がある。

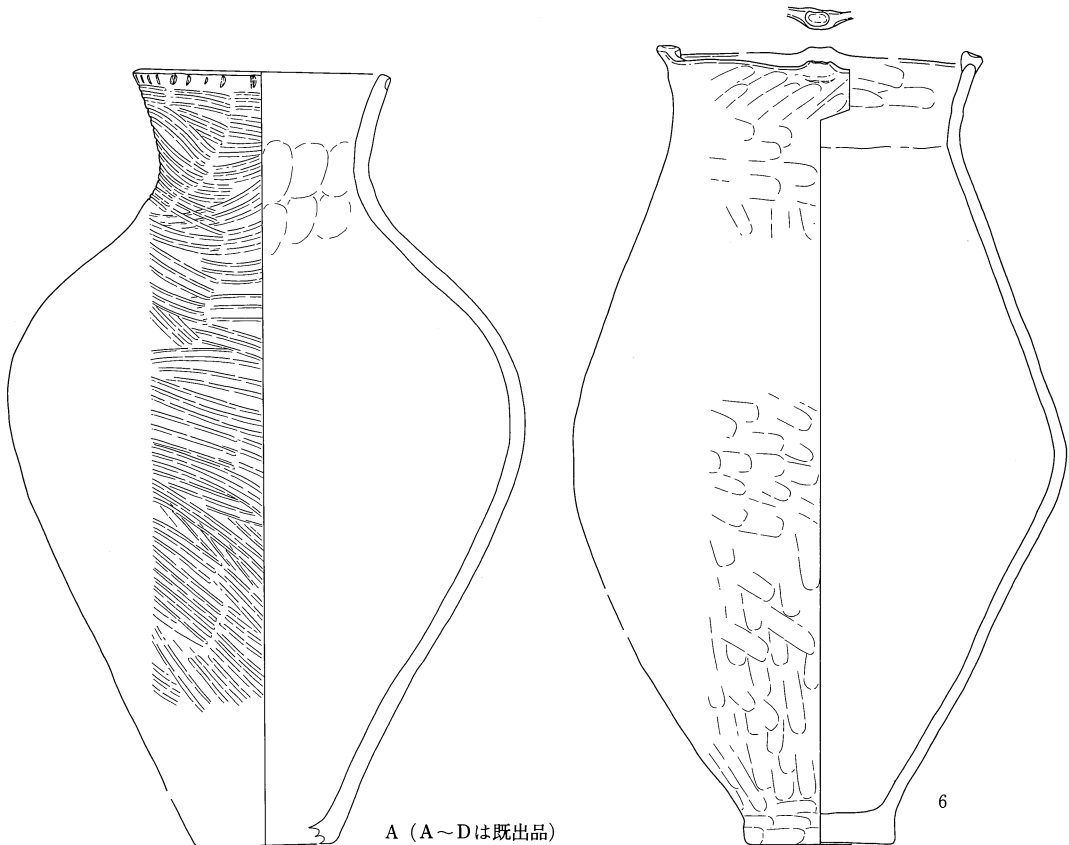
壺 頸部及び肩部に突帯、沈線帯をおく。12は頸部に削り出し突帯を設ける。突帯上には沈線を1条付加する。肩部は3条の沈線帯をおく。

13は12より体部上半が上方にのびる器形であり、大きく外反して開く口縁部が取り付くと思われる。頸部・肩部にはそれぞれ9条の沈線帯がおかれる。それぞれの上端の沈線は、上側の側縁を削り取り、削り出しの名残をとどめる。

12・13ともにハケ整形→施文→ミガキを施す。下半部ではミガキは甘い。内面はナデ整形をする。



9

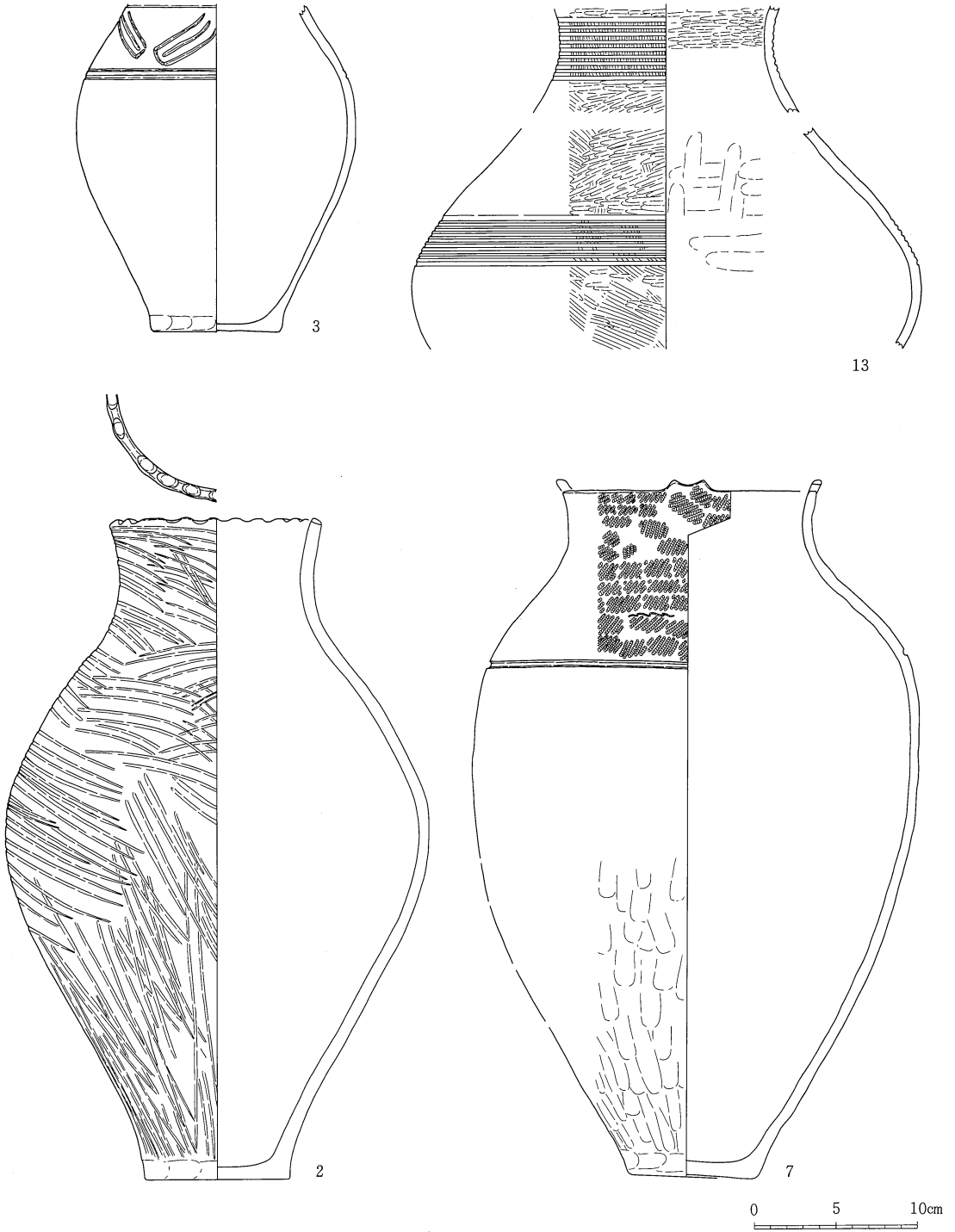


6

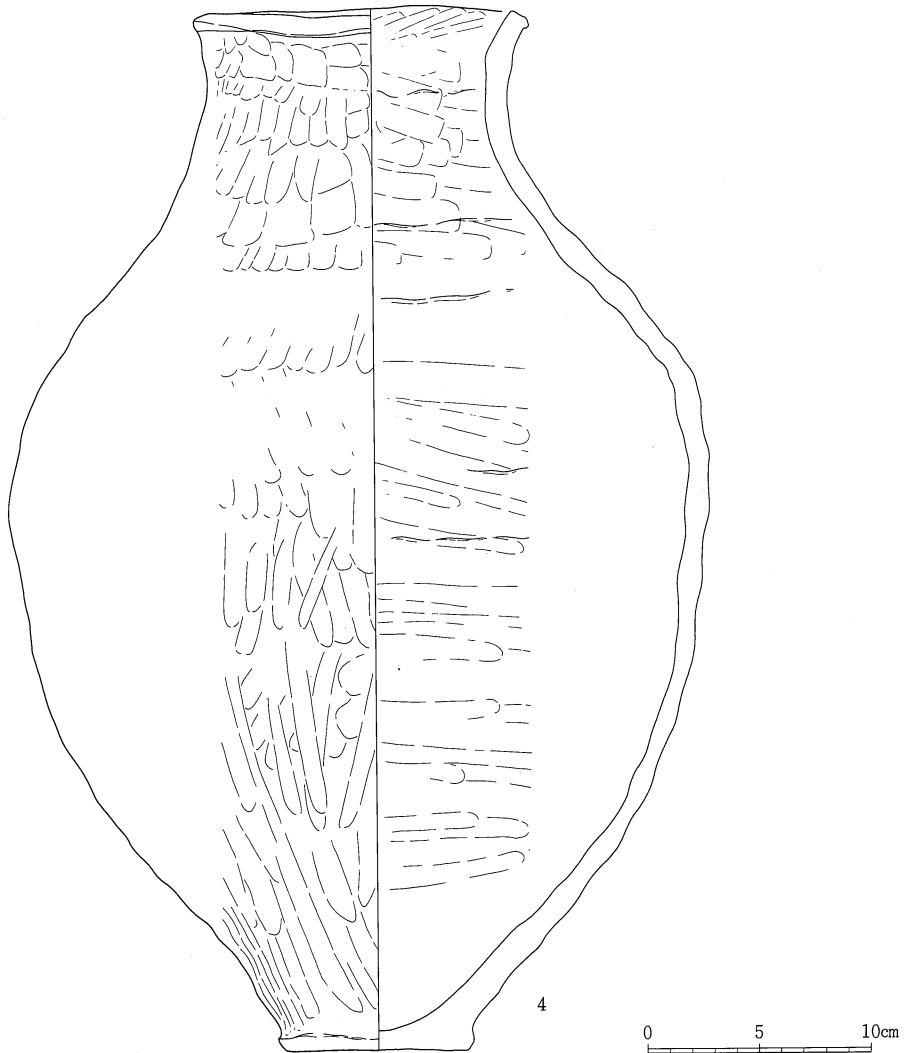
A (A~Dは既出品)

第129図 針塚遺跡出土土器(1)

0 5 10cm



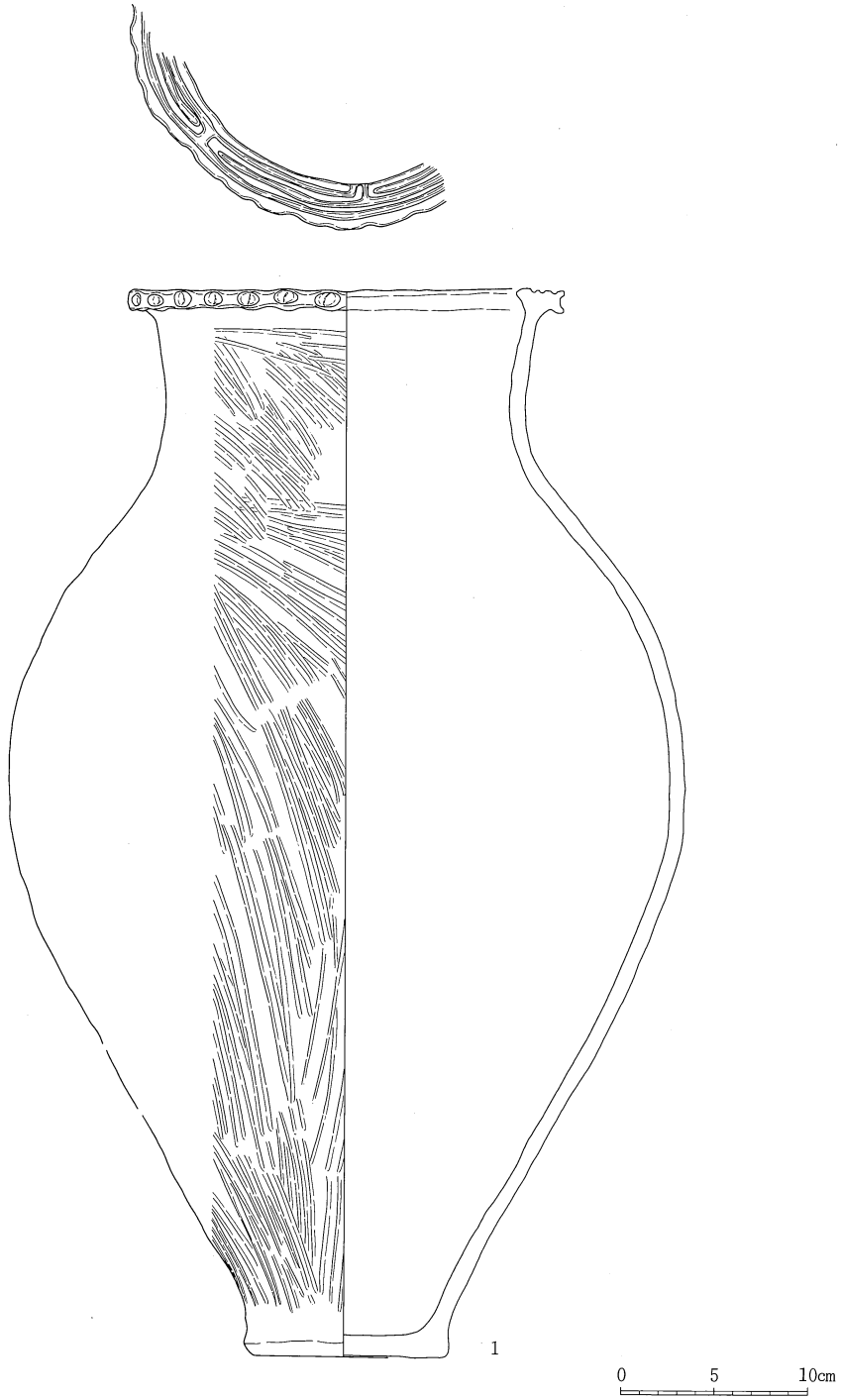
第130図 針塚遺跡出土土器(2)



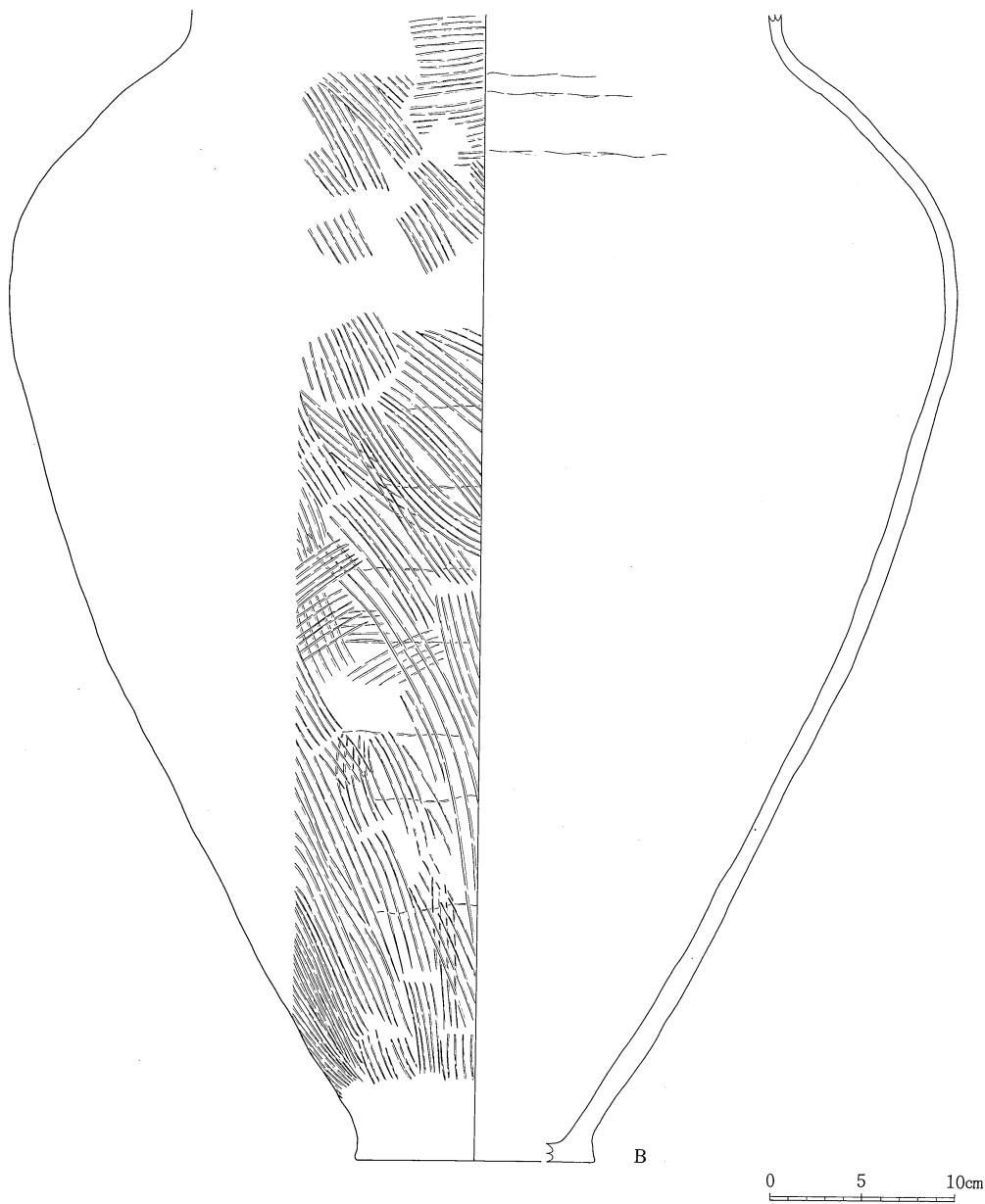
第131図 針塚遺跡出土土器(3)

④各類土器の位置付け

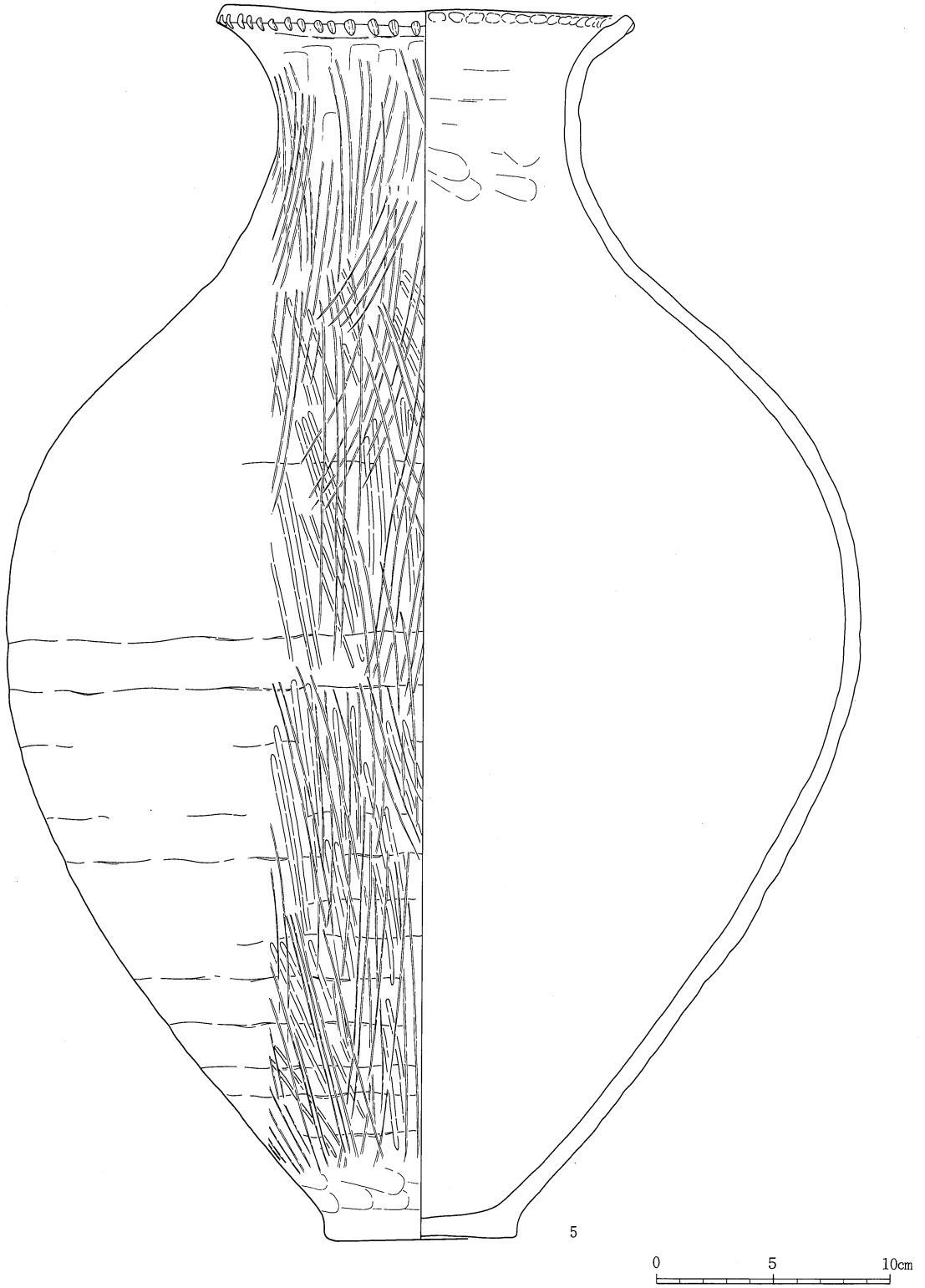
第1類土器 甕・壺ともに石行遺跡土器群の技法を踏襲するが、若干の変化も見られる。器形的にはほとんど変化はない。5は器形3であるが、第3類土器壺Bと類似し、影響を考えなくてはならない。刻目の施し方にもその傾向がうかがえる。整形については、ケズリの不徹底で器面の凹凸が消されないものが多く、細密条痕とは呼べない太い条痕や櫛状具を用いている。全体に氷I式の整形が省略・退化していると言えよう。施文では工字文のモチーフを彫刻的でない沈線により施文するものがあり(8)、氷II式に見られる有り方である。縄文の施文については北日本との関連を考えなくてはならないだろう。壺D(3)のモチーフは石行遺跡第2類に類例が見られる(305)。



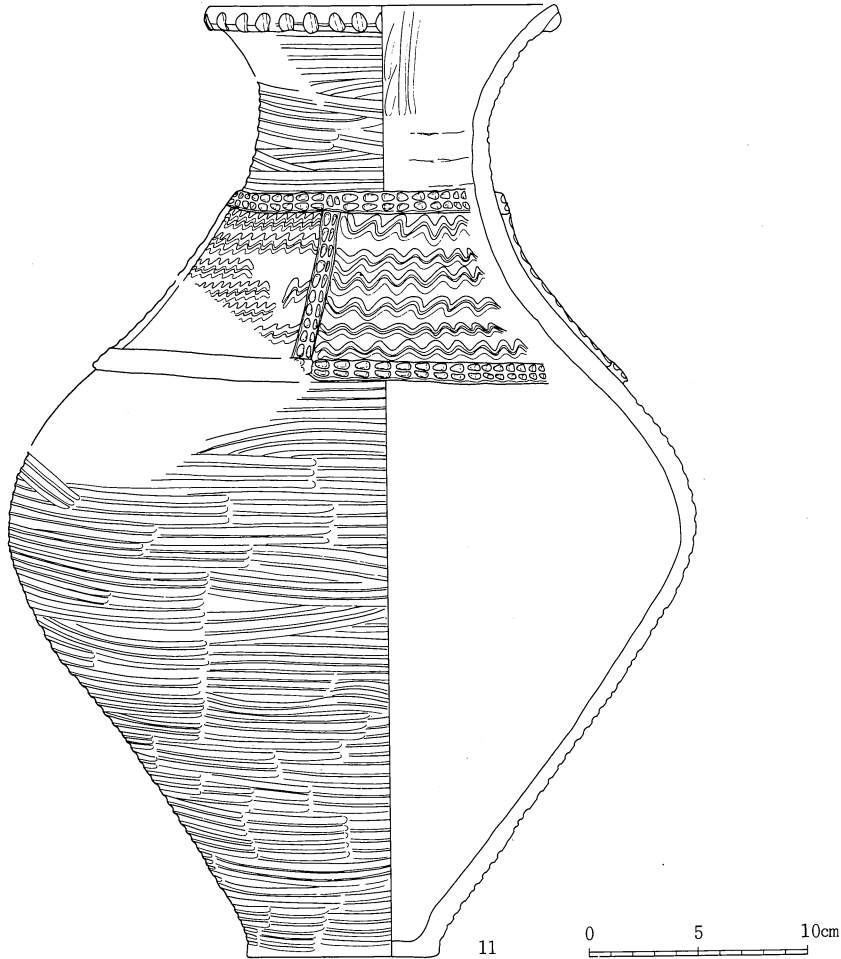
第132図 針塚遺跡出土土器(4)



第133図 針塚遺跡出土土器(5)



第134図 針塚遺跡出土土器(6)



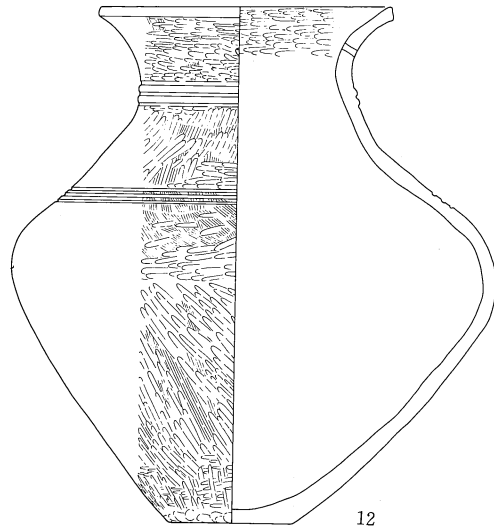
第135図 針塚遺跡出土土器(7)

第3類土器 東海系胎土の特徴を示すものがなく、在地あるいは比較的近接した地域での模倣品の可能性がある。工具は貝殻と、貝殻に似せた原体があり、後者は在地的な胎土であった。時期的には羽状条痕、波状文、押引文より水神平式併行と見て相違ないだろう。11の隆帯の有り方は、遠賀川系土器に類例を求められるかもしれない。水神平式にはない手法である。

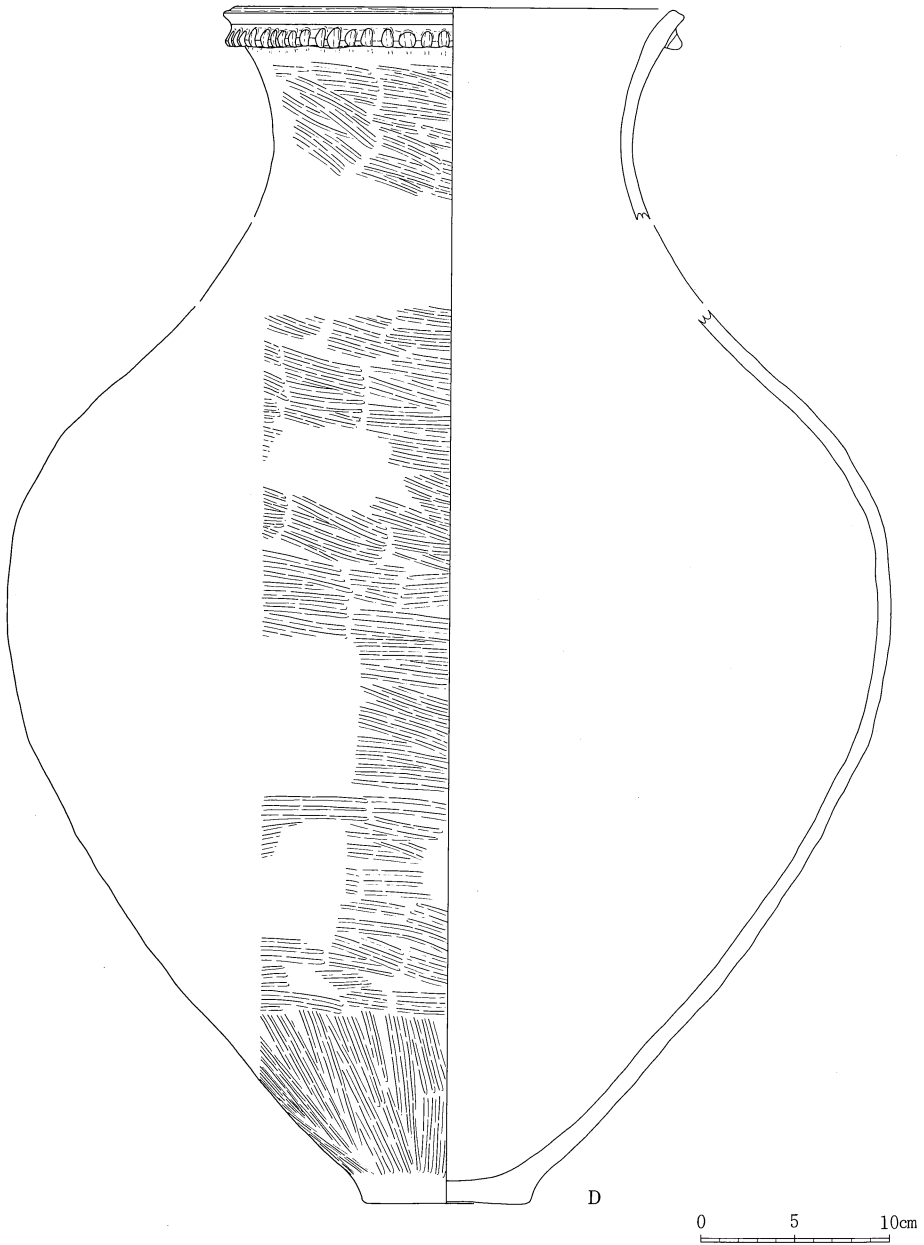
第4類土器 遠賀川系土器は、2点とも東海の「赤焼き土器」と異なり、畿内でのあり方に近い。畿内での編年を適用すれば、12は器形、手法よりみて第1様式中段階、13は同新段階の多条沈線を付すタイプである。12は胎土に多量の砂粒を混入する点でも、畿内のあり方に似ている。

以上各類についてまとめたが、第1類は水II式、第3類は水神平式として良いだろう。従って、石行遺跡の新しい段階の土器とは併行か前後する時間関係を考えてよいと思われる。

今回は晩期土器については、時間のなさや筆者の力不足もあり、十分に吟味することはできなかった。まとめにあたり問題点と可能性を列記したが、今後の解明課題としたい。

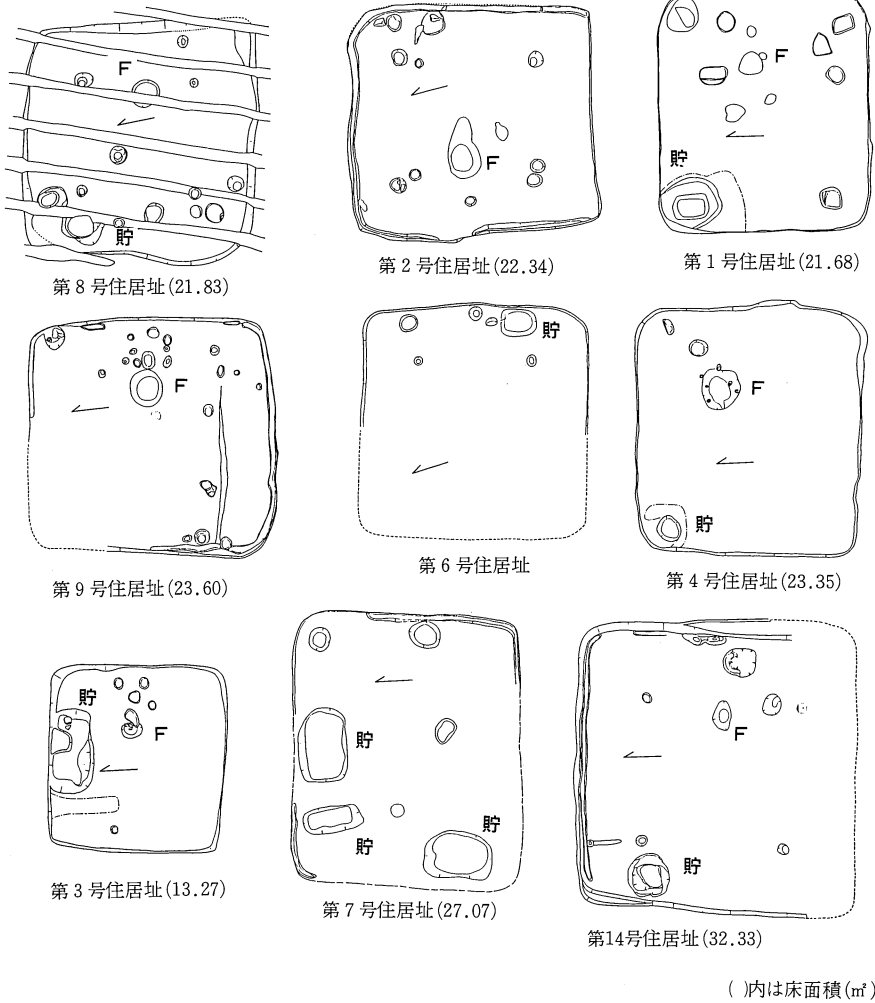


第136図 針塚遺跡出土土器(8)



第137図 針塚遺跡出土土器(9)

2 古墳時代の遺構について



Fが炉址、貯が貯蔵穴、貯蔵穴のまわりの一点鎖線は周堤状の凸堤である。2・6住を除き東西方向に主軸を有し炉が西奥柱穴間付近という構成で、貯蔵穴のあり方は北西隅によるもの(1・4・8・14住-9住?)と北壁中央下のもの(3・7住)の2通りである。3・9住は炉と奥壁間に小ピットをいくつかもち、2住は柱穴配置よりみて拡張の可能性が指摘できる。

第138図 古墳時代の住居址一覧

3 古墳時代前期の土器について

古墳時代前期の遺構は堅穴住居址9棟・土壙7基を数える。いかなる要因に基づくものかは不明だが、古墳時代に入ると、堅穴住居址内に残存する遺物の絶対量が突如として増大する傾向にあり、石行遺跡もその例外ではなかったようである。遺存器種に偏りを認めるものの、それぞれの住居址より良好な資料を得ることができた。弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて、全国的規模で土器が移動し、それらの器種・系譜・数量等を比較・検討すれば、社会情勢や地域的特質をある程度まで推測し得るといわれるが⁽¹⁾、これまで当該期集落址の調査例が極めて少かった松本平にとっては地域的特質の一端を解明する上での恰好な資料になり得ることは言うまでもない。ここでは、堅穴住居址出土資料を主として各器種毎に検討を重ね、その系譜及び土器群の編年の位置を明らかにし、今後の松本平、ひいては長野県全体の古式土師器研究における問題点を2・3抽出することで古墳時代前期調査報告の結びとしたい。

1 各器種の検討

壺形土器

ハケ具を主要な調整工具とし、口縁を「くの字」に鋭く外反させ端部を丸く、あるいはやや尖り気味に終らせるものを基本形式とするようであるが、他に畿内・東海・北陸系の土器が含まれる。

在地で主に製作されたものは、大きく平底甕と台付甕との二種に分けられる。底部形態の判別可能なもの20個体を見ると、平底甕が11個体、台付甕が9個体とほぼ同じ割合で併存している。こういった現象は、本遺跡に限らず長野県全体の傾向として看取できるが⁽²⁾、「全国的斉一性」の波に乗りながらも「地方的特殊性」が残るひとつの表れであると考えられる。他に、2号住28、4号住48のように口唇部をやや弯曲させるヨコナゲ調整は、弥生時代の手法を受け継ぐものであろう。

畿内系の甕は、1号住11・15、2号住27・33・34、4号住52、8号住66、9号住73の計8個体が出土した。いわゆる「布留形甕」を模倣して在地で製作したものが多い。その中で1号住15のみが、畿内地方のそれと何ら技法的違いをみせないものである。但し、胎土の内容物から勘案すると、在地品ともいい難いが、少くとも畿内地方より直接搬入されてきたものではない。2号住33、4号住52は比較的良好に似せているが、後者の方は内面にヘラケズリを施しているにもかかわらず器壁を薄く仕上げておらず、また前者も頸部内面と口唇部調整に若干の差異を認める。その他、単に底部外面をヘラケズリすることで丸底状に仕上げ「布留形甕」に似せようとしている1号住11、2号住27等も存在する。

東海系の甕はS字状口縁台付甕に限定した。5個体出土している。1号住16は、茶褐色を呈し、かつ焼成堅緻な土器で、金雲母の混入が微量である点を除けば「藤井原S字」とも称される東海東部地方のS字状口縁台付甕に酷似している⁽³⁾。2号住36も同様な色調及び焼成からなるが、非常に小形でしかも同種のものを最低3個体は連ねるといった特異な形態を呈している。類似資料は、静岡県

富士宮市野中向原遺跡で出土しており、神奈川県平塚市御所ヶ谷遺跡でも認められるという。したがって、単に例外的存在として片付けるわけにはいかず、確固たる何らかの機能的役割を果たしていたに違いない。3号住40の外面調整は粗雑で、ヘラケズリの後乱雑なハケ調整を施している。ヘラケズリ痕を確認できた資料はこれだけであるが、1号住16・土壇1の80のハケ調整はハケ目痕が浅くかつ一重で終らせる部分も随所でみられることから、器壁を薄く仕上げるために用いられたものではないと考えられ、やはりハケ調整前のヘラケズリを想定せざるを得ない。あわせて、口縁部及び胴部の形状、三連甕の存在から、これらS字状口縁台付甕の系譜は東海西部地方の濃尾平野に求めるよりも、むしろ東海東部地方にあるのではないかと考えられる。

北陸系の甕は2号住35が該当する。口縁部を「くの字」状に強く外反させ端部を面取りする点を特徴とするもので「能登系甕」あるいは「くの字口縁甕」と呼ばれている。北陸地方東北部（能登・越中・越後・佐渡）に分布している。搬入品の可能性がある⁽⁴⁾。

壺形土器

口縁部形状により、有段口縁壺・直口壺・短頸壺・広口壺・受口壺に分けることが可能である。

有段口縁壺は、3号住37と8号住65の2個体である。ともに頸部から二段に外反する口縁形態をとる中形品で、また、ミガキ調整が入念でなくその他の要素においてもあまり入念さを感じ得ない土器である。口唇端部に面を有し端部外側がやや尖り気味になっている点は、2号住32の甕と等しいが、この種の手法の系譜は不明である。

直口壺は大形・小形に分かれ、大形のものに8号住63、小形のものに1号住4・5が該当する。8号住63は、口唇端部に平坦面を有し、また、口唇部をヨコナデすることで端部に向かうにつれて器壁が薄くなり最終的にはわずかに外反している。これは、畿内地方の直口壺にしばしばみられる手法であり、加えて東海西部地方には大形直口壺自体の存在が極めて客体的であることから、畿内地方に系譜が追えそうである。1号住4・5は小形直口壺としたが、胴部形状を知り得ないもののむしろ長頸の中形甕の部類に該当する可能性の方が大きい。いずれにしても、系譜はやはり畿内地方に求められる。

口頸部が「ハの字」状に外反する短頸壺が在地大形壺の主体になるようである。2号住22、9号住68、14号住75計3個体を図示したが、他に同種の口縁部小破片を多数認め得た。この種の壺は普遍的に分布するため、一概に系譜地を決定することはできない。弥生時代後期末に始まる在来土器の胴部球形化・頸部収縮化・口頸部短縮化・無文化は、東海東部地方以東地域の共通現象であり、中部高地もその例外ではない。案外、箱清水式の壺からのスムーズな型式変化として扱えられるのかもしれない。但し、その場合においても、該期における畿内・東海地方の影響を軽視できないことはいうまでもない。

受口壺は2号住より出土している。受口壺は、飯田・下伊那地方に限らず松本平南端に至るまで確実に分布しているが、受口部外面の篋刺突文を意識した櫛描文から察すれば、やはり飯田・下伊

那地方の影響としか考えざるを得ない。在地で製作したものと思われ、「中部高地型」の櫛描波状文で飾られている。独自の発展を遂げる東海西部地方を除いて壺の無文化現象が著しくすすむ中、装飾された受口壺が該期に至るまで残る例を他に知らないが、駿河から相模川西岸にかけての地域においても装飾壺の残存例を示す報告がいくつかなされている。比較的大形のものが目立ち、本遺跡出土資料も通常のものに比べ一回り大きい。特殊な機能を果たすためには、「加飾する」だけでなく「大形」でもなければならなかったのではないだろうか。

鉢形土器

鉢には、弥生時代から系譜が追えるもの、小形丸底土器に類するもの、口縁が二段に屈曲するもの、その他がある。

先行形式の残存と思われる土器は、3号住38と4号住43である。但し、該期に至っては赤色磨研されることはない。

小形丸底土器に類するものは1号住1のみである。口頸部が短かく、かつ、欠くことのない筈の口縁部内面のミガキ調整が認められないものの、体部の形状を重視して一応小形丸底土器の範疇で考えておきたい。典型的なものは、2号住覆土中より小破片が1片出土しているのみである。

口縁部が短かく二段に屈曲する鉢の出自が畿内地方にあり、小形精製土器群のひとつに数えられていることは自明のことである。しかしながら、本遺跡で出土した1号住6、8号住62、14号住76は、いずれも粗製品であり形態的にも大きな差異を認める。完全な模倣品であることは胎土の上からも明らかである。

器台形土器

2個体出土している。一般に該期の小形器台には、器受部が皿状のもの、口唇部を短かく直立させるもの、口縁部を二段に屈曲させるもの、長く外反する口縁を有し器受部を深くさせるもの等の種類があり、後二者は東海西部地方の元屋敷式に出現するようである。4号住45は、脚部形状に趣きを異にする点があるものの器受部形状からすれば最後に挙げた形式に該当させても差支えなく、また、9号住69は、広範に分布する形式であるが、千鳥状の透孔を有する点から同様に東海西部地方に系譜を求めることが可能であろう。

2 編年の位置

石行遺跡の古式土師器が、畿内地方の布留様式・東海西部地方の元屋敷様式のある時期と時間を共有することは明白である。長野県ではというと、かつて岩崎卓也・桐原健両氏による編年研究⁽⁶⁾以後、それらが踏襲されることなく現在の盛んな細別の編年研究に至っており、明確な様式名が付されないまま、各研究者独自の考えによる「期別」が氾濫している状況にある。また、細別の対象となる時期が古墳出現前後の時期に集中しているため、小形丸底土器出現以後の細分研究は、山下誠一氏に目を見張る論考がある以外積極的に行われていない⁽⁶⁾。ならば、様式論の見地のもとに時間軸を再構成し、石行遺跡の古式土師器の編年の位置を指定しなければならないのであるが、資料的に

問題があり分析に費す時間も残されていない。したがってここでは、正式ルートを踏まずに、編年の確立しつつある畿内及び東海地方の研究成果を参考にし、当該地方に系譜があるとした甕形土器の形式的特徴から、あくまでも〇〇式併行期という表現に留めることにする。尚、畿内・東海地方の編年は寺沢薫・加納俊介両氏の編年観に準ずる⁽⁷⁾。

まず、布留形甕の口縁形態をみると、1号住15は矢部分類「f手法」、2号住33は「g₄手法」、4号住52は「h手法」により作出されたものと思われる⁽⁸⁾。「f手法」及び「h手法」は、その占める比率に増減こそあれ布留〇式以降長期に渡って存続するため、単体を比較してみてもの時期決定は許されない。決め手となり得るのは「g₄手法」であり、これは布留2式以降に登場する。さらに石行遺跡の土器群が「小形精製土器群崩壊後」の布留3式まで下る筈がないから、布留2式に併行する可能性が大きいといえよう。S字状口縁台付甕に目を転じてみると、肩部横ハケ調整が消え失せ、口唇部内面には一条の凹線を伴うことから月の輪分類「A₅類」の属性を具備している⁽⁹⁾。「A₅類」は「A₄類」とともに月の輪新段階(=大廓式新段階)、東海西部地方に対応させれば元屋敷式新段階に時間を共有する場合が多いという。寺沢編年「布留2式」と加納編年「元屋敷式新」段階が併行関係にあることを勘案すれば、外来系土器二者の時間的矛盾のない石行遺跡の土器群が当該期に併行するという結論を得ることができる。

3 二・三の問題

東海東部系土器の問題

石行遺跡出土のS字状口縁台付甕の系譜が、東海東部地方にあることを指摘した。同系統と考えられるものが、岡谷市新井南遺跡2号住・諏訪市本城遺跡31号住・茅野市下蟹河原遺跡・伊那市堂外垣遺跡1号住においても出土している。また、下蟹河原・堂外垣遺跡例では大廓式に比定できる壺形土器が共伴している点からも、より東海東部地方との結び付きを裏付けている。類例に乏しいものの、諏訪盆地が分布域の中心になるのではないかと思われる⁽¹⁰⁾。

東海東部地方に系譜を求めたが、直接的には、東海東部地方色の濃い甲府盆地を当てた方が自然であり、それが妥当であるならば現在の甲州街道に平行する伝播ルートが想定できよう。詳細な検討は資料の増加を待たねばならないが、甲府盆地の影響力は決して微小なものではなく、県内で諏訪盆地だけがひとり独特な地域圏(大廓式土器圏)を形成していたことは想像に難くない。そして諏訪盆地に通ずるいくつかの峠道を越えて、松本平や伊那谷北部、あるいは上田・佐久平にも少なからず影響を及ぼしていたものと思われる⁽¹¹⁾。

北陸東部系土器の問題

北陸東部系の「くの字口縁甕」の出土は、松本平においては初例のことであり、県内に限れば分布域の南限としておさえられる。多くは東北信地方に分布しており、遺構単位では甕の主体をなす場合もある。長野県を離れると、畿内・東海地方には見当らず、神奈川県伊勢原市久門寺遺跡の例⁽¹²⁾を除けば埼玉県岩槻市平林寺遺跡を南限とする関東地方(主体は石田川式分布圏)に多数認め

られる。広範囲での一方的な土器の流出として看取でき、そこには比較的規模の大きい人間の移動を認めざるを得ない。その社会的背景には興味深いものがあるもののここでは触れない。

上記の移動は明らかに北信→東信→関東地方という単線的経路が流れ、その場合の長野県の役割は、経由地であったと同時に、一堅穴住居址出土遺物の主体になることもあるから入植地でもあったことがうかがえる。この種の土器は、現在のところ多時期に渡って存在するが、時期毎の分布密度を明らかにすることで、入植の在り方を推測し得るのではないかと考えている。また、北陸東北部地方の集団が東北信地方に与えた影響を考えなければならず、まずは土器に表象化される諸様相を細かく観察することが先決となってくるであろう。

4 まとめ

石行遺跡の古式土師器が、おそらくは布留2式および元屋敷新段階に多くは併行するとした。しかしながら個体単位でみるならば、新旧関係が成立しそうなものも少なくない。形式的把握と様式的把握といった立場の違いによって起こる現象として捉えたいが、土器の製作技術の流れを型式学的に序列することは欠くことのできない作業であり、それとは逆に、型式の変遷を見極めた上で新しい技術と古い技術により製作された土器がある時期併行して製作・使用されたという事実をつかむことも文化内容を推察するのに重要である。この二点を明らかにするためには比較資料の増加を待たなければならないが、良好な一括資料を得た石行遺跡の意義は、様式構造の不明瞭な長野県において大きいといえよう。またS字状口縁台付甕及び北陸東北部系甕の分布より導出した内容については決して憶測の域を出たものではない。しかしこれらの土器が、地域社会の構造を理解するひとつの手掛りになることはまちがいない。批判的となることによって、より正当な評価がなされることを期待したい。

以上、焦点を絞って簡略にまとめてみたが、紙数に限りがあるため出土例の提示はおろか引用文、註文においても最少限に留めさせていただいた。先学の業績を充分生かされず、また誤解を生む点も多々あったのではないかと思います。御寛容の上、御批判、御教示がいただければ幸いです。

註 1 岩崎卓也 1984 「古墳出現期の一考察」『中部高地の考古学Ⅲ』長野県考古学会

2 但し、飯田・伊那地方では台付甕の比率がやや高いようである

3 小川貴司 1983『特別展図録 三～四世紀の東国』八王子市郷土資料館

4 笹沢浩氏御教示

5 木代修一 岩崎卓也 1961 「城の内」『史学研究』東京教育大学文学部紀要XXXI

桐原健 1967 「信濃における古式土師器の位置」『信濃』19-8

6 山下誠一他 1985 『恒川遺跡群Ⅰ』飯田市教育委員会

7 両氏のそれぞれの編年作業は、方法的に納得でき、畿内地方の様式変化をも意識した東海地方の加納編年と畿内地方の寺沢編年は自ずと矛盾なく整合している。

8 寺沢薫他 1985 『矢部遺跡』奈良県立橿原考古学研究所

9 馬飼野行雄 加納俊介他 1981 『月の輪遺跡群』富士宮市教育委員会

10 諏訪地方にS字状口縁台付甕が主体的に存在することは、既に山下誠一氏が指摘している。

11 上田市榊木遺跡5号住より東海東部系の壺形土器が出土している。上田平はS字状口縁台付甕の出土例も比較的多いようであるが、実見していないため系譜についての言及は避けた。

12 現在整理中、立花実氏の教示によれば洗浄途中の状態にありながらも壺を含めて既に100片以上認められているという。周辺地域には今のところ出土例がなく理解し難い。

Ⅳ 結 語

紙数の都合で本文中で触れられなかったことについて述べて結びとしたい。

遺跡の層序のこと。Ⅰ～Ⅲ区は耕作土下にすぐ二次堆積ロームをもっており、その面で縄文～平安までの遺構が捉えられた。しかしⅣ・Ⅴ区は谷状地形で検出面まで深く、時期毎の重複もあった。Ⅴ区西部では50～100cm 耕作土を剥ぐと近世墓址が現われ、30cm 下層で中世～平安の遺構検出、更に縄文晩期の包含層はこの下部にあたり土器集中区はその深さではじめて発見できた。しかもこれらの土層は黒褐～暗褐色腐植質土で、層中に切り込む同質の土を覆土とする遺構の検出は非常に困難なもので、小規模なピット等の見落としは充分考えられる。

晩期土器集中区のこと。8ヶ所の発見があったが、7を除くと他は小規模で整理にいたって図示できる土器のないものまであった。とは言え調査中は、周辺とは明らかに異なる土器片の集中を示していたのだが、この中で6は整理を通じて特異なものであることが判明した。小形の一括品が多いのである。これは7などの単なる廃棄箇所とは若干性格を異にしていると考える。7についてみればとにかくその集中度はすさまじいもので調査時に一度土器片を露呈させると次には足を踏み込めないという状態であった。

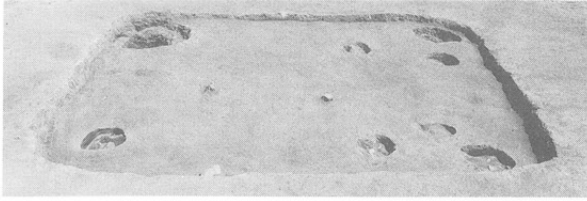
縄文時代の遺構、焼土面とピット群のこと。焼土面は文字通り地山が焼けていたものでその一帯から多数の晩期遺物が出土したと、それ以降の土壌・ピットすべてに切られていたことにより縄文時代晩期と判断した。近くの土壌37がやはり同期の土器を多量出土し、覆土下層に多量の焼土をもつことから、双方一体のものかもしれない。ピット群は谷（Ⅴ区）の南方やや高いところにあり、その一帯は地山がロームでこれに掘り込まれていた。中央部に土壌8・9をもちこの中からは晩期土器が出土したが、周辺で他の時期の遺物は皆無だったので概ね時期を示すものと理解した。

Ⅳ区からⅤ区にかけて自然流路の跡があったこと。同区の中世～平安の層の上下に断続的に存在していたとみられるものが何本か発見された。最古のものは溝7に通ずると推定される。断面観察を行ったが紙数の都合で掲載していない。

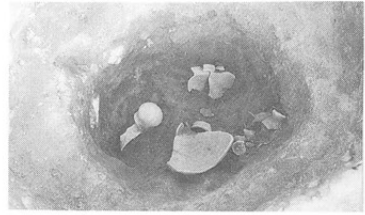
溝について。Ⅰ～Ⅲ区を通るもの、Ⅳ区北端を通るもの、Ⅴ区の中に何本か、溝があった。Ⅴ区のものの中世～平安の遺構と関連するものと自然流路の最古のもの、他は溝中から縄文時代の遺物を微量出土したが時期不詳である。

以上に述べた他にも調査中に発見・観察できたことは多くあった。それだけ大規模で複雑な遺跡であり調査であった訳だが、本書がそれをどの程度伝えられるものになっているのか、不安は常に念頭を去らない。

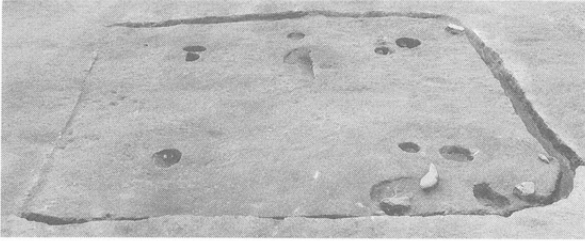
最後になりましたが、この大規模な調査が無事終了できたことはひとえに地権者の皆様、寿土地改良区他地元関係各位の御理解と御尽力の結果であります。記して感謝申し上げますとともに今後の調査においてもよろしくご協力をお願い申し上げます。



第1号住居址



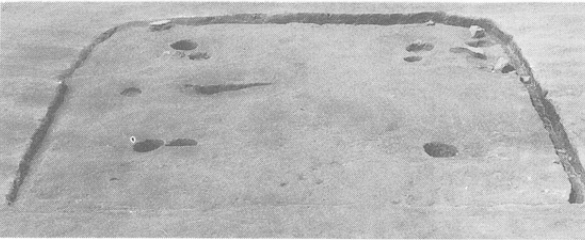
同左貯蔵穴



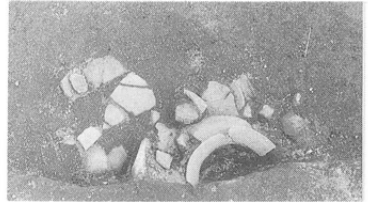
同 上



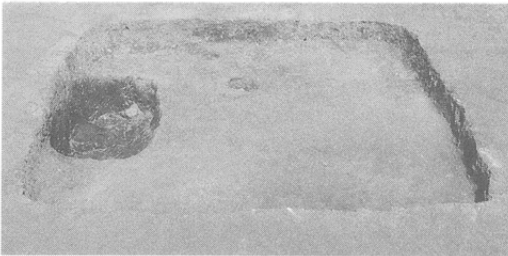
同遺物出土



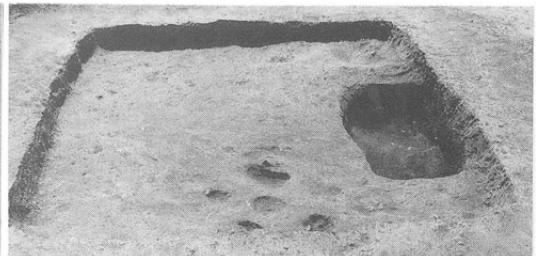
第2号住居址



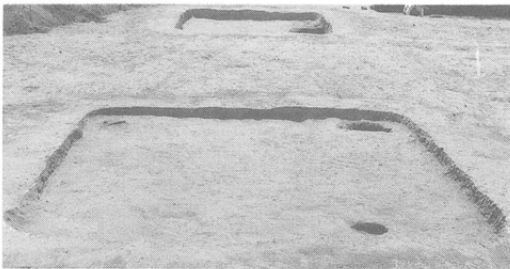
同左遺物出土



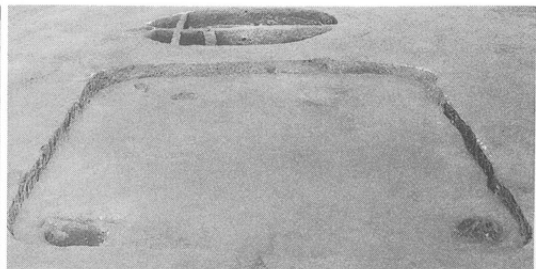
第3号住居址



同 左



第4号住居址 (奥は3住)



同左 (奥はロームマウンド)

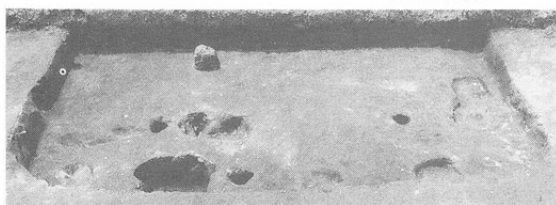
第1図版



第6号住居址



同左炭化材出土



同上



同上



第7号住居址



同左遺物出土



第6号住居址柱材？



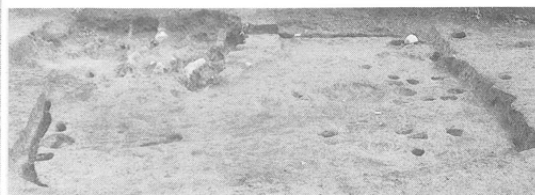
第8号住居址



同左

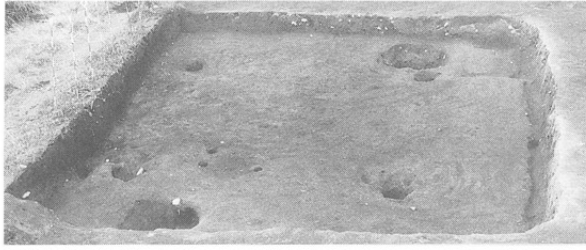


第9号住居址

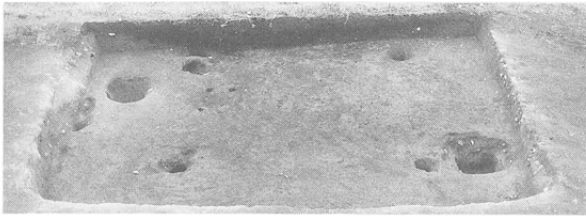


同左

第2図版



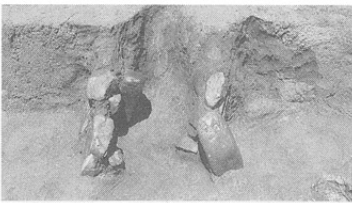
第14号住居址



同 上



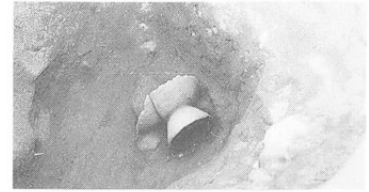
第5号住居址



第11号住居址カマド



第5号住居址



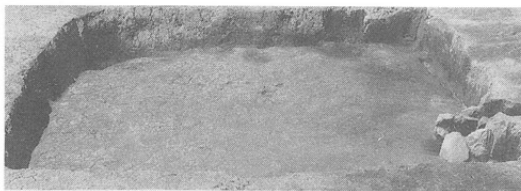
同左貯蔵穴



第5号住居址カマド



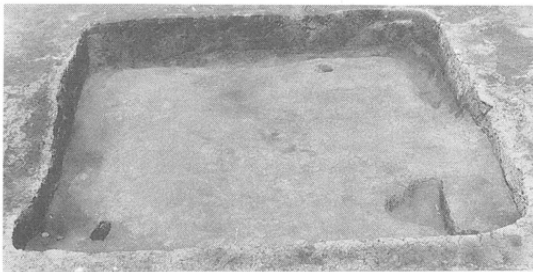
同 上



第11号住居址



同 左



第10号住居址

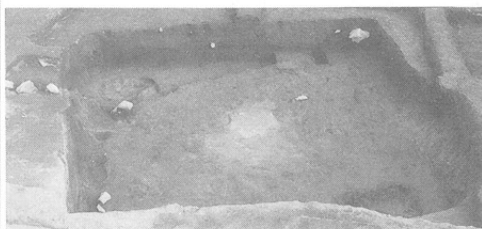


同 左

第3図版



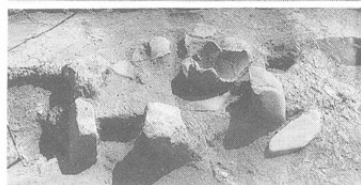
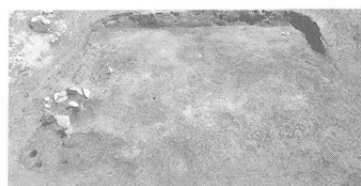
第12号住居址



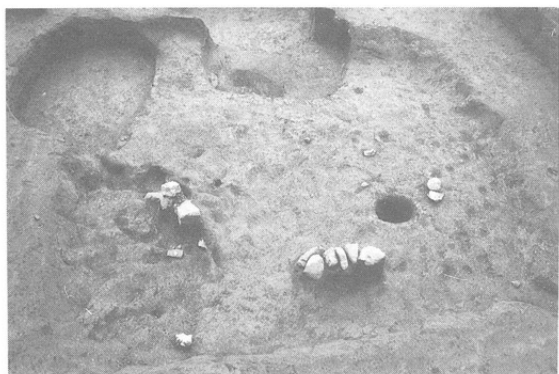
同 左



第13号住居址



同左カマド



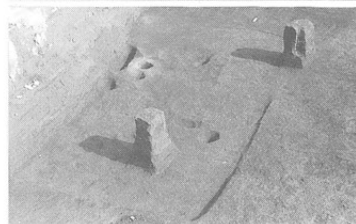
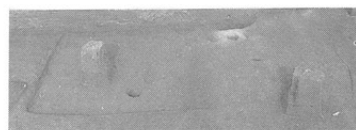
第17号住居址



第15号住居址

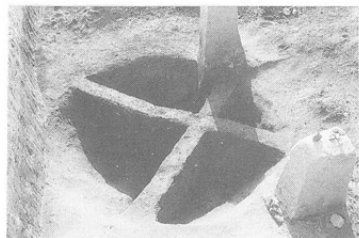


第16号住居址



第19号住居址

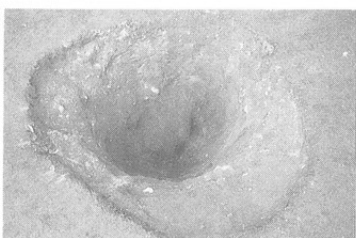
第4図版



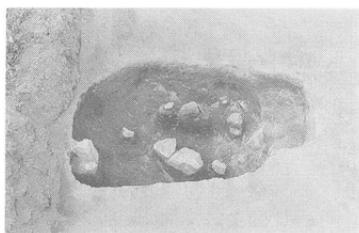
土城56



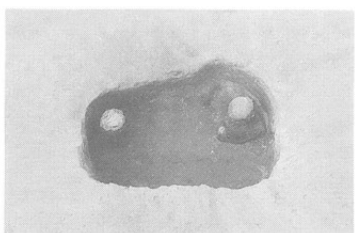
土城9



土城6



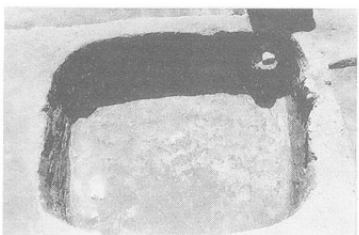
土城1



土城2



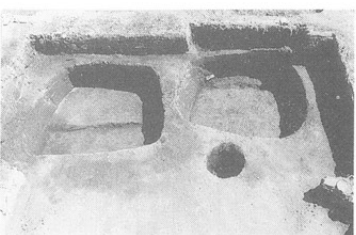
土城4



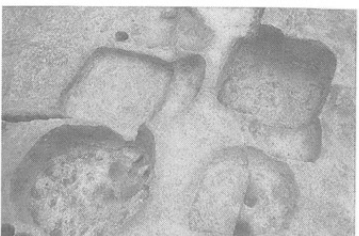
土城12



土城13



土城、14右・15左



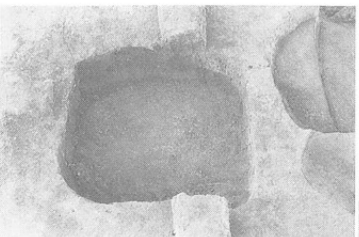
土城、11・14・18・19



土城16



土城11



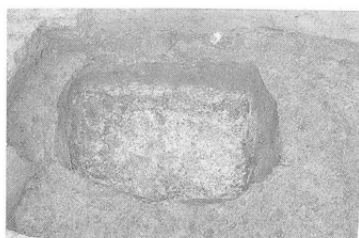
土城18



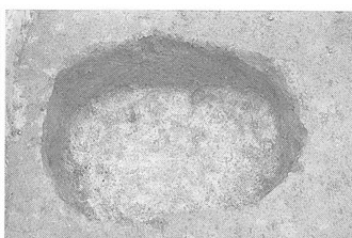
土城17



土城21



土壙22



土壙23



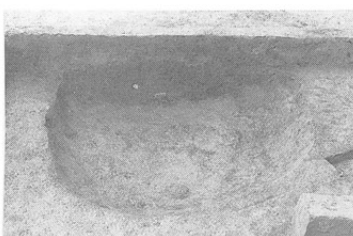
土壙25



土壙27



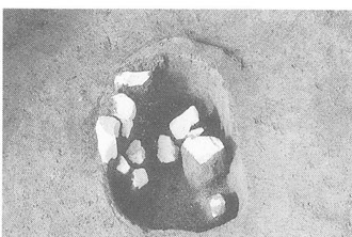
土壙28



土壙32



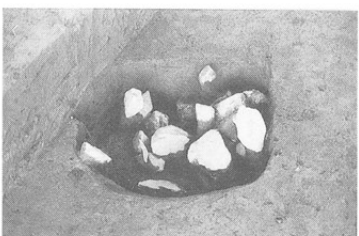
土壙32磔



土壙34



土壙36



土壙36磔



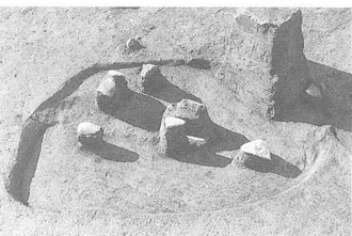
土壙39



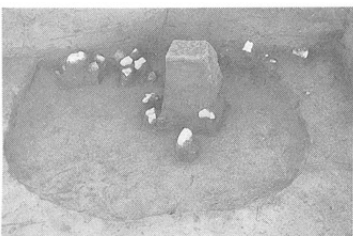
土壙44



土壙48



土壙51



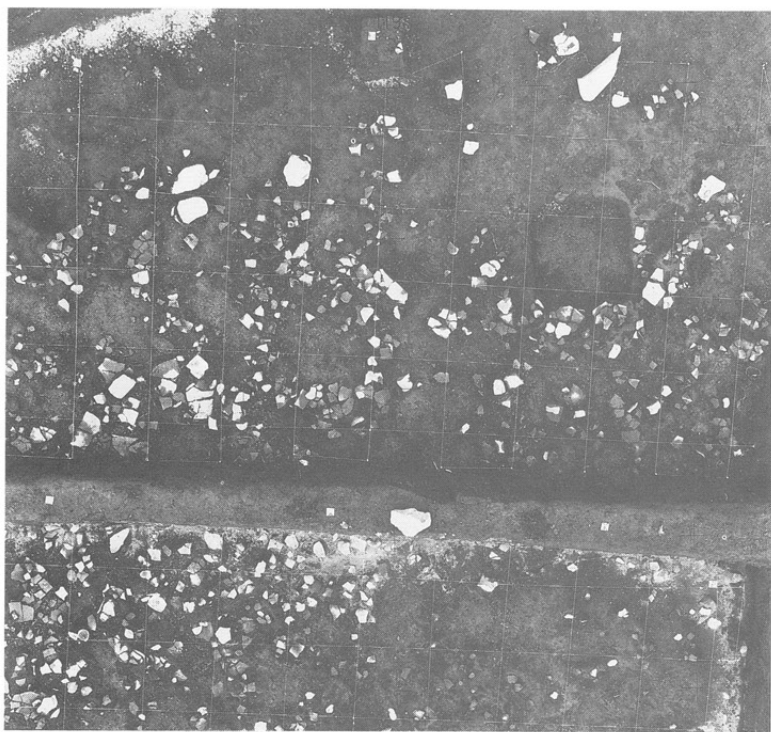
土壙52

第6图版



第7图版

土器集中区7

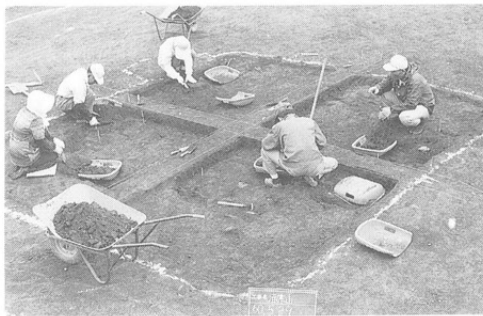


土器集中区 7

第 8 图版



石行遺跡表土除去



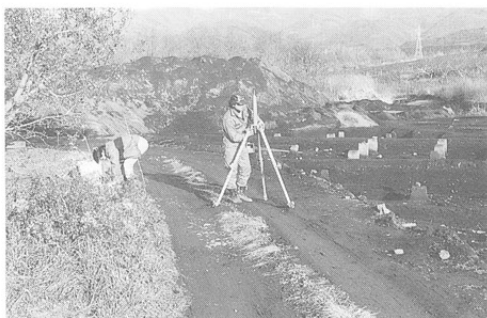
同住居址掘り下げ



調査風景



調査風景



写真測量



写真測量



土器集中区7



土器集中区7



108



70



113



110



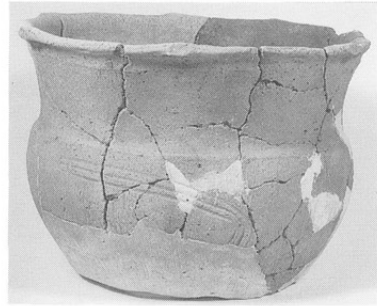
267



274



282



11



111



270

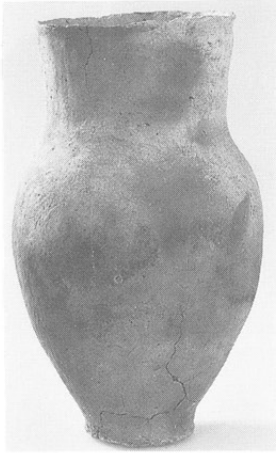


172

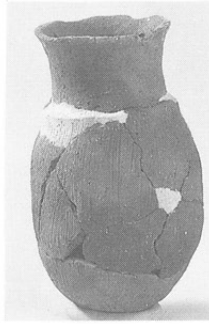


171

第10図版



295



268



252



273



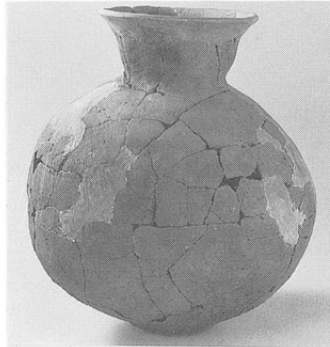
259



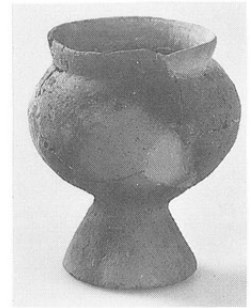
271



258



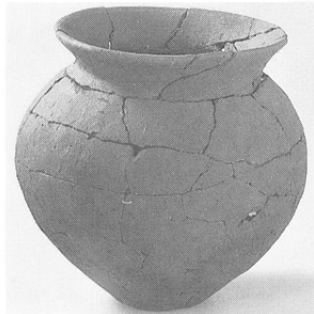
75



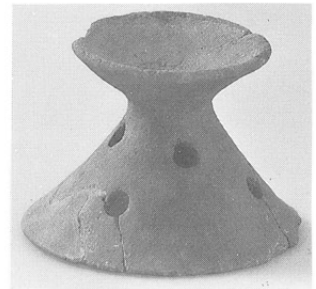
72



28

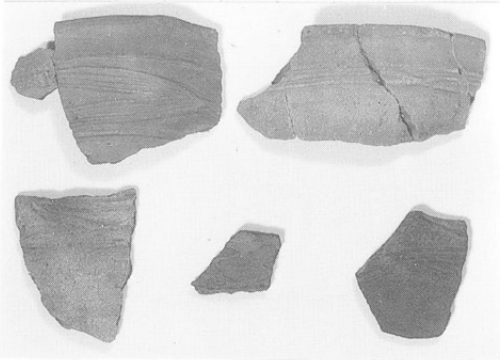


60

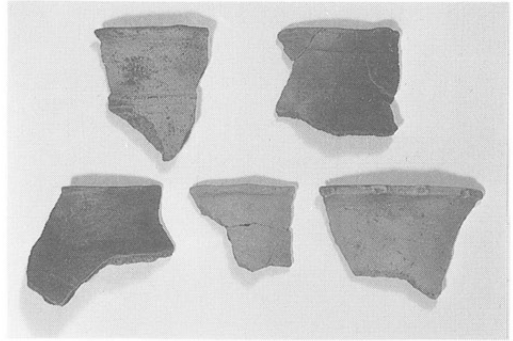


69

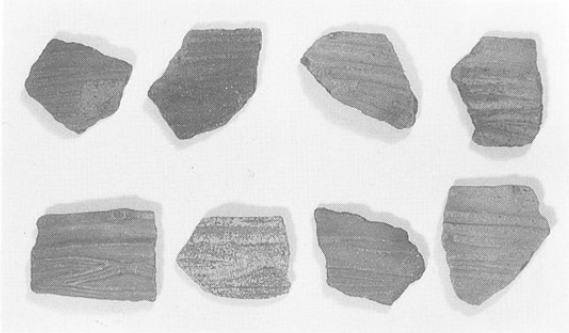
第11図版



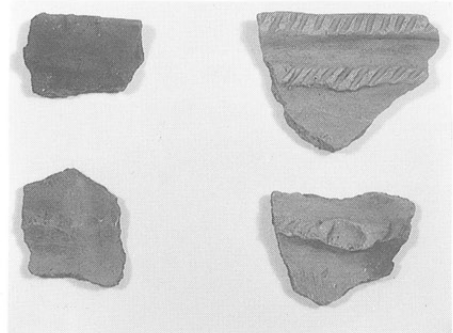
第1類 浅鉢A(上)・浅鉢D(下右)・壺A(下中)・甕A(下左)



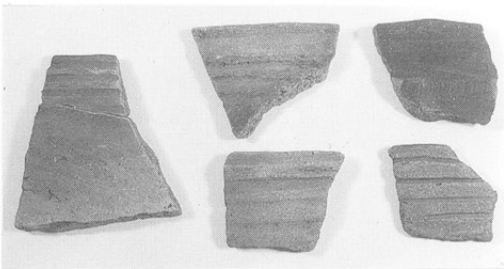
第1類 壺A(上左)・B 2(上右)・C(下右・中)・C'(左)



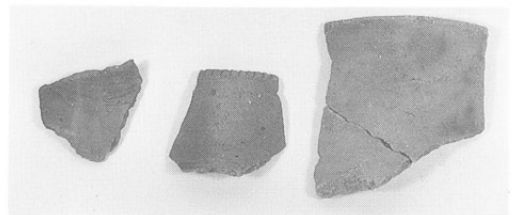
第1類 浅鉢A



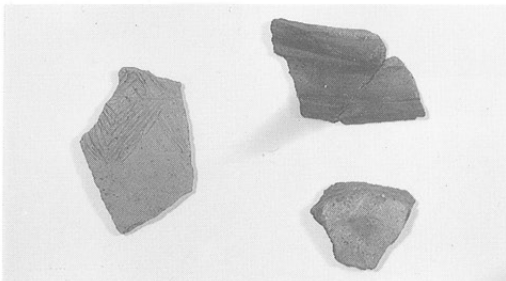
第1類 壺E



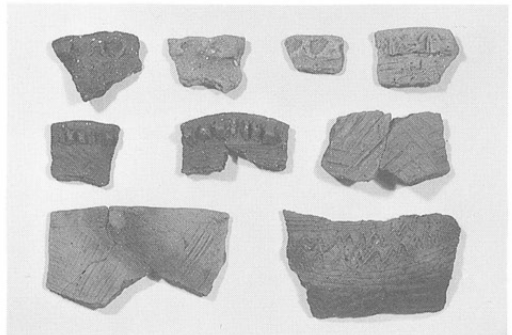
第1類 深鉢B1(上右)・B 2・B 3(下右)



第1類 壺B 3・C'(右)

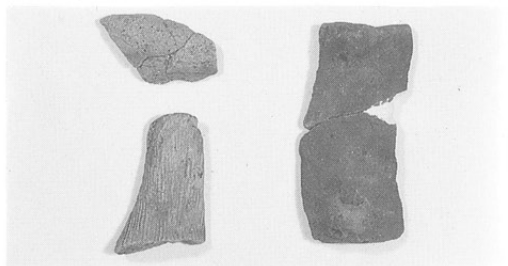


第1類 壺D(左)・第2類(右)

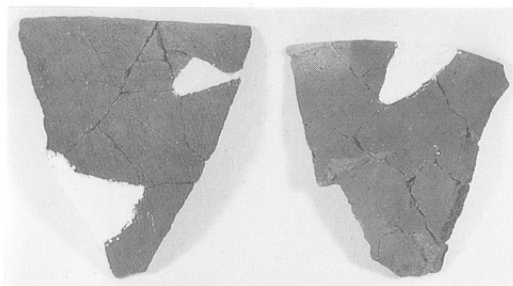


第3類土器

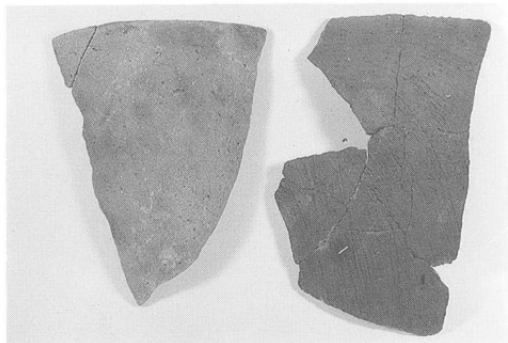
第12図版



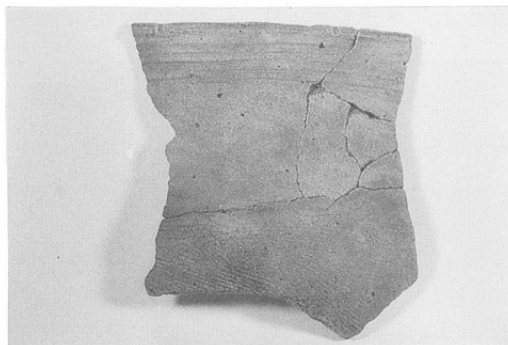
舟形土器(上左)・耳付筒形土器(右)・注口土器(下左)



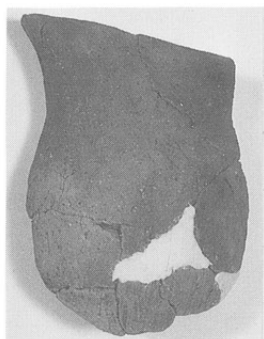
深鉢C'c(左)・C'(右)



深鉢C'(左)・深鉢C'c(右)



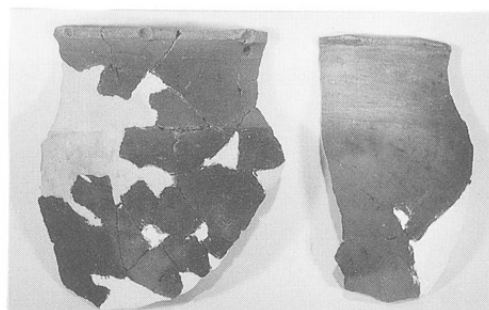
甕B 2



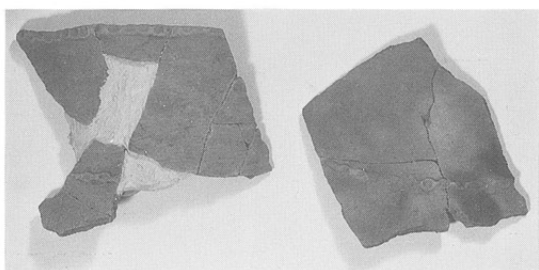
壺C'(片口形)



深鉢B 2'c



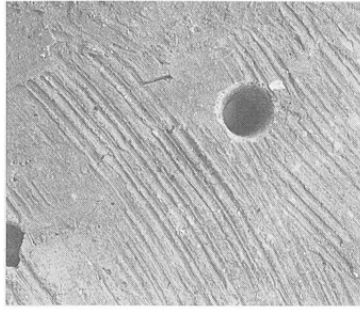
甕B 2(左)・C(右)



壺E 1(肩部突帯)



甕C



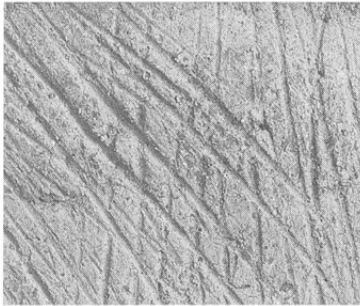
細密条痕(密)



同左(粗)



棒状工具による条痕



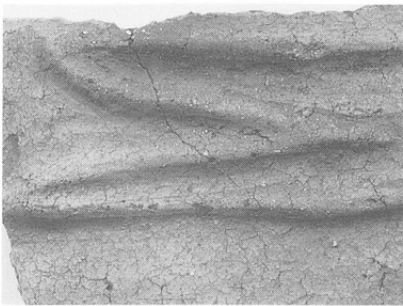
楯状工具による条痕



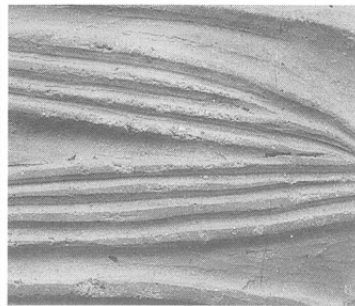
撚糸文



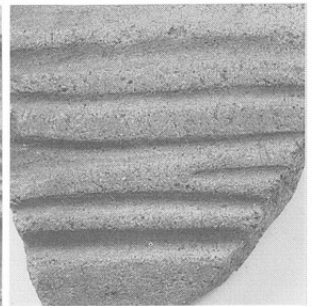
浅鉢Aの浮線文



甕Aの浮線文



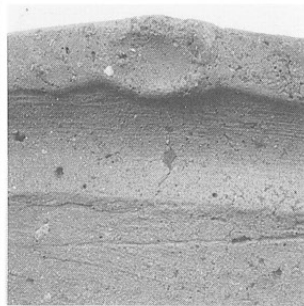
浅鉢の浮線文(陽刻時の痕跡残す)



浮線文(沈線文に近いものか)



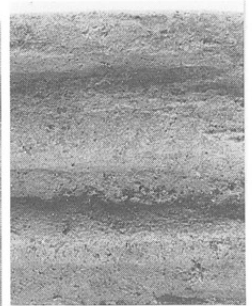
甕B1の隆線



甕B2の沈線(1条)

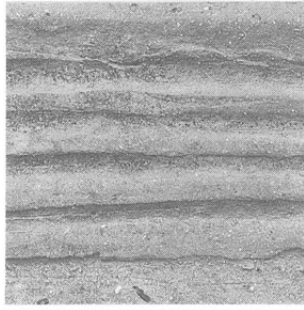


同左(2条)



同左(2条)

第14図版



甕B 2 の沈線



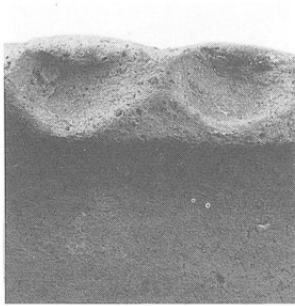
甕B 3 の沈線



壺D の沈線



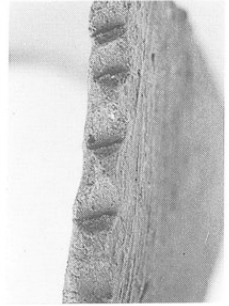
壺E の突帯・圧痕



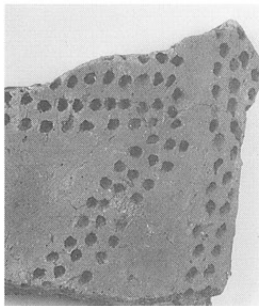
同 左



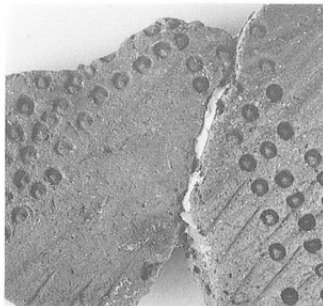
同 左



口縁部圧痕 a 手法



甕の刺突文



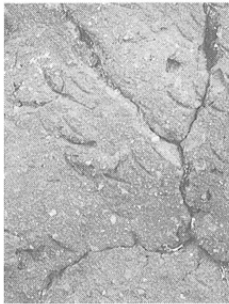
同 左



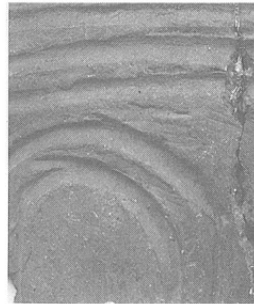
壺の刺突文



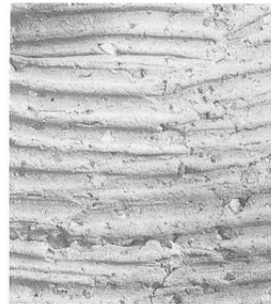
第2類土器の成形
(ハケ状工具による調整)



第2類土器内面
(爪の圧痕?)



第2類土器の沈線



第3類土器貝殻条痕



同 左

第15図版



第3類土器波状文(貝殻)



第3類土器羽状条痕(櫛状具)



第3類土器突帯(ヘラ押圧)



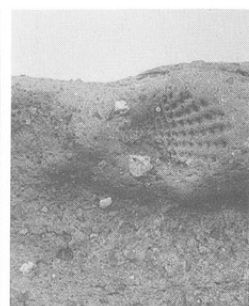
第3類土器突帯
(条痕原体による押圧)



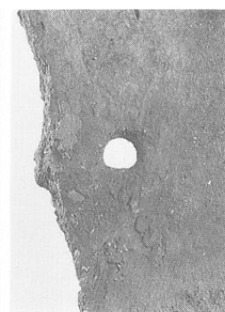
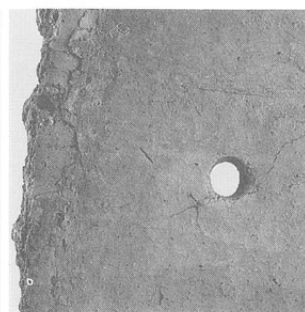
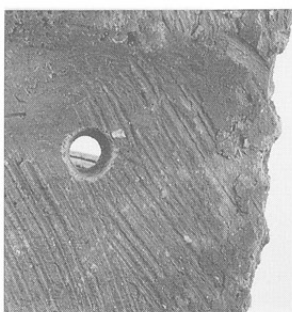
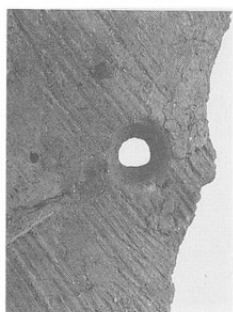
同左(指?による押圧)



同左 貝殻背面圧痕



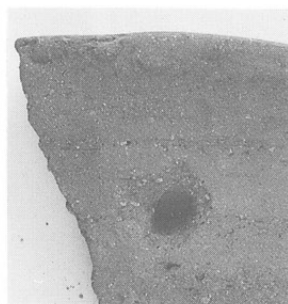
同左



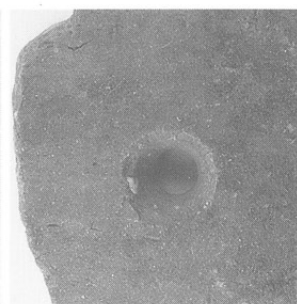
深鉢C(200)の穿孔、粘土の塗られた破断面



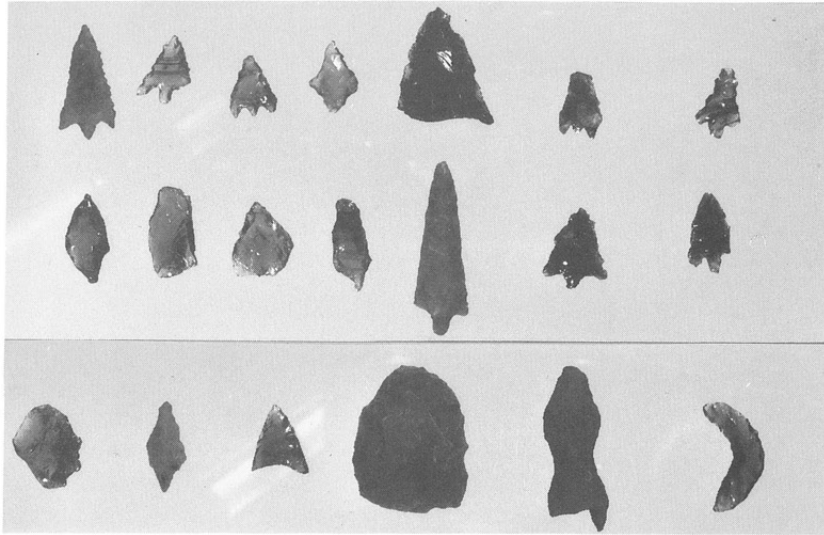
壺・浅鉢の穿孔(焼成前刺突穿孔)



甕の穿孔(焼成前回転穿孔)



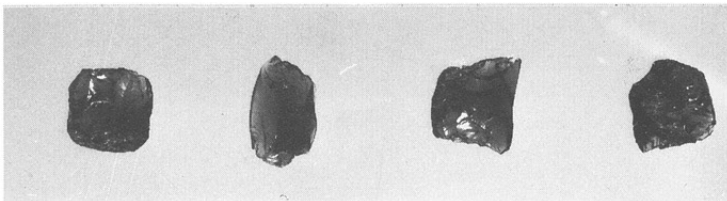
第16図版



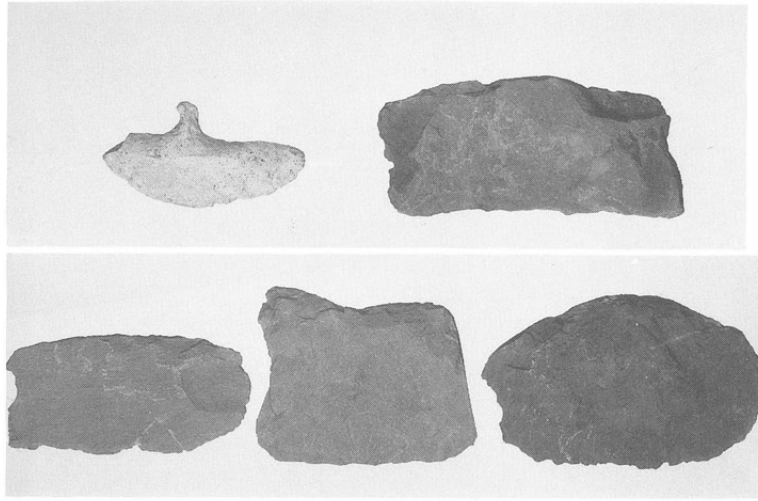
石 鐵
異形石器



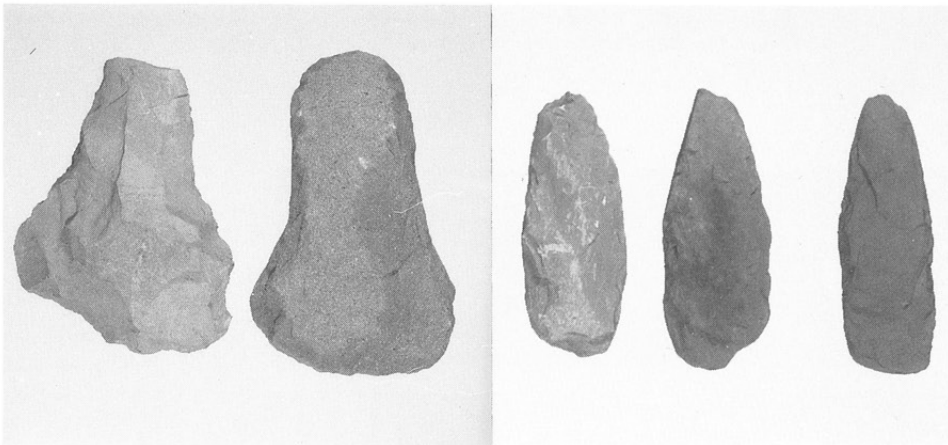
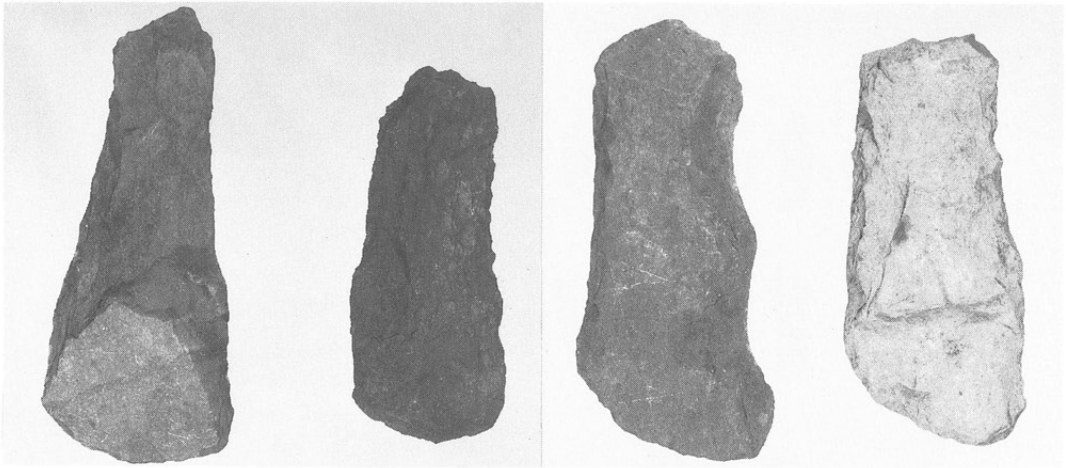
石 錐



ピエス・エスキーユ



石 匙
スクレーパー



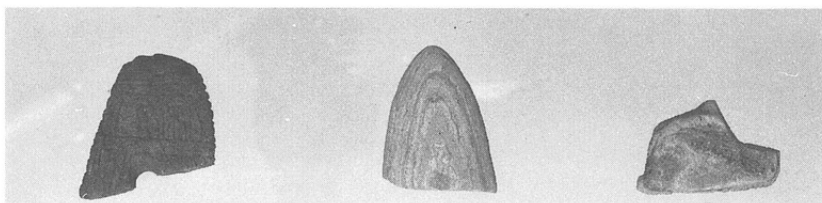
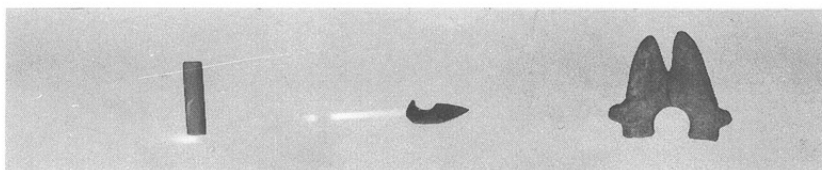
打製石斧



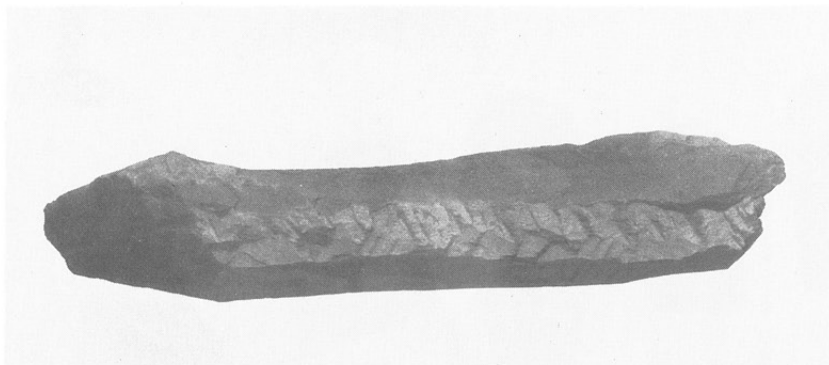
磨製石斧



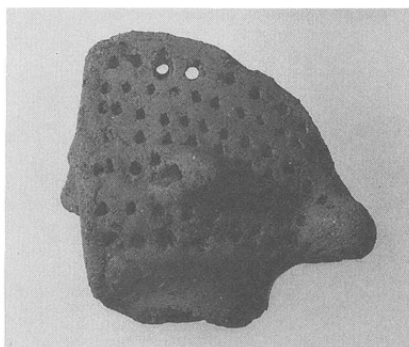
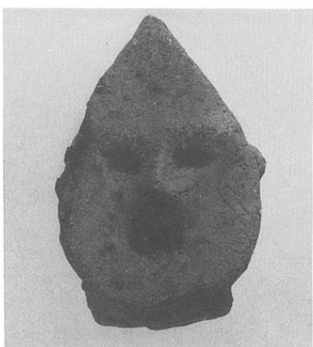
凹狀石器



石製品



砥石製作痕



土 偶



第20図版

松本市文化財調査報告No.47

松本市赤木山遺跡群Ⅱ

昭和62年 3 月20日印刷

昭和62年 3 月31日発行

発行 長野県松本地方事務所
松本市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

